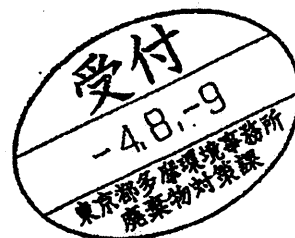


第21号様式(第32条関係)

東京都知事 殿



2022年8月 日

管理者の
住所・氏名
技術管理者氏名
電話番号

東京都武蔵村山市中央二丁目18番地の3
比留間運送株式会社
代表取締役 比留間宏明
042-565-1336

対象外

ごみ処理施設維持管理状況報告書
(破 碎・選 別 処 理 施 設)

2022年度第1期分ごみ処理施設維持管理状況を、東京都廃棄物規則第32条第1項の規定により、次のとおり報告します。

- | | | | |
|-------------|-----------|-------------------------------------|-----------|
| 1 施設 の 名 称 | 別紙1～9のとおり | ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m ³ 当りの重量 | 別紙1～9のとおり |
| 2 設 置 場 所 | 同上 | ※10 施設管理人員 | 同上 |
| 3 着 工 年 月 日 | 同上 | ※11 搬出物の処分先 | 同上 |
| 4 使用開始年月日 | 同上 | ※12 粉じん等の飛散防止方法 | 同上 |
| ※5 処 理 方 式 | 同上 | ※13 騒音及び振動の防止方法 | 同上 |
| 6 処 理 能 力 | 同上 | | |
| 7 処 理 計 画 | 同上 | | |
| ※8 設計時の運転時間 | 同上 | | |

注 1 各施設ごとに別葉とすること。

2 ※印については、第1期分のみ記入すること。

(日本工業規格A列4番)

- 1 施設 の 名 称 廃プラスチック類破碎処理施設
 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
 3 着 工 年 月 日 平成18年7月20日
 4 使用開始年月日 平成18年7月20日
 ※5 処 理 方 式 破碎
 6 処 理 能 力 6.3 t/日
 7 処 理 計 画 6.3 t/日
 ※8 設計時の運転時間 12h

- ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m³当りの重量 0.35 t
 ※10 施設管理人員 1人
 ※11 搬出物の処分先 不開示
 ※12 粉じん等の飛散防止方法
 破碎施設は屋内設置で、集塵機を稼働。
 ※13 騒音及び振動の防止方法
 騒音源は建屋内にある。重機での積み下ろしは、低い位置で行い、過剰な投入等、施設に負荷のかかる運転を避ける。

I 施設稼働状況

月別		4月	5月	6月	計
項目					
ごみ投入量 (t)		0	0	0	0
搬出量	総量 (t)	0	0	0	0
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	0	0	0	0
電気使用量 (kwh)		115,531	125,270	126,389	367,190
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		0	0	0	0
実働日数 (日間)		0	0	0	0
備 考					

- 1 施設 の 名 称 廃プラスチック類・繊維くず破砕処理施設
 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
 3 着 工 年 月 日 平成18年7月20日・令和2年8月27日
 4 使用開始年月日 平成18年7月20日・令和3年3月18日
 ※5 処 理 方 式 破砕
 6 処 理 能 力 廃プラスチック類 48.0 t/日
 繊維くず 32.1 t/日
 廃プラスチック類 44.7 t/日
 繊維くず 32.3 t/日
 7 処 理 計 画 廃プラスチック類 48.0 t/日
 繊維くず 32.1 t/日
 廃プラスチック類 44.7 t/日
 繊維くず 32.3 t/日

- ※8 設計時の運転時間 12 h
 ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m3当りの重量
 廃プラスチック類 0.35 t
 繊維くず 0.12 t

※10 施設管理人員 1人

※11 搬出物の処分先 不開示

※12 粉じん等の飛散防止方法

破砕施設は屋内設置で、集塵機が取り付けられている。

※13 騒音及び振動の防止方法

騒音源は建屋内にある。重機での積み下ろしは、低い位置で行い、過剰な投入等、施設に負荷のかかる運転を避ける。

I 施設稼働状況

項目 \ 月別		4月	5月	6月	計
ごみ投入量 (t)		0	0	0	0
搬出量	総量 (t)	0	0	0	0
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	0	0	0	0
電気使用量 (kwh)		115,531	125,270	126,389	367,190
水使用量 (m³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		0	0	0	0
実働日数 (日間)		0	0	0	0
備 考					

- 1 施設 の 名 称 木くず破碎処理施設
 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
 3 着 工 年 月 日 平成18年7月20日
 4 使用開始年月日 平成18年7月20日
 ※5 処 理 方 式 破碎
 6 処 理 能 力 17.1 t/日
 7 処 理 計 画 17.1 t/日
 ※8 設計時の運転時間 12h

- ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m3当りの重量 0.3 t
 ※10 施設管理人員 1人
 ※11 搬出物の処分先 不開示
 ※12 粉じん等の飛散防止方法
 破碎施設は屋内設置で、必要箇所に散水装置を設置し、適宜散水を行う。
 ※13 騒音及び振動の防止方法
 騒音源は建屋内にある。重機での積み下ろしは、低い位置で行い、過剰な投入等、施設に負荷のかかる運転を避ける。

I 施設稼働状況

月別 項目		4月	5月	6月	計
ごみ投入量 (t)		72.58	92.05	153.78	318.41
搬出量	総量 (t)	72.58	92.05	153.78	318.41
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	72.58	92.05	153.78	318.41
電気使用量 (kwh)		115,531	125,270	126,389	367,190
水使用量 (m³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		108	96	120	324
実働日数 (日間)		18	16	20	54
備 考					

- 1 施設の名称 廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、
ゴムくず、金属くず、ガラス・コンクリート・
陶磁器くず、がれき類の混合物破碎処理施設
- 2 設置場所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
- 3 着工年月日 平成30年5月24日
- 4 使用開始年月日 平成30年11月5日
- ※5 処理方式 破碎
- 6 処理能力 53.5 t/日
- 7 処理計画 53.5 t/日
- ※8 設計時の運転時間 12 h
- ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m³当りの重量 0.26 t
- ※10 施設管理人員 1人
- ※11 搬出物の処分先 不開示
- ※12 粉じん等の飛散防止方法
破碎施設は屋内設置で、必要箇所に散水装置を設置し、適宜散水を行う。
- ※13 騒音及び振動の防止方法
騒音源は建屋内にある。重機での積み下ろしは、低い位置で行い、過剰な投入等、施設に負荷のかかる運転を避ける。

I 施設稼働状況

月別 項目		4月	5月	6月	計
ごみ投入量 (t)		3.20	2.54	3.42	9.16
搬出量	総量 (t)	3.20	2.54	3.42	9.16
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	3.20	2.54	3.42	9.16
電気使用量 (kwh)		115,531	125,270	126,389	367,190
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		4	4	4	12
実働日数 (日間)		4	4	4	12
備考					

- 1 施設 の 名 称 廃プラスチック類、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず(廃蛍光ランプ)破碎処理施設
- 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
- 3 着 工 年 月 日 平成30年5月24日
- 4 使用開始年月日 平成30年11月5日
- ※5 処 理 方 式 破碎
- 6 処 理 能 力 2.8 t/日
- 7 処 理 計 画 2.8 t/日
- ※8 設計時の運転時間 12 h
- ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m³当りの重量 0.15 t
- ※10 施設管理人員 1人
- ※11 搬出物の処分先 不開示
- ※12 粉じん等の飛散防止方法
破碎施設は屋内設置する。また、破碎機には集塵機が取り付けられている。
- ※13 騒音及び振動の防止方法
破碎施設は建屋内で稼働する。積み下ろしは手作業で行い、過剰な投入等、施設に負荷のかかる運転を避ける。

I 施設稼働状況

月別		4月	5月	6月	計
項目					
ごみ投入量 (t)		0	0	0	0
搬出量	総量 (t)	0	0	0	0
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	0	0	0	0
電気使用量 (kwh)		115,531	125,270	126,389	367,190
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		0	0	0	0
実働日数 (日間)		0	0	0	0
備 考					

- 1 施設 の 名 称 廃プラスチック類・紙くず圧縮梱包処理施設
 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
 3 着 工 年 月 日 平成18年7月20日
 4 使用開始年月日 平成18年7月20日
 ※5 処 理 方 式 圧縮梱包
 6 処 理 能 力 廃プラスチック類 180.0 t／日
 紙くず 166.8 t／日
 7 処 理 計 画 廃プラスチック類 180.0 t／日
 紙くず 166.8 t／日
 ※8 設計時の運転時間 12h

- ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m3当りの重量
 廃プラスチック類 0.35 t／日
 紙くず 0.30 t／日

- ※10 施設管理人員 1人

- ※11 搬出物の処分先 不開示

- ※12 粉じん等の飛散防止方法
 圧縮梱包施設は屋内設置とする。

- ※13 騒音及び振動の防止方法
 重機での積み下ろしは、低い位置で行い、過剰な投入等、施設に負荷のかかる運転を避ける。

I 施設稼働状況

月別 項目		4月	5月	6月	計
ごみ投入量 (t)		20.08	18.36	16.53	54.97
搬出量	総量 (t)	20.08	18.36	16.53	54.97
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	20.08	18.36	16.53	54.97
電気使用量 (kwh)		115,531	125,270	126,389	367,190
水使用量 (m³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		120	108	108	336
実働日数 (日間)		20	18	18	56
備 考					

- 1 施設の名称 廃プラスチック類・繊維くず圧縮梱包処理施設
 2 設置場所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
 3 着工年月日 平成30年5月24日
 4 使用開始年月日 平成30年9月14日
 ※5 処理方式 圧縮梱包
 6 処理能力 廃プラスチック類 24.3 t/日
 繊維くず 17.2 t/日
 7 処理計画 廃プラスチック類 24.3 t/日
 繊維くず 17.2 t/日

※8 設計時の運転時間 12h

I 施設稼働状況

月別 項目		4月	5月	6月	計
ごみ投入量 (t)		22.98	23.72	31.31	78.01
搬出量	総量 (t)	22.98	23.72	31.31	78.01
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	22.98	23.72	31.31	78.01
電気使用量 (kwh)		115,531	125,270	126,389	367,190
水使用量 (m³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		40	40	50	130
実働日数 (日間)		8	8	10	26
備考					

※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m3当りの重量

廃プラスチック類 0.35 t/日

繊維くず 0.12 t/日

※10 施設管理人員 1人

※11 搬出物の処分先 不開示

※12 粉じん等の飛散防止方法

圧縮梱包施設は屋内設置で、集塵機が取り付けられている。

※13 騒音及び振動の防止方法

騒音源は建屋内にある。重機での積み下ろしは、低い位置で行い、過剰な投入等、施設に負荷のかかる運転を避ける。

- 1 施設 の 名 称 空き缶圧縮処理施設
 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
 3 着 工 年 月 日 平成18年7月20日・平成30年5月24日
 4 使用開始年月日 平成18年7月20日・平成30年5月24日
 ※5 処 理 方 式 圧縮
 6 処 理 能 力 空き缶 4.3 t/日
 空き缶 10.2 t/日
 7 処 理 計 画 空き缶 4.3 t/日
 空き缶 10.2 t/日
 ※8 設計時の運転時間 12h

- ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m³当りの重量 1.13 t
 ※10 施設管理人員 1人
 ※11 搬出物の処分先 不開示
 ※12 粉じん等の飛散防止方法
 圧縮施設は屋内設置とする。
 ※13 騒音及び振動の防止方法
 騒音源は建屋内にある。重機での積み下ろしは、低い位置で行い、過剰な投入等、施設に負荷のかかる運転を避ける。

I 施設稼働状況

月別 項目		4月	5月	6月	計
ごみ投入量 (t)		0.08	0	0.19	0.27
搬出量	総量 (t)	0.08	0	0.19	0.27
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	0.08	0	0.19	0.27
電気使用量 (kwh)		115,531	125,270	126,389	367,190
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		1	0	1	2
実働日数 (日間)		1	0	1	2
備 考					

- 1 施 設 の 名 称 廃プラスチック類(発泡スチロール)溶融処理施設
 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
 3 着 工 年 月 日 平成18年7月20日
 4 使用開始年月日 平成18年7月20日
 ※5 処 理 方 式 溶融
 6 処 理 能 力 2.4 t/日
 7 処 理 計 画 2.4 t/日
 ※8 設計時の運転時間 12h

※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m³当りの重量 0.02 t

※10 施設管理人員 1人

※11 搬出物の処分先 不開示

※12 粉じん等の飛散防止方法

溶融施設は屋内設置で、集塵機が取り付けられている。

※13 騒音及び振動の防止方法

騒音源は建屋内にある。重機での積み下ろしは、低い位置で行い、過剰な投入等、施設に負荷のかかる運転を避ける。

I 施設稼働状況

月別 項目		4月	5月	6月	計
ごみ投入量 (t)		0	0	0	0
搬出量	総量 (t)	0	0	0	0
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	0	0	0	0
電気使用量 (kwh)		115,531	125,270	126,389	367,190
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		0	0	0	0
実働日数 (日間)		0	0	0	0
備 考					

第23号様式(第32条関係)

2022年8月 日

東京都知事 殿



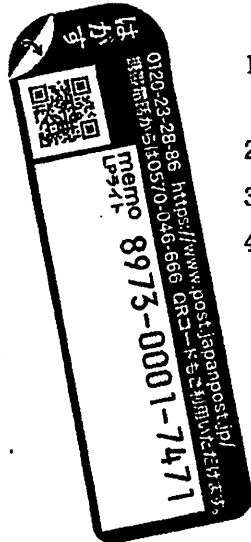
管理者の 東京都武蔵村山市中央二丁目18番地の3
住所・氏名 比留間運送株式会社
技術管理者氏名 代表取締役 比留間宏明 対象外
電話番号 042-565-1336

ごみ処理施設維持管理状況報告書
(高速堆肥化処理施設)

2022年度第1期分ごみ処理施設維持管理状況を、東京都廃棄物規則第32条第1項の規定により、次のとおり報告します。

- | | | | |
|-----------|--------------------------------|---------------|--------|
| 1 施設の名称 | 食品残さ(生ごみ)、汚泥(有機性のものに限る。)発酵処理施設 | 5 処理能力 | 3.5t/日 |
| 2 設置場所 | 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆 | 6 処理計画 | 3.5t/日 |
| 3 着工年月日 | 平成18年7月20日 | ※7 施設管理人員 | 1人 |
| 4 使用開始年月日 | 平成18年7月20日 | ※8 コンポストの売却先等 | |

不開示



施設稼働状況

項目 \ 月別	4月	5月	6月	計
ごみ投入量 (t)	91.03	93.16	89.66	273.85
残渣量 (t)	0	0	0	0
コンポスト生産量 (t)	9.10	9.32	8.97	27.39
電気使用量 (kwh)	115,531	125,270	126,389	367,190
水使用量 (m³)	0	0	0	0
発酵槽温度 (℃)	30～50	30～50	30～50	—
施設実働時間 (h)	360	372	360	1092
実働日数 (日間)	30	31	30	91
備考				

注 1 各施設ごとに別業とすること。

2 ※印については、第1期分のみ記入すること。

(日本工業規格A列4番)

2022年8月 日

東京都知事 殿

管理者の住所・氏名 東京都武蔵村山市中央二丁目18番地の3

比留間運送株式会社

技術管理者氏名 代表取締役 比留間宏明 対象外

電話番号 042-565-1336

ごみ処理施設維持管理状況報告書

(焼却施設)

2022年度第1期分ごみ処理施設維持管理状況を、東京都廃棄物規則第32条第1項の規定により、次のとおり報告します。

- 1 施設の名称 焼却施設 ※9 補助燃料の種類 白灯油
2 設置場所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆 ※10 設計時ごみの低位発熱量 2,879kcal/kg
3 着工年月日 平成18年7月20日 ※11 設計時の燃焼室ガス温度 800~900℃
4 使用開始年月日 平成18年7月20日 ※12 補助燃料の運転時間 4h/日
※5 炉形式、運転形式 縦型バッチ式 ※13 一般廃棄物の種類 紙くず、木くず、生ごみ、繊維くず
6 処理能力 4.8t/日(4.8t/日×1炉) ※14 搬出物の処分先及び方法 不開示/焼成
7 処理計画 4.8t/日 ※15 排ガス処理方法 バグフィルター、サイクロン
8 火格子(ロストル)面積 5.4m²/炉 ※16 騒音及び振動の防止方法 アンカー固定、防音BOXの設置

施設稼働状況及び測定結果(炉No.)

項目	月別	基準値 (規制値)	4月	5月	6月
ごみ投入量	(t)		3.87	9.25	7.17
搬出残さ量	(t)		0.39	0.93	0.72
補助燃料	(l)		2,000	3,450	2,400
電力使用量	(kWh)		115,531	125,270	126,389
水使用量	(m ³)		240	552	384
稼働時間	(h)		8	24	16
稼働日数	(日間)		1	3	2
燃焼室ガス温度	(℃)	800℃以上	800~885	800~898	800~898
集じん器入口ガス温度	(℃)	200℃以下	80~168	80~87	79~88
排ガス中のCO濃度	(ppm)	100ppm以下	6.1~62.4	6.1~68.7	7.1~47.9
冷却設備及び排ガス処理設備に堆積したばいじんを除去した年月日			2022年4月2日	2022年5月14日	2022年6月4日
焼却灰の熱しゃく減量	(%)	10	—	4.4	—
ばい煙	測定年月日		—	—	—
	測定を行った位置		—	—	—
	測定結果を得た年月日		—	—	—
	ばいじん濃度 (g/m ³ N)	—	—	—	—
	窒素酸化物 (volppm)	—	—	—	—
	硫黄酸化物 (m ³ /h)	—	—	—	—
	塩化水素 (mg/m ³)	—	—	—	—
	ダイオキシン類 (ng-TEQ/m ³ N)	—	—	—	—
放流水	測定年月日				
	水素イオン濃度				
	生物化学的酸素要求量 (mg/l)				
	化学的酸素要求量 (mg/l)				
	浮遊物質 (mg/l)				
備考					

注 1 各炉ごとに別表とすること。

2 ※については第1期分のみ記入すること。

3 電力使用量及び水使用量は、施設全体のものを記入すること。

4 排ガス中のCO濃度及びばい煙の測定結果については、酸素濃度12%の換算値とすること。

(日本工業規格A列4番)

第21号様式(第32条関係)

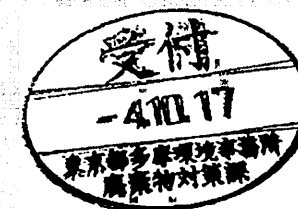
2022年10月14日

東京都知事 殿

管理者の
住所・氏名 東京都武蔵村山市中央二丁目12番地の3
技術管理者氏名 比留間運送株式会社
電話番号 代表取締役 比留間宏明 対象外
042-565-1336

ごみ処理施設維持管理状況報告書
(破碎・選別処理施設)

2022年度第2期分ごみ処理施設維持管理状況を、東京都廃棄物規則第32条第1項の規定により、次のとおり報告します。



1 施設の名称	別紙1～9のとおり	※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m3当りの重量	別紙1～9のとおり
2 設置場所	同上	※10 施設管理人員	同上
3 着工年月日	同上	※11 搬出物の処分先	同上
4 使用開始年月日	同上	※12 粉じん等の飛散防止方法	同上
※5 処理方式	同上	※13 騒音及び振動の防止方法	同上
6 処理能力	同上		
7 処理計画	同上		
※8 設計時の運転時間	同上		

注 1 各施設ごとに別表とすること。

2 ※印については、第1期分のみ記入すること。

(日本工業規格A列4番)

- 1 施設 の 名 称 廃プラスチック類破碎処理施設
 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
 3 着 工 年 月 日 平成18年7月20日
 4 使用開始年月日 平成18年7月20日
 ※5 処 理 方 式
 6 処 理 能 力 6.3 t/日
 7 処 理 計 画 6.3 t/日
 ※8 設計時の運転時間
 ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m³当りの重量
 ※10 施設管理人員
 ※11 搬出物の処分先
 ※12 粉じん等の飛散防止方法
 ※13 騒音及び振動の防止方法

I 施設稼働状況

月別 項目		7月	8月	9月	計
ごみ投入量 (t)		0	0	0	0
搬出量	総量 (t)	0	0	0	0
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	0	0	0	0
電気使用量 (kwh)		116,138	113,606	106,548	336,292
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		0	0	0	0
実働日数 (日間)		0	0	0	0
備 考					

- 1 施設の名称 廃プラスチック類・繊維くず破砕処理施設
- 2 設置場所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
- 3 着工年月日 平成18年7月20日・令和2年8月27日
- 4 使用開始年月日 平成18年7月20日・令和3年3月18日
- ※5 処理方式
- 6 処理能力 廃プラスチック類 48.0t/日
繊維くず 32.1t/日
廃プラスチック類 44.7t/日
繊維くず 32.3t/日
- 7 処理計画 廃プラスチック類 48.0t/日
繊維くず 32.1t/日
廃プラスチック類 44.7t/日
繊維くず 32.3t/日
- ※8 設計時の運転時間
- ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m³当りの重量
- ※10 施設管理人員
- ※11 搬出物の処分先
- ※12 粉じん等の飛散防止方法
- ※13 騒音及び振動の防止方法

I 施設稼働状況

月別 項目		7月	8月	9月	計
ごみ投入量 (t)		0	0	0	0
搬出量	総量 (t)	0	0	0	0
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	0	0	0	0
電気使用量 (kwh)		116,138	113,606	106,548	336,292
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		0	0	0	0
実働日数 (日間)		0	0	0	0
備考					

- 1 施設 の 名 称 木くず破碎処理施設
 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
 3 着 工 年 月 日 平成18年7月20日
 4 使用開始年月日 平成18年7月20日
 ※5 処 理 方 式
 6 処 理 能 力 17.1 t / 日
 7 処 理 計 画 17.1 t / 日
 ※8 設計時の運転時間
 ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m³当りの重量
 ※10 施設管理人員
 ※11 搬出物の処分先
 ※12 粉じん等の飛散防止方法
 ※13 騒音及び振動の防止方法

I 施設稼働状況

月別 項目		7 月	8 月	9 月	計
ご み 投 入 量 (t)		104.38	102.34	121.47	328.19
搬 出 量	総 量 (t)	104.38	102.34	121.47	328.19
	焼 却 量 (t)	0	0	0	0
	埋 立 量 (t)	0	0	0	0
	有 価 物 量 (t)	104.38	102.34	121.47	328.19
電 気 使 用 量 (kwh)		116,138	113,606	106,548	336,292
水 使 用 量 (m ³)		0	0	0	0
施 設 実 働 時 間 (h)		108	96	102	306
実 働 日 数 (日間)		18	16	17	51
備 考					

- 1 施設の名称 廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、
 ゴムくず、金属くず、ガラス・コンクリート・
 陶磁器くず、がれき類の混合物破碎処理施設
- 2 設置場所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
- 3 着工年月日 平成30年5月24日
- 4 使用開始年月日 平成30年11月5日
- ※5 処理方式
- 6 処理能力 53.5 t/日
- 7 処理計画 53.5 t/日
- ※8 設計時の運転時間
- ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m3当りの重量
- ※10 施設管理人員
- ※11 搬出物の処分先
- ※12 粉じん等の飛散防止方法
- ※13 騒音及び振動の防止方法

I 施設稼働状況

月別 項目		7月	8月	9月	計
ごみ投入量 (t)		54.00	19.73	4.54	78.27
搬出量	総量 (t)	54.00	19.73	4.54	78.27
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	54.00	19.73	4.54	78.27
電気使用量 (kwh)		116,138	113,606	106,548	336,292
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		16	8	4	28
実働日数 (日間)		4	4	4	12
備考					

- 1 施設 の 名 称 廃プラスチック類、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず(廃蛍光灯)破碎処理施設
- 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
- 3 着 工 年 月 日 平成30年5月24日
- 4 使用開始年月日 平成30年11月5日
- ※5 処 理 方 式
- 6 処 理 能 力 2.8 t / 日
- 7 処 理 計 画 2.8 t / 日
- ※8 設計時の運転時間
- ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m³当りの重量
- ※10 施設管理人員
- ※11 搬出物の処分先
- ※12 粉じん等の飛散防止方法
- ※13 騒音及び振動の防止方法

I 施設稼働状況

月別 項目		7月	8月	9月	計
ごみ投入量 (t)		0	0	0	0
搬出量	総量 (t)	0	0	0	0
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	0	0	0	0
電気使用量 (kwh)		116,138	113,606	106,548	336,292
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		0	0	0	0
実働日数 (日間)		0	0	0	0
備 考					

- 1 施設名称 廃プラスチック類・紙くず圧縮梱包処理施設
 2 設置場所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
 3 着工年月日 平成18年7月20日
 4 使用開始年月日 平成18年7月20日
 ※5 処理方式
 6 処理能力 廃プラスチック類 180.0 t/日
 紙くず 166.8 t/日
 7 処理計画 廃プラスチック類 180.0 t/日
 紙くず 166.8 t/日
 ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m³当りの重量
 ※10 施設管理人員
 ※11 搬出物の処分先
 ※12 粉じん等の飛散防止方法
 ※13 騒音及び振動の防止方法

※8 設計時の運転時間

I 施設稼働状況

月別 項目		7月	8月	9月	計
ごみ投入量 (t)		17.52	15.83	16.03	49.38
搬出量	総量 (t)	17.52	15.83	16.03	49.38
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	17.52	15.83	16.03	49.38
電気使用量 (kwh)		116,138	113,606	106,548	336,292
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		96	90	96	282
実働日数 (日間)		16	15	16	47
備考					

- 1 施設 の 名 称 廃プラスチック類・繊維くず圧縮梱包処理施設 ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m3当りの重量
 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆 ※10 施設管理人員
 3 着 工 年 月 日 平成30年5月24日 ※11 搬出物の処分先
 4 使用開始年月日 平成30年9月14日 ※12 粉じん等の飛散防止方法
 ※5 処 理 方 式 ※13 騒音及び振動の防止方法
 6 処 理 能 力 廃プラスチック類 24.3t/日
 繊維くず 17.2t/日
 7 処 理 計 画 廃プラスチック類 24.3t/日
 繊維くず 17.2t/日

※8 設計時の運転時間

I 施設稼働状況

月別 項目		7月	8月	9月	計
ごみ投入量 (t)		29.39	37.96	27.73	95.08
搬出量	総量 (t)	29.39	37.96	27.73	95.08
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	29.39	37.96	27.73	95.08
電気使用量 (kwh)		116,138	113,606	106,548	336,292
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		35	30	40	105
実働日数 (日間)		7	6	8	21
備 考					

- 1 施設 の 名 称 空き缶圧縮処理施設
 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
 3 着 工 年 月 日 平成18年7月20日・平成30年5月24日
 4 使用開始年月日 平成18年7月20日・平成30年5月24日
 ※5 処 理 方 式
 6 処 理 能 力 空き缶 4.3 t/日
 空き缶 10.2 t/日
 7 処 理 計 画 空き缶 4.3 t/日
 空き缶 10.2 t/日
 ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m3当りの重量
 ※10 施設管理人員
 ※11 搬出物の処分先
 ※12 粉じん等の飛散防止方法
 ※13 騒音及び振動の防止方法

※8 設計時の運転時間

I 施設稼働状況

月別 項目		7月	8月	9月	計
ごみ投入量 (t)		0.12	0.14	0.21	0.47
搬出量	総量 (t)	0.12	0.14	0.21	0.47
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	0.12	0.14	0.21	0.47
電気使用量 (kwh)		116,138	113,606	106,548	336,292
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		1	1	1	3
実働日数 (日間)		1	1	1	3
備 考					

- 1 施設 の 名 称 廃プラスチック類(発泡スチロール)溶融処理施設
 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
 3 着 工 年 月 日 平成18年7月20日
 4 使用開始年月日 平成18年7月20日
 ※5 処 理 方 式
 6 処 理 能 力 2.4 t/日
 7 処 理 計 画 2.4 t/日
 ※8 設計時の運転時間
 ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m³当りの重量
 ※10 施設管理人員
 ※11 搬出物の処分先
 ※12 粉じん等の飛散防止方法
 ※13 騒音及び振動の防止方法

I 施設稼働状況

月別 項目		7月	8月	9月	計
ごみ投入量 (t)		0	0	0	0
搬出量	総量 (t)	0	0	0	0
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	0	0	0	0
電気使用量 (kwh)		116,138	113,606	106,548	336,292
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		0	0	0	0
実働日数 (日間)		0	0	0	0
備 考					

第23号様式(第32条関係)

2022年10月14日

東京都知事 殿

管 理 者 の 東京都武蔵村山市中央二丁目12番地の3
住 所 ・ 氏 名 比留間運送株式会社
技術管理者氏名 代表取締役 比留間宏 対象外
電 話 番 号 042-565-1336

ごみ処理施設維持管理状況報告書
(高 速 堆 肥 化 処 理 施 設)

2022年度第2期分ごみ処理施設維持管理状況を、東京都廃棄物規則第32条第1項の規定により、次のとおり報告します。

- | | | | |
|-------------|------------------------------------|---------------|--------|
| 1 施設 の 名 称 | 食品残さ(生ごみ)、汚泥(有機性のものに限る。)
発酵処理施設 | 5 処理能力 | 3.5t/日 |
| 2 設 置 場 所 | 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆 | 6 処理計画 | 3.5t/日 |
| 3 着 工 年 月 日 | 平成18年7月20日 | ※7 施設管理人員 | |
| 4 使用開始年月日 | 平成18年7月20日 | ※8 コンポストの売却先等 | |



施設稼働状況

項目 \ 月別	7月	8月	9月	計
ごみ投入量 (t)	89.86	89.58	86.94	266.38
残渣量 (t)	0	0	0	0
コンポスト生産量 (t)	8.99	8.96	8.69	26.64
電気使用量 (kwh)	116,138	113,606	106,548	336,292
水使用量 (m³)	0	0	0	0
発酵槽温度 (℃)	30～50	30～50	30～50	—
施設実働時間 (h)	372	372	360	1,104
実働日数 (日間)	31	31	30	92
備考				

注 1 各施設ごとに別表とすること。

2 ※印については、第1期分のみ記入すること。

(日本工業規格A列4番)

2022年10月14日

東京都知事 殿

管理者の住所・氏名 東京都武蔵村山市中央二丁目18番地の3

比留間運送株式会社

技術管理者氏名 代表取締役 比留間宏明 対象外

電話番号 042-565-1336

ごみ処理施設維持管理状況報告書

(焼却施設)

2022年度第2期分ごみ処理施設維持管理状況を、東京都廃棄物規則第32条第1項の規定により、次のとおり報告します。

- | | |
|------------------------------------|-----------------|
| 1 施設の名称 焼却施設 | ※9 補助燃料の種類 |
| 2 設置場所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4第 | ※10 設計時ごみの低位発熱量 |
| 3 着工年月日 平成18年7月20日 | ※11 設計時の燃焼室ガス温度 |
| 4 使用開始年月日 平成18年7月20日 | ※12 補助燃料の運転時間 |
| ※5 炉形式、運転形式 | ※13 一般廃棄物の種類 |
| 6 処理能力 4.8t/日(4.8t/日×1炉) | ※14 搬出物の処分先及び方法 |
| 7 処理計画 4.8t/日 | ※15 排ガス処理方法 |
| 8 火格子(ロストル)面積 5.4m ² /炉 | ※16 騒音及び振動の防止方法 |

施設稼働状況及び測定結果(炉No.)

項目	月別	基準値 (規制値)	7月	8月	9月
ごみ投入量	(t)		7.97	6.17	3.58
搬出残さ量	(t)		0.80	0.82	0.36
補助燃料	(l)		1,800	1,400	1,500
電力使用量	(kWh)		116,138	113,606	106,548
水使用量	(m ³)		432	336	40
稼働時間	(h)		16	16	8
稼働日数	(日間)		2	2	1
燃焼室ガス温度	(℃)	800℃以上	800～913	800～898	800～894
集じん器入口ガス温度	(℃)	200℃以下	80～142	82～178	118～161
排ガス中のCO濃度	(ppm)	100ppm以下	5.3～71.3	0.7～65.9	7.1～20.3
冷却設備及び排ガス処理設備に堆積したばいじんを除去した年月日			2022年7月9日 2022年7月16日 2022年7月23日	2022年8月6日	2022年9月20日 2022年9月21日
焼却灰の熱しゃく減量	(%)	10	—	5.4	—
ばい煙	測定年月日		—	2022年8月12	—
	測定を行った位置		—	煙突中間	—
	測定結果を得た年月日		—	2022年9月8日	—
	ばいじん濃度 (g/m ³ N)	0.25	—	0.001	—
	窒素酸化物 (volppm)	250	—	78	—
	硫黄酸化物 (m ³ /h)	2.37	—	0.17	—
	塩化水素 (mg/m ³)	700	—	29	—
	ダイオキシン類 (ng-TEQ/m ³ N)	10	—	7.4	—
放流水	測定年月日				
	水素イオン濃度				
	生物化学的酸素要求量 (mg/l)				
	化学的酸素要求量 (mg/l)				
	浮遊物質質量 (mg/l)				
備考					

注 1 各炉ごとに別業とすること。

2 ※については第1期分のみ記入すること。

3 電力使用量及び水使用量は、施設全体のものを記入すること。

4 排ガス中のCO濃度及びばい煙の測定結果については、酸素濃度12%の換算値とすること。

(日本工業規格A列4番)

2023年1月 日

東京都知事 殿



管理者の
住所・氏名
技術管理者氏名
電話番号

対象外

市中央二丁目18番地の3
会社
留間宏明 対象外

ごみ処理施設維持管理状況報告書
(破 碎・選 別 処 理 施 設)

2022年度第3期分ごみ処理施設維持管理状況を、東京都廃棄物規則第32条第1項の規定により、次のとおり報告します。

- | | | | |
|-------------|-----------|------------------------|-----------|
| 1 施設 の 名 称 | 別紙1～9のとおり | ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m3当りの重量 | 別紙1～9のとおり |
| 2 設 置 場 所 | 同上 | ※10 施設管理人員 | 同上 |
| 3 着 工 年 月 日 | 同上 | ※11 搬出物の処分先 | 同上 |
| 4 使用開始年月日 | 同上 | ※12 粉じん等の飛散防止方法 | 同上 |
| ※5 処 理 方 式 | 同上 | ※13 騒音及び振動の防止方法 | 同上 |
| 6 処 理 能 力 | 同上 | | |
| 7 処 理 計 画 | 同上 | | |
| ※8 設計時の運転時間 | 同上 | | |

注 1 各施設ごとに別葉とすること。

2 ※印については、第1期分のみ記入すること。

(日本工業規格A列4番)

1 施設 の 名 称 廃プラスチック類破砕処理施設
 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
 3 着 工 年 月 日 平成18年7月20日
 4 使用開始年月日 平成18年7月20日
 ※5 処 理 方 式
 6 処 理 能 力 6.3 t/日
 7 処 理 計 画 6.3 t/日
 ※8 設計時の運転時間

※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m³当りの重量
 ※10 施設管理人員
 ※11 搬出物の処分先
 ※12 粉じん等の飛散防止方法
 ※13 騒音及び振動の防止方法

I 施設稼働状況

月別		10月	11月	12月	計
項目					
ごみ投入量 (t)		0	0	0	0
搬出量	総量 (t)	0	0	0	0
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	0	0	0	0
電気使用量 (kwh)		138,475	149,647	142,042	430,164
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		0	0	0	0
実働日数 (日間)		0	0	0	0
備 考					

- 1 施設の名称 廃プラスチック類・繊維くず破碎処理施設
 2 設置場所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
 3 着工年月日 平成18年7月20日・令和2年8月27日
 4 使用開始年月日 平成18年7月20日・令和3年3月18日
 ※5 処理方式
 6 処理能力 廃プラスチック類 48.0 t/日
 繊維くず 32.1 t/日
 廃プラスチック類 44.7 t/日
 繊維くず 32.3 t/日
 7 処理計画 廃プラスチック類 48.0 t/日
 繊維くず 32.1 t/日
 廃プラスチック類 44.7 t/日
 繊維くず 32.3 t/日
 ※8 設計時の運転時間
 ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m3当りの重量
 ※10 施設管理人員
 ※11 搬出物の処分先
 ※12 粉じん等の飛散防止方法
 ※13 騒音及び振動の防止方法

I 施設稼働状況

月別 項目		10月	11月	12月	計
ごみ投入量 (t)		0	0	0	0
搬出量	総量 (t)	0	0	0	0
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	0	0	0	0
電気使用量 (kwh)		138,475	149,647	142,042	430,164
水使用量 (m³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		0	0	0	0
実働日数 (日間)		0	0	0	0
備考					

- 1 施設 の 名 称 木くず破碎処理施設
 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
 3 着 工 年 月 日 平成18年7月20日
 4 使用開始年月日 平成18年7月20日
 ※5 処 理 方 式
 6 処 理 能 力 17.1t/日
 7 処 理 計 画 17.1t/日
 ※8 設計時の運転時間
 ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m3当りの重量
 ※10 施設管理人員
 ※11 搬出物の処分先
 ※12 粉じん等の飛散防止方法
 ※13 騒音及び振動の防止方法

I 施設稼働状況

月別 項目		10月	11月	12月	計
ごみ投入量 (t)		135.55	164.22	153.00	452.77
搬出量	総量 (t)	135.55	164.22	153.00	452.77
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	135.55	164.22	153.00	452.77
電気使用量 (kwh)		138,475	149,647	142,042	430,164
水使用量 (m³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		108	120	114	342
実働日数 (日間)		18	20	19	57
備 考					

- 1 施 設 の 名 称 廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、
ゴムくず、金属くず、ガラス・コンクリート・
陶磁器くず、がれき類の混合物破碎処理施設
- 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
- 3 着 工 年 月 日 平成30年5月24日
- 4 使用開始年月日 平成30年11月5日
- ※5 処 理 方 式
- 6 処 理 能 力 53.5 t / 日
- 7 処 理 計 画 53.5 t / 日
- ※8 設計時の運転時間
- ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m³当りの重量
- ※10 施設管理人員
- ※11 搬出物の処分先
- ※12 粉じん等の飛散防止方法
- ※13 騒音及び振動の防止方法

I 施設稼働状況

月別		10月	11月	12月	計
項目					
ごみ投入量 (t)		2.86	3.01	3.92	9.79
搬 出 量	総 量 (t)	2.86	3.01	3.92	9.79
	焼 却 量 (t)	0	0	0	0
	埋 立 量 (t)	0	0	0	0
	有 価 物 量 (t)	2.86	3.01	3.92	9.79
電気使用量 (kwh)		138,475	149,647	142,042	430,164
水 使 用 量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		4	4	4	12
実 働 日 数 (日間)		4	4	4	12
備 考					

- 1 施設 の 名 称 廃プラスチック類、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず(廃蛍光灯)破砕処理施設
- 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
- 3 着 工 年 月 日 平成30年5月24日
- 4 使用開始年月日 平成30年11月5日
- ※5 処 理 方 式
- 6 処 理 能 力 2.8t/日
- 7 処 理 計 画 2.8t/日
- ※8 設計時の運転時間
- ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m³当りの重量
- ※10 施設管理人員
- ※11 搬出物の処分先
- ※12 粉じん等の飛散防止方法
- ※13 騒音及び振動の防止方法

I 施設稼働状況

月別 項目		10月	11月	12月	計
ごみ投入量 (t)		0	0	0	0
搬出量	総量 (t)	0	0	0	0
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	0	0	0	0
電気使用量 (kwh)		138,475	149,647	142,042	430,164
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		0	0	0	0
実働日数 (日間)		0	0	0	0
備 考					

- 1 施設 の 名 称 廃プラスチック類・紙くず圧縮梱包処理施設
 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
 3 着 工 年 月 日 平成18年7月20日
 4 使用開始年月日 平成18年7月20日
 ※5 処 理 方 式
 6 処 理 能 力 廃プラスチック類 180.0 t / 日
 紙くず 166.8 t / 日
 7 処 理 計 画 廃プラスチック類 180.0 t / 日
 紙くず 166.8 t / 日
 ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m3当りの重量
 ※10 施設管理人員
 ※11 搬出物の処分先
 ※12 粉じん等の飛散防止方法
 ※13 騒音及び振動の防止方法

※8 設計時の運転時間

I 施設稼働状況

月別 項目		10月	11月	12月	計
ごみ投入量 (t)		12.55	12.19	18.14	42.88
搬出量	総量 (t)	12.55	12.19	18.14	42.88
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	12.55	12.19	18.14	42.88
電気使用量 (kwh)		138,475	149,647	142,042	430,164
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		90	84	96	270
実働日数 (日間)		15	14	16	45
備 考					

- 1 施 設 の 名 称 廃プラスチック類・繊維くず圧縮梱包処理施設
 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
 3 着 工 年 月 日 平成30年5月24日
 4 使用開始年月日 平成30年9月14日
 ※5 処 理 方 式
 6 処 理 能 力 廃プラスチック類 24.3 t/日
 繊維くず 17.2 t/日
 7 処 理 計 画 廃プラスチック類 24.3 t/日
 繊維くず 17.2 t/日
 ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m³当りの重量
 ※10 施設管理人員
 ※11 搬出物の処分先
 ※12 粉じん等の飛散防止方法
 ※13 騒音及び振動の防止方法

※8 設計時の運転時間

I 施設稼働状況

月別		10月	11月	12月	計
項目					
ごみ投入量 (t)		24.40	27.08	22.76	74.24
搬出量	総量 (t)	24.40	27.08	22.76	74.24
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	24.40	27.08	22.76	74.24
電気使用量 (kwh)		138,475	149,647	142,042	430,164
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		25	30	25	80
実働日数 (日間)		5	6	5	16
備 考					

- 1 施 設 の 名 称 空き缶圧縮処理施設
 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
 3 着 工 年 月 日 平成18年7月20日・平成30年5月24日
 4 使用開始年月日 平成18年7月20日・平成30年5月24日
 ※5 処 理 方 式
 6 処 理 能 力 空き缶 4.3 t/日
 空き缶 10.2 t/日
 7 処 理 計 画 空き缶 4.3 t/日
 空き缶 10.2 t/日
 ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m³当りの重量
 ※10 施設管理人員
 ※11 搬出物の処分先
 ※12 粉じん等の飛散防止方法
 ※13 騒音及び振動の防止方法

※8 設計時の運転時間

I 施設稼働状況

月別 項目		10月	11月	12月	計
ごみ投入量 (t)		0.26	0.26	0.28	0.80
搬出量	総量 (t)	0.26	0.26	0.28	0.80
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	0.26	0.26	0.28	0.80
電気使用量 (kwh)		138,475	149,647	142,042	430,164
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		1	1	1	3
実働日数 (日間)		1	1	1	3
備 考					

- 1 施設 の 名 称 廃プラスチック類(発泡スチロール)溶融処理施設 ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m3当りの重量
 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆 ※10 施設管理人員
 3 着 工 年 月 日 平成18年7月20日 ※11 搬出物の処分先
 4 使用開始年月日 平成18年7月20日 ※12 粉じん等の飛散防止方法
 ※5 処 理 方 式 ※13 騒音及び振動の防止方法
 6 処 理 能 力 2.4 t/日
 7 処 理 計 画 2.4 t/日
 ※8 設計時の運転時間

I 施設稼働状況

月別 項目		10月	11月	12月	計
ごみ投入量 (t)		0	0	0	0
搬出量	総量 (t)	0	0	0	0
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	0	0	0	0
電気使用量 (kwh)		138,475	149,647	142,042	430,164
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		0	0	0	0
実働日数 (日間)		0	0	0	0
備 考					

第23号様式(第32条関係)

2023年1月 日

東京都知事 殿

管理者の
住所・氏名
技術管理者氏名
電話番号

対象外

市中央二丁目18番地の3
会社
留間宏明 対象外

ごみ処理施設維持管理状況報告書
(高速堆肥化処理施設)

2022年度第3期分ごみ処理施設維持管理状況を、東京都廃棄物規則第32条第1項の規定により、次のとおり報告します。

- | | | | |
|-----------|--------------------------------|---------------|--------|
| 1 施設の名称 | 食品残さ(生ごみ)、汚泥(有機性のものに限る。)発酵処理施設 | 5 処理能力 | 3.5t/日 |
| 2 設置場所 | 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆 | 6 処理計画 | 3.5t/日 |
| 3 着工年月日 | 平成18年7月20日 | ※7 施設管理人員 | |
| 4 使用開始年月日 | 平成18年7月20日 | ※8 コンポストの売却先等 | |



施設稼働状況

項目 \ 月別	10月	11月	12月	計
ごみ投入量 (t)	89.75	87.67	91.83	269.25
残渣量 (t)	0	0	0	0
コンポスト生産量 (t)	8.98	8.77	9.18	26.93
電気使用量 (kwh)	138,475	149,647	142,042	430,164
水使用量 (m³)	0	0	0	0
発酵槽温度 (℃)	30～50	30～50	30～50	—
施設実働時間 (h)	372	360	372	1,104
実働日数 (日間)	31	30	31	92
備考				

注 1 各施設ごとに別表とすること。

2 ※印については、第1期分のみ記入すること。

(日本工業規格A列4番)

2023年1月 日

東京都知事 殿

管理者の住所・氏名 東京都中央区二丁目18番地の3

対象外

技術管理者氏名 氏名 対象外

電話番号 0

ごみ処理施設維持管理状況報告書

(焼却施設)

2022年度第3期分ごみ処理施設維持管理状況を、東京都廃棄物規則第32条第1項の規定により、次のとおり報告します。

- 1 施設の名称 焼却施設 ※9 補助燃料の種類
- 2 設置場所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆 ※10 設計時ごみの低位発熱量
- 3 着工年月日 平成18年7月20日 ※11 設計時の燃焼室ガス温度
- 4 使用開始年月日 平成18年7月20日 ※12 補助燃料の運転時間
- ※5 炉形式、運転形式 ※13 一般廃棄物の種類
- 6 処理能力 4.8t/日(4.8t/日×1炉) ※14 搬出物の処分先及び方法
- 7 処理計画 4.8t/日 ※15 排ガス処理方法
- 8 火格子(ロストル)面積 5.4m²/炉 ※16 騒音及び振動の防止方法



施設稼働状況及び測定結果(炉No.)

項目	月別	基準値 (規制値)	10月	11月	12月
ごみ投入量	(t)		11.25	11.60	11.63
搬出残さ量	(t)		1.13	1.16	1.16
補助燃料	(l)		2,500	2,250	3,750
電力使用量	(kWh)		138,475	149,647	142,042
水使用量	(m ³)		188	197	198
稼働時間	(h)		24	24	24
稼働日数	(日間)		3	3	3
燃焼室ガス温度	(℃)	800℃以上	800~903	800~919	800~912
集じん器入口ガス温度	(℃)	200℃以下	113~166	97~177	79~168
排ガス中のCO濃度	(ppm)	100ppm以下	3.1~70.3	4.6~72.1	3.1~60.4
冷却設備及び排ガス処理設備に堆積したばいじんを除去した年月日			2022年10月8日 2022年10月22日	2022年11月5日 2022年11月19日	2022年12月3日 2022年12月17日
焼却灰の熱しゃく減量	(%)	10	—	8.5	—
ばい煙	測定年月日		—	—	—
	測定を行った位置		—	—	—
	測定結果を得た年月日		—	—	—
	ばいじん濃度 (g/m ³ N)	—	—	—	—
	窒素酸化物 (volppm)	—	—	—	—
	硫黄酸化物 (m ³ /h)	—	—	—	—
	塩化水素 (mg/m ³)	—	—	—	—
	ダイオキシン類 (ng-TEQ/m ³ N)	—	—	—	—
放流水	測定年月日				
	水素イオン濃度				
	生物化学的酸素要求量 (mg/l)				
	化学的酸素要求量 (mg/l)				
	浮遊物質濃度 (mg/l)				
備考					

- 注 1 各炉ごとに別表とすること。
- 2 ※については第1期分のみ記入すること。
- 3 電力使用量及び水使用量は、施設全体のものを記入すること。
- 4 排ガス中のCO濃度及びばい煙の測定結果については、酸素濃度12%の換算値とすること。

2023年4月 日

東京都知事 殿



管理者の
住所・氏名
技術管理者氏名
電話番号

対象外

市中央二丁目18番地の3
会社
留間宏

対象外

ごみ処理施設維持管理状況報告書
(破 碎・選 別 処 理 施 設)

2022年度第4期分ごみ処理施設維持管理状況を、東京都廃棄物規則第32条第1項の規定により、次のとおり報告します。

- | | | | |
|-------------|-----------|------------------------|-----------|
| 1 施設 の 名 称 | 別紙1～9のとおり | ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m3当りの重量 | 別紙1～9のとおり |
| 2 設 置 場 所 | 同上 | ※10 施設管理人員 | 同上 |
| 3 着 工 年 月 日 | 同上 | ※11 搬出物の処分先 | 同上 |
| 4 使用開始年月日 | 同上 | ※12 粉じん等の飛散防止方法 | 同上 |
| ※5 処 理 方 式 | 同上 | ※13 騒音及び振動の防止方法 | 同上 |
| 6 処 理 能 力 | 同上 | | |
| 7 処 理 計 画 | 同上 | | |
| ※8 設計時の運転時間 | 同上 | | |

注 1 各施設ごとに別葉とすること。

2 ※印については、第1期分のみ記入すること。

1 施設 の 名 称 廃プラスチック類破碎処理施設
 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
 3 着 工 年 月 日 平成18年7月20日
 4 使用開始年月日 平成18年7月20日
 ※5 処 理 方 式
 6 処 理 能 力 6.3 t/日
 7 処 理 計 画 6.3 t/日
 ※8 設計時の運転時間

※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m3当りの重量
 ※10 施設管理人員
 ※11 搬出物の処分先
 ※12 粉じん等の飛散防止方法
 ※13 騒音及び振動の防止方法

I 施設稼働状況

月別		1月	2月	3月	計
項目					
ごみ投入量 (t)		0	0	0	0
搬出量	総量 (t)	0	0	0	0
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	0	0	0	0
電気使用量 (kwh)		143,909	149,880	139,776	433,565
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		0	0	0	0
実働日数 (日間)		0	0	0	0
備 考					

- 1 施設 の 名 称 廃プラスチック類・繊維くず破砕処理施設
 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
 3 着 工 年 月 日 平成18年7月20日・令和2年8月27日
 4 使用開始年月日 平成18年7月20日・令和3年3月18日
 ※5 処 理 方 式
 6 処 理 能 力 廃プラスチック類 48.0 t/日
 繊維くず 32.1 t/日
 廃プラスチック類 44.7 t/日
 繊維くず 32.3 t/日
 7 処 理 計 画 廃プラスチック類 48.0 t/日
 繊維くず 32.1 t/日
 廃プラスチック類 44.7 t/日
 繊維くず 32.3 t/日
 ※8 設計時の運転時間
 ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m3当りの重量
 ※10 施設管理人員
 ※11 搬出物の処分先
 ※12 粉じん等の飛散防止方法
 ※13 騒音及び振動の防止方法

I 施設稼働状況

月別		1月	2月	3月	計
項目					
ごみ投入量 (t)		0	0	0	0
搬出量	総量 (t)	0	0	0	0
	焼却量 (t)	00	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	0	0	0	0
電気使用量 (kwh)		143,909	149,880	139,776	433,565
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		0	0	0	0
実働日数 (日間)		0	0	0	0
備 考					

- 1 施設 の 名 称 木くず破砕処理施設
 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
 3 着 工 年 月 日 平成18年7月20日
 4 使用開始年月日 平成18年7月20日
 ※5 処 理 方 式
 6 処 理 能 力 17.1t/日
 7 処 理 計 画 17.1t/日
 ※8 設計時の運転時間
 ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m³当りの重量
 ※10 施設管理人員
 ※11 搬出物の処分先
 ※12 粉じん等の飛散防止方法
 ※13 騒音及び振動の防止方法

I 施設稼働状況

月別 項目		1月	2月	3月	計
ごみ投入量 (t)		109.06	149.28	126.78	385.12
搬出量	総量 (t)	109.06	149.28	126.78	385.12
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	109.06	149.28	126.78	385.12
電気使用量 (kwh)		143,909	149,880	139,776	433,565
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		96	108	102	306
実働日数 (日間)		16	18	17	51
備 考					

- 1 施設の名称 廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、
ゴムくず、金属くず、ガラス・コンクリート・
陶磁器くず、がれき類の混合物破砕処理施設
- 2 設置場所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
- 3 着工年月日 平成30年5月24日
- 4 使用開始年月日 平成30年11月5日
- ※5 処理方式
- 6 処理能力 53.5 t/日
- 7 処理計画 53.5 t/日
- ※8 設計時の運転時間
- ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m³当りの重量
- ※10 施設管理人員
- ※11 搬出物の処分先
- ※12 粉じん等の飛散防止方法
- ※13 騒音及び振動の防止方法

I 施設稼働状況

月別 項目		1月	2月	3月	計
ごみ投入量 (t)		8.00	2.89	4.69	15.58
搬出量	総量 (t)	8.00	2.89	4.69	15.58
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	8.00	2.89	4.69	15.58
電気使用量 (kwh)		143,909	149,880	139,776	433,565
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		4	4	4	12
実働日数 (日間)		4	4	4	12
備考					

- 1 施設 の 名 称 廃プラスチック類、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず(廃蛍光ランプ)破碎処理施設
- 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
- 3 着 工 年 月 日 平成30年5月24日
- 4 使用開始年月日 平成30年11月5日
- ※5 処 理 方 式
- 6 処 理 能 力 2.8 t/日
- 7 処 理 計 画 2.8 t/日
- ※8 設計時の運転時間
- ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m³当りの重量
- ※10 施設管理人員
- ※11 搬出物の処分先
- ※12 粉じん等の飛散防止方法
- ※13 騒音及び振動の防止方法

I 施設稼働状況

月別 項目		1月	2月	3月	計
ごみ投入量 (t)		0	0	0	0
搬 出 量	0	0	0	0	0
	00	0	0	0	0
	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0
電気使用量 (kwh)		143,909	149,880	139,776	433,565
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		0	0	0	0
実働日数 (日間)		0	0	0	0
備 考					

- 1 施設の名称 廃プラスチック類・紙くず圧縮梱包処理施設
 2 設置場所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
 3 着工年月日 平成18年7月20日
 4 使用開始年月日 平成18年7月20日
 ※5 処理方式
 6 処理能力 廃プラスチック類 180.0 t/日
 紙くず 166.8 t/日
 7 処理計画 廃プラスチック類 180.0 t/日
 紙くず 166.8 t/日
 ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m3当りの重量
 ※10 施設管理人員
 ※11 搬出物の処分先
 ※12 粉じん等の飛散防止方法
 ※13 騒音及び振動の防止方法

※8 設計時の運転時間

I 施設稼働状況

月別 項目		1月	2月	3月	計
ごみ投入量 (t)		18.16	16.43	24.45	59.04
搬出量	総量 (t)	18.16	16.43	24.45	59.04
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	18.16	16.43	24.45	59.04
電気使用量 (kwh)		143,909	149,880	139,776	433,565
水使用量 (m³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		84	78	96	258
実働日数 (日間)		14	13	16	43
備考					

- 1 施設の名称 廃プラスチック類・繊維くず圧縮梱包処理施設
 2 設置場所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
 3 着工年月日 平成30年5月24日
 4 使用開始年月日 平成30年9月14日
 ※5 処理方式
 6 処理能力 廃プラスチック類 24.3 t/日
 繊維くず 17.2 t/日
 7 処理計画 廃プラスチック類 24.3 t/日
 繊維くず 17.2 t/日
 ※8 設計時の運転時間

- ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m3当りの重量
 ※10 施設管理人員
 ※11 搬出物の処分先
 ※12 粉じん等の飛散防止方法
 ※13 騒音及び振動の防止方法

I 施設稼働状況

月別 項目		1月	2月	3月	計
ごみ投入量 (t)		21.38	20.91	28.81	71.10
搬出量	総量 (t)	21.38	20.91	28.81	71.10
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	21.38	20.91	28.81	71.10
電気使用量 (kwh)		143,909	149,880	139,776	433,565
水使用量 (m³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		24	24	30	78
実働日数 (日間)		4	4	5	13
備考					

- 1 施設 の 名 称 空き缶圧縮処理施設
 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
 3 着 工 年 月 日 平成18年7月20日・平成30年5月24日
 4 使用開始年月日 平成18年7月20日・平成30年5月24日
 ※5 処 理 方 式
 6 処 理 能 力 空き缶 4.3 t/日
 空き缶 10.2 t/日
 7 処 理 計 画 空き缶 4.3 t/日
 空き缶 10.2 t/日
 ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m³当りの重量
 ※10 施設管理人員
 ※11 搬出物の処分先
 ※12 粉じん等の飛散防止方法
 ※13 騒音及び振動の防止方法

※8 設計時の運転時間

I 施設稼働状況

月別 項目		1月	2月	3月	計
ごみ投入量 (t)		0.11	0.55	0.33	0.99
搬出量	総量 (t)	0.11	0.55	0.33	0.99
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	0.11	0.55	0.33	0.99
電気使用量 (kwh)		143,909	149,880	139,776	433,565
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		1	3	2	6
実働日数 (日間)		1	1	1	3
備 考					

- 1 施設の名称 廃プラスチック類(発泡スチロール)溶融処理施設
 2 設置場所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
 3 着工年月日 平成18年7月20日
 4 使用開始年月日 平成18年7月20日
 ※5 処理方式
 6 処理能力 2.4t/日
 7 処理計画 2.4t/日
 ※8 設計時の運転時間
 ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m3当りの重量
 ※10 施設管理人員
 ※11 搬出物の処分先
 ※12 粉じん等の飛散防止方法
 ※13 騒音及び振動の防止方法

I 施設稼働状況

月別 項目		1月	2月	3月	計
ごみ投入量 (t)		0	0	0	0
搬出量	0	0	0	0	0
	00	0	0	0	0
	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0
電気使用量 (kwh)		143,909	149,880	139,776	433,565
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		0	0	0	0
実働日数 (日間)		0	0	0	0
備考					

第23号様式(第32条関係)

2023年4月 日

東京都知事 殿



管 理 者 の
住 所 ・ 氏 名
技 術 管 理 者 氏 名
電 話 番 号

東 京 都
比 例
代 表
04

対象外

市中央二丁目18番地の3
会社
留間宏 対象外

ごみ処理施設維持管理状況報告書
(高 速 堆 肥 化 処 理 施 設)

2022年度第4期分ごみ処理施設維持管理状況を、東京都廃棄物規則第32条第1項の規定により、次のとおり報告します。

- | | | | |
|-------------|------------------------------------|---------------|--------|
| 1 施設 の 名 称 | 食品残さ(生ごみ)、汚泥(有機性のものに限る。)
発酵処理施設 | 5 処理能力 | 3.5t/日 |
| 2 設 置 場 所 | 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆 | 6 処理計画 | 3.5t/日 |
| 3 着 工 年 月 日 | 平成18年7月20日 | ※7 施設管理人員 | |
| 4 使用開始年月日 | 平成18年7月20日 | ※8 コンポストの売却先等 | |

施設稼働状況

項目 \ 月別	1月	2月	3月	計
ごみ投入量 (t)	90.15	82.41	90.81	263.37
残渣量 (t)	0	0	0	0
コンポスト生産量 (t)	9.02	8.24	9.08	26.34
電気使用量 (kwh)	143,909	149,880	139,776	433,565
水使用量 (m³)	0	0	0	0
発酵槽温度 (℃)	30~50	30~50	30~50	—
施設実働時間 (h)	372	336	372	1,080
実働日数 (日間)	31	28	31	90
備考				

注 1 各施設ごとに別表とすること。

2 ※印については、第1期分のみ記入すること。

(日本工業規格A列4番)

2023年4月 日

東京都知事 殿



管理者の住所・氏名

技術管理者氏名

電話番号

対象外

中央二丁目18番地の3

社

間宏

対象外

ごみ処理施設維持管理状況報告書

(焼却施設)

2023年度第4期分ごみ処理施設維持管理状況を、東京都廃棄物規則第32条第1項の規定により、次のとおり報告します。

1 施設の名称 焼却施設

※9 補助燃料の種類

2 設置場所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4第

※10 設計時ごみの低位発熱量

3 着工年月日 平成18年7月20日

※11 設計時の燃焼室ガス温度

4 使用開始年月日 平成18年7月20日

※12 補助燃料の運転時間

※5 炉形式、運転形式

※13 一般廃棄物の種類

6 処理能力 4.8t/日(4.8t/日×1炉)

※14 搬出物の処分先及び方法

7 処理計画 4.8t/日

※15 排ガス処理方法

8 火格子(ロストル)面積 5.4m²/炉

※16 騒音及び振動の防止方法

施設稼働状況及び測定結果(炉No.)

項目	月別	基準値 (規制値)	1月	2月	3月
ごみ投入量	(t)		10.66	8.88	11.47
搬出残さ量	(t)		1.07	0.89	1.15
補助燃料	(l)		4,600	3,000	3,750
電力使用量	(kWh)		143,909	149,880	139,776
水使用量	(m ³)		182	149	193
稼働時間	(h)		24	16	24
稼働日数	(日間)		3	2	3
燃焼室ガス温度	(℃)	800℃以上	804~912	809~916	800~921
集じん器入口ガス温度	(℃)	200℃以下	69~171	115~172	105~169
排ガス中のCO濃度	(ppm)	100ppm以下	0.6~69.1	5.1~70.4	4.8~70.3
冷却設備及び排ガス処理設備に堆積したばいじんを除去した年月日			2023年1月4日 2023年1月5日 2023年1月21日	2023年2月18日 2023年2月20日	2023年3月4日 2023年3月25日
焼却灰の熱しゃく減量	(%)	10	—	6.9	—
ばい煙	測定年月日		—	2023年2月28日	—
	測定を行った位置		—	煙突中間	—
	測定結果を得た年月日		—	2023年3月31日	—
	ばいじん濃度 (g/m ³ N)	0.25	—	0.006	—
	窒素酸化物 (volppm)	250	—	45	—
	硫黄酸化物 (m ³ /h)	2.54	—	0.49	—
	塩化水素 (mg/m ³)	700	—	49	—
	ダイオキシン類 (ng-TEQ/m ³ N)	—	—	—	—
放流水	測定年月日				
	水素イオン濃度				
	生物化学的酸素要求量 (mg/l)				
	化学的酸素要求量 (mg/l)				
	浮遊物質 (mg/l)				
備考					

注 1 各炉ごとに別表とすること。

2 ※については第1期分のみ記入すること。

3 電力使用量及び水使用量は、施設全体のものを記入すること。

4 排ガス中のCO濃度及びばい煙の測定結果については、酸素濃度12%の換算値とすること。

(日本工業規格A列4番)

2023年7月26日

東京都知事 殿

管理者の
住所・氏名
技術管理者氏名
電話番号
東京都武蔵村山市中央二丁目18番地の3
比留間運送株式会社
代表取締役 比留間宏明
042-565-1336

対象外

ごみ処理施設維持管理状況報告書
(破碎・選別処理施設)

2023年度第1期分ごみ処理施設維持管理状況を、東京都廃棄物規則第32条第1項の規定により、次のとおり報告します。

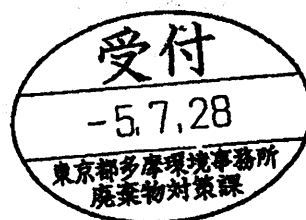
- | | | | |
|-------------|-----------|------------------------|-----------|
| 1 施設の名称 | 別紙1～9のとおり | ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m3当りの重量 | 別紙1～9のとおり |
| 2 設置場所 | 同上 | ※10 施設管理人員 | 同上 |
| 3 着工年月日 | 同上 | ※11 搬出物の処分先 | 同上 |
| 4 使用開始年月日 | 同上 | ※12 粉じん等の飛散防止方法 | 同上 |
| ※5 処理方式 | 同上 | ※13 騒音及び振動の防止方法 | 同上 |
| 6 処理能力 | 同上 | | |
| 7 処理計画 | 同上 | | |
| ※8 設計時の運転時間 | 同上 | | |

注 1 各施設ごとに別葉とすること。

2 ※印については、第1期分のみ記入すること。



- 1 施設 の 名 称 廃プラスチック類破碎処理施設
 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
 3 着 工 年 月 日 平成18年7月20日
 4 使用開始年月日 平成18年7月20日
 ※5 処 理 方 式 破碎
 6 処 理 能 力 6.3 t / 日
 7 処 理 計 画 6.3 t / 日
 ※8 設計時の運転時間 12h



※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m3当りの重量 0.35 t

※10 施設管理人員 1人

※11 搬出物の処分先 不開示

※12 粉じん等の飛散防止方法

破碎施設は屋内設置で、集塵機を稼働。

※13 騒音及び振動の防止方法

騒音源は建屋内にある。重機での積み下ろしは、低い位置で行い、過剰な投入等、施設に負荷のかかる運転を避ける。

I 施設稼働状況

月別		4月	5月	6月	計
項目					
ごみ投入量 (t)		0	0	0	0
搬出量	総量 (t)	0	0	0	0
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	0	0	0	0
電気使用量 (kwh)		136,699	112,596	123,432	372,727
水使用量 (m³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		0	0	0	0
実働日数 (日間)		0	0	0	0
備考					

- 1 施設 の 名 称 廃プラスチック類・繊維くず破碎処理施設
 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
 3 着 工 年 月 日 平成18年7月20日・令和2年8月27日
 4 使用開始年月日 平成18年7月20日・令和3年3月18日
 ※5 処 理 方 式 破碎
 6 処 理 能 力 廃プラスチック類 48.0 t/日
 繊維くず 32.1 t/日
 廃プラスチック類 44.7 t/日
 繊維くず 32.3 t/日
 7 処 理 計 画 廃プラスチック類 48.0 t/日
 繊維くず 32.1 t/日
 廃プラスチック類 44.7 t/日
 繊維くず 32.3 t/日

- ※8 設計時の運転時間 12h
 ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m3当りの重量
 廃プラスチック類 0.35 t
 繊維くず 0.12 t
 ※10 施設管理人員 1人
 ※11 搬出物の処分先 不開示
 ※12 粉じん等の飛散防止方法
 破碎施設は屋内設置で、集塵機が取り付けられている。
 ※13 騒音及び振動の防止方法
 騒音源は建屋内にある。重機での積み下ろしは、低い位置で行い、過剰な投入等、施設に負荷のかかる運転を避ける。

I 施設稼働状況

月別		4月	5月	6月	計
項目					
ごみ投入量 (t)		0	0	0	0
搬出量	総量 (t)	0	0	0	0
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	0	0	0	0
電気使用量 (kwh)		136,699	112,596	123,432	372,727
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		0	0	0	0
実働日数 (日間)		0	0	0	0
備 考					

受付

-5.7.28

東京都多摩地区事務所
廃棄物対策課

- 1 施設 の 名 称 木くず破砕処理施設
 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
 3 着 工 年 月 日 平成18年7月20日
 4 使用開始年月日 平成18年7月20日
 ※5 処 理 方 式 破砕
 6 処 理 能 力 17.1 t/日
 7 処 理 計 画 17.1 t/日
 ※8 設計時の運転時間 12 h

※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m³当りの重量 0.3 t

※10 施設管理人員 1人

※11 搬出物の処分先 不開示

※12 粉じん等の飛散防止方法

破砕施設は屋内設置で、必要箇所に散水装置を設置し、適宜散水を行う。

※13 騒音及び振動の防止方法

騒音源は建屋内にある。重機での積み下ろしは、低い位置で行い、過剰な投入等、施設に負荷のかかる運転を避ける。

I 施設稼働状況

月別 項目		4月	5月	6月	計
ごみ投入量 (t)		67.96	89.01	132.73	289.70
搬出量	総量 (t)	67.96	89.01	132.73	289.70
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	67.96	89.01	132.73	289.70
電気使用量 (kwh)		136,699	112,596	123,432	372,727
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		96	102	120	318
実働日数 (日間)		16	17	20	53
備 考					

受付

-5.7.28

東京都多摩環境事務所
廃棄物対策課

- 1 施設 の 名 称 廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、
ゴムくず、金属くず、ガラス・コンクリート・
陶磁器くず、がれき類の混合物破碎処理施設
- 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
- 3 着 工 年 月 日 平成30年5月24日
- 4 使用開始年月日 平成30年11月5日
- ※5 処 理 方 式 破碎
- 6 処 理 能 力 53.5 t/日
- 7 処 理 計 画 53.5 t/日
- ※8 設計時の運転時間 12 h
- ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m³当りの重量 0.26 t
- ※10 施設管理人員 1人
- ※11 搬出物の処分先 不開示
- ※12 粉じん等の飛散防止方法
破碎施設は屋内設置で、必要箇所に散水装置を設置し、適宜散水を行う。
- ※13 騒音及び振動の防止方法
騒音源は建屋内にある。重機での積み下ろしは、低い位置で行い、過剰な投入等、施設に負荷のかかる運転を避ける。

I 施設稼働状況

月別		4月	5月	6月	計
項目					
ごみ投入量 (t)		3.97	5.59	42.86	52.42
搬出量	総量 (t)	3.97	5.59	42.86	52.42
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	3.97	5.59	42.86	52.42
電気使用量 (kwh)		136,699	112,596	123,432	372,727
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		4	4	13	21
実働日数 (日間)		4	4	5	13
備 考					

受付

-5.7.28

東京都環境事務所
廃棄物対策課

- 1 施設 の 名 称 廃プラスチック類、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず(廃蛍光灯)破碎処理施設
- 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
- 3 着 工 年 月 日 平成30年5月24日
- 4 使用開始年月日 平成30年11月5日
- ※5 処 理 方 式 破碎
- 6 処 理 能 力 2.8 t/日
- 7 処 理 計 画 2.8 t/日
- ※8 設計時の運転時間 12 h

※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m³当りの重量 0.15 t

※10 施設管理人員 1人

※11 搬出物の処分先 不開示

※12 粉じん等の飛散防止方法

破碎施設は屋内設置する。また、破碎機には集塵機が取り付けられている。

※13 騒音及び振動の防止方法

破碎施設は建屋内で稼働する。積み下ろしは手作業で行い、過剰な投入等、施設に負荷のかかる運転を避ける。

I 施設稼働状況

月別		4月	5月	6月	計
項目					
ごみ投入量 (t)		0	0	0	0
搬出量	総量 (t)	0	0	0	0
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	0	0	0	0
電気使用量 (kwh)		136,699	112,596	123,432	372,727
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		0	0	0	0
実働日数 (日間)		0	0	0	0
備 考					

受付

5.7.28

東京都環境事務所
廃棄物対策課

- 1 施設 の 名 称 廃プラスチック類・紙くず圧縮梱包処理施設
 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
 3 着 工 年 月 日 平成18年7月20日
 4 使用開始年月日 平成18年7月20日
 ※5 処 理 方 式 圧縮梱包
 6 処 理 能 力 廃プラスチック類 180.0 t/日
 紙くず 166.8 t/日
 7 処 理 計 画 廃プラスチック類 180.0 t/日
 紙くず 166.8 t/日
 ※8 設計時の運転時間 12h

- ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m3当りの重量
 廃プラスチック類 0.35 t/日
 紙くず 0.30 t/日
 ※10 施設管理人員 1人
 ※11 搬出物の処分先 不開示
 ※12 粉じん等の飛散防止方法
 圧縮梱包施設は屋内設置とする。
 ※13 騒音及び振動の防止方法
 重機での積み下ろしは、低い位置で行い、過剰な投入等、
 施設に負荷のかかる運転を避ける。

I 施設稼働状況

月別		4月	5月	6月	計
項目					
ごみ投入量 (t)		33.21	17.19	20.95	71.35
搬出量	総量 (t)	33.21	17.19	20.95	71.35
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	33.21	17.19	20.95	71.35
電気使用量 (kwh)		136,699	112,596	123,432	372,727
水使用量 (m³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		114	84	96	294
実働日数 (日間)		19	14	16	49
備 考					

受付

5.7.28

東京都多摩環境事務所
廃棄物対策課

- 1 施設 の 名 称 廃プラスチック類・繊維くず圧縮梱包処理施設
 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
 3 着 工 年 月 日 平成30年5月24日
 4 使用開始年月日 平成30年9月14日
 ※5 処 理 方 式 圧縮梱包
 6 処 理 能 力 廃プラスチック類 24.3 t/日
 繊維くず 17.2 t/日
 7 処 理 計 画 廃プラスチック類 24.3 t/日
 繊維くず 17.2 t/日
 ※8 設計時の運転時間 12 h

※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m³当りの重量

廃プラスチック類 0.35 t/日

繊維くず 0.12 t/日

※10 施設管理人員 1人

※11 搬出物の処分先 不開示

※12 粉じん等の飛散防止方法

圧縮梱包施設は屋内設置で、集塵機が取り付けられている。

※13 騒音及び振動の防止方法

騒音源は建屋内にある。重機での積み下ろしは、低い位置で行い、過剰な投入等、施設に負荷のかかる運転を避ける。

I 施設稼働状況

月別 項目		4月	5月	6月	計
ごみ投入量 (t)		24.00	31.49	27.72	83.21
搬出量	総量 (t)	24.00	31.49	27.72	83.21
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	24.00	31.49	27.72	83.21
電気使用量 (kwh)		136,699	112,596	123,432	372,727
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		25	40	40	105
実働日数 (日間)		5	8	8	21
備 考					

受付

-57/28

東京都多摩環境事務所
廃棄物対策課

- 1 施設 の 名 称 空き缶圧縮処理施設
 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
 3 着 工 年 月 日 平成18年7月20日・平成30年5月24日
 4 使用開始年月日 平成18年7月20日・平成30年5月24日
 ※5 処 理 方 式 圧縮
 6 処 理 能 力 空き缶 4.3 t / 日
 空き缶 10.2 t / 日
 7 処 理 計 画 空き缶 4.3 t / 日
 空き缶 10.2 t / 日
 ※8 設計時の運転時間 12h

- ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m³当りの重量 1.13 t
 ※10 施設管理人員 1人
 ※11 搬出物の処分先 不開示
 ※12 粉じん等の飛散防止方法
 圧縮施設は屋内設置とする。
 ※13 騒音及び振動の防止方法
 騒音源は建屋内にある。重機での積み下ろしは、低い位置で行い、過剰な投入等、施設に負荷のかかる運転を避ける。

I 施設稼働状況

月別		4月	5月	6月	計
項目					
ごみ投入量 (t)		0.30	0.18	0.19	0.67
搬出量	総量 (t)	0.30	0.18	0.19	0.67
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	0.30	0.18	0.19	0.67
電気使用量 (kwh)		136,699	112,596	123,432	372,727
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		2	1	1	4
実働日数 (日間)		1	1	1	3
備 考					

受付

-5.7.28

東京都多摩環境事務所
廃棄物対策課

- 1 施設 の 名 称 廃プラスチック類(発泡スチロール)溶融処理施設
 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
 3 着 工 年 月 日 平成18年7月20日
 4 使用開始年月日 平成18年7月20日
 ※5 処 理 方 式 溶融
 6 処 理 能 力 2.4 t / 日
 7 処 理 計 画 2.4 t / 日
 ※8 設計時の運転時間 12h
 ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m³当りの重量 0.02 t
 ※10 施設管理人員 1人
 ※11 搬出物の処分先 不開示
 ※12 粉じん等の飛散防止方法
 溶融施設は屋内設置で、集塵機が取り付けられている。
 ※13 騒音及び振動の防止方法
 騒音源は建屋内にある。重機での積み下ろしは、低い位置で行い、過剰な投入等、施設に負荷のかかる運転を避ける。

I 施設稼働状況

月別		4 月	5 月	6 月	計
項目					
ご み 投 入 量 (t)		0	0	0	0
搬 出 量	総 量 (t)	0	0	0	0
	焼 却 量 (t)	0	0	0	0
	埋 立 量 (t)	0	0	0	0
	有 価 物 量 (t)	0	0	0	0
電 気 使 用 量 (kwh)		136,699	112,596	123,432	372,727
水 使 用 量 (m ³)		0	0	0	0
施 設 実 働 時 間 (h)		0	0	0	0
実 働 日 数 (日間)		0	0	0	0
備 考					

受付

5/7/28

東京都環境事務所
廃棄物対策課

第23号様式(第32条関係)

2023年7月26日

東京都知事 殿

管理者の 東京都武蔵村山市中央二丁目18番地の3
住所・氏名 比留間運送株式会社
技術管理者氏名 代表取締役 比留間宏
電話番号 042-565-1336

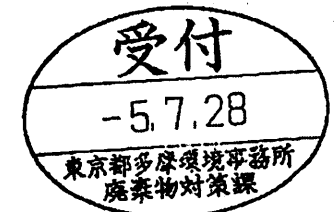
対象外

ごみ処理施設維持管理状況報告書
(高速堆肥化処理施設)

2023年度第1期分ごみ処理施設維持管理状況を、東京都廃棄物規則第32条第1項の規定により、次のとおり報告します。

- | | | | |
|-------------|------------------------------------|---------------|---------|
| 1 施設の名 称 | 食品残さ(生ごみ)、汚泥(有機性のものに限る。)
発酵処理施設 | 5 処理能力 | 3.5 t/日 |
| 2 設 置 場 所 | 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆 | 6 処理計画 | 3.5 t/日 |
| 3 着 工 年 月 日 | 平成18年7月20日 | ※7 施設管理人員 | 1人 |
| 4 使用開始年月日 | 平成18年7月20日 | ※8 コンポストの売却先等 | |

不開示



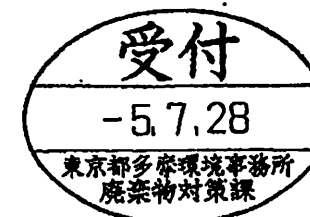
施設稼働状況

項目 \ 月別	4月	5月	6月	計
ごみ投入量 (t)	86.94	90.39	87.02	264.35
残渣量 (t)	0	0	0	0
コンポスト生産量 (t)	8.69	9.04	8.70	26.44
電気使用量 (kwh)	136,699	112,596	123,432	372,727
水使用量 (m³)	0	0	0	0
発酵槽温度 (℃)	30～50	30～50	30～50	—
施設実働時間 (h)	360	372	360	1,092
実働日数 (日間)	30	31	30	91
備考				

注 1 各施設ごとに別葉とすること。

2 ※印については、第1期分のみ記入すること。

(日本工業規格A列4番)



2023年7月26日

東京都知事 殿



管理者の住所・氏名 東京都武蔵村山市中央二丁目18番地の3

比留間運送株式会社

技術管理者氏名 代表取締役 比留間宏 対象外

電話番号 042-565-1336

ごみ処理施設維持管理状況報告書

(焼却施設)

2023年度第1期分ごみ処理施設維持管理状況を、東京都廃棄物規則第32条第1項の規定により、次のとおり報告します。

- 1 施設の名称 焼却施設 ※9 補助燃料の種類 白灯油
- 2 設置場所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4第 ※10 設計時ごみの低位発熱量 2,879kcal/kg
- 3 着工年月日 平成18年7月20日 ※11 設計時の燃焼室ガス温度 800~900℃
- 4 使用開始年月日 平成18年7月20日 ※12 補助燃料の運転時間 4h/日
- ※5 炉形式、運転形式 縦型バッチ式 ※13 一般廃棄物の種類 紙くず、木くず、生ごみ、繊維くず
- 6 処理能力 4.8t/日(4.8t/日×1炉) ※14 搬出物の処分先及び方法 不開示/焼成
- 7 処理計画 4.8t/日 ※15 排ガス処理方法 バグフィルター、サイクロン
- 8 火格子(ロストル)面積 5.4m²/炉 ※16 騒音及び振動の防止方法 アンカー固定、防音BOXの設置

施設稼働状況及び測定結果(炉No.)

項目	月別	基準値 (規制値)	4月	5月	6月
ごみ投入量	(t)		8.92	9.40	4.49
搬出残さ量	(t)		0.89	0.94	0.45
補助燃料	(l)		3,800	2,200	1,400
電力使用量	(kWh)		136,699	112,596	123,432
水使用量	(m ³)		151	158	84
稼働時間	(h)		16	24	16
稼働日数	(日間)		2	3	2
燃焼室ガス温度	(℃)	800℃以上	800~899	801~908	804~925
集じん器入口ガス温度	(℃)	200℃以下	119~163	108~171	141~170
排ガス中のCO濃度	(ppm)	100ppm以下	6.8~65.7	2.6~69.2	0.5~56.2
冷却設備及び排ガス処理設備に堆積したばいじんを除去した年月日			2023年4月8日	2023年5月6日 2023年5月8日 2023年5月20日	2023年6月17日
焼却灰の熱しゃく減量	(%)	10	—	—	—
ばい煙	測定年月日		—	—	—
	測定を行った位置		—	—	—
	測定結果を得た年月日		—	—	—
	ばいじん濃度 (g/m ³ N)	—	—	—	—
	窒素酸化物 (volppm)	—	—	—	—
	硫黄酸化物 (m ³ /h)	—	—	—	—
	塩化水素 (mg/m ³)	—	—	—	—
	ダイオキシン類 (ng-TEQ/m ³ N)	—	—	—	—
放流水	測定年月日				
	水素イオン濃度				
	生物化学的酸素要求量 (mg/l)				
	化学的酸素要求量 (mg/l)				
	浮遊物質量 (mg/l)				
備考					

注 1 各炉ごとに別表とすること。

2 ※については第1期分のみ記入すること。

3 電力使用量及び水使用量は、施設全体のものを記入すること。

4 排ガス中のCO濃度及びばい煙の測定結果については、酸素濃度12%の換算値とすること。

2023年10月12日

東京都知事 殿



管理者の
住所・氏名
技術管理者氏名
電話番号

東
比
代
04

対象外

市中央二丁目18番地の3
会社
留間宏

対象外

ごみ処理施設維持管理状況報告書
(破 砕・選 別 処 理 施 設)

2023年度第2期分ごみ処理施設維持管理状況を、東京都廃棄物規則第32条第1項の規定により、次のとおり報告します。

- | | | | |
|-------------|-----------|-------------------------------------|-----------|
| 1 施設 の 名 称 | 別紙1～9のとおり | ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m ³ 当りの重量 | 別紙1～9のとおり |
| 2 設 置 場 所 | 同上 | ※10 施設管理人員 | 同上 |
| 3 着 工 年 月 日 | 同上 | ※11 搬出物の処分先 | 同上 |
| 4 使用開始年月日 | 同上 | ※12 粉じん等の飛散防止方法 | 同上 |
| ※5 処 理 方 式 | 同上 | ※13 騒音及び振動の防止方法 | 同上 |
| 6 処 理 能 力 | 同上 | | |
| 7 処 理 計 画 | 同上 | | |
| ※8 設計時の運転時間 | 同上 | | |

注 1 各施設ごとに別葉とすること。

2 ※印については、第1期分のみ記入すること。

1 施設 の 名 称 廃プラスチック類破碎処理施設
 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
 3 着 工 年 月 日 平成18年7月20日
 4 使用開始年月日 平成18年7月20日
 ※5 処 理 方 式
 6 処 理 能 力 6.3 t/日
 7 処 理 計 画 6.3 t/日
 ※8 設計時の運転時間

※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m³当りの重量
 ※10 施設管理人員
 ※11 搬出物の処分先
 ※12 粉じん等の飛散防止方法
 ※13 騒音及び振動の防止方法

I 施設稼働状況

月別 項目		7月	8月	9月	計
ごみ投入量 (t)		0	0	0	0
搬出量	総量 (t)	0	0	0	0
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	0	0	0	0
電気使用量 (kwh)		127,349	130,342	131,297	388,988
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		0	0	0	0
実働日数 (日間)		0	0	0	0
備 考					

1 施設の名 称	廃プラスチック類・繊維くず破砕処理施設	※8 設計時の運転時間
2 設 置 場 所	東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆	※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m3当りの重量
3 着 工 年 月 日	平成18年7月20日・令和2年8月27日	※10 施設管理人員
4 使用開始年月日	平成18年7月20日・令和3年3月18日	※11 搬出物の処分先
※5 処 理 方 式		※12 粉じん等の飛散防止方法
6 処 理 能 力	廃プラスチック類 48.0 t/日 繊維くず 32.1 t/日 廃プラスチック類 44.7 t/日 繊維くず 32.3 t/日	※13 騒音及び振動の防止方法
7 処 理 計 画	廃プラスチック類 48.0 t/日 繊維くず 32.1 t/日 廃プラスチック類 44.7 t/日 繊維くず 32.3 t/日	

I 施設稼働状況

月別 項目		7月	8月	9月	計
ごみ投入量 (t)		0	0	0	0
搬出量	総量 (t)	0	0	0	0
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	0	0	0	0
電気使用量 (kwh)		127,349	130,342	131,297	388,988
水使用量 (m³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		0	0	0	0
実働日数 (日間)		0	0	0	0
備 考					

- 1 施設 の 名 称 木くず破砕処理施設
 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目26番地の5外4筆
 3 着 工 年 月 日 平成18年7月20日
 4 使用開始年月日 平成18年7月20日
 ※5 処 理 方 式
 6 処 理 能 力 17.1 t/日
 7 処 理 計 画 17.1 t/日
 ※8 設計時の運転時間
 ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m³当りの重量
 ※10 施設管理人員
 ※11 搬出物の処分先
 ※12 粉じん等の飛散防止方法
 ※13 騒音及び振動の防止方法

I 施設稼働状況

月別 項目		7月	8月	9月	計
ごみ投入量 (t)		124.34	82.55	105.87	312.76
搬出量	総量 (t)	124.34	82.55	105.87	312.76
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	124.34	82.55	105.87	312.76
電気使用量 (kwh)		127,349	130,342	131,297	388,988
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		102	84	96	282
実働日数 (日間)		17	14	16	47
備 考					

- 1 施設 の 名 称 廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、
ゴムくず、金属くず、ガラス・コンクリート・
陶磁器くず、がれき類の混合物破碎処理施設
- 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
- 3 着 工 年 月 日 平成30年5月24日
- 4 使用開始年月日 平成30年11月5日
- ※5 処 理 方 式
- 6 処 理 能 力 53.5 t / 日
- 7 処 理 計 画 53.5 t / 日
- ※8 設計時の運転時間
- ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m³当りの重量
- ※10 施設管理人員
- ※11 搬出物の処分先
- ※12 粉じん等の飛散防止方法
- ※13 騒音及び振動の防止方法

I 施設稼働状況

月別 項目		7 月	8 月	9 月	計
ご み 投 入 量 (t)		7.06	11.80	14.12	32.98
搬 出 量	総 量 (t)	7.06	11.80	14.12	32.98
	焼 却 量 (t)	0	0	0	0
	埋 立 量 (t)	0	0	0	0
	有 価 物 量 (t)	7.06	11.80	14.12	32.98
電 気 使 用 量 (kwh)		127,349	130,342	131,297	388,988
水 使 用 量 (m ³)		0	0	0	0
施 設 実 働 時 間 (h)		4	4	5	13
実 働 日 数 (日間)		4	4	4	12
備 考					

- 1 施設 の 名 称 廃プラスチック類、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず(廃蛍光灯)破碎処理施設
- 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
- 3 着 工 年 月 日 平成30年5月24日
- 4 使用開始年月日 平成30年11月5日
- ※5 処 理 方 式
- 6 処 理 能 力 2.8 t/日
- 7 処 理 計 画 2.8 t/日
- ※8 設計時の運転時間
- ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m3当りの重量
- ※10 施設管理人員
- ※11 搬出物の処分先
- ※12 粉じん等の飛散防止方法
- ※13 騒音及び振動の防止方法

I 施設稼働状況

月別 項目		7月	8月	9月	計
ごみ投入量 (t)		0	0	0	0
搬出量	総量 (t)	0	0	0	0
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	0	0	0	0
電気使用量 (kwh)		127,349	130,342	131,297	388,988
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		0	0	0	0
実働日数 (日間)		0	0	0	0
備 考					

- 1 施設 の 名 称 廃プラスチック類・紙くず圧縮梱包処理施設
- 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
- 3 着 工 年 月 日 平成18年7月20日
- 4 使用開始年月日 平成18年7月20日
- ※5 処 理 方 式
- 6 処 理 能 力 廃プラスチック類 180.0 t / 日
紙くず 166.8 t / 日
- 7 処 理 計 画 廃プラスチック類 180.0 t / 日
紙くず 166.8 t / 日
- ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m³当りの重量
- ※10 施設管理人員
- ※11 搬出物の処分先
- ※12 粉じん等の飛散防止方法
- ※13 騒音及び振動の防止方法

※8 設計時の運転時間

I 施設稼働状況

月別 項目		7 月	8 月	9 月	計
ごみ投入量 (t)		21.97	16.70	13.51	52.18
搬出量	総量 (t)	21.97	16.70	13.51	52.18
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	21.97	16.70	13.51	52.18
電気使用量 (kwh)		127,349	130,342	131,297	388,988
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		84	78	72	234
実働日数 (日間)		14	13	12	39
備 考					

- 1 施設 の 名 称 廃プラスチック類・繊維くず圧縮梱包処理施設 ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m³当りの重量
 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆 ※10 施設管理人員
 3 着 工 年 月 日 平成30年5月24日 ※11 搬出物の処分先
 4 使用開始年月日 平成30年9月14日 ※12 粉じん等の飛散防止方法
 ※5 処 理 方 式 ※13 騒音及び振動の防止方法
 6 処 理 能 力 廃プラスチック類 24.3t/日
 繊維くず 17.2t/日
 7 処 理 計 画 廃プラスチック類 24.3t/日
 繊維くず 17.2t/日

※8 設計時の運転時間

I 施設稼働状況

月別 項目		7月	8月	9月	計
ごみ投入量 (t)		31.30	41.89	31.98	105.17
搬出量	総量 (t)	31.30	41.89	31.98	105.17
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	31.30	41.89	31.98	105.17
電気使用量 (kwh)		127,349	130,342	131,297	388,988
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		42	54	48	144
実働日数 (日間)		7	9	8	24
備 考					

- 1 施設 の 名 称 空き缶圧縮処理施設
 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
 3 着 工 年 月 日 平成18年7月20日・平成30年5月24日
 4 使用開始年月日 平成18年7月20日・平成30年5月24日
 ※5 処 理 方 式
 6 処 理 能 力 空き缶 4.3 t/日
 空き缶 10.2 t/日
 7 処 理 計 画 空き缶 4.3 t/日
 空き缶 10.2 t/日
 ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m³当りの重量
 ※10 施設管理人員
 ※11 搬出物の処分先
 ※12 粉じん等の飛散防止方法
 ※13 騒音及び振動の防止方法

※8 設計時の運転時間

I 施設稼働状況

月別 項目		7月	8月	9月	計
ごみ投入量 (t)		0.16	0.10	0.20	0.46
搬出量	総量 (t)	0.16	0.10	0.20	0.46
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	0.16	0.10	0.20	0.46
電気使用量 (kwh)		127,349	130,342	131,297	388,988
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		1	1	1	3
実働日数 (日間)		1	1	1	3
備 考					

- 1 施 設 の 名 称 廃プラスチック類(発泡スチロール)溶融処理施設
 2 設 置 場 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆
 3 着 工 年 月 日 平成18年7月20日
 4 使用開始年月日 平成18年7月20日
 ※5 処 理 方 式
 6 処 理 能 力 2.4 t/日
 7 処 理 計 画 2.4 t/日
 ※8 設計時の運転時間
 ※9 設計時の被圧縮廃棄物の1m3当りの重量
 ※10 施設管理人員
 ※11 搬出物の処分先
 ※12 粉じん等の飛散防止方法
 ※13 騒音及び振動の防止方法

I 施設稼働状況

月別		7月	8月	9月	計
項目					
ごみ投入量 (t)		0	0	0	0
搬出量	総量 (t)	0	0	0	0
	焼却量 (t)	0	0	0	0
	埋立量 (t)	0	0	0	0
	有価物量 (t)	0	0	0	0
電気使用量 (kwh)		127,349	130,342	131,297	388,988
水使用量 (m ³)		0	0	0	0
施設実働時間 (h)		0	0	0	0
実働日数 (日間)		0	0	0	0
備 考					

第23号様式(第32条関係)

2023年10月12日

東京都知事 殿



管理者の
住所・氏名
技術管理者氏名
電話番号

対象外

市中央二丁目18番地の3
会社
留間宏明 対象外

ごみ処理施設維持管理状況報告書
(高速堆肥化処理施設)

2023年度第2期分ごみ処理施設維持管理状況を、東京都廃棄物規則第32条第1項の規定により、次のとおり報告します。

- | | | | |
|-----------|--------------------------|---------------|--------|
| 1 施設の名称 | 食品残さ(生ごみ)、汚泥(有機性のものに限る。) | 5 処理能力 | 3.5t/日 |
| | 発酵処理施設 | 6 処理計画 | 3.5t/日 |
| 2 設置場所 | 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆 | ※7 施設管理人員 | |
| 3 着工年月日 | 平成18年7月20日 | ※8 コンポストの売却先等 | |
| 4 使用開始年月日 | 平成18年7月20日 | | |

施設稼働状況

項目 \ 月別	7月	8月	9月	計
ごみ投入量 (t)	89.99	90.15	87.51	267.65
残渣量 (t)	0	0	0	0
コンポスト生産量 (t)	9.00	9.02	8.75	26.77
電気使用量 (kwh)	127,349	130,342	131,297	388,988
水使用量 (m³)	0	0	0	0
発酵槽温度 (℃)	30～50	30～50	30～50	—
施設実働時間 (h)	372	372	360	1,104
実働日数 (日間)	31	31	30	92
備考				

注 1 各施設ごとに別業とすること。

2 ※印については、第1期分のみ記入すること。

(日本工業規格A列4番)

2023年10月12日

東京都知事 殿



管理者の住所・氏名 東京都中央区二丁目18番地の3
技術管理者氏名 対象外
電話番号 0 対象外

ごみ処理施設維持管理状況報告書
(焼却施設)

2023年度第2期分ごみ処理施設維持管理状況を、東京都廃棄物規則第32条第1項の規定により、次のとおり報告します。

- 1 施設の名称 焼却施設

2 設置場所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5外4筆

3 着工年月日 平成18年7月20日

4 使用開始年月日 平成18年7月20日

※5 炉形式、運転形式

6 処理能力 4.8t/日(4.8t/日×1炉)

7 処理計画 4.8t/日

8 火格子(ロストル)面積 5.4m²/炉
- ※9 補助燃料の種類

※10 設計時ごみの低位発熱量

※11 設計時の燃焼室ガス温度

※12 補助燃料の運転時間

※13 一般廃棄物の種類

※14 搬出物の処分先及び方法

※15 排ガス処理方法

※16 騒音及び振動の防止方法

施設稼働状況及び測定結果(炉No.)

項目	月別	基準値 (規制値)	7月	8月	9月
ごみ投入量	(t)		7.79	1.8	9.04
搬出残さ量	(t)		0.78	0.18	0.9
補助燃料	(l)		2,000	500	2,300
電力使用量	(kWh)		127,349	130,342	131,297
水使用量	(m ³)		122	28	138
稼働時間	(h)		18	6	18
稼働日数	(日間)		3	1	3
燃焼室ガス温度	(℃)	800℃以上	802~931	800~917	800~924
集じん器入口ガス温度	(℃)	200℃以下	117~170	135~162	116~178
排ガス中のCO濃度	(ppm)	100ppm以下	3.6~74.3	6.2~65.2	7.9~76.2
冷却設備及び排ガス処理設備に堆積したばいじんを除去した年月日			2023年7月1日 2023年7月1日	2023年7月1日 2023年7月1日	2023年7月1日 2023年7月1日
焼却灰の熟しゃく減量	(%)	10	7.5	—	—
ばい煙	測定年月日		2023年7月29日	—	—
	測定を行った位置		煙突中間	—	—
	測定結果を得た年月日		2023年9月4日	—	—
	ばいじん濃度 (g/m ³ N)	0.25	0.018	—	—
	窒素酸化物 (ppm)	250	76	—	—
	硫黄酸化物 (m ³ /h)	2.45	< 0.02	—	—
	塩化水素 (mg/m ³)	700	68	—	—
	ダイオキシン類 (ng-TEQ/m ³ N)	—	—	—	—
放流水	測定年月日				
	水素イオン濃度				
	生物化学的酸素要求量 (mg/l)				
	化学的酸素要求量 (mg/l)				
	浮遊物質 (mg/l)				
備考					

- 注 1 各炉ごとに別表とすること。
2 ※については第1期分のみ記入すること。
3 電力使用量及び水使用量は、施設全体のものを記入すること。
4 排ガス中のCO濃度及びばい煙の測定結果については、酸素濃度12%の換算値とすること。

2023年6月1日

環境局多摩環境事務所 御中

比留間運送株式会社

報告書 (速報)

不開示

交付

-5.6.-1

東京都多摩環境事務所
廃棄物対策課

事故発生状況報告書

東京都多摩環境事務所
廃棄物対策課長 殿

住 所 東京都武蔵村山市伊奈平 3-25-5
氏 名 比留間運送株式会社 伊奈平工場
伊奈平工場長 対象外 ㊞

事業場内で事故が発生したので報告します。

施設の名称		比留間運送株式会社 伊奈平工場	
施設の所在地		東京都武蔵村山市伊奈平 3-25-5	
処理施設・処理業者の別		産業廃棄物処理施設（中間処理）	
施設の種類		焼却炉	
施設の稼働開始年月日		平成 9 年 12 月 1 日	
施設規模		4.8 t / 日	
処理する産業廃棄物の種類		紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ	
事故発生年月日時		令和 5 年 6 月 1 日 13 時 45 分頃	
事故の内容	事故発生概要（生活環境に与えた影響も記入してください）		
	被害の状況	死傷者数	
		施設稼働停止時間	
		機械的損害内容	
事故の対応策等	原因		
	労基署・消防署等からの指導の有無・内容		
再発防止策			

不開示

2023年6月12日

環境局多摩環境事務所
廃棄物対策課
課長 前田 憲一 様

比留間運送株式会社
伊奈平工場長

対象外

対象外

焼却炉テスト運転のお願い

不開示

令和5年6月26日

環境局多摩環境事務所
廃棄物対策課
課長代理 金井 様

比留間運送株式会社
伊奈平工場

対象外

対象外

不開示

不開示

焼却炉運転日報

5年 6月 15日(木) 天候雲

オペレーター: 対象外

作成	承認

時間	風向き	温度計(℃)			バグフィルタ の差圧計	煙突からの 煙の状態 (煙色等)	記録計 の動作	バーナー の動作	水冷ジャケット の水量	O2計 指示値	Co計 指示値	備考
		炉内	サイクロン 入口	バグフィルタ 槽内								
基準値等	—	800℃以上	200℃以下	200℃以下	100程度	—	—	—	—	—	100ppm以下	—
10時00分	北	不開示										
11時00分	北											
12時00分	西											
13時00分	北											
14時00分	西											
15時00分	西											
16時00分	西											
時 分												
時 分												
平均値		不開示								不開示		

【その他事項】

稼働時間: 6H

品目: 紙くず・木くず・繊維くず

動植物性残さ(生ごみ)

投入回数: 76

処理量: 3,76t

5S(整理・整頓・清潔・清掃・躰)／安全作業

比留間運送株式会社

補足1: 騒音、振動、臭気、ばい煙、ばいじん、その他景観等、異常を観察し、発見された場合は、その他の事項欄に記入すること。

また観察は、周辺からの苦情を特に考慮すること。

補足2: O2・Co、温度のチャート記録をファイルすること。

不開示

焼却炉運転日報

5 年 6 月 16 日 (金) 天候 曇 晴

オペレーター: 対象外

作成	承認
対象外	

時間	風向き	温度計(℃)			バグフィルタ の差圧計	煙突からの 煙の状態 (煙色等)	記録計 の動作	バーナー の動作	水冷ジャケット の水量	O2計 指示値	Co計 指示値	備考
		炉内	サイクロン 入口	バグフィルタ 槽内								
基準値等	—	800℃以上	200℃以下	200℃以下	100程度	—	—	—	—	—	100ppm以下	—
10 時 00 分	無	<div> <div>着火</div> <div>不開示</div> </div>										
11 時 00 分	無											
12 時 00 分	南											
13 時 00 分	東											
14 時 00 分	南											
15 時 00 分	西											
16 時 00 分	西											
時 分												
時 分												
平均値		不開示								不開示		

【その他事項】

稼働時間 : 64

品目 : 紙くず・木くず・繊維くず

動植物性残さ(生ごみ)

投入回数 : 76

処理量 : 3.8 t

5S(整理・整頓・清潔・清掃・躰)／安全作業

比留間運送株式会社

補足1 : 騒音、振動、臭気、ばい煙、ばいじん、その他景観等、異常を観察し、発見された場合は、その他の事項欄に記入すること。

また観察は、周辺からの苦情を特に考慮すること。

補足2 : O2・Co、温度のチャート記録をファイルすること。

不開示

焼却炉運転日報

5 年 6 月 19 日(月) 天候 ☁

オペレーター: 対象外

作成	承認

時間	風向き	温度計(°C)			バグフィルタの差圧計	煙突からの煙の状態(煙色等)	記録計の動作	バーナーの動作	水冷ジャケットの水量	O2計指示値	Co計指示値	備考
		炉内	サイクロン入口	バグフィルタ槽内								
基準値等	—	800°C以上	200°C以下	200°C以下	100程度	—	—	—	—	—	100ppm以下	—
10 時 00 分	南	不 開 示										
11 時 00 分	西											
12 時 00 分	西											
13 時 00 分	西											
14 時 00 分	西											
15 時 00 分	北											
16 時 00 分	西											
時 分												
時 分												
平均値		不 開 示								不 開 示		

【その他事項】

稼働時間: 6H

品目: 紙くず・木くず・繊維くず

動植物性残さ(生ごみ)

投入回数: 76

処理量: 3.9t

5S(整理・整頓・清潔・清掃・躰)／安全作業

比留間運送株式会社

補足1: 騒音、振動、臭気、ばい煙、ばいじん、その他景観等、異常を観察し、発見された場合は、その他の事項欄に記入すること。

また観察は、周辺からの苦情を特に考慮すること。

補足2: O2・Co、温度のチャート記録をファイルすること。

不開示

焼却炉運転日報

5年 6月 20日(火) 天候曇

オペレーター: 対象外

作成	承認
対象外	工場長 23.6.20 対象外

時間	風向き	温度計(℃)			バグフィルタ の差圧計	煙突からの 煙の状態 (煙色等)	記録計 の動作	バーナー の動作	水冷ジャケット の水量	O2計 指示値	Co計 指示値	備考
		炉内	サイクロン 入口	バグフィルタ 槽内								
基準値等	—	800℃以上	200℃以下	200℃以下	100程度	—	—	—	—	—	100ppm以下	—
10時00分	西	着火										
11時00分	北北	不開示										
12時00分	北北											
13時00分	北北											
14時00分	北北											
15時00分	西											
16時00分	西											
時 分												
時 分												
平均値		不開示								不開示		

【その他事項】

稼働時間: 6H

品目: 紙くず・木くず・繊維くず

動植物性残さ(生ごみ)

投入回数: 26

処理量: 3.3t

5S(整理・整頓・清潔・清掃・躰)／安全作業

比留間運送株式会社

補足1: 騒音、振動、臭気、ばい煙、ばいじん、その他景観等、異常を観察し、発見された場合は、その他の事項欄に記入すること。

また観察は、周辺からの苦情を特に考慮すること。


補足2: O2・Co、温度のチャート記録をファイルすること。

不開示

焼却炉運転日報

5年 6月 21日(水) 天候曇

オペレーター: 対象外

作成	承認
	

時間	風向き	温度計(°C)			バグフィルタ の差圧計	煙突からの 煙の状態 (煙色等)	記録計 の動作	バーナー の動作	水冷ジャケット の水量	O2計 指示値	Co計 指示値	備考
		炉内	サイクロン 入口	バグフィルタ 槽内								
基準値等	—	800°C以上	200°C以下	200°C以下	100程度	—	—	—	—	—	100ppm以下	—
10時00分	北	不開示										
11時00分	北											
12時00分	西											
13時00分	西											
14時00分	北											
15時00分	西											
16時00分	西											
時 分												
時 分												
平均値		不開示								不開示		

【その他事項】

稼働時間 : 6h
 品目 : 紙くず・木くず・繊維くず
 動植物性残さ(生ごみ)
 投入回数 : 77
 処理量 : 3.8t

5S(整理・整頓・清潔・清掃・躰)／安全作業

比留間運送株式会社

補足1 : 騒音、振動、臭気、ばい煙、ばいじん、その他景観等、異常を観察し、発見された場合は、その他の事項欄に記入すること。
 また観察は、周辺からの苦情を特に考慮すること。
 補足2 : O2・Co、温度のチャート記録をファイルすること。

不開示

東京都知事 殿

記入日 令和4年 7月 4日

届出者

(住所) 東京都武蔵村山市中央2-18-3

(名称) 比留間運送株式会社

(代表者) 比留間 宏明

1 工場又は事業場の概要

フリガナ ヒルマウンソウカブシキガイシャ イナダイラコウジヨウ

名称 比留間運送株式会社 伊奈平工場

所在地 〒208-0023 武蔵村山市 伊奈平3-25-5

作成責任者

所属 **伊奈平工場**

フリガナ

氏名

電話 042-560-8806

施設数合計

1

硫黄酸化物総量規制対象

窒素酸化物総量規制対象

窒素酸化物要綱規制対象

シート2が

1枚必要です

2 工場又は事業場の燃料・原料種類ごとの総使用量（調査対象施設のみ令和3年4月1日から令和4年3月31日まで）

[illegible]

ばい煙排出量調査報告書

事業所コード 12865

東京都知事 殿

3 ばい煙発生施設の概要（令和4年3月31日現在）

施設番号	23562			稼働	— 休止等年度中に稼働実績がない場合は×印を入れてください。			
施設名称								
施設型式	用途	規模（単位）	バーナー種類		最大定格燃焼能力 （単位）	届出最大排出ガス 量（湿り）	設置年月日	煙突高(m)
13 固体産廃(バッチ)	その他	600.0 kg/h	混複合バーナー			7318.0	1996/3/1	14.7

(1) 施設ごとの運転時間と燃料・原料使用量（令和3年4月1日から令和4年3月31日まで）

燃料・原料種類	硫黄分(%)	年間使用量	単位	年間運転時間	稼働時間	一時間最大使用量	単位
1T 灯油	0.0800	46.0	kL	1664 時間	8:00 ~ 16:00	25.0	L
SA 木片主体	0.2000	714.4	t	1664 時間	8:00 ~ 16:00	420.2	kg
SC 紙	0.2000	153.7	t	1664 時間	8:00 ~ 16:00	90.4	kg
SX その他(廃棄物 焼却炉)	0.2000	151.9	t	1664 時間	8:00 ~ 16:00	89.4	kg
				時間			

※同一燃料・原料の、各ばい煙発生施設の燃料、原料使用量の合計は、工場または事業場の年度間総使用量と一致します。

(2) 施設ごとのばい煙測定結果（令和3年4月1日から令和4年3月31日までの測定）

塩化水素は、酸素濃度12%換算値、その他の物質は標準酸素濃度で記入してください。

測定年月日	使用燃料・原料種類	排出ガス量（乾き） （m ³ N/時）	排出ガス 温度(°C)	水分量 （%）	実測硫黄 酸化物 ppm	実測窒素 酸化物 ppm	酸素濃度 （%）	実測ばいじん （g/m ³ N）	酸素濃度 （%）	塩化水素 （mg/m ³ N）	その他の物質 1（物質名）	濃度 （mg/m ³ N）	その他の物質2 （物質名）	濃度 （mg/m ³ N）
2021/8/18	灯油、木片主体、紙、 その他（廃棄物焼却炉）	17800	108	13.3	8	110	9.3	0.006	9.3	52				
2022/2/23	灯油、木片主体、紙、 その他（廃棄物焼却炉）	21500	94	11.1	13	97	10.4	0.001	10.4	520				

測定していない場合は、その理由を下の欄に記入してください。＜例＞「夏期（4月～9月）休止のため、年1回の測定」

水銀濃度測定記録表(令和4年度 提出用)

注意事項 ※1 全水銀は、ガス状水銀と粒子状水銀の酸素濃度補正値の和
※2 報告対象期間は、令和3年4月1日から令和4年3月31日までです。（この間に廃止した施設の結果も対象となります。）
※3 水銀排出施設のうち、未稼働等のために測定を行っていない場合は、その旨を備考欄に記入をしてください。（記入例 1号炉 R3年7月からR4年3月まで休止のため、年1回測定）

1 工場又は事業場の名称及び所在地

名称	比留間運送株式会社 伊奈平工場
所在地	東京都武蔵村山市伊奈平3-25-5

2 水銀濃度測定結果(対象期間:令和3年4月1日から令和4年3月31日)

[illegible]

東京都知事 殿

記入日 令和5年 7 月 7 日

屢出者

(住所)	東京都武蔵村山市中央2-18-3
(名称)	比留間運送株式会社
(代表者)	比留間 宏明

1 工場又は事業場の概要

フリガナ	ヒルマウンソウカブシキガイシャ イナダイラコウジョウ
名称	比留間運送株式会社 伊奈平工場
所在地	〒 2 0 8 - 0 0 2 3 武蔵村山市 伊奈平 3 - 2 5 - 5

作成責任者

所属	比留間運送(株) 伊奈平工場
フリガナ	比留間 伊奈平
氏名	対象外
電話	042-560-8806

施設数合計	1
硫黄酸化物総量規制対象	対象外
窒素酸化物総量規制対象	対象外
窒素酸化物要綱規制対象	対象外

シート2が

1枚必要です

2 工場又は事業場の燃料・原料種類ごとの総使用量（調査対象施設のみ令和4年4月1日から令和5年3月31日まで）

[illegible]

東京都知事 殿

3 ばい煙発生施設の概要（令和5年3月31日現在）

施設番号	23562		稼働					
施設名称				休止等年度中に稼働実績がない場合は×印を入れてください。				
施設型式	用途	規模 (単位)		バーナー種類	最大定格燃焼能力 (単位)	最大排出ガス 量 (g/L)	設置年月日	煙突高(m)
13 固体産業廃(パチ)	その他	600.0	kg/h	混複合バーナー		7318	1996/3/1	14.7

(1) 施設ごとの運転時間と燃料・原料使用量（令和4年4月1日から令和5年3月31日まで）

燃料・原料種類	硫黄分(%)	年間使用量	単位	年間運転時間	稼働時間	一時間最大使用量	単位
1T 灯油	0.0800	32.6	kL	1699 時間	8:00 ~ 16:00	25.0	L
SA 木片主体	0.2000	724.6	t	1699 時間	8:00 ~ 16:00	420.2	kg
SC 紙	0.2000	155.8	t	1699 時間	8:00 ~ 16:00	90.3	kg
SX その他(廃棄物 焼却炉)	0.2000	154.3	t	1699 時間	8:00 ~ 16:00	89.5	kg

※同一燃料・原料の、各ばい煙発生施設の燃料、原料使用量の合計は、工場または事業場の年間総使用量と一致します。

(2) 施設ごとのばい煙測定結果（令和4年4月1日から令和5年3月31日までの測定）

[illegible]

測定していない場合は、その理由を下の欄に記入してください。＜例＞「夏期（4月～9月）休止のため、年1回の測定」

水銀濃度測定記録表(令和5年度 提出用)

注意事項

- ※1 全水銀は、ガス状水銀と粒子状水銀の酸素濃度補正値の和
- ※2 報告対象期間は、令和4年4月1日から令和5年3月31日までです。（この間に廃止した施設の結果も対象となります。）
- ※3 水銀排出施設のうち、未稼働等のために測定を行っていない場合は、その旨を測定値欄に記入してください。（記入例 1号炉 R4年7月からR5年3月まで休止のため、年1回測定）

1 工場又は事業場の名称及び所在地

名称	比留間運送株式会社 伊奈平工場
所在地	東京都武蔵村山市伊奈平3-25-5

2 水銀濃度測定結果(対象期間:令和4年4月1日から令和5年3月31日)

[illegible]

様式第6（第8条関係）

ダイオキシン類測定結果報告書

2023年4月6日

東京都知事 殿

東京都武蔵村山市中央二丁目18番地の3
報告者 比留間運送株式会社
代表取締役 比留間 宏明

(氏名又は名称及び住所並びに法人にあってはその代表者の氏名)

ダイオキシン類による汚染の状況について測定したので、ダイオキシン類対策特別措置法第28条第3項の規定により、次のとおり報告します。

表1 排出ガス

採取年月日及び時刻(開始時刻～終了時刻)	排出ガス量(m ³ N/日)	排出ガス中の酸素濃度(%)	測定箇所	特定施設の名称及び使用状況	分析年月日	測定結果(ng-TEQ/m ³ N)	試料採取者	分析者	備考
2022年 8月12日 10:27~14:27	123,200	8.9	煙突中間測定口	廃棄物焼却炉 (紙くず・木くず・ 生ごみ・繊維くず) 600kg/h×8h	2022年 8月15日~ 2022年 9月5日	7.4	アイケー・ テクニカル(有)	JFE テクノリサーチ (株)	別紙1

表2 排水水

採取年月日 及び時刻	測 定 場 所		特定施設の名称及び 使用状況	分析年月日	測定結果 (pg-TEQ/L)	採水者	分析者	備考
	名 称	排 水 量 (m ³ /日)						
該 当 な し								

表3 ばいじん等

採取年月日及び時刻	試料の種別	採取箇所	特定施設の名称及び 使用状況	分析年月日	測定結果 (ng-TEQ/g)	試料採取者	分析者	備考
2023年 2月28日 12:10	焼却灰	焼却灰貯留場	廃棄物焼却炉 (紙くず・木くず・ 生ごみ・繊維くず) 600kg/h×8h	2023年 2月28日~ 2023年 3月28日	0.25	アイケー・ テクニカル(有)	JFE テクノリサーチ (株)	別紙2
2023年 2月28日 12:05	飛灰	飛灰貯留場	廃棄物焼却炉 (紙くず・木くず・ 生ごみ・繊維くず) 600kg/h×8h	2023年 2月28日~ 2023年 3月28日	0.55	アイケー・ テクニカル(有)	JFE テクノリサーチ (株)	別紙3

- 備考1 報告書及び別紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。
- 2 ダイオキシン類対策特別措置法施行規則（以下「規則」という。）第3条第1項に基づき換算した測定結果については、別紙1を添付するものとする。
- 3 規則第3条第2項に基づき換算した測定結果については、別紙2を添付するものとする。
- 4 2以上の測定結果がある場合は、添付する別紙1又は2のそれぞれとの対応関係がわかるように備考欄に記載すること。
- 5 排出ガスにあっては表1、排水水にあっては表2、ばいじん及び焼却灰その他の燃え殻（以下「ばいじん等」という。）にあっては表3に記載すること。なお、同一届出者が大気基準適用施設及び水質基準対象施設をともに設置している場合には、併せて1葉の様式に記載すること。
- 6 排出ガス量については、温度が零度であって圧力が1気圧の状態（以下「標準状態」という。）における量に、測定結果については、標準状態における排出ガス1立方メートル中の量に、それぞれ換算したものとする。
- 7 2以上の水質基準対象施設を設置し、異なる排水系統を有する水質基準適用事業場にあつては、それぞれの排水系統の排水口ごとに測定を行い、結果を記載すること。
- 8 表3の試料の種別として、ばいじん、焼却灰、混合灰又はこれらの処理物（処理方法）の別を記載すること。

参考

工場又は事業場の名称	伊奈平工場
工場又は事業場の所在地	東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5

規則第3条第1項に基づき換算したダイオキシン類の構成

整理番号	1(排ガス)	実測濃度	試料における 定量下限	試料における 検出下限	毒性等価係数	毒性等量
ポリ塩化ジベンゾーパラジオキシン	2, 3, 7, 8—TeCDF	2.3	0.008	0.002	0.1	0.17
	1, 2, 3, 7, 8—PeCDF	3.8	0.009	0.003	0.03	0.087
	2, 3, 4, 7, 8—PeCDF	7.9	0.009	0.003	0.3	1.77
	1, 2, 3, 4, 7, 8—HxCDF	8.7	0.009	0.003	0.1	0.65
	1, 2, 3, 6, 7, 8—HxCDF	7.8	0.009	0.003	0.1	0.58
	1, 2, 3, 7, 8, 9—HxCDF	0.84	0.009	0.003	0.1	0.062
	2, 3, 4, 6, 7, 8—HxCDF	11	0.009	0.003	0.1	0.79
	1, 2, 3, 4, 6, 7, 8—HpCDF	40	0.007	0.002	0.01	0.30
	1, 2, 3, 4, 7, 8, 9—HpCDF	7.9	0.012	0.004	0.01	0.059
	OCDF	42	0.021	0.006	0.0003	0.0093
	Total PCDFs	—	—	—	—	4.4773
	2, 3, 7, 8—TeCDD	0.17	0.006	0.002	1	0.13
	1, 2, 3, 7, 8—PeCDD	1.3	0.005	0.002	1	0.93
ポリ塩化ジベンゾーパラジオキシン	1, 2, 3, 4, 7, 8—HxCDD	1.5	0.011	0.003	0.1	0.11
	1, 2, 3, 6, 7, 8—HxCDD	5.2	0.011	0.003	0.1	0.39
	1, 2, 3, 7, 8, 9—HxCDD	3.3	0.011	0.003	0.1	0.24
	1, 2, 3, 4, 6, 7, 8—HpCDD	39	0.010	0.003	0.01	0.29
	OCDD	77	0.027	0.008	0.0003	0.0174
	Total PCDDs	—	—	—	—	2.1074
	Total (PCDFs+PCDDs)	—	—	—	—	6.6
コプラナーポリ塩化ビフェニル	3, 4, 4', 5—TeCB(#81)	11	0.010	0.003	0.0003	0.00234
	3, 3', 4, 4' —TeCB(#77)	8.3	0.006	0.002	0.0001	0.00062
	3, 3', 4, 4', 5—PeCB(#126)	9.3	0.009	0.003	0.1	0.69
	3, 3', 4, 4', 5, 5' —HxCB(#169)	4.1	0.014	0.004	0.03	0.090
	2', 3, 4, 4', 5—PeCB(#123)	1.9	0.008	0.002	0.00003	0.000042
	2, 3', 4, 4', 5—PeCB(#118)	2.6	0.008	0.002	0.00003	0.000057
	2, 3, 3', 4, 4' —PeCB(#105)	2.7	0.007	0.002	0.00003	0.000060
	2, 3, 4, 4', 5—PeCB(#114)	4.8	0.008	0.002	0.00003	0.000108
	2, 3', 4, 4', 5, 5' —HxCB(#167)	2.1	0.009	0.003	0.00003	0.000045
	2, 3, 3', 4, 4', 5—HxCB(#156)	5.0	0.012	0.003	0.00003	0.000111
	2, 3, 3', 4, 4', 5' —HxCB(#157)	2.6	0.012	0.004	0.00003	0.000057
	2, 3, 3', 4, 4', 5, 5' —HpCB(#189)	4.4	0.012	0.004	0.00003	0.000096
	Total コプラナーPCB	—	—	—	—	0.78
Total ダイオキシン類		—	—	—	—	7.4
備考						

備考1 排出ガスの測定結果を記入する場合にあっては、単位を ng/m³N(毒性等量にあっては ng-TEQ/m³N。)、排出水の測定結果を記入する場合にあっては、単位を pg/L(毒性等量にあっては pg-TEQ/L。)とし、ばいじん等の測定結果を記入する場合にあっては単位を ng/g(毒性等量にあっては ng-TEQ/g。)とする。

2 実測濃度の項において、検出下限以上定量下限未満の濃度は括弧付きの数字で記載すること。

3 実測濃度の項において、検出下限未満のものは“ND”と記載すること。

4 毒性等量は、定量下限未満の実測濃度を零として算出すること。

5 規則第2条第1項第4号の規定に基づき環境大臣が定める方法により測定を行った場合は、備考欄に測定に用いた方法を記載すること。

6 用語の定義は、日本工業規格 K0311、K0312 又は規則第2条第1項第4号の規定に基づき環境大臣が定める方法によること。

7 整理番号は、測定結果が複数の場合に記入すること

規則第3条第1項に基づき換算したダイオキシン類の構成

整理番号	2(焼却灰)	実測濃度	試料における 定量下限	試料における 検出下限	毒性等価係数	毒性等量
ポリ塩化ジベンゾフラン	2, 3, 7, 8—TeCDF	0.10	0.10	0.03	0.1	0.010
	1, 2, 3, 7, 8—PeCDF	0.13	0.10	0.03	0.03	0.0039
	2, 3, 4, 7, 8—PeCDF	0.25	0.10	0.03	0.3	0.075
	1, 2, 3, 4, 7, 8—HxCDF	0.38	0.11	0.03	0.1	0.038
	1, 2, 3, 6, 7, 8—HxCDF	0.31	0.10	0.03	0.1	0.031
	1, 2, 3, 7, 8, 9—HxCDF	N.D.	0.11	0.03	0.1	0
	2, 3, 4, 6, 7, 8—HxCDF	0.49	0.11	0.03	0.1	0.049
	1, 2, 3, 4, 6, 7, 8—HpCDF	1.8	0.09	0.03	0.01	0.018
	1, 2, 3, 4, 7, 8, 9—HpCDF	0.29	0.15	0.04	0.01	0.0029
	OCDF	2.4	0.25	0.08	0.0003	0.00072
	Total PCDFs	—	—	—	—	0.22852
ポリ塩化ジベンゾペンゾオキシン	2, 3, 7, 8—TeCDD	N.D.	0.07	0.02	1	0
	1, 2, 3, 7, 8—PeCDD	(0.05)	0.07	0.02	1	0
	1, 2, 3, 4, 7, 8—HxCDD	N.D.	0.14	0.04	0.1	0
	1, 2, 3, 6, 7, 8—HxCDD	(0.13)	0.14	0.04	0.1	0
	1, 2, 3, 7, 8, 9—HxCDD	(0.11)	0.13	0.04	0.1	0
	1, 2, 3, 4, 6, 7, 8—HpCDD	1.1	0.13	0.04	0.01	0.011
	OCDD	3.3	0.3	0.1	0.0003	0.00099
	Total PCDDs	—	—	—	—	0.01199
Total (PCDFs+PCDDs)		—	—	—	—	0.24
コプラナーポリ塩化ビフェニル	3, 4, 4', 5—TeCB (#81)	(0.06)	0.12	0.04	0.0003	0
	3, 3', 4, 4'—TeCB (#77)	0.15	0.07	0.02	0.0001	0.000015
	3, 3', 4, 4', 5—PeCB (#126)	0.13	0.11	0.03	0.1	0.013
	3, 3', 4, 4', 5, 5'—HxCB (#169)	N.D.	0.17	0.05	0.03	0
	2', 3, 4, 4', 5—PeCB (#123)	N.D.	0.09	0.03	0.00003	0
	2, 3', 4, 4', 5—PeCB (#118)	0.14	0.10	0.03	0.00003	0.0000042
	2, 3, 3', 4, 4'—PeCB (#105)	(0.09)	0.09	0.03	0.00003	0
	2, 3, 4, 4', 5—PeCB (#114)	(0.03)	0.10	0.03	0.00003	0
	2, 3', 4, 4', 5, 5'—HxCB (#167)	N.D.	0.11	0.03	0.00003	0
	2, 3, 3', 4, 4', 5—HxCB (#156)	(0.09)	0.14	0.04	0.00003	0
	2, 3, 3', 4, 4', 5'—HxCB (#157)	N.D.	0.14	0.04	0.00003	0
	2, 3, 3', 4, 4', 5, 5'—HpCB (#189)	(0.06)	0.14	0.04	0.00003	0
Total コプラナーPCB		—	—	—	—	0.013
Total ダイオキシン類		—	—	—	—	0.25
備考						

備考1 排出ガスの測定結果を記入する場合にあっては、単位を ng/m³N(毒性等量にあっては ng-TEQ/m³N。)、排出水の測定結果を記入する場合にあっては、単位を pg/L(毒性等量にあっては pg-TEQ/L。)とし、ばいじん等の測定結果を記入する場合にあっては単位を ng/g(毒性等量にあっては ng-TEQ/g。)とする。

2 実測濃度の項において、検出下限以上定量下限未満の濃度は括弧付きの数字で記載すること。

3 実測濃度の項において、検出下限未満のものは“ND”と記載すること。

4 毒性等量は、定量下限未満の実測濃度を零として算出すること。

5 規則第2条第1項第4号の規定に基づき環境大臣が定める方法により測定を行った場合は、備考欄に測定に用いた方法を記載すること。

6 用語の定義は、日本工業規格 K0311、K0312 又は規則第2条第1項第4号の規定に基づき環境大臣が定める方法によること。

7 整理番号は、測定結果が複数の場合に記入すること

規則第3条第1項に基づき換算したダイオキシン類の構成

整理番号	3(飛灰)	実測濃度	試料における 定量下限	試料における 検出下限	毒性等価係数	毒性等量
ポリ塩化ジベンゾフラン	2, 3, 7, 8—TeCDF	0.18	0.05	0.01	0.1	0.018
	1, 2, 3, 7, 8—PeCDF	0.25	0.13	0.04	0.03	0.0075
	2, 3, 4, 7, 8—PeCDF	0.34	0.13	0.04	0.3	0.102
	1, 2, 3, 4, 7, 8—HxCDF	0.40	0.09	0.03	0.1	0.040
	1, 2, 3, 6, 7, 8—HxCDF	0.43	0.09	0.03	0.1	0.043
	1, 2, 3, 7, 8, 9—HxCDF	N. D.	0.13	0.04	0.1	0
	2, 3, 4, 6, 7, 8—HxCDF	0.47	0.13	0.04	0.1	0.047
	1, 2, 3, 4, 6, 7, 8—HpCDF	1.5	0.12	0.03	0.01	0.015
	1, 2, 3, 4, 7, 8, 9—HpCDF	0.21	0.17	0.05	0.01	0.0021
	OCDF	1.2	0.17	0.05	0.0003	0.00036
	Total PCDFs	—	—	—	—	0.27496
ポリ塩化ジベンゾフランジオキシン	2, 3, 7, 8—TeCDD	(0.04)	0.07	0.02	1	0
	1, 2, 3, 7, 8—PeCDD	0.19	0.08	0.02	1	0.19
	1, 2, 3, 4, 7, 8—HxCDD	0.11	0.09	0.03	0.1	0.011
	1, 2, 3, 6, 7, 8—HxCDD	0.20	0.09	0.03	0.1	0.020
	1, 2, 3, 7, 8, 9—HxCDD	0.23	0.09	0.03	0.1	0.023
	1, 2, 3, 4, 6, 7, 8—HpCDD	1.1	0.15	0.05	0.01	0.011
	OCDD	1.8	0.16	0.05	0.0003	0.00054
	Total PCDDs	—	—	—	—	0.25554
Total (PCDFs+PCDDs)		—	—	—	—	0.53
コプラナーポリ塩化ビフェニル	3, 4, 4', 5—TeCB (#81)	0.08	0.07	0.02	0.0003	0.000024
	3, 3', 4, 4'—TeCB (#77)	0.28	0.10	0.03	0.0001	0.000028
	3, 3', 4, 4', 5—PeCB (#126)	0.16	0.14	0.04	0.1	0.016
	3, 3', 4, 4', 5, 5'—HxCB (#169)	(0.04)	0.11	0.03	0.03	0
	2', 3, 4, 4', 5—PeCB (#123)	(0.03)	0.08	0.02	0.00003	0
	2, 3', 4, 4', 5—PeCB (#118)	(0.11)	0.12	0.03	0.00003	0
	2, 3, 3', 4, 4'—PeCB (#105)	(0.09)	0.13	0.04	0.00003	0
	2, 3, 4, 4', 5—PeCB (#114)	(0.04)	0.07	0.02	0.00003	0
	2, 3', 4, 4', 5, 5'—HxCB (#167)	N. D.	0.11	0.03	0.00003	0
	2, 3, 3', 4, 4', 5—HxCB (#156)	(0.06)	0.12	0.04	0.00003	0
	2, 3, 3', 4, 4', 5'—HxCB (#157)	N. D.	0.09	0.03	0.00003	0
	2, 3, 3', 4, 4', 5, 5'—HpCB (#189)	(0.04)	0.12	0.04	0.00003	0
	Total コプラナーPCB	—	—	—	—	0.016
Total ダイオキシン類		—	—	—	—	0.55
備考						

備考1 排出ガスの測定結果を記入する場合にあっては、単位を ng/m³N(毒性等量にあっては ng-TEQ/m³N。)、排出水の測定結果を記入する場合にあっては、単位を pg/L(毒性等量にあっては pg-TEQ/L。)とし、ばいじん等の測定結果を記入する場合にあっては単位を ng/g(毒性等量にあっては ng-TEQ/g。)とする。

2 実測濃度の項において、検出下限以上定量下限未満の濃度は括弧付きの数字で記載すること。

3 実測濃度の項において、検出下限未満のものは“ND”と記載すること。

4 毒性等量は、定量下限未満の実測濃度を零として算出すること。

5 規則第2条第1項第4号の規定に基づき環境大臣が定める方法により測定を行った場合は、備考欄に測定に用いた方法を記載すること。

6 用語の定義は、日本工業規格 K0311、K0312 又は規則第2条第1項第4号の規定に基づき環境大臣が定める方法によること。

7 整理番号は、測定結果が複数の場合に記入すること

産業廃棄物焼却施設におけるダイオキシン類排出状況等調査票

- 調査対象は廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和 45 年法律第 137 号）第 15 条に基づく許可を受けた（届出し受理された）産業廃棄物焼却施設です。
- なお、令和 3 年 3 月 31 日以前に廃止又は許可取り消しとなった炉（施設）は調査対象ではありません。
- 許可を受けている施設ごとに調査票を作成いただきますようお願いいたします。ただし、1 つの施設にて複数の許可を得ている場合には、1 つの調査票を作成していただければ結構です。
- 1 つの施設で複数の炉を有する場合には、炉ごとに調査票を作成いただくようお願い致します。
- 調査対象期間は、令和 3 年度(令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日)です。
- 回答方法について、該当する ☐ に記載をお願いいたします。

1. 設置者に関すること

設置者についてお聞きます。

1-1	設置者名	比留間運送株式会社
1-2	記入者名	対象外
	役職	総務部
	氏名	対象外
	TEL	042-565-1336
	メールアドレス	対象外

2. 施設の能力等に関すること

施設の能力等についてお聞きます。

2-1	施設名	比留間運送株式会社 伊奈平工場 焼却炉
	炉番号 ※排ガス処理設備や煙突を共有する炉が複数ある場合は、 1、2、と順次「炉番号」を付して下さい。	1
2-2	施設設置場所	東京都武蔵村山市伊奈平 3-25-5

2-3	設置許可（届出）年月日	西暦 1997 年 12 月 1 日
-----	-------------	--------------------

2-4	使用開始年月日	西暦 1996 年 8 月 1 日
-----	---------	-------------------

2-5	設置者の区分 ※該当するものに○を記入してください。				
	・排出事業者		・処理業者	<input checked="" type="radio"/>	・その他 (公共関与の施設等)

2-6	施設の種類 ※該当するもの全てに○を記入してください。	
	一般廃棄物の焼却施設	<input checked="" type="radio"/>
	汚泥の焼却施設（廃棄物処理法施行令第 7 条第 3 号）	
	廃油の焼却施設（廃棄物処理法施行令第 7 条第 5 号）	
	廃プラスチック類の焼却施設（廃棄物処理法施行令第 7 条第 8 号）	
	水銀を含む汚泥のばい焼施設（廃棄物処理法施行令第 7 条第 10 号）	
	その他の焼却施設（廃棄物処理法施行令第 7 条第 13 号の 2）	<input checked="" type="radio"/>
	木くずの専焼炉	
	セメント工場	
	製紙工場	

2-7	施設における水銀に係る特定有害産業廃棄物の処理業の許可 ※該当するものに○を記入してください。		
	・有り		・焼却
			・ばい焼
	・無し	<input checked="" type="radio"/>	

2-8	施設の処理能力（1時間当たりトン数 t/h 及び1日当たりトン数 t/d）			
	※該当するものに処理能力を記入してください。			
	※処理能力の単位は「t/h」とし、「m³/h」で把握している場合は1m³=1tとしてご記入ください。			
	※1 施設で複数の炉を有する場合は、炉番号が1の炉の調査票にのみ合計値を記入し、他の炉の調査票には、「1に含む」と記入願います。			
	1時間当たりの処理能力	汚泥		t/h
	廃油		t/h	
	廃プラスチック類		t/h	
	その他	0.6	t/h	
	1日当たりの処理能力 施設としての処理能力(混焼した場合の処理能力)をご記入ください。メーカー等に問合わせても判らない場合は、空欄で結構です。		4.8	t/d

2-9	1日の稼働時間	8	時間
-----	---------	---	----

2-10	年間稼働日数(令和3年度実績)	252	249	日
------	-----------------	-----	-----	---

2-11	焼却方式 ※該当するものに○を記入してください。		
	・連続式		・バッチ式

2-12	焼却炉の構造 ※該当するものに○、必要事項を記入してください。			
	・固定床炉	○	・ロータリーキルン	
	・流動床炉		・ストーカ炉	
	・多段炉		・廃液蒸発炉	
	・乾留ガス化燃焼炉		・ロータリーキルン&ストーカ炉	
	・その他		※その他の構造について記入してください。	

2-13	火格子又は火床面積 (構造上火格子又は火床のないものは記入不要)	5.4	m²
------	-------------------------------------	-----	----

2-14	2次燃焼バーナーの有無 ※該当するものに○を記入してください。		
	・有り	○	・無し

2-15	排ガス処理設備（複数回答可） ※該当するものに○、必要事項を記入してください。		
・有り	○	サイクロン	○
		スクラバ（水洗浄）	
		スクラバ（アルカリ洗浄）	
		電気集塵器（乾式）	
		電気集塵器（湿式）	
		バグフィルタ	○
		活性炭噴霧	
		活性炭吸着塔	
		その他	
		※具体的な名称：	
・無し			

2-16	燃焼ガス冷却設備（複数回答可） ※該当するものに○、必要事項を記入してください。		
・有り	○	水噴霧式（別置型）	
		水噴霧式（炉頂型）	
		ボイラー式	
		併用式（水噴射とボイラーの一体型）	
		その他	○
		※具体的な名称：	
・無し			

2-17	スクラバ排水等の排水処理設備（複数回答可） ※該当するものに○、必要事項を記入してください。		
・有り	○	生物処理	
		凝集沈殿	
		砂ろ過	
		キレート処理	
		活性炭吸着	
		その他	
		※具体的な名称：	
・無し	○		

2-18	構造基準・維持管理基準の適合状況（令和4年3月31日現在）		
	平成14年から施行されている構造基準・維持管理基準に適合しているか		
	※該当するものに○、必要事項を記入してください。		
	・適合	○	
	・不適合		不適合の項目：
	・適用除外		適用除外理由：

3. 施設の稼働状況に関すること

施設の稼働状況についてお聞きします。

3-1	焼却施設の区分		
	平成9年12月1日現在で設置されていたか		
	※該当するものに○を記入してください。		
	・設置されていなかった		・現基準施設
	・設置されていた	○	・既存産業廃棄物焼却施設
			・特定産業廃棄物焼却施設(*)
			○

* 特定産業廃棄物焼却施設：平成9年12月1日改正令の施行に伴い、それまで、許可対象処理能力未満の小規模能力であったため許可対象施設ではなかったが、新たに焼却施設として許可対象施設となった施設

3-2	稼働状況（令和4年3月31日現在の稼働状況）				
	※該当するものに○、期間、年月日を記入してください。				
	※令和4年3月31日に廃止の場合は、令和4年3月31日の状況を記入してください。				
	※令和3年度に廃止又は許可取り消しとなった炉については、令和4年3月31日現在の解体状況を記入してください。				
	・未着工				
	・建設中				
	・新規供用施設（令和3年度）		供用年月日	年 月 日	
	・稼働中	○	令和3年度中に 休止した期間	年 月 日 — 月 日	
	・休止中 ※届出がされているもの		休止年月日	年 月 日	
	・廃止又は許可取消し		廃止又は許可 取消し年月日	年 月 日	
	解体 状況	解体済み		解体時期	年 月
		解体中		解体時期	年 月
		解体予定		解体時期	年 月
解体未定					

3-3 令和3年度の年間焼却実績 (t)			
※1 施設で複数の炉を有する場合で、各炉の焼却量の内訳が不明な場合については、可能な限り合計値をもとに按分した数値を記入し、なお不明な場合は炉番号が1の炉の調査票にのみ合計値を記入し、他の炉の調査票には、「1に含む」と記入願います。 ※補助燃料として利用した廃棄物系の燃料(再生重油、RDF、RPF、廃タイヤ、木くず等有価のもの)はここには含めず、3-6の廃棄物以外の燃料で計上してください。 ※「その他」欄には、上記以外の廃棄物の焼却実績の合計値を記入ください。			
・一般廃棄物		101.53	t/年
・汚泥			t/年
	うち下水汚泥		t/年
・廃油			t/年
・廃プラスチック類			t/年
・木くず		642.89	t/年
・その他		275.52	t/年
	うち感染性廃棄物		t/年

3-4 排ガス中のダイオキシン類濃度の測定結果 (令和3年度)			
※行政検査・自主検査を含めた測定結果を記入してください。 ※TEF(2006) (別表1) を用いた値を記入して下さい。 ※濃度は有効数字2桁で記入ください。 ※それぞれの異性体の測定量が定量下限値を下回る場合は、「<0.001」のように記入し、検出限界値を下回る場合は、「ND」と表記すること。			
・未測定			未測定の理由
・測定あり		○	
2021年11月13日		7.0	ng-TEQ/m ³ N
年 月 日			ng-TEQ/m ³ N
年 月 日			ng-TEQ/m ³ N
年 月 日			ng-TEQ/m ³ N
平均値		7.0	ng-TEQ/m ³ N
最大値		7.0	ng-TEQ/m ³ N
基準	基準値	10.0	ng-TEQ/m ³ N
	適用区分(*)	F	

* 適用区分は、次の【ダイオキシン類基準値の適用区分】から該当するA～Fを記入。

【ダイオキシン類基準値の適用区分】

燃焼室の 処理能力	新基準施設 ¹ の基準		旧基準施設 ² の基準	
4t/h 以上	A	0.1ng-TEQ/m ³ N	D	1ng-TEQ/m ³ N
2t/h 以上～4t/h 未満	B	1ng-TEQ/m ³ N	E	5ng-TEQ/m ³ N
2t/h 未満	C	5ng-TEQ/m ³ N	F	10ng-TEQ/m ³ N

1：新基準施設とは、平成9年12月2日以降に設置された産業廃棄物焼却炉のこと。

2：旧基準施設とは、平成9年12月1日以前に設置された産業廃棄物焼却炉のこと。

基準超過の有無			
※該当するものに○、必要事項を記入してください。			
・無し	○		
・有り			
超過判明後の対応状況			
・対策済み		※対策済みの場合は、改善後の測定結果を記入してください。 (複数の場合は平均値)	
		ng-TEQ/m ³ N	
・対策中			
・未実施			
令和4年3月31日現在の状況 ※特に現時点で「稼働中」の場合には、 稼働に到る経緯を併せて記載すること。 【例：改善中。現在使用停止中。令和○年○月○ 日廃止。改善後の再測定の結果、基準値以下を確認 (○ ng-TEQ/m ³ N) し、稼働中】			

3-5	余熱利用の状況			
	余熱利用のための設備(廃熱ボイラや熱交換器)が設置されているか			
	※該当するものに○、必要事項を記入してください。			
・設定されていない	○	→ 3-9へお進み下さい。		
・設定されている		→ 以下の質問についてお答えください		
令和3年度に焼却された廃棄物の総発熱量 (3-4の年間焼却実績に記入したものの総発熱量) ※総発熱量単位は1GJ=千MJ=百万KJ=10億Jです。			GJ ギガジュール	: Iw

	令和3年度に投入された廃棄物以外の燃料 (重油、都市ガス、廃棄物燃料等)の総発熱量			GJ ギガジュール	: Fa
	※3-4の年間焼却実績に記入したものはここに含めないで下さい。 ※総発熱量単位は 1GJ=千 MJ=百万 KJ=10 億 J です。				
	うち、重油等化石燃料			GJ ギガジュール	: F1
	廃棄物燃料 (RPF、RDF 等有価であるもの)			GJ ギガジュール	: F2
	※廃棄物以外の燃料総発熱量 Fa = 化石燃料 F1 + 廃棄物燃料 F2 の関係となります。				
利用方法 ※ボイラーや熱交換器で発生した蒸気や温水の利用方法として該当する項目全てに○を記入してください。 ※利用方法については、具体的に記入してください。 ※場内は焼却施設と同一敷地での利用、場外は敷地外での利用を指します。 ※余熱利用方法の分類は別表2を参照ください。					
利用方法			利用先		
			場内 利用	場外 利用	
電力利用(発電している)					
電力 利用 以外	(H1)燃焼用空気予熱・ボイラー給水加熱器・脱気器・スート ブロワ等の 循環利用 (焼却施設への入熱となるもの)				
	具体的に				
	(H2)白煙防止・脱硝等用の排ガス 再加熱利用 (焼却施設へ の入熱とならないもの)				
	具体的に				
	(H3)乾燥・加温・加熱・濃縮・脱水・補機駆動等の プロセス 利用 (H1,H2 以外で、主に生産用・処理用に利用されるもの)				
	具体的に				
(H4)給湯・冷暖房・温水プール・ロードヒーティング等の 生活利 用 (H1,H2,H3 以外の余熱利用)					
	具体的に				

電力利用していない場合は、3-8 へお進みください。

3-6	発電能力及び実績 (3-6 で電力利用にチェックされた方)	
	※3-7 の記入にあたっては、1 施設で複数の炉を有する場合で、発電のための設備が各炉で共通の場合は、炉番号が1の炉の調査票にまとめて記入し、他の炉の調査票においては「1 に含む」と記入してください。	
	発電能力	kW

発電効率

※両方、記載願います。実績値は、次の式で算定し記入願います。

$$\text{発電効率}[\%] = \frac{3.6 [\text{GJ/MWh}] \times \text{発電量 } E [\text{MWh/年}]}{\text{焼却された廃棄物の総発熱量 } I_w [\text{GJ/年}] + \text{投入された廃棄物以外の燃料の総発熱量 } F_a [\text{GJ/年}]} \times 100$$

仕様値		%
実績値		%

令和3年度発電量実績 ※発電量単位は MWh = 千 kWh です。

場内利用	焼却施設で利用		MWh : ①
	焼却施設以外で利用		MWh
場外利用	(売電等)		MWh
合 計			MWh : E

令和3年度の固定価格買取制度(FIT 制度)の売電実績

売電量		MWh
売電金額		円

焼却施設の消費・購入電力量 ※② - ① = ③の関係となります。

焼却施設の消費電力量		MWh : ②
焼却施設の購入電力量		MWh : ③

3-7

総余熱利用量実績（3-6 で電力利用以外の利用方法にチェックされた方）

※3-8 の記入にあたっては、1 施設で複数の炉を有する場合で、発電のための設備が各炉で共通の場合は、炉番号が1の炉の調査票にまとめて記入し、他の炉の調査票においては「1に含む」と記入してください。

令和3年度における総余熱利用量の実績値を、下表に記入してください。

※余熱利用量は、可能な限り、供給ベースの実績値ではなく、利用ベースの実績値を記入してください。

※余熱利用量の単位は **GJ（ギガジュール）＝百万kJ** です。

※cal（カロリー）等の場合は、次式を参考に換算してください。

A [cal] を B [GJ] に変換する場合 : $B [GJ] = A [cal] \times 4.2 \div 1,000,000,000$

C [kcal] を D [GJ] に変換する場合 : $D [GJ] = C [kcal] \times 4.2 \div 1,000,000$

E [Mcal] を F [GJ] に変換する場合 : $F [GJ] = E [Mcal] \times 4.2 \div 1,000$

利用先 利用方法	場内利用		場外利用		計	
(H1) 燃焼用空気予熱・ボイラー給水加熱器・脱気器・スートブロワ等の循環利用		GJ		GJ		GJ
(H2) 白煙防止・脱硝等の排ガス再加熱利用		GJ		GJ		GJ
(H3) 乾燥・加温・加熱・濃縮・脱水・補機駆動等のプロセス利用		GJ		GJ		GJ
(H4) 給湯・冷暖房・温水プール・ロードヒーティング等の生活利用		GJ		GJ		GJ
計		GJ		GJ		GJ

熱回収率実績値

※熱回収率実績値は、下の式で算定し記入願います。

（廃棄物熱回収施設設置者認定マニュアル参照）

$$\text{熱回収率} [\%] = \frac{\frac{3.6 \times \text{発電量}}{[\text{GJ/MWh}] E [\text{MWh}]} + \frac{\text{発電以外の熱利用量}}{H [\text{GJ}]} - \frac{\text{燃料の利用に伴い得られる熱量}}{F [\text{GJ}]}}{\text{投入エネルギー量 } I [\text{GJ}]} \times 100$$

発電以外の熱利用量 $H(\text{GJ}) = \text{循環利用量 } H1 + \text{プロセス利用量 } H3 + \text{生活利用量 } H4$

燃料の利用に伴い得られる熱量 $F(\text{GJ}) = 0.2 \times \text{化石燃料 } F1 + 0.1 \times \text{廃棄物燃料 } F2$

投入エネルギー量 $I(\text{GJ}) = \text{焼却された廃棄物の総発熱量 } Iw$
 $+ \text{投入された廃棄物以外の燃料の総発熱量 } Fa$
 $+ \text{循環利用量 } H1$

実績値	%
-----	---

ボイラーの蒸気条件と年間蒸気発生量の記入をお願いします。

ボイラーの蒸気条件	温度		℃	圧力		MPa
-----------	----	--	---	----	--	-----

	年間蒸気発生量			トン/年
	うち、用途別 (送付先の機器別) の年間蒸気利用量	タービン		トン/年
		空気予熱器		トン/年
		高圧復水器		トン/年
		脱気器		トン/年
		その他		トン/年

3-8	令和3年度の焼却残さの年間排出量		
	※「その他」欄には、燃え殻、ばいじん以外の焼却残さの名称を記入してください。 ※1 施設で複数の炉を有する場合で、各炉の排出量の内訳が不明な場合については、可能な限り合計値をもとに按分した数値を記入し、なお不明な場合は炉番号が1の炉の調査票にのみ合計値を記入し、他の炉の調査票には、「1に含む」と記入してください。		
	燃え殻	94.89	トン
	ばいじん	15.59 8.48	トン
	その他		トン
	その他の具体的な内容:		

3-9	焼却残さ中のダイオキシン類濃度の測定結果（令和3年度）					
	※該当するものに○、必要事項を記入してください。 ※それぞれの異性体の測定量が定量下限値を下回る場合は、「<0.001」のように記入し、検出限界値を下回る場合は、「ND」と表記すること。					
	・有り	○				
	・無し					
	未測定の原因：					
	試料採取 年月日等	燃え殻		ばいじん		その他
	2022年2月23日	0.46	ng-TEQ/g	0.0064	ng-TEQ/g	
	年 月 日		ng-TEQ/g		ng-TEQ/g	
	年 月 日		ng-TEQ/g		ng-TEQ/g	
	平均値	0.46	ng-TEQ/g	0.0064	ng-TEQ/g	
最大値	0.46	ng-TEQ/g	0.0064	ng-TEQ/g		

3-10	焼却残さ中の水銀濃度（溶出量）（令和３年度）（測定を行っている場合のみ） ※それぞれの異性体の測定量が定量下限値を下回る場合は、「<0.001」のように記入し、検出限界値を下回る場合は、「ND」と表記すること。			
	試料採取 年月日等	燃え殻		ばいじん
	2021 年 11 月 4 日	<0.0005	mg/L	mg/L
	2022 年 2 月 1 日	<0.0005	mg/L	mg/L
	平均値	<0.0005	mg/L	mg/L
	最大値	<0.0005	mg/L	mg/L

以上で調査は終了です。御協力誠にありがとうございました。

別表 1

毒性等価係数 (WHO-TEF(2006))

a) PCDD+PCDF

異性体		毒性等価係数 (TEF)
PCDD	2,3,7,8-TCDD	1
	1,2,3,7,8-PeCDD	1
	1,2,3,4,7,8-HxCDD0	0.1
	1,2,3,6,7,8-HxCDD	0.1
	1,2,3,7,8,9-HxCDD	0.1
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDD	0.01
	1,2,3,4,6,7,8,9-OCDD	0.0003
	その他	0
PCDF	2,3,7,8-TCDF	0.1
	1,2,3,7,8-PeCDF	0.03
	2,3,4,7,8-PeCDF	0.3
	1,2,3,4,7,8-HxCDF	0.1
	1,2,3,6,7,8-HxCDF	0.1
	1,2,3,7,8,9-HxCDF	0.1
	2,3,4,6,7,8-HxCDF	0.1
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDF	0.01
	1,2,3,4,7,8,9-HpCDF	0.01
	1,2,3,4,6,7,8,9-OCDF	0.0003
	その他	0

b) コプラナーPCB

異性体		毒性等価係数 (TEF)
ノンオルト体 (Non-ortho)	3,4,4',5-TCB	0.0003
	3,3',4,4'-TCB	0.0001
	3,3',4,4',5-PeCB	0.1
	3,3',4,4',5,5'-HxCB	0.03
モノオルト体 (Mono-ortho)	2',3,4,4',5-PeCB	0.00003
	2,3',4,4',5-PeCB	0.00003
	2,3,3',4,4'-PeCB	0.00003
	2,3,4,4',5-PeCB	0.00003
	2,3',4,4',5,5'-HxCB	0.00003
	2,3,3',4,4',5-HxCB	0.00003
	2,3,3',4,4',5'-HxCB	0.00003
	2,3,3',4,4',5,5'-HpCB	0.00003

別表 2 余熱利用の形態の整理

エネルギー源	エネルギー変換方式				利用方法
	一次変換	一次媒体	二次変換	二次媒体	(例)
廃棄物焼却 廃熱 (燃焼ガス)	廃熱ボイラ	蒸気	蒸気タービン	電気	電力利用(所内動力・ 場外送電)
			蒸気タービン	(動力)	補機駆動(ファン・ポンプ など)
			熱交換器 (蒸気-水)	温水	濃縮熱源、暖房熱源、 給湯熱源
			熱交換器 (蒸気-空気)	空気	燃焼空気、乾燥熱源
			吸収式冷凍機 (蒸気駆動式)	冷水	冷房熱源
					乾燥熱源、暖房熱源
	熱交換器 (ガス-空気)	空気	熱交換器 (空気-水)	温水	濃縮熱源、暖房熱源、 給湯熱源
					燃焼空気、乾燥熱源、 暖房熱源
	熱交換器 (ガス-水)	温水			濃縮熱源、暖房熱源、 給湯熱源
	熱交換器(ガス-対象物)				濃縮熱源、乾燥熱源
(燃焼ガス直接利用)				乾燥熱源	

・余熱利用の分類

大分類	小分類	具体的利用方法	備考
電力利用		蒸気タービン発電機等による発電	
電力以外の 利用方法	(H1)循環利用	燃焼用の空気予熱、ボイラー給水加熱器、脱気器、スートブロワ等	焼却炉やボイラーへの入熱となるもの
	(H2)再加熱利用	白煙防止・脱硝等用の排ガス再加熱	焼却施設への入熱とならないもの
	(H3)プロセス利用	汚泥・紙・木材等の乾燥、タンク加温、材料加熱、発酵用熱源、濃縮・脱水、誘引通風機・ボイラー給水ポンプ等の補機駆動等	上記 H1,H2 以外で、主に生産用・処理用に利用されるもの)
	(H4)生活利用等	給湯、冷暖房、温水プール、ロードヒーティング、暖房・給湯用熱輸送等	上記 H1,H2,H3 以外の余熱利用

令和4年8月1日

東京都多摩環境事務所
廃棄物対策課長 殿

報告者

所在地 東京都武蔵村山市中央二丁目18番地の3
事業所名 比留間運送株式会社
施設管理代表者 代表取締役 比留間 宏明
技術管理者 対象外

焼却施設維持管理状況等報告書

令和3年4月1日から令和4年3月31日までの焼却施設維持管理状況等を以下のとおり報告します。

- 施設設置場所 : 東京都武蔵村山市伊奈平3-25-5
- 施設名、焼却炉No. : 伊奈平工場 焼却炉 (炉No. 1)
- 許可証の処理能力 : 4.8t/日 (0.6t/時×8時間)
- 火格子面積 : 5.4m² ※構造上、火格子がない場合は対象外。
- (設問4が対象外の場合) 焼却炉の構造 : 固定床炉 ※例: 「流動床」等。
- 処理する産業廃棄物の種類 : 紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ
- 一般廃棄物処分業の許可 : ①、無 ※「無」の場合、設問8は対象外。
- 焼却処理する一般廃棄物の種類 : 紙くず、木くず、繊維くず、生ごみ
- 補助燃料の種類、年間使用量 : 燃料種類 (白灯油) 使用量 0.6kL (又はm³)
- 排ガス処理設備の方式 : サイクロン、スクラバー(水洗浄、アルカリ洗浄)、電気集塵機(乾式、湿式)、バグフィルター、その他()
- 燃焼ガス冷却設備の方式 : 水噴霧式(別置型、炉頂型)、ボイラ式、併用式、その他(間接水冷)
- 排水処理設備 : ①、有
方式: 凝集沈殿、砂ろ過、生物処理、キレート処理、活性炭吸着、その他()
- 産廃の燃え殻(焼却灰)の処分: 直接埋立、中間処理後埋立、中間処理後再生
中間処理先(所在地も併記): ①、有
中間処理の方法: 溶融、セメント固化、薬剤処理、酸抽出、焼成、その他()
(名称:)
(所在地:)

埋立処理先（所在地も併記）：無、☒有

※中防の場合、所在地不要

（名称：不開示）

（所在地：不開示）

- 14 一廃の燃え殻（焼却灰）の処分：直接埋立、中間処理後埋立、☒中間処理後再生

中間処理先（所在地も併記）：無、☒有

中間処理の方法：溶解、セメント固化、薬剤処理、酸抽出、☒焼成、その他（）

（名称：不開示）

（所在地：不開示）

埋立処理先（所在地も併記）：☒無、有

（名称：

（所在地：

- 15 産廃ばいじん（飛灰）の処分：直接埋立、中間処理後埋立、中間処理後再生

中間処理先（所在地も併記）：無、☒有

中間処理の方法：溶解、☒セメント固化、薬剤処理、酸抽出、焼成、その他（）

（名称：不開示）

（所在地：不開示）

埋立処理先（所在地も併記）：☒無、有

（名称：

（所在地：

- 16 一廃ばいじん（飛灰）の処分：直接埋立、中間処理後埋立、中間処理後再生

中間処理先（所在地も併記）：無、☒有

中間処理の方法：溶解、セメント固化、薬剤処理、酸抽出、☒焼成、その他（）

（名称：不開示）

（所在地：不開示）

埋立処理先（所在地も併記）：☒無、有

（名称：

（所在地：

- 17 余熱利用の有無：有、☒無（有の場合は、以下の設問に続く）

- 18 余熱の利用先：場内、場外

- 19 利用方法：発電、蒸気、温水、その他（）

※ 発電の場合、以下の数値を記入。

発電能力：kW、発電効率：% ※公称能力（使用値等）を記入。

総発電量：MWh、総熱利用量：MJ ※当該年における合計値を記入。

注）記入要領：該当欄に記入又は該当項目を○で囲んでください。

：複数炉ある場合、本用紙をコピーし各炉毎に記入してください。

I 焼却施設稼働状況

(炉NO. 1) 施設名: 伊奈平工場 焼却炉

	廃棄物投入量(t)						総稼働時間(h)	稼働日数(日)	
	一般 廃棄物	産業廃棄物							月 計
		汚泥	廃油	廃プラ	木くず	その他*			
換算比重→									
令和3年4月	11.13				70.36	30.16	111.65	194	25
5月	6.03				38.09	16.33	60.45	99	15
6月	8.85				56.00	24.00	88.85	146	22
7月	7.76				49.31	21.13	78.20	125	23
8月	7.12				45.31	19.42	71.85	112	21
9月	5.8				36.75	15.75	58.30	92	15
10月	8.6				54.60	23.40	86.60	137	22
11月	8.89				56.15	24.06	89.10	146	20
12月	6.09				38.54	16.51	61.14	100	15
令和4年1月	9.25				58.66	25.14	93.05	152	23
2月	10.48				66.20	28.37	105.05	174	23
3月	11.53				72.92	31.25	115.70	187	28
合 計	101.53				642.89	275.52	1019.94	1664	252

注) 記入要領: 「換算比重」欄は、容量を重量に換算する場合に用いた数値を記入してください。

	焼却灰等搬出量(t)			備考	投入量「その他*」内訳	
	燃え殻(焼却灰)	ばいじん	燃え殻・ばいじん混合		「その他*」内訳(t)	
令和3年4月	8.84	2.64			4月	
5月	8.59				5月	
6月	8.45	2.28			6月	
7月	8.00				7月	
8月	8.02				8月	
9月	7.23	2.29			9月	
10月	8.17	2.54			10月	
11月	7.92				11月	
12月	7.33	2.72			12月	
令和4年1月	7.43				1月	
2月	7.93	3.12			2月	
3月	7.48				3月	
合計	94.89	15.59			小計	

注) 記入要領: 「燃え殻・ばいじん混合」欄は、焼却施設から燃え殻とばいじんを混合して排出する場合のみ記入してください。

: 廃棄物投入量のその他が複数ある場合、投入量その他内訳に品目を記入のうえ、月毎の焼却量を記入してください。

Ⅱ ばい煙、ダイオキシン類等測定結果（炉NO. 1）施設名： 伊奈平工場 焼却炉

令和3年4月1日から令和4年3月31日の期間に採取した結果のみを記入のこと。

排ガス・燃え殻・ばいじんのダイオキシン類濃度は一回以上、排ガスのばいじん・硫黄酸化物・窒素酸化物・塩化水素濃度は二回以上の測定結果を記入すること。

採取年月日		2021年 11月13日	2022年 2月23日	2022年 2月23日	2021年 8月18日
焼却量	t/h	0.59			
排ガス量	湿り m ³ _N /h	25,200			
	乾き m ³ _N /h	22,400			
燃焼室ガス温度	℃	859			
集じん器流入ガス温度	℃	179			
一酸化炭素濃度(1時間平均)	ppm	4.1			
酸素濃度	%	9.8			
ダイオキシン類	排ガス ng-TEQ/m ³ _N	7.0			
	規制基準値 ng-TEQ/m ³ _N	10			
	燃え殻（焼却灰） ng-TEQ/g		0.46		
	ばいじん（飛灰） ng-TEQ/g		0.0064		
	燃え殻・ばいじん混合 （混合排出の場合） ng-TEQ/g				
排水	pg-TEQ/L				
ばいじん	濃度 g/m ³ _N			0.001	0.005
	規制基準値 g/m ³ _N	0.25			
硫黄酸化物	濃度 ppm			13	8
	排出量 m ³ _N /h			0.29	0.15
	規制基準値 m ³ _N /h			2.62	2.55
窒素酸化物	濃度 ppm			97	110
	排出量 m ³ _N /h			82	84
	規制基準値 m ³ _N /h	250			
塩化水素	濃度 ppm			520	52
	規制基準値 ppm	700			
燃え殻の熱しゃく減量 %		6.9（2022年2月1日測定）		8.3（2021年11月4日測定）	

注1）「燃え殻・ばいじん混合」欄は、焼却施設から燃え殻とばいじんを混合して排出する場合のみ記入して下さい。

注2）排水のダイオキシン類濃度は、測定対象施設のみについて記入して下さい。

注3）採取年月日が異なるものは、表内に日付等を記入して下さい。

Ⅲ 燃え殻(焼却灰)の溶出試験結果 (炉NO. 1) 施設名: 伊奈平工場 焼却炉

令和3年4月1日から令和4年3月31日の期間に採取した結果のみを記入のこと。

採 取 年 月 日	2022年 2月1日	2021年 11月4日	年 月 日	年 月 日
カドミウム又はその化合物 (mg/l)	<0.01	<0.01		
鉛又はその化合物 (mg/l)	0.02	0.03		
六価クロム化合物 (mg/l)	<0.01	<0.01		
砒素又はその化合物 (mg/l)	<0.01	<0.01		
総 水 銀 (mg/l)	<0.0005	<0.0005		
シアン化合物 (mg/l)				
有機りん化合物 (mg/l)				
P C B (mg/l)	<0.0005	<0.0005		
トリクロロエチレン (mg/l)				
テトラクロロエチレン (mg/l)				
セレン又はその化合物 (mg/l)	<0.01	<0.01		
備 考				

注) 記入要領: 測定結果が出ていない場合は、採取年月日のみ記入してください。

測定分析結果報告書

比留間運送株式会社 御中

工事番号 2921-185
T-2921683

2021年12月9日

貴ご依頼による調査業務委託に関し、調査結果を次にご報告致します

1. 件名及び調査対象施設
比留間運送株式会社
廃棄物焼却炉
ダイオキシン類調査業務

東京都計量証明事業

不開示

不開示

対象外

2. 試料採取日
2021年11月13日

不開示

TEL

不開示

3. 試料採取場所
排ガス試料:煙突中間

4. 試料採取担当者

対象外

5. 分析担当者

不開示

6. 分析期間
2021年11月15日～2021年12月7日

7. 調査結果及び調査方法

調査の対象項目 (調査対象媒体:排ガス)	単位	調査結果	基準値	調査方法
排出ガス量(湿り) §1	m³/h	25,200	-	JIS Z 8808
排出ガス量(乾き) §1	m³/h	22,400	-	
流速 §1	m/s	6.6	-	
温度 §1	℃	119	-	
圧力 §1	kPa	-0.02	-	
水分量 §1	%	11.4	-	
組成 §1	%	CO ₂ O ₂ CO N ₂	-	
		10.6 10.4 <0.1 79.0	-	
酸素濃度 §2	%	9.8	-	JIS K 0301.8
一酸化炭素濃度 §2.3 【実測濃度】	volppm	10	-	JIS K 0098.8
【酸素12%換算濃度】	volppm	8 (O ₂ :9.8%)	100 (維持管理基準)	
ダイオキシン類濃度 §4.5.6 【毒性当量】	ng-TEQ/m³	7.0	1.0	(別紙計量証明書参照)
備考	§1:基礎測定時における本測定結果を示します。 §2:排ガス中ダイオキシン類測定中における平均値を示します。 §3:実測濃度については、別紙計量証明書(T-2921583-00号)からの転記事項であります。 §4:別紙JFEケミカルが発行の計量証明書(21DMT00576-000号)からの転記事項であります。 §5:ここで言うダイオキシン類とは、ポリ塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシン及びポリ塩化ジベンゾ-フラン並びにコプラナーPCBを示します。			

測定分析結果報告書

工事番号 2921-228

技報3022084-00

2022年3月22日

比留間運送株式会社

貴ご依頼による調査業務委託に関し、調査結果をご報告致します。

1. 件名及び調査対象施設
比留間運送株式会社
廃棄物焼却炉
焼却灰の調査業務

東京都計量証明事業

不開示

不開示

対象外

2. 試料採取日
2022年2月23日 11:50

不開示

TEL
TEL

不開示

3. 試料採取場所
焼却灰試料: 焼却灰貯留場

4. 試料採取担当者

対象外

5. 分析担当者

不開示

6. 分析期間
2022年2月24日～2022年3月18日

7. 調査結果及び調査方法

調査の対象項目 (調査対象媒体: 焼却灰)	単位	調査結果	基準値	調査方法
ダイキソ類濃度 §1.2 【毒性当量】	ng-TEQ/g	0.46	3	(別紙分析結果報告書参照)
備考	§1: 別紙JFEケミカルが発行の分析結果報告書(21R000618-000号)に記載の結果より転記したものであります。 §2: ここで言うダイキソ類とは、ポリ塩化ジベンゾ-パラ-ジキソン及びポリ塩化ジベンゾ-フラジ並びにコプラナー-PCBを示します。			

測定分析結果報告書

工事番号 2921-228

技報3022085-00

2022年3月22日

比留間運送株式会社 御中

貴ご依頼による調査業務委託に関し、調査結果をご報告致します。

1. 件名及び調査対象施設
比留間運送株式会社
廃棄物焼却炉
飛灰の調査業務

東京都計量証明事業

不開示

不開示

対象外

不開示

TEL
TEL

不開示

2. 試料採取日
2022年2月23日 12:05

3. 試料採取場所
飛灰試料: 飛灰貯留場

4. 試料採取担当者

対象外

5. 分析担当者

不開示

6. 分析期間
2022年2月24日～2022年3月18日

7. 調査結果及び調査方法

調査の対象項目 (調査対象媒体: 飛灰)	単位	調査結果	基準値	調査方法
ダイオキシン類濃度 §1.2 【毒性当量】	ng-TEQ/g	0.00645	0.05	(別紙分析結果報告書参照)
備考	§1: 別紙JFEケミカルが発行の分析結果報告書(21DR000619-000号)に記載の結果より転記したものです。 §2: ここで言うダイオキシン類とは、ポリ塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシン及びポリ塩化ジベンゾフラン並びにコプラナーPCBを示します。			

測定分析結果報告書

比留間運送株式会社 御中

工事番号 2921-228
T-3022210

貴ご依頼による調査業務に関し、調査結果をご報告致します

2022年3月22日

1. 件名及び調査対象施設
比留間運送株式会社
廃棄物焼却炉
ばい煙量の調査業務

東京都計量証明事業 不開示

不開示

対象外

2. 試料採取日
2022年2月23日

3. 試料採取場所
排ガス試料:煙突中間

4. 試料採取担当者

対象外

5. 分析担当者

対象外

6. 分析期間

2022年2月25日～2022年3月4日

7. 調査結果及び調査方法

調査の対象項目	単位	調査結果	基準値	調査方法
排出ガス量(湿り) §1	m³/h	24,200	-	JIS Z 8808
排出ガス量(乾き) §1	m³/h	21,500	-	
流速 §1	m/s	5.9	-	
温度 §1	℃	94	-	
圧力 §1	kPa	-0.02	-	
水分量 §1	%	11.1	-	
組成 §1	%	CO₂ O₂ CO N₂	-	
		9.6 10.4 <0.1 80.0	-	
ばいじん濃度 §2	g/m³	0.001	-	JIS Z 8808
【実測濃度】	g/m³	0.001	0.25	
【酸素12%換算濃度】		(Os:10.4%)		
塩化水素濃度 §2	mg/m³	610	-	JIS K 0107. 附属書C
【実測濃度】	mg/m³	520	700	
【酸素12%換算濃度】		(Os:10.4%)		
硫黄酸化物濃度 §2	volppm	13	-	JIS K 0103. 7. 2
硫黄酸化物排出量	m³/h	0.29	2.62	
窒素酸化物濃度 §2	volppm	97	-	JIS K 0104. 7. 4
【実測濃度】	volppm	82	250	
【酸素12%換算濃度】		(Os:10.4%)		
酸素濃度 §2	%	10.9	-	JIS K 0301. 8
一酸化炭素濃度 §2,3	volppm	11	-	JIS K 0098. 8
【実測濃度】	volppm	10	100	
【酸素12%換算濃度】		(Os:10.9%)	(換算係数0.9)	
水銀濃度 §4,5	μg/m³	12	-	(別紙計量証明書参照)
【実測濃度】	μg/m³	11	50	
【酸素12%換算濃度】		(Os:11.0%)		
備考	§1:基礎測定時における平均測定結果を示します。 §2:排ガス中水銀濃度測定中における平均値を示します。 §3:実測濃度については、別紙計量証明書(T-3022210-00号)からの転記事項であります。 §4:別紙焼上総環境調査センター発行の計量証明書(H-2220065号)からの転記事項であります。 §5:水銀濃度はガス状水銀及び粒子状水銀の合計値を示します。			

測定分析結果報告書

比留間運送株式会社 御中

工事番号 2921-120

T-2921540

貴ご依頼による調査業務に関し、調査結果をご報告致します

2021年9月21日

1. 件名及び調査対象施設
比留間運送株式会社
廃棄物焼却炉
ばい煙量の調査業務

東京都計量証明事 不開示

不開示

対象外

2. 試料採取日
2021年8月18日
3. 試料採取場所
排ガス試料:煙突中間
4. 試料採取担当者
対象外

不開示

TEL
TEL

不開示

5. 分析担当者
対象外
6. 分析期間
2021年8月19日～2021年9月2日
7. 調査結果及び調査方法

調査の対象項目	単位	調査結果	基準値	調査方法
排出ガス量(湿り) §1	m³/h	20,500	-	JIS Z 8808
排出ガス量(乾き) §1	m³/h	17,800	-	
流速 §1	m/s	5.2	-	
温度 §1	℃	108	-	
圧力 §1	kPa	-0.020	-	
水分量 §1	%	13.3	-	
組成 §1	%	CO₂ 11.4 O₂ 9.2 CO <0.1 N₂ 79.4	-	
ばいじん濃度 §2 【実測濃度】 【酸素12%換算濃度】	g/m³ g/m³	0.006 0.005 (Os:9.3%)	- 0.25	JIS Z 8808
塩化水素濃度 §2 【実測濃度】 【酸素12%換算濃度】	mg/m³ mg/m³	67 52 (Os:9.3%)	- 700	JIS K 0107. 附属書C
硫酸酸化物濃度 §2 【実測濃度】	volppm	8	-	JIS K 0103. 7.2
硫酸酸化物排出量	m³/h	0.15	2.55	
窒素酸化物濃度 §2 【実測濃度】 【酸素12%換算濃度】	volppm volppm	110 84 (Os:9.3%)	- 250	JIS K 0104. 7.4
酸素濃度 §2	%	9.3	-	JIS K 0301.8
一酸化炭素濃度 §2.3 【実測濃度】 【酸素12%換算濃度】	volppm volppm	10 8 (Os:9.3%)	- 100 (換算係数)	JIS K 0098.8
水銀濃度 §4.5 【実測濃度】 【酸素12%換算濃度】	μg/m³ μg/m³	2.8 2.2 (Os:9.3%)	- 50	(別紙計量証明書参照)
備考	§1:基礎測定時における平均測定結果を示します。 §2:排ガス中水銀濃度測定中における平均値を示します。 §3:実測濃度については、別紙計量証明書(T-2921540-00号)からの転記事項であります。 §4:別紙別紙上総環境調査センター発行の計量証明書(H-2180061号)からの転記事項であります。 §5:水銀濃度はガス状水銀及び粒子状水銀の合計値を示します。 *ガス状水銀実測値:2.8 μg/m³、酸素12%換算値:2.2 μg/m³ *粒子状水銀実測値:0.0045 μg/m³、酸素12%換算値:0.0035 μg/m³			

測定分析結果報告書

比留間運送株式会社 御中

工事番号 2921-043

技報3022043-00 1/2

2022年2月17日

貴ご依頼による調査業務委託に関し、調査結果をご報告致します。

1. 件名

比留間運送株式会社
廃棄物焼却炉
焼却灰の調査業務

東京都計量証明事業

不開示

不開示

対象外

不開示

TEL
EL

不開示

2. 試料採取日

2022年2月1日 14:25

3. 試料採取場所

焼却灰試料: 焼却灰ピット

4. 試料採取担当者

対象外

5. 分析期間

2022年2月2日～2022年2月15日

6. 調査結果及び調査方法

調査の対象項目 (調査対象媒体: 焼却灰)	単位	調査結果	調査方法
7メチル水銀化合物	mg/L	不検出(< 0.0005)	昭和46年環告第59号付表3
水銀又はその化合物(溶出量)	mg/L	< 0.0005	昭和46年環告第59号付表2
カドミウム又はその化合物	mg/L	< 0.01	JIS K 0102.55.3
鉛又はその化合物	mg/L	0.02	JIS K 0102.54.3
六価クロム化合物	mg/L	< 0.01	JIS K 0102.65.2.4
ヒ素又はその化合物	mg/L	< 0.01	JIS K 0102.61.2
セレン又はその化合物	mg/L	< 0.01	JIS K 0102.67.2
ふっ素又はその化合物	mg/L	0.9	JIS K 0102.34.1
ほう素又はその化合物	mg/L	0.1	JIS K 0102.47.3
ポリ塩化ビフェニル(PCB)	mg/L	< 0.0005	昭和46年環告第59号付表4
塩化物イオン	mg/L	370	JIS K 0102.35.3
生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	130	JIS K 0102.21及び32.3
化学的酸素要求量(COD _{Mn})	mg/L	19	JIS K 0102.17
窒素含有量	mg/L	3	JIS K 0102.45.2
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	< 0.001	JIS K 0125.5.2.2
1,4-ジクロロベンゼン	mg/L	< 0.05	昭和46年環告第59号付表7の第3
水素イオン濃度(pH)	-	8.9(18.5℃)	JIS K 0102.12.1
熱灼減量	%	6.9	昭和52年環整第95号別紙2
油分(n-ヘキサン抽出物質)	%	< 0.1	昭和49年環告第64号付表4
水銀又はその化合物(含有量)	mg/kg	0.03	平成24年環水大発第120725002号II 5.14.1.1
備考	検液の作成方法は、昭和48年環告第13号によります		

測定分析結果報告書

比留間運送株式会社 御中

工事番号 2921-043

技報2921271-00 1/2

2021年11月17日

貴ご依頼による調査業務委託に関し、調査結果をご報告致します。

1. 件名

比留間運送株式会社
廃棄物焼却炉
焼却灰の調査業務

東京都計量証明事業 不開示

不開示

対象外

不開示

TEL
TEL

不開示

2. 試料採取日

2021年11月4日 13:10

3. 試料採取場所

焼却灰試料:焼却灰ドット

4. 試料採取担当者

対象外

5. 分析期間

2021年11月4日～2021年11月16日

6. 調査結果及び調査方法

調査の対象項目 (調査対象媒体:焼却灰)	単位	調査結果	調査方法
メチル水銀化合物	mg/L	不検出(< 0.0005)	昭和46年環告第59号付表3
水銀又はその化合物(溶出量)	mg/L	< 0.0005	昭和46年環告第59号付表2
カドミウム又はその化合物	mg/L	< 0.01	JIS K 0102.55.3
鉛又はその化合物	mg/L	0.03	JIS K 0102.54.3
六価クロム化合物	mg/L	< 0.01	JIS K 0102.65.2.4
ヒ素又はその化合物	mg/L	< 0.01	JIS K 0102.61.2
セレン又はその化合物	mg/L	< 0.01	JIS K 0102.67.2
ふっ素又はその化合物	mg/L	1.8	JIS K 0102.34.1
ほう素又はその化合物	mg/L	< 0.1	JIS K 0102.47.3
ポリ塩化ビフェニル(PCB)	mg/L	< 0.0005	昭和46年環告第59号付表4
塩化物イオン	mg/L	250	JIS K 0102.35.3
生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	27	JIS K 0102.21及び32.3
化学的酸素要求量(CODMn)	mg/L	16	JIS K 0102.17
窒素含有量	mg/L	8	JIS K 0102.45.2
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	< 0.001	JIS K 0125.5.2.2
1,4-ジクロロベンゼン	mg/L	< 0.05	昭和46年環告第59号付表7の第3
水素イオン濃度(pH)	-	8.7(21.3℃)	JIS K 0102.12.1
熱灼減量	%	8.3	昭和52年環整第95号別紙2
油分(n-ヘキサン抽出物質)	%	0.2	昭和49年環告第64号付表4
水銀又はその化合物(含有量)	mg/kg	0.18	平成24年環水大発第120725002号口5.14.1.1
備考	検液の作成方法は、昭和48年環告第13号によります		

事故時措置届出書

令和5年6月26日

東京都知事 殿



施設設置者

住 所 東京都武蔵村山市中央2丁目18番地の3

氏 名 比留間運送株式会社

代表取締役 比留間

電話番号 042-565-1336

対象外

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第21の2第1項の規定に基づき、当廃棄物処理施設において発生した事故の状況及び講じた措置の概要について、下記のとおり届け出ます。

記

1 施設の管理者名及び施設の住所

1)施設名：比留間運送株式会社 伊奈平工場

2)施設管理者名：伊奈平工場長 対象外

3)施設の住所：東京都武蔵村山市伊奈平3-25-5

4)電話番号：042-560-8806

2 事故発生施設の種類

不開示

3 施設規模（処理方式／能力）： 不開示

4 事故発生日時： 令和5年6月1日 午前・午後 1時45分

5 報告者・記入者（所属・氏名）：伊奈平工場長 対象外

(注) 施設設置者：自治体の場合は市町村長、民間企業の場合は社長（代表者）

施設管理者：工場長など現場の最高責任者

6 事故の状況（必要に応じて、説明資料・図面を添付して下さい。）

1) 事故の種類（火災、爆発、廃棄物の飛散・漏洩、有毒ガスの発生、排ガス・排水異常 等）

不開示

2) 被害状況（死傷者数、機械的損傷内容、周辺への生活環境への影響・被害）

不開示

3) 事故原因

不開示

4) 応急措置内容

不開示

7 事故後に講じた措置等（必要に応じて、説明資料・図面を添付して下さい。）

1) 再発防止策

不開示

2) 施設の復旧

・再稼動日時（予定）

不開示

3) 労働基準監督署、消防署等からの指導の有無及び指導内容

不開示

電気事故報告

2023年6月2日

比留間運送株式会社
産業廃棄物処理センター 御中

公益社団法人 東京電気管理技術者協会

電気管理技術者

不開示

不開示

対象外

対象外

不開示

TEL

不開示

FAX

不開示

緊急応動致しましたので報告します

1. 発生日時

2023年6月1日(木) 13:45頃

2. 発生場所

比留間運送株式会社 産業廃棄物処理センター(焼却炉)

3. 事故の概要

不開示

4. 応動内容

不開示

5. 応急処置

不開示

6. 事故の原因

不開示

比留間運送殿調査報告書

場 所：比留間運送株式会社殿 伊奈平工場

発生日：2023 年 6 月 1 日

対応者：

状況：

不開示

原因：

不開示

不開

示

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">不開示</div>	照会	工事名称	図面作成年月日		2013.1.28
	設計	図面名称	縮尺	1:100	図面番号
	製図				管理番号

不開

不開

排風機盤電源品質測定

1. 目的

不開示

2. 測定内容

不開示

3. 測定器接続箇所

不開示

4. 期間

不開示

比留間運送殿焼却炉関連設備点検

令和5年 焼却炉設備制御盤点検報告書

不開示	不開示
	不開示

目 次

1. 点検要領
2. 保守・点検チェックリスト
3. 電流・絶縁抵抗測定
4. 計装機器点検
5. 総合評価

1. 点検要領

1) 各制御盤

点検方法: 目視及び測定器にて異常の有無を調べる

点検項目: 清掃、端子増し締め

損傷、腐食、浸水、変色の無い事

2) 電動機

点検方法: 絶縁・電流測定の実施

点検項目: 別紙参照「電流・絶縁抵抗測定表」による

3) 計装機器

点検方法: キャリブレータから模擬信号を出力して実施

点検項目: 別紙参照「計装点検表」による

4) 使用測定機器

デジタルマルチメーター	KEW MATE 2001	シリアルNo.0152223
絶縁抵抗計	KYORITSU KEW3315	シリアルNo.0075241
クランプメータ	KEW SNAP 2031	シリアルNo.0000077
キャリブレータ	CA150	シリアルNo.0000077

焼却炉設備制御盤

《保守・点検チェックリスト》

【盤名称: 焼却炉配電操作盤】

点検日: 2023年 6月 13日

点検者: 対象外

項目	判定基準	実施項目	実施結果	備考
1 一次電源電圧は正常か	AC360V～AC440V以内	○	419V	
2 一次電源電圧は正常か	AC180V～AC220V以内	○	208V	
3 電磁接触器のスパーク痕跡が無い事	目視にて確認	○	良 否	
4 リレーのスパーク痕跡が無い事	目視にて確認	○	良 否	
5	ほこりの除去・清掃	○	良 否	
6 電線に損傷または変色が無い事	目視にて確認	○	良 否	
7 絶縁抵抗測定	1MΩ以上	○	別紙参照	
8 電流測定		○	別紙参照	
9				
10				
11				
12				
13				
14 電磁接触器の端子に緩みが無い事	ドライバにて増し締め	○	良 否	
15 リレーの端子に緩みが無い事	ドライバにて増し締め	○	良 否	
16 端子台の端子に緩みが無い事	ドライバにて増し締め	○	良 否	
17				
18				
19 押し釦の外観および作動は良いか	目視及び手操作にて確認	○	良 否	
20 表示灯の外観および点灯状態は良いか	目視にて確認	○	良 否	
21 調節計の表示は良いか	キャリブレーションにて確認	○	別紙参照	
22				
23				
24				
25				

【記 事】

1. No.1送風機サーマルユニットの端子に錆が見受けられます
- 2.
- 3.

焼却炉設備制御盤

《 保 守 ・ 点 検 チェックリスト 》

【盤名称:排風機盤】

点検日: 2023年 6月 13日

点検者: 対象外

	項 目	判定基準	実施項目	実施結果	備考
1	一次電源電圧は正常か	AC360V～AC440V以内	○	418V	
2	電磁接触器のスパーク痕跡が無い事	目視にて確認	○	Ⓐ 良 否	
3	リレーのスパーク痕跡が無い事	目視にて確認	○	Ⓐ 良 否	
4		ほこりの除去・清掃	○	Ⓐ 良 否	
5	電線に損傷または変色が無い事	目視にて確認	○	Ⓐ 良 否	
6	絶縁抵抗測定	1MΩ 以上	○	別紙参照	
7	電流測定		○	別紙参照	
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14	電磁接触器の端子に緩みが無い事	ドライバにて増し締め	—	Ⓐ 良 否	
15	リレーの端子に緩みが無い事	ドライバにて増し締め	○	Ⓐ 良 否	
16	端子台の端子に緩みが無い事	ドライバにて増し締め	○	Ⓐ 良 否	
17					
18					
19	押し釦の外観および作動は良いか	目視及び手操作にて確認	○	Ⓐ 良 否	
20	表示灯の外観および点灯状態は良いか	目視にて確認	○	Ⓐ 良 否	
21					
22					
23					
24					
25					

【 記 事 】

- 1,
- 2,
- 3,

焼却炉設備制御盤

《保守・点検チェックリスト》

【盤名称: 焼却炉投入装置制御盤】点検日: 2023年 6月 13日

点検者: 対象外

項目	判定基準	実施項目	実施結果	備考
1 一次電源電圧は正常か	AC180V～AC220V以内	○	206V	
2 AVR出力電圧は正常か	DC19.2V～DC26.4V以内	○	23.95V	
3 電磁接触器のスパーク痕跡が無い事	目視にて確認	○	良 否	
4 リレーのスパーク痕跡が無い事	目視にて確認	○	良 否	
5	ほこりの除去・清掃	○	良 否	
6 電線に損傷または変色が無い事	目視にて確認	○	良 否	
7 シーケンサのコネクタに緩みが無い事	ドライバにて増し締め	○	良 否	
8 シーケンサのカードに緩みが無い事	ドライバにて増し締め	○	良 否	
9 絶縁抵抗測定	1MΩ以上	○	別紙参照	
10 電流測定		○	別紙参照	
11				
12				
13				
14 電磁接触器の端子に緩みが無い事	ドライバにて増し締め	○	良 否	
15 リレーの端子に緩みが無い事	ドライバにて増し締め	○	良 否	
16 端子台の端子に緩みが無い事	ドライバにて増し締め	○	良 否	
17				
18				
19 押し釦の外観および作動は良いか	目視及び手操作にて確認	○	良 否	
20 表示灯の外観および点灯状態は良いか	目視にて確認	○	良 否	
21 温度表示盤の表示は良いか	目視にて確認	○	良 否	
22				
23				
24				
25				

【記 事】

- 「運転準備」、「プッシャ後退」のランプが破損しています
-
-

焼却炉設備制御盤

《保守・点検チェックリスト》

【盤名称:バグフィルタ制御盤】

点検日: 2023年 6月 13日

点検者: 対象外

項目	判定基準	実施項目	実施結果	備考
1 一次電源電圧は正常か	AC180V～AC220V以内	○	203V	
2 電磁接触器のスパーク痕跡が無い事	目視にて確認	○	良 否	
3 リレーのスパーク痕跡が無い事	目視にて確認	○	良 否	
4	ほこりの除去・清掃	○	良 否	
5 電線に損傷または変色が無い事	目視にて確認	○	良 否	
6 シーケンサのコネクタに緩みが無い事	ドライバにて増し締め	○	良 否	
7 シーケンサのカードに緩みが無い事	ドライバにて増し締め	○	良 否	
8 絶縁抵抗測定	1MΩ以上	○	別紙参照	
9 電流測定		○	別紙参照	
10				
11				
12				
13				
14 電磁接触器の端子に緩みが無い事	ドライバにて増し締め	○	良 否	
15 リレーの端子に緩みが無い事	ドライバにて増し締め	○	良 否	
16 端子台の端子に緩みが無い事	ドライバにて増し締め	○	良 否	
17				
18				
19 押し釦の外観および作動は良いか	目視及び手操作にて確認	○	良 否	
20 表示灯の外観および点灯状態は良いか	目視にて確認	○	良 否	
21 タッチパネルの表示および作動は良いか	目視及び手操作にて確認	○	良 否	
22				
23				
24				
25				

【記 事】

- 1, フィルタが目詰まりしています
- 2, ファンから異音がしています
- 3,

焼却炉設備制御盤

《保守・点検チェックリスト》

【盤名称:ポンプ制御盤】

点検日: 2023年 6月 13日

点検者: 対象外

	項 目	判定基準	実施項目	実施結果	備考
1	一次電源電圧は正常か	AC180V～AC220V以内	○	209V	
2	電磁接触器のスパーク痕跡が無い事	目視にて確認	○	Ⓐ 否	
3	リレーのスパーク痕跡が無い事	目視にて確認	○	Ⓐ 否	
4		ほこりの除去・清掃	○	Ⓐ 否	
5	電線に損傷または変色が無い事	目視にて確認	○	Ⓐ 否	
6	絶縁抵抗測定	1MΩ以上	○	別紙参照	
7	電流測定		○	別紙参照	
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14	電磁接触器の端子に緩みが無い事	ドライバにて増し締め	○	Ⓐ 否	
15	リレーの端子に緩みが無い事	ドライバにて増し締め	○	Ⓐ 否	
16	端子台の端子に緩みが無い事	ドライバにて増し締め	○	Ⓐ 否	
17					
18					
19	押し釦の外観および作動は良いか	目視及び手操作にて確認	○	Ⓐ 否	
20	表示灯の外観および点灯状態は良いか	目視にて確認	○	Ⓐ 否	
21					
22					
23					
24					
25					

【記 事】

1.

2.

3.

《電流・絶縁抵抗測定結果》

点検日: 2023年 6月 13日

制御盤名称	機器名称	容量 [kW]	定格電流 [A]	設定値 [A]	電流測定値 [A]	絶縁抵抗値 [MΩ]	判定	測定箇所	備考
焼却炉配電操作盤	No.1送風機	45	95	80	57.5	100	良	U1,V1,W1	
	No.2送風機	11	24	22	19.1	100	良	U2,V2,W2	
	No.3送風機	11	24	22	18.7	100	良	U3,V3,W3	
	No.4送風機	11	24	22	17.2	15	良	U4,V4,W4	
	No.1冷却用ポンプ	15	32	30	—	100	—	U5,V5,W5	未使用
	No.2冷却用ポンプ	15	32	32	18.2	100	良	U6,V6,W6	
	No.1給水ポンプ	1.5	8	6.5	—	100	否	U7,V7,W7	
	循環ポンプ	7.5	34	30	15.4	100	良	U10,V10,W10	
	No.2給水ポンプ	2.2	11.1	9	5.8	100	良	U11,V11,W11	
	外気取り入れダンパー	0.13	1.2	1.2	—	100	—	U12,V12,W12	未使用
	緊急開放弁モーター	0.4	3.6	—	3.5	100	良	U13,V13,W13	
排風機盤	排風機	45	180	165	81.2	100	良	U1,V1,W1	
焼却炉投入装置制御盤	油圧ポンプ	11	48	43	31.1	100	良	U1,V1,W1	
バグフィルタ制御盤	温風循環ファン	3.7	17.4	9	3.8	100	良	U1,V1,W1	
	スクリーコンベヤ	2.2	11.1	10	6.2	100	良	U2,V2,W2	
	ロータリーバルブ	0.75	4.8	10	2.7	1	良	U3,V3,W3	
	循環ヒータ1	12.5	36	—	—	60	—	UH1A,VH1A,WH1A	未使用
	循環ヒータ2	12.5	36	—	—	100	—	UH1B,VH1B,WH1B	未使用
	コンベヤヒータ	3	8.6	—	8.3	100	良	UH2,VH2,WH2	
	ボトムヒータ1	9	25.9	—	25.1	100	良	UH3,VH3,WH3	
	ボトムヒータ2	9	25.9	—	25.3	100	良	UH4,VH4,WH4	
	ルーツブロワ	3.7	17.4	15	8.5	100	良	U4,V4,W4	
	活性炭切出装置	0.2	1.8	—	—	0.3	—	U5,V5,W5	33Hz時
	消石灰切出装置	0.2	1.8	—	1.2	100	良	U4,V6,W6	
	活性炭貯槽バイブレータ	0.15	0.9	0.9	—	5	—	U7,V7,W7	未使用
	消石灰貯槽バイブレータ	0.15	0.9	0.9	—	10	—	U8,V8,W8	未使用
	コンプレッサ通常時1F	22	93	—	63.5	5	良	U9A,V9A,W9A	
ポンプ制御盤	ラインポンプ1	3.7	17.4	15	10.3	100	良	U1,V1,W1	
	ラインポンプ2	3.7	17.4	15	10.7	100	良	U2,V2,W2	
	地下タンク移送ポンプ	7.5	34	30	—	100	—	U3,V3,W3	未使用
	蒸気水排出ポンプ	2.2	11.1	9	4.8	100	良	U4,V4,W4	

機器の名称 及び項目	計装機器点検 調節計	点検機場	比留間運送殿
		点検者	対象外

Tag.No.	TC1	点検日	令和 5年 6月 13日
対象	炉内温度	測定範囲	入力 0~1200℃(K対)
設置場所	焼却炉配電操作盤		出力 —
計器名称	調節計		指示 0~1200℃
型式	不開示	供給源	AC200V
メーカー名	不開示	製造年月	—
許容誤差	±0.25%F.S.	製造番号	—

点検箇所	点検項目	点検方法	判定基準	今回点検	判定	備考
本体	汚損、損傷、取付状態	目視	汚損、損傷、外観確認	○	良	
	清掃	ほこり除去	—			
	端子部増結	ドライバーにて点検	ゆるみがないか	○	良	
	出力値の確認	模擬信号を入力	動作値 誤差の有無	○	良	
						PID設定
警報点	EV1	—	—	—		P: —
	EV2	—	—	—		I: —
						D: —
						SP: —

測定点	基準値		検査項目							
	入力	指示	調整前				調整後			
			測定値	誤差			測定値	誤差		
%	℃	℃	℃	%			℃	%		
0	0.0	0	0	0.00						
25	300.0	300	300	0.00						
50	600.0	600	600	0.00						
75	900.0	900	901	0.08						
100	1200.0	1200	1200	0.00						

備考	試験機器
	—
	試験器番号
	—

不開示	不開示
不開示	不開示

機器の名称 及び項目	計装機器点検 調節計	点検機場	比留間運送股
		点検者	対象外

Tag.No.	TC2	点検日	令和 5年 6月 13日
対象	炉出口温度	測定範囲	入力 0~1200℃(K対)
設置場所	焼却炉配電操作盤		出力 —
計器名称	調節計		指示 0~1200℃
型式	不開示	供給源	AC200V
メーカー名	不開示	製造年月	—
許容誤差	±0.25%F. S.	製造番号	—

点検箇所	点検項目	点検方法	判定基準	今回点検	判定	備考
本体	汚損、損傷、取付状態	目視	汚損、損傷、外観確認	○	良	
	清掃	ほこり除去	—			
	端子部増縛	ドライバーにて点検	ゆるみが無い	○	良	
	出力値の確認	模擬信号を入力	動作値 誤差の有無	○	良	
						PID設定
警報点	EV1	—	—	—		P: —
	EV2	—	—	—		I: —
						D: —
						SP: —

測定点	基準値		検査項目							
	入力	指示	調整前				調整後			
			測定値	誤差			測定値	誤差		
%	℃	℃	℃	%			℃	%		
0	0.0	0	0	0.00						
25	300.0	300	300	0.00						
50	600.0	600	600	0.00						
75	900.0	900	900	0.00						
100	1200.0	1200	1200	0.00						

備考	試験機器
	—
	試験器番号
	—

不開示

不開示

不開示

機器の名称 及び項目	計装機器点検 調節計	点検機場	比留間運送殿	
		点検者		対象外

Tag.No.	TC3	点検日	令和 5年 6月 13日	
対象	熱交出口温度	測定範囲	入力	0~1200℃(K封)
設置場所	焼却炉配電操作盤		出力	—
計器名称	調節計		指示	0~1200℃
型式	不開示	供給源	AC200V	
メーカー名	不開示	製造年月	—	
許容誤差	±0.25%F. S.	製造番号	—	

点検箇所	点検項目	点検方法	判定基準	今回点検	判定	備考
本体	汚損、損傷、取付状態	目視	汚損、損傷、外観確認	○	良	
	清掃	ほこり除去	—			
	端子部増結	ドライバーにて点検	ゆるみが無い	○	良	
	出力値の確認	模擬信号を入力	動作値 誤差の有無	○	良	
						PID設定
警報点	EV1	—	—	—		P: —
	EV2	—	—	—		I: —
						D: —
						SP: —

測定点	基準値		検査項目							
	入力	指示	調整前				調整後			
			測定値	誤差			測定値	誤差		
%	℃	℃	℃	%			℃	%		
0	0.0	0	0	0.00						
25	300.0	300	300	0.00						
50	600.0	600	600	0.00						
75	900.0	900	900	0.00						
100	1200.0	1200	1200	0.00						

備考	試験機器	
		—
	試験器番号	
		—

不開示

不開示

機器の名称 及び項目	計装機器点検 調節計	点検機場	比留間運送殿
		点検者	対象外

Tag.No.	TC4	点検日	令和 5年 0月 13日
対象	サイクロン出口温度	測定範囲	入力 0~1200℃(K対)
設置場所	焼却炉配電操作盤		出力 —
計器名称	調節計		指示 0~1200℃
型式	不開示	供給源	AC200V
メーカー名	不開示	製造年月	—
許容誤差	±0.25%F. S.	製造番号	—

点検箇所	点検項目	点検方法	判定基準	今回点検	判定	備考
本体	汚損、損傷、取付状態	目視	汚損、損傷、外観確認	○	良	
	清掃	ほこり除去	—			
	端子部増締	ドライバーにて点検	ゆるみが無い	○	良	
	出力値の確認	模擬信号を入力	動作値 誤差の有無	○	良	
						PID設定
警報点	EV1	—	—	—		P: —
	EV2	—	—	—		I: —
						D: —
						SP: —

測定点	基準値		検査項目							
	入力	指示	調整前				調整後			
			測定値	誤差			測定値	誤差		
%	℃	℃	℃	%			℃	%		
0	0.0	0	0	0.00						
25	300.0	300	300	0.00						
50	600.0	600	600	0.00						
75	900.0	900	900	0.00						
100	1200.0	1200	1200	0.00						

備考	試験機器
	—
	試験器番号
	—

不開示	不開示
不開示	不開示

機器の名称 及び項目	計装機器点検 調節計	点検機場	比留間運送殿
		点検者	対象外

TagNo.	CA1	点検日	令和 5年 6月 13日
対象	循環温度	測定範囲	入力 0~1200℃(K対)
設置場所	バグフィルタ制御盤		出力 —
計器名称	アナログ入力ユニット		指示 0~1200℃
型式	不表示	供給源	—
メーカー名	不表示	製造年月	—
許容誤差	±0.4%F. S.	製造番号	—

点検箇所	点検項目	点検方法	判定基準	今回点検	判定	備考
本体	汚損、損傷、取付状態	目視	汚損、損傷、外観確認	—	—	
	清掃	ほこり除去	—			
	端子部増締	ドライバーにて点検	ゆるみが無い	—	—	
	出力値の確認	模擬信号を入力	動作値 誤差の有無	—	—	
						PID設定
警報点	EV1	—	—	—		P: —
	EV2	—	—	—		I: —
						D: —
						SP: —

測定点	基準値		検査項目							
	入力	指示	調整前				調整後			
			測定値	誤差			測定値	誤差		
%	℃	℃	℃	%			℃	%		
0	0.0	0								
25	300.0	300								
50	600.0	600								
75	900.0	900								
100	1200.0	1200								

備考	試験機器
未接続	—
	試験器番号
	—

不表示	不表示
不表示	不表示

機器の名称	計装機器点検	点検機場	比留間運送殿
及び項目	調節計	点検者	対象外

TagNo.	CA2	点検日	令和 5年 6月 13日
対象	構内温度	測定範囲	入力 0~1200℃(K対)
設置場所	バグフィルタ制御盤		出力 —
計器名称	アナログ入力ユニット		指示 0~1200℃
型式	不開示	供給源	—
メーカー名	不開示	製造年月	—
許容誤差	±0.4%F. S.	製造番号	—

点検箇所	点検項目	点検方法	判定基準	今回点検	判定	備考
本体	汚損、損傷、取付状態	目視	汚損、損傷、外観確認	○	良	
	清掃	ほこり除去	—			
	端子部増締	ドライバーにて点検	ゆるみが無い	○	良	
	出力値の確認	模擬信号を入力	動作値 誤差の有無	○	良	
						PID設定
警報点	EV1	—	—	—		P: —
	EV2	—	—	—		I: —
						D: —
						SP: —

測定点	基準値		検査項目							
	入力	指示	調整前				調整後			
			測定値	誤差			測定値	誤差		
%	℃	℃	℃	%			℃	%		
0	0.0	0	0.0	0.00						
25	200.0	200	200.2	0.02						
50	400.0	400	400.2	0.02						
75	600.0	600	600.2	0.03						
100	800.0	800	800.3	0.04						

備考	試験機器
	—
	試験器番号
	—

不開示

不開示

不開示

機器の名称 及び項目	計装機器点検 調節計	点検機場	比留間運送殿
		点検者	対象外

TagNo.	CA3	点検日	令和 5年 6月 13日
対象	スクリー温度	測定範囲	入力 0~1200℃(K対)
設置場所	バグフィルタ制御盤		出力 —
計器名称	アナログ入力ユニット		指示 0~1200℃
型式	不開示	供給源	—
メーカー名	不開示	製造年月	—
許容誤差	±0.4%F. S.	製造番号	—

点検箇所	点検項目	点検方法	判定基準	今回点検	判定	備考
本体	汚損、損傷、取付状態	目視	汚損、損傷、外観確認	○	良	
	清掃	ほこり除去	—			
	端子部増補	ドライバーにて点検	ゆるみが無い	○	良	
	出力値の確認	模擬信号を入力	動作値 誤差の有無	○	良	
						PID設定
警報点	EV1	—	—	—		P: —
	EV2	—	—	—		I: —
						D: —
						SP: —

測定点	基準値		検査項目							
	入力	指示	調整前				調整後			
			測定値	誤差			測定値	誤差		
%	℃	℃	℃	%			℃	%		
0	0.0	0	0.0	0.00						
25	200.0	200	200.0	0.00						
50	400.0	400	399.9	-0.01						
75	600.0	600	600.0	0.00						
100	800.0	800	800.1	0.01						

備考	試験機器
	—
	試験器番号
	—

不開示

不開示

不開示

機器の名称 及び項目	計装機器点検 調節計	点検機場	比留間運送殿
		点検者	対象外

Tag.No.	CA5	点検日	令和 5年 6月 13日
対象	循環ヒータ過熱防止温度	測定範囲	入力 0~1200℃(K対)
設置場所	バグフィルタ制御盤		出力 —
計器名称	アナログ入力ユニット		指示 0~1200℃
型式	不開示	供給源	—
メーカー名	不開示	製造年月	—
許容誤差	±0.4%F. S.	製造番号	—

点検箇所	点検項目	点検方法	判定基準	今回点検	判定	備考
本体	汚損、損傷、取付状態	目視	汚損、損傷、外観確認	○	良	
	清掃	ほこり除去	—			
	端子部増締	ドライバーにて点検	ゆるみが無いか	○	良	
	出力値の確認	模擬信号を入力	動作値 誤差の有無	○	良	
						PID設定
警報点	EV1	—	—	—		P: —
	EV2	—	—	—		I: —
						D: —
						SP: —

測定点	基準値		検査項目							
	入力	指示	調整前				調整後			
			測定値	誤差			測定値	誤差		
%	℃	℃	℃	%			℃	%		
0	0.0	0	0.0	0.00						
25	200.0	200	200.0	0.00						
50	400.0	400	400.0	0.00						
75	600.0	600	600.0	0.00						
100	800.0	800	800.1	0.01						

備考	試験機器
	—
	試験器番号
	—

不開示

不開示

不開示

機器の名称 及び項目	計装機器点検 調節計	点検機場	比留間運送殿		
		点検者		対象外	

TagNo.	AS		点 検 日	令和 5年 6月 13日		
対象	差圧		測定範囲	入力	4～20mA	
設置場所	バグフィルタ制御盤			出力	—	
計器名称	アナログ入力ユニット			指示	0～5000Pa	
型式	不開示		供給源	—		
メーカー名	不開示		製造年月	—		
許容誤差	±0.4%F. S.		製造番号	—		
点検箇所	点検項目	点検方法	判定基準	今回点検	判定	備考
本体	汚損、損傷、取付状態	目視	汚損、損傷、外観確認	○	良	
	清掃	ほこり除去	—			
	端子部増結	ドライバーにて点検	ゆるみがないか	○	良	
	出力値の確認	模擬信号を入力	動作値 誤差の有無	○	良	
						PID設定
警報点	EV1	—	—	—		P: —
	EV2	—	—	—		I: —
						D: —
						SP: —

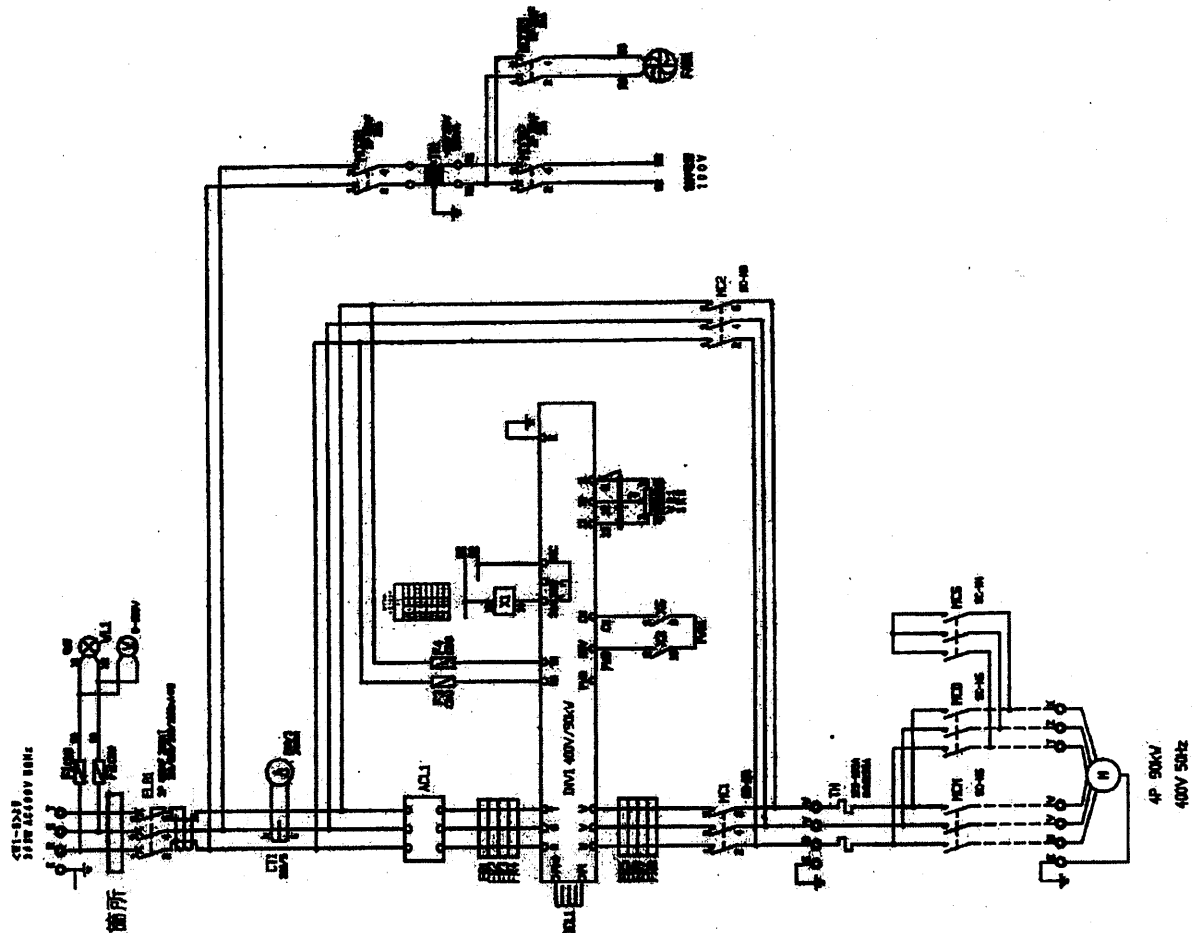
測定点	基準値		検査項目							
	入力	指示	調整前				調整後			
			測定値	誤差			測定値	誤差		
%	mA	Pa	Pa	%			℃	%		
0	4.0	0	0	0.00						
25	8.0	125	116	-1.80						
50	12.0	250	241	-1.80						
75	16.0	375	366	-1.80						
100	20.0	500	491	-1.80						

備考	試験機器	
		—
	試験器番号	
		—

不開示	不開示
不開示	不開示

5. 総合評価

1. 焼却炉配電操作盤ないNo.1送風機サーマルユニットの端子に錆が見受けられます。
2. 焼却炉投入装置制御盤ない「運転準備」、「プッシャ後退」のランプが破損しています。交換をお願いします。
3. バグフィルタ制御盤のフィルタが目詰まりしています。
交換をお願いします。
4. バグフィルタ制御盤のファンから異音がしています。
交換をお願いします。
5. No.1給水ポンプの電流測定の際にポンプが動作しませんでした。
調査をお願いします。



アナライザ接続箇所

図号 DRAWING NO.		名 称 NAME		訂 正 REVISION		図 名 NAME	
比翼間運送株式会社		比翼間運送株式会社		比翼間運送株式会社		比翼間運送株式会社	
設計・監製 DESIGN & SUPERVISOR		対象外		検閲 CHECK		検閲 CHECK	
不 開 示		不 開 示		不 開 示		NOT	
不 開 示		不 開 示		不 開 示		NOT	

令和5年 / 〇 月 / 〇 日

積替え保管施設 事前計画書

(産業廃棄物)・特別管理産業廃棄物)

東京都知事 殿

〔申請者又は届出者〕



郵便番号 〒
住 所 東京都武蔵村山市中央二丁目18番地の3
名 称 株式会社
代表者氏名 比留間 宏
電話番号 042-565-1336
FAX番号 042-561-2271

対象外

対象外

申請又は届出の区分	(産業廃棄物) ・ 特別管理産業廃棄物 新規許可 ・ 変更許可 ・ (更新許可) ・ 変更届		
積替え保管施設の所在地	東京都武蔵村山市伊奈平3丁目25番地の5		
用 途 地 域	工業専用地域・(工業地域)・準工業地域・商業地域・その他()		
作 業 時 間	8時から20時まで		
積替え保管施設に関する変更事項	有 ・ (無)		
積替え保管施設の面積	8226.7 m ²		
許可の有効年月日	令和5年12月19日		
東京都における他の許可の有無	無 ・ (有) (産業廃棄物処分量、特別管理産業廃棄物収集運搬業)		
右記産業廃棄物の取扱いの有無	収集運搬	石綿含有産業廃棄物	(有) ・ 無
		水銀使用製品産業廃棄物	(有) ・ 無
		水銀含有ばいじん等	(有) ・ 無
	積替え保管	石綿含有産業廃棄物	(有) ・ 無
		水銀使用製品産業廃棄物	(有) ・ 無
		水銀含有ばいじん等	(有) ・ 無
担当者及び連絡先	比留間運送株式会社 総務部 (対象外)		
	TEL:042-565-1336 FAX:042-561-2271		

産業廃棄物収集運搬業許可証

住所 東京都武蔵村山市中央二丁目 18 番地の 3

氏名 比留間運送株式会社
代表取締役 比留間 宏明

優良

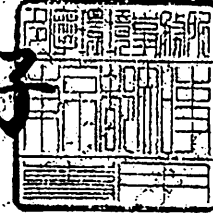
第 14 条第 1 項
廃棄物の処理及び清掃に関する法律

第 14 条の 2 第 1 項

の許可を受けた者であることを証する。

東京都知事

小池百合子



許可の年月日 平成 28 年 12 月 20 日

許可の有効年月日 令和 5 年 12 月 19 日

1 事業の範囲

(1) 業の区分: 収集運搬 (積替え保管を含む。)

(2) 取り扱う産業廃棄物の種類

燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、
動植物性残さ、動物系固形不要物、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及
び陶磁器くず、鉱さい、がれき類、動物のふん尿、動物の死体、ばいじん、政令 13 号廃棄
物 (コンクリート固化物に限る。)(石綿含有産業廃棄物を含む。)(水銀使用製品産業廃棄物を含む。)(水銀含有ばいじん
等を含む。)(以上 20 種類)

(3) 積替え保管できる産業廃棄物の種類 (限定内容は 2 頁、3 頁のとおり)

燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、
金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類(石綿含有産業廃棄物を含む。)(水銀使用製品産業廃棄物を含む。)(水銀含有ばいじん
等を含む。)(以上 12 種類)

2 積替え保管施設 (施設詳細は 2 頁、3 頁のとおり)

(1) 施設所在地: 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目 25 番地の 5

(2) 施設所在地: 東京都あきる野市二宮字下塚場 375 番 1

(3) 施設所在地: 東京都西多摩郡瑞穂町大字富士山栗原新田字富士原 237 番 1 外 1 筆

3 許可の条件

(1) 作業時間は原則として、2(1)の施設は 8 時から 20 時まで、2(2)の施設は 8 時から 19 時
まで、2(3)の施設は 8 時から 17 時までとすること。(2) 積替え保管を行う産業廃棄物の搬出は全て自ら行うこと。ただし、石綿含有産業廃棄物につい
てはこの限りでない。(3) 「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」、「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例」
及びその他の関係法令を遵守すること

(4) 積替え保管は本都の承認を得た方法により行うこと

4 許可の更新・変更の状況

平成 3 年 12 月 20 日 新規許可

平成 28 年 12 月 20 日 更新許可 第 5 回

平成 29 年 3 月 17 日 変更許可 種類の追加 (動物系固形廃棄物 他 4 種類)

平成 30 年 9 月 21 日 変更届 積替え保管面積の変更 (武蔵村山市、あきる野市)

5 積替え許可の有無 無

6 規則第 9 条の 2 第 6 項の規定による許可証の提出の有無 無

(1/3)



2 積替え保管施設

- (1) 施設所在地: 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目 25 番地の 5
 積替え保管面積: 822.67 m² 最大保管高さ: 1.5 m

産業廃棄物の種類 (限定内容)	保管量
燃え殻、汚泥	コンテナ 6.8 m ³ × 3 個 20.4 m ³
燃え殻 (水銀含有ばいじん等)	コンテナ 6.8 m ³ × 1 個 6.8 m ³
廃油	ドラム缶 0.2 m ³ × 3 個 0.6 m ³
廃酸	ドラム缶 0.2 m ³ × 2 個 0.4 m ³
廃酸 (水銀含有ばいじん等)	ドラム缶 0.2 m ³ × 1 個 0.2 m ³
廃アルカリ	ドラム缶 0.2 m ³ × 2 個 0.4 m ³
廃アルカリ (水銀含有ばいじん等)	ドラム缶 0.2 m ³ × 1 個 0.2 m ³
汚泥、廃プラスチック類、金属くずの混合物 (消火器)	ドラム缶 0.2 m ³ × 3 個 0.6 m ³
汚泥、金属くずの混合物 (電池)	ドラム缶 0.2 m ³ × 2 個 0.4 m ³
汚泥、金属くずの混合物 (電池) (水銀使用製品産業廃棄物)	ドラム缶 0.2 m ³ × 1 個 0.2 m ³
廃プラスチック類、金属くずの混合物 (バッテリー)	ドラム缶 0.2 m ³ × 1 個 0.2 m ³

産業廃棄物の種類 (限定内容)	保管量
廃プラスチック類、金属くずの混合物 (バッテリーのうち特別管理産業廃棄物である廃酸を内部に有するもの。)	ドラム缶 0.2 m ³ × 1 個 0.2 m ³
廃プラスチック類、金属くずの混合物 (バッテリーのうち特別管理産業廃棄物である廃アルカリを内部に有するもの。)	ドラム缶 0.2 m ³ × 1 個 0.2 m ³
廃プラスチック類、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類 (石綿含有産業廃棄物)	コンテナ 10.2 m ³ × 2 個 20.4 m ³
合計保管量	51.2 m ³

- (2) 施設所在地: 東京都あきる野市二宮平下塚場 375 番 1
 積替え保管面積: 1,054 m² 最大保管高さ: 3.0 m

産業廃棄物の種類 (限定内容)	保管量
廃プラスチック類、紙くず、繊維くず (廃量)	直置き 2ヶ所 (28.8 + 28.8) m ³ 57.6 m ³
廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類	直置き 3ヶ所 (59.5 + 28.8 + 55.6) m ³ 143.9 m ³
廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類	直置き 5ヶ所 (28.8 + 28.8 + 230.2) m ³ 340.7 m ³
廃プラスチック類	直置き 28.8 m ³
木くず	コンテナ 27.0 m ³ × 1 個 27.0 m ³
金属くず	コンテナ 27.0 m ³ × 1 個 27.0 m ³
廃プラスチック類、紙くず、木くず	コンテナ 2ヶ所 (27.0 × 1 個 + 10.2 × 2 個) m ³ 47.4 m ³
汚泥	コンテナ 27.0 m ³ × 1 個 27.0 m ³
廃プラスチック類、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず (石膏ボード)	コンテナ 10.2 m ³ × 2 個 20.4 m ³
廃プラスチック類、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類 (石綿含有産業廃棄物)	コンテナ 10.2 m ³ × 2 個 20.4 m ³

産業廃棄物の種類 (限定内容)	保管量
廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くずの混合物 (廃蛍光灯) (水銀使用製品産業廃棄物)	コンテナボックス 8.0 m ³ × 1 個 8.0 m ³
汚泥、廃プラスチック類、金属くずの混合物 (消火器)	ドラム缶 0.2 m ³ × 3 個 0.6 m ³
汚泥、金属くずの混合物 (電池)	ドラム缶 0.2 m ³ × 2 個 0.4 m ³
汚泥、金属くずの混合物 (電池) (水銀使用製品産業廃棄物)	ドラム缶 0.2 m ³ × 1 個 0.2 m ³
廃プラスチック類、金属くずの混合物 (バッテリー)	ドラム缶 0.2 m ³ × 1 個 0.2 m ³
廃プラスチック類、金属くずの混合物 (バッテリーのうち特別管理産業廃棄物である廃酸を内部に有するもの。)	ドラム缶 0.2 m ³ × 1 個 0.2 m ³
廃プラスチック類、金属くずの混合物 (バッテリーのうち特別管理産業廃棄物である廃アルカリを内部に有するもの。)	ドラム缶 0.2 m ³ × 1 個 0.2 m ³
廃油	ドラム缶 0.2 m ³ × 3 個 0.6 m ³
廃酸	ドラム缶 0.2 m ³ × 2 個 0.4 m ³
廃酸 (水銀含有ばいじん等)	ドラム缶 0.2 m ³ × 1 個 0.2 m ³
廃アルカリ	ドラム缶 0.2 m ³ × 2 個 0.4 m ³
廃アルカリ (水銀含有ばいじん等)	ドラム缶 0.2 m ³ × 1 個 0.2 m ³
合計保管量	751.8 m ³

2 積替え保管施設

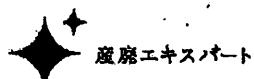
(3) 施設所在地：東京都西多摩郡瑞穂町大字富士山栗原新田字富士原237番1外1筆
積替え保管面積：2,891㎡ 最大保管高さ：3.0m

産業廃棄物の種類 (限定内容)	保管量
廃プラスチック類、木くず、繊維くず、金属くず	直置き 300.5㎡
廃プラスチック類	コンテナ 3ヶ所 (35.4+23.7+27.0)㎡ 86.1㎡ 直置き 62.0㎡
廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類	直置き 3ヶ所 (116.6+62.0)㎡ 178.5㎡
廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類	直置き 3ヶ所 (103.3+82.5+55.4)㎡ 241.2㎡
ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	直置き 3ヶ所 (62.0+59.4+48.0)㎡ 169.4㎡
がれき類	直置き 2ヶ所 (59.4+37.8)㎡ 97.2㎡
廃プラスチック類、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類 (石綿含有産業廃棄物)	フレコンバック 1.0㎡×72袋 72.0㎡
紙くず	コンテナ 10.2㎡×1個 10.2㎡
木くず	コンテナ 10.2㎡×1個 10.2㎡
汚泥（水銀含有ばいじん等）	コンテナ 27.0㎡×1個 27.0㎡

廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くずの混合物（廃ランプ）（水銀使用製品産業廃棄物を除く。）	ドラム缶 0.2㎡×1個	0.2㎡
廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くずの混合物（廃蛍光灯）（水銀使用製品産業廃棄物）	ドラム缶 0.2㎡×2個	0.4㎡
汚泥、廃プラスチック類、金属くずの混合物（消火器）	ドラム缶 0.2㎡×3個	0.6㎡
汚泥、金属くずの混合物（電池）	ドラム缶 0.2㎡×2個	0.4㎡
汚泥、金属くずの混合物（電池）（水銀使用製品産業廃棄物）	ドラム缶 0.2㎡×1個	0.2㎡
廃プラスチック類、金属くずの混合物（バッテリー）	ドラム缶 0.2㎡×1個	0.2㎡
廃プラスチック類、金属くずの混合物（バッテリーのうち特別管理産業廃棄物である廃酸を内部に有するもの。）	ドラム缶 0.2㎡×1個	0.2㎡
廃プラスチック類、金属くずの混合物（バッテリーのうち特別管理産業廃棄物である廃アルカリを内部に有するもの。）	ドラム缶 0.2㎡×1個	0.2㎡
廃油	ドラム缶 0.2㎡×3個	0.6㎡
廃酸	ドラム缶 0.2㎡×2個	0.4㎡
廃酸（水銀含有ばいじん等）	ドラム缶 0.2㎡×1個	0.2㎡
廃アルカリ	ドラム缶 0.2㎡×2個	0.4㎡
廃アルカリ（水銀含有ばいじん等）	ドラム缶 0.2㎡×1個	0.2㎡
ガラスくずコンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類	直置き	55.4㎡
合計保管量		1313.9㎡

(以下余白)

(3/3)



産廃エキスパート

この許可証には複製の不正防止処置を施してあります。



東京都

産業廃棄物処分業許可証

住所 東京都武蔵村山市中央二丁目 18 番地の 3

氏名 比留間運送株式会社
代表取締役 比留間 宏明

優良

廃棄物の処理及び清掃に関する法律（第 14 条第 6 項）の許可を受けた者であることを証する。

東京都知事

小池百合子



許可の年（月）日 令和 3 年 12 月 20 日

許可の有効年（月）日 令和 10 年 12 月 19 日

事業の範囲

(1) 業の区分（処分（中間処理））

(2) 処分の方法と取り扱う産業廃棄物の種類（限定内容は裏面のとおり）

破 砕：廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類
（水銀使用製品産業廃棄物を含む。）

溶 融：廃プラスチック類

焼 却：紙くず、木くず、繊維くず、動植物性廃棄物

圧 縮：金属くず

圧縮梱包：廃プラスチック類、紙くず、繊維くず

発 酵：汚泥（有機性のものに限る。） 動植物性廃棄物

造粒固化：ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず（石膏ボード・軽量気泡コンクリート等の破砕処理後のものに限る。）がれき類、破砕処理後のものに限る。）

（以上 8 種類）

（以上 1 種類）

（以上 4 種類）

（以上 1 種類）

（以上 3 種類）

（以上 2 種類）

（以上 2 種類）

事業の用に供する施設（施設詳細は裏面のとおり）

所在地 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目 25 番地の 5

3. 許可の条件

(1) 作業時間は原則として、焼却施設は 8 時から 17 時まで、焼却施設以外の施設は 8 時から 20 時までとする。

(2) 「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」「都民の健康と安全を確保する等の関係法令」及びその他の関係法令を遵守すること。

(3) 中間処理は都の承認を得た方法により行うこと。

4. 許可の更新・変更の状況

平成 3 年 12 月 20 日 新規許可

令和 3 年 12 月 20 日 更新許可 第 6 回

5. 規則第 10 条の 4 第 7 項の規定による許可証の提出の有無 無

（裏面あり）

産業エキスポート

都認定番号 5-19-C0068

令和 4 年 3 月 7 日

3 県多摩第 457 号

(裏面)

2 事業の用に供する施設

許可番号

第 13-20-016108 号

所在地 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5

施設種類	産業廃棄物の種類 (限定内容)	単独処理能力	混合処理能力	設置年月日	施設 許可番号	施設 許可年月日
破碎	廃プラスチック類	6.3 t/日	—	平成3年11月14日		
破碎	廃プラスチック類	48.0 t/日	—	平成3年11月24日		
破碎	繊維くず	52.1 t/日	—			
破碎	廃プラスチック類	11.1 t/日	—	令和3年1月29日		
破碎	繊維くず	32.5 t/日	—			
破碎	ガラスくず	51.1 t/日	—	平成10年6月30日		
破碎	ガラスくず及び陶磁器	480.0 t/日	480.0 t/日	平成10年11月14日		
破碎	ガラスくず	480.0 t/日	—			
破碎	廃プラスチック類	45.6 t/日	—			
破碎	繊維くず	52.8 t/日	—			
破碎	繊維くず	125.4 t/日	—			
破碎	繊維くず	39.6 t/日	—			
破碎	ゴムくず	25.4 t/日	53.5 t/日	平成13年11月14日		
破碎	金属くず	81.6 t/日	—			
破碎	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器	598.0 t/日	—			
破碎	がれき類	198.0 t/日	—			
破碎	木くず	186.4 t/日	—	平成28年8月1日	施設 第1004号	平成28年7月29日
破碎	廃プラスチック類、 金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器類 混合物(廃プラスチック類(水銀使用製品) 産業廃棄物)	—	2.8 t/日	平成23年12月1日		
溶解	廃プラスチック類	2.4 t/日	—	平成19年11月14日		
焼却	紙くず	—	—			
焼却	繊維くず	—	4.8 t/日	平成3年11月14日	施設 第5000号	平成9年12月1日
焼却	動植物性残さ	—	—			
圧縮	金属くず	4.3 t/日	—	平成19年11月14日		
圧縮	金属くず	10.2 t/日	—	平成19年2月12日		
圧縮梱包	廃プラスチック類	180.0 t/日	—	平成15年5月19日		
圧縮梱包	繊維くず	166.8 t/日	—			
圧縮梱包	廃プラスチック類	24.3 t/日	—	平成21年9月14日		
圧縮梱包	繊維くず	17.2 t/日	—			
発酵 (堆肥化)	汚泥(有機性のものに限る。)	—	3.5 t/日	平成19年11月14日		
発酵 (堆肥化)	動植物性残さ	—	—			
造粒固化	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず(石膏等・軽量気泡コンクリートの破碎処理後のものに限る。)	—	6 t/日	平成30年8月31日		
造粒固化	がれき類(破碎処理後のものに限る。)	—	—			

(以下余白)

この許可証には複製の不正防止措置を施してあります。

リサイクル適性(A)

この図印は、印刷用の紙に
リサイクルできません

特別管理産業廃棄物収集運搬業許可証

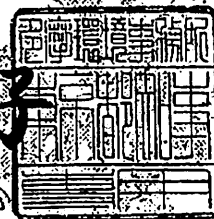
住所 東京都武蔵村山市中央二丁目 18 番地の 3
氏名 比留間運送株式会社
代表取締役 比留間 宏明



廃棄物の処理及び清掃に関する法律 第 14 条の 4 第 1 項 の許可を受けた者であることを証する。

東京都知事

小池百合子



許可の年月日 平成 30 年 7 月 26 日

許可の有効年月日 平成 37 年 7 月 25 日

1. 事業の範囲

- (1) 業の区分：収集運搬（積替え保管を含む）
(2) 取り扱う特別管理産業廃棄物の種類
① 廃油（揮発油類、灯油類、軽油類）
② 廃酸（ $\text{pH}2.0$ 以下のもの）
③ 廃アルカリ（ $\text{pH}12.5$ 以上のもの）
④ 特定有害産業廃棄物
ア. 廃ポリ塩化ビフェニル等（低濃度 PCB に限る）
イ. ポリ塩化ビフェニル汚染物（低濃度 PCB に限る）
ウ. ポリ塩化ビフェニル処理物（低濃度 PCB に限る）
エ. 廃水銀等
オ. 廃石棉等
カ. 金属等を含む廃棄物（裏面別表 1 のとおり）
(3) 積替え保管できる特別管理産業廃棄物の種類（限定内容は裏面別表 2 のとおり）
① 廃酸（ $\text{pH}2.0$ 以下のもの）
② 廃アルカリ（ $\text{pH}12.5$ 以上のもの）

2. 積替え保管施設（施設詳細は裏面別表 2 のとおり）

- (1) 所在地：東京都武蔵村山市伊奈平二丁目 25 番地の 5
(2) 所在地：東京都あきる野市二宮字下塚場 375 番 1
(3) 所在地：東京都西多摩郡瑞穂町大字富士山栗原新田字富士原 237 番 1 外 1 筆

3. 許可の条件

- (1) 作業時間は原則として、2(1)の施設は 8 時から 20 時まで、2(2)の施設は 8 時から 19 時まで、2(3)の施設は 8 時から 17 時までとする。
(2) 積替え保管を行う特別管理産業廃棄物の搬出は全て自ら行い、他人にこれを委託してはならない。
(3) 「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」、「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例」及びその他の関係法令を遵守すること。
(4) 積替え保管は本都の承認を得た方法により行うこと。

4. 許可の更新・変更の状況

平成 25 年 7 月 26 日 新規許可
平成 30 年 7 月 26 日 更新許可 第 1 回

5. 積替え許可の有無 無

6. 規則第 10 条の 12 第 2 項の規定による許可証の提出の有無 無

(裏面あり)



(裏面)

許可番号 第13-60-016103号

別表1 特別管理産業廃棄物の種類：金属等を含む特定有害産業廃棄物

有害物質名	限定内容	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
廃棄物名		アルキル水銀化合物	水銀又はその化合物	カドミウム又はその化合物	鉛又はその化合物	有機燐化合物	六価クロム化合物	砒素又はその化合物	シアン化合物	PCB	トリクロロエチレン	テトラクロロエチレン	ジクロロメタン	四塩化炭素	一・二・ジクロロエタン	一・一・ジクロロエチレン	シス-一・一・トリクロロエタン	一・一・二・トリクロロエタン	一・一・二・トリクロロプロペン	一・三・ジクロロプロペン	チウラム	シマジン	チオベンカルブ	ベンゼン	セレン又はその化合物	一・四・ジオキサン	ダイオキシン類
燃え殻																											
汚泥																											
廃油																											
廃酸																											
廃アルカリ																											
鉱さい																											
ばいじん																											
指定不水汚泥																											

【備考】 表中の「○」は取り扱うことができるもの、「－」は取り扱うことができないものを示す。

別表2 積替え保管施設の詳細

(1) 所在地：東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5

積替え保管面積：8,226.7㎡ 最大保管高さ：0.9m

特別管理産業廃棄物の種類（限定内容）	保管量	
廃酸（pH2.0以下のもの）（バッテリー）	ドラム缶 0.2㎡×1個	0.2m ³
廃アルカリ（pH12.5以上のもの）（バッテリー）	ドラム缶 0.2㎡×1個	0.2m ³
合計保管量		0.4m ³

(2) 所在地：東京都あきる野市二宮字下家場375番1

積替え保管面積：1,654㎡ 最大保管高さ：0.9m

特別管理産業廃棄物の種類（限定内容）	保管量	
廃酸（pH2.0以下のもの）（バッテリー）	ドラム缶 0.2㎡×1個	0.2m ³
廃アルカリ（pH12.5以上のもの）（バッテリー）	ドラム缶 0.2㎡×1個	0.2m ³
合計保管量		0.4m ³

(3) 所在地：東京都西多摩郡瑞穂町大字富士山栗原新田字富士原237番1外1筆

積替え保管面積：2,891㎡ 最大保管高さ：0.9m

特別管理産業廃棄物の種類（限定内容）	保管量	
廃酸（pH2.0以下のもの）（バッテリー）	ドラム缶 0.2㎡×1個	0.2m ³
廃アルカリ（pH12.5以上のもの）（バッテリー）	ドラム缶 0.2㎡×1個	0.2m ³
合計保管量		0.4m ³

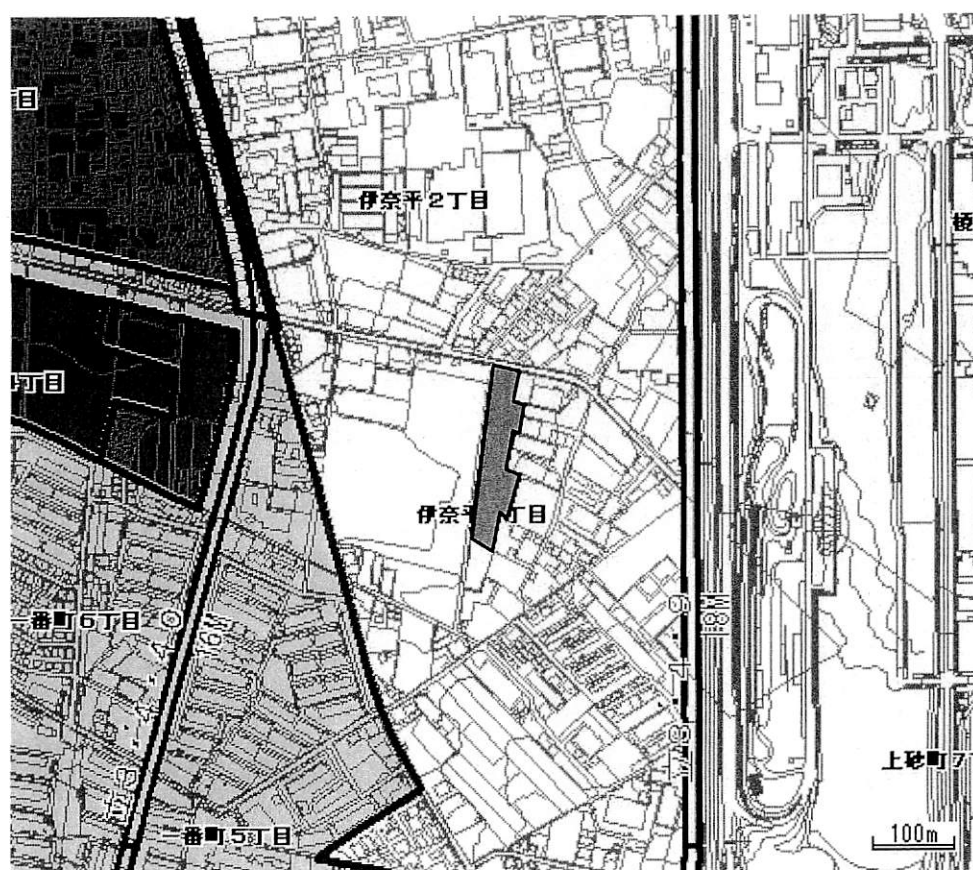
(以下余白)




1 施設周辺の概要

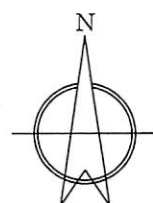
1-1 施設の案内図



1-2 用途地域を示す図面



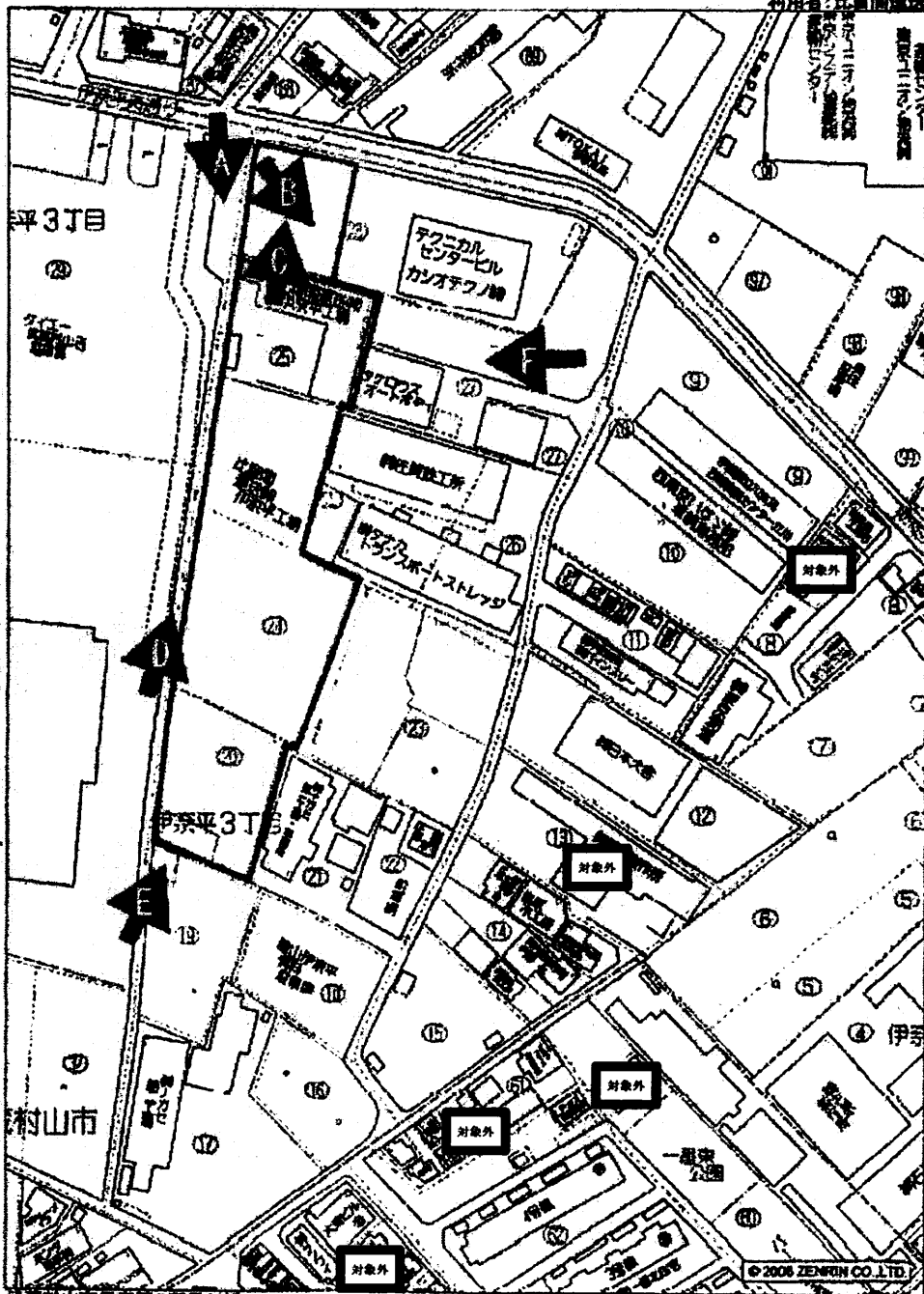
表示	内容
	第1種低層住居専用地域
	第1種中高層住居専用地域
	工業地域



1-3 施設の周辺図

200602武蔵村山市【武蔵村山市 56図 1-1】

利用者: 計画開通後



武蔵村山市伊奈平3丁目付近

..... 事業範囲 縮尺 1/1,500

写真 A

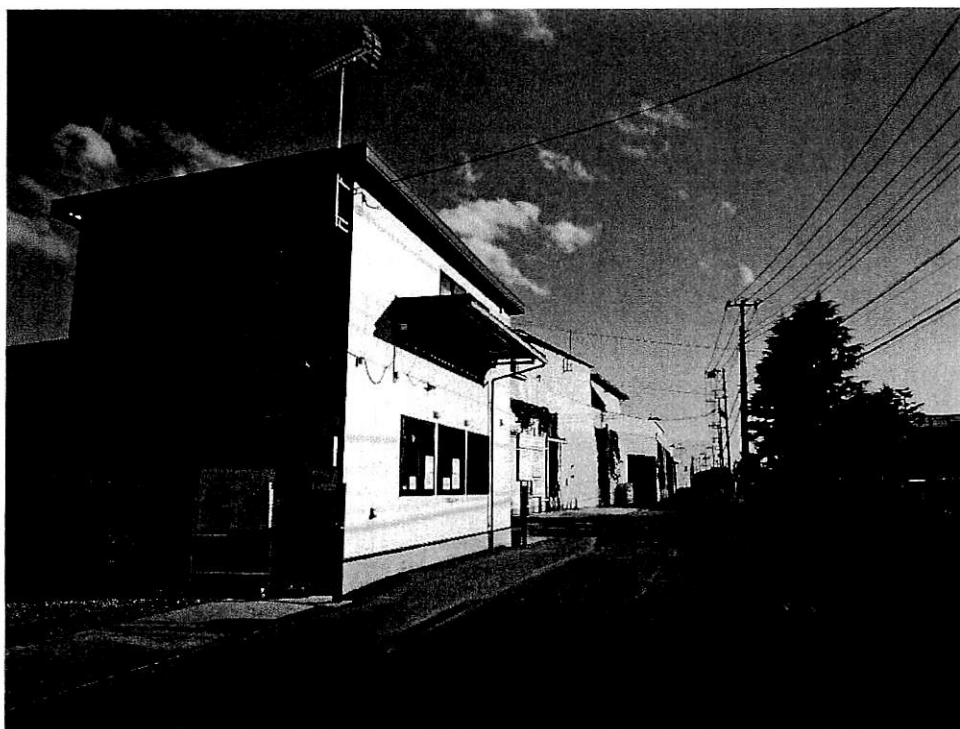
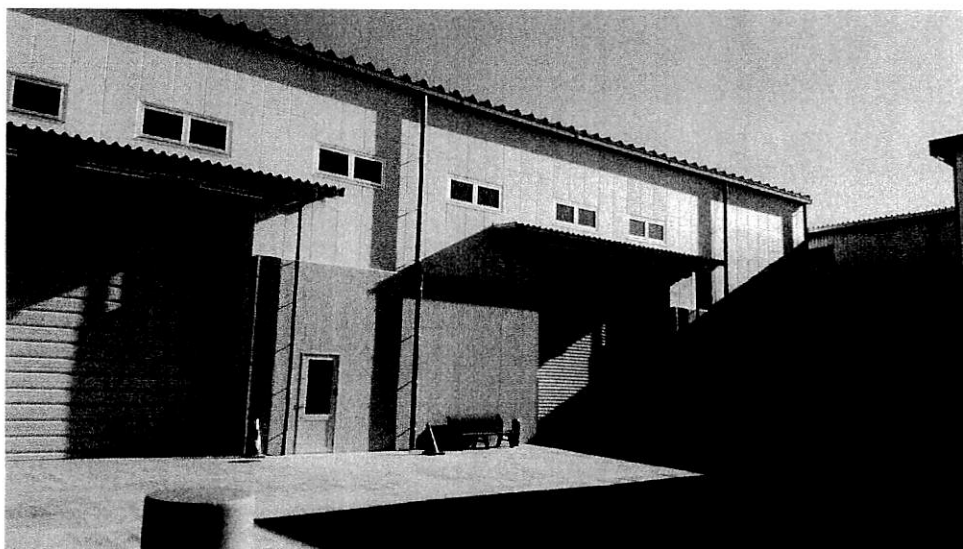


写真 B

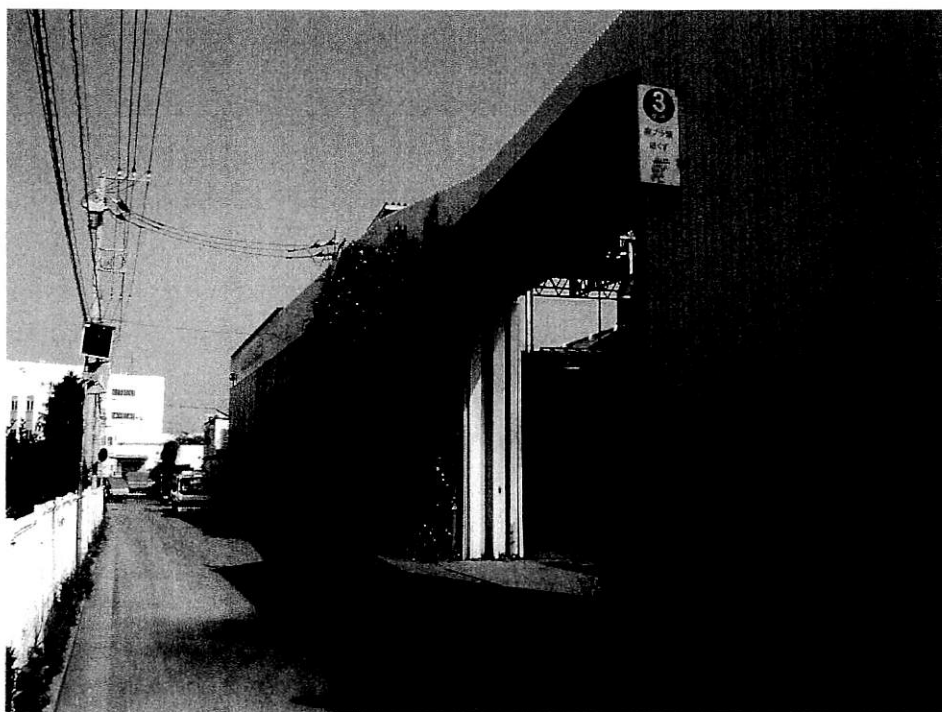


1-4 施設周辺の写真

写真 C



写真 D



1-4 施設周辺の写真

写真 E

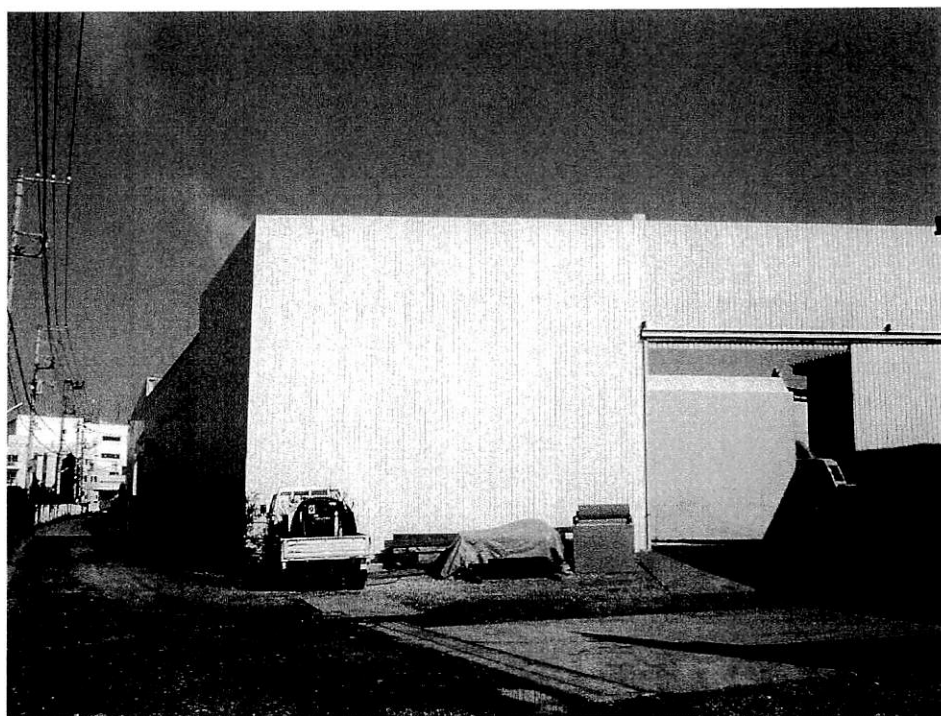
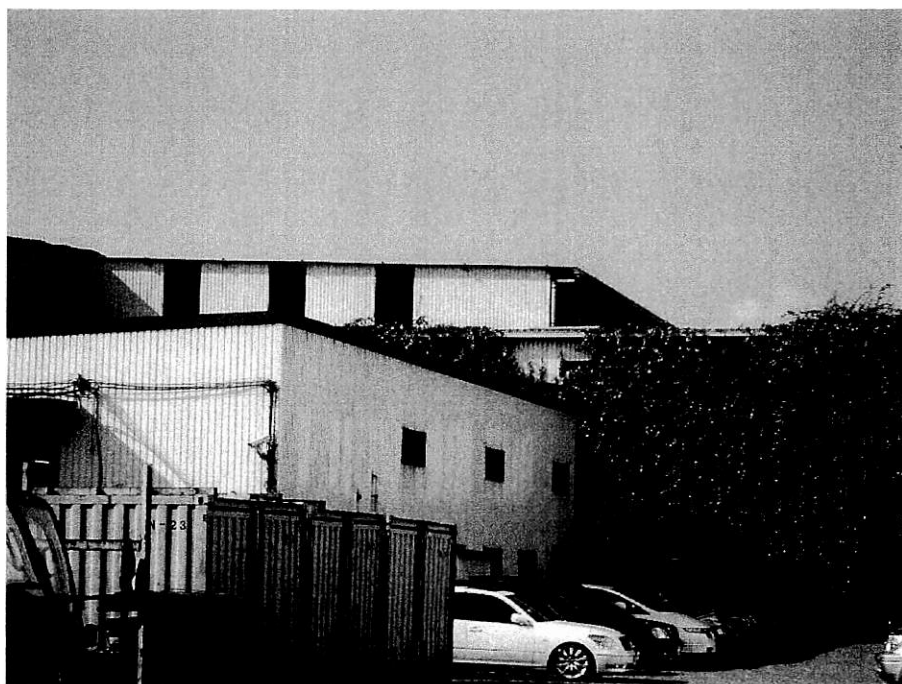


写真 F

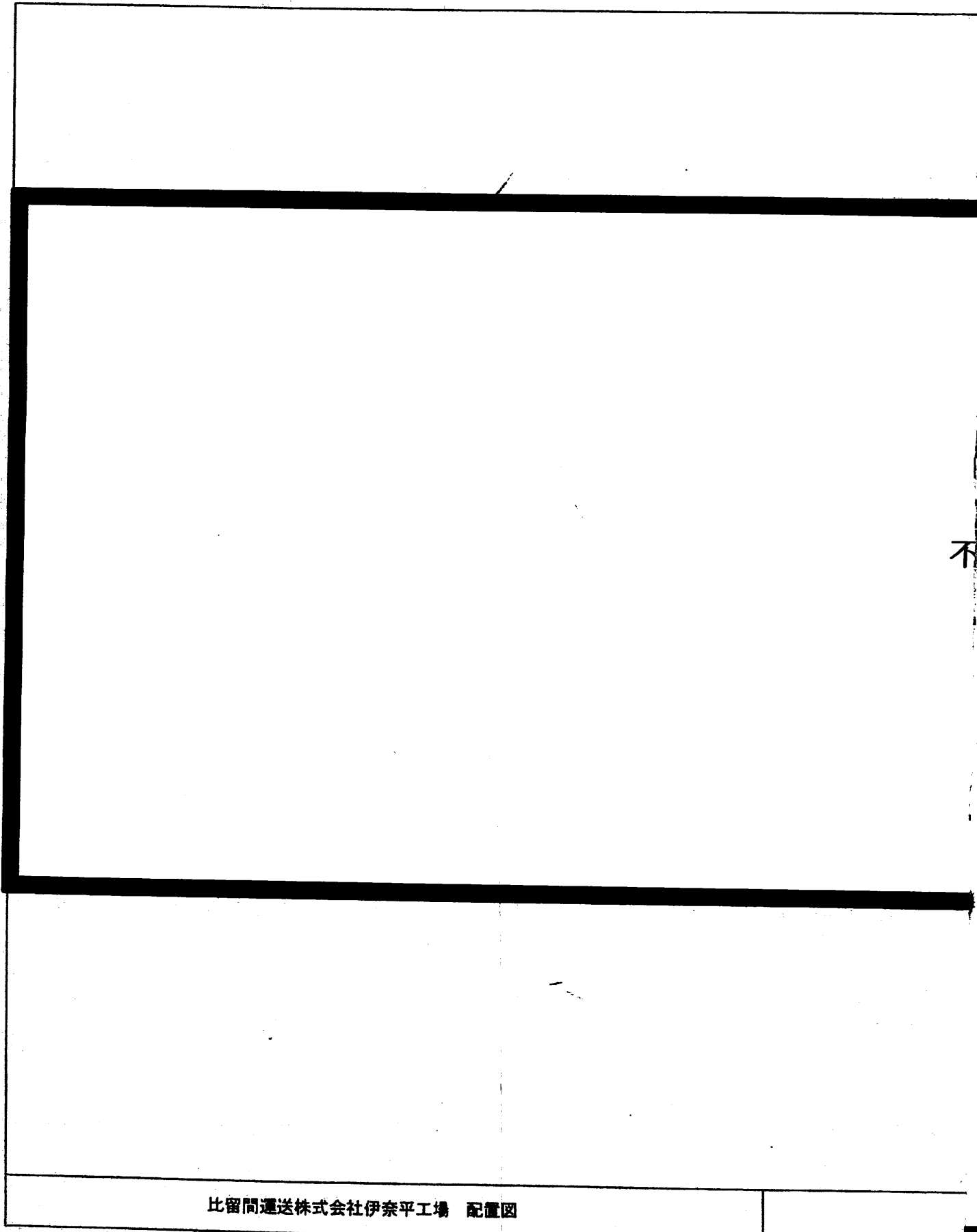


2 変更の概要

変更事項なし

3 施設の概要

3-2 施設内配置図（排水処理設備を含む。）



不

開示

□○□○	……保管場所
□○□○	……U字欄
□○□○	……グリストラップ
□○□○	……汚物処理
大文字 (A~)	……産業廃棄物処理場保管場所
数字 (1~)	……廃棄物処理場保管場所
小文字 (a~)	……産業廃棄物処理場保管場所
大文字 (A~)	……産業廃棄物処理場保管場所

3-3 施設内配置図（写真用）

不開示

3-3 施設内写真（排水処理設備等を含む。）

写真 A

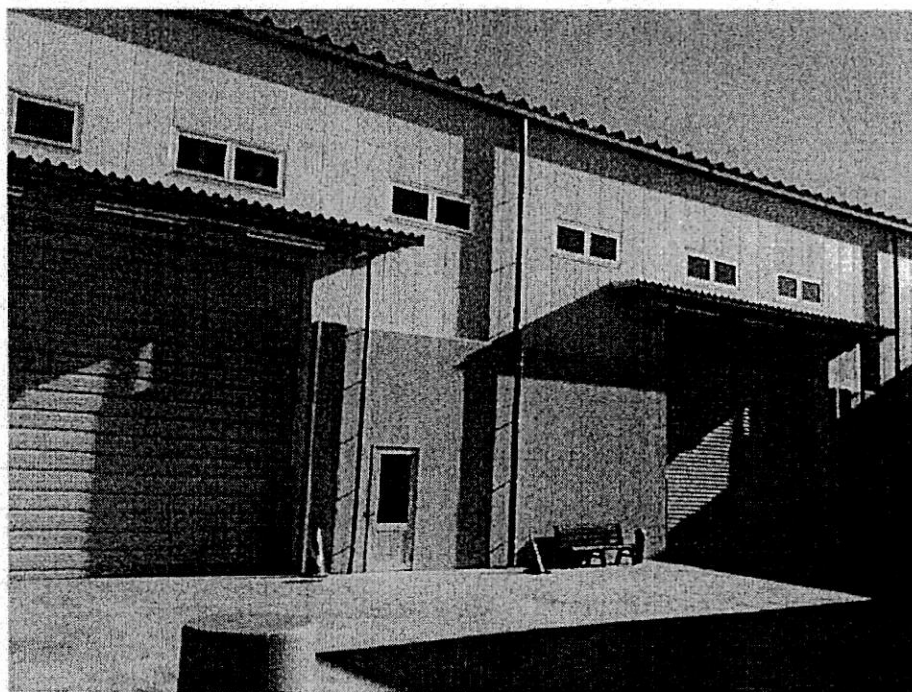


写真 B

不開示

3-3 施設内写真（排水処理設備等を含む。）

不開示

3-3 施設内写真（排水処理設備等を含む。）

写真 E

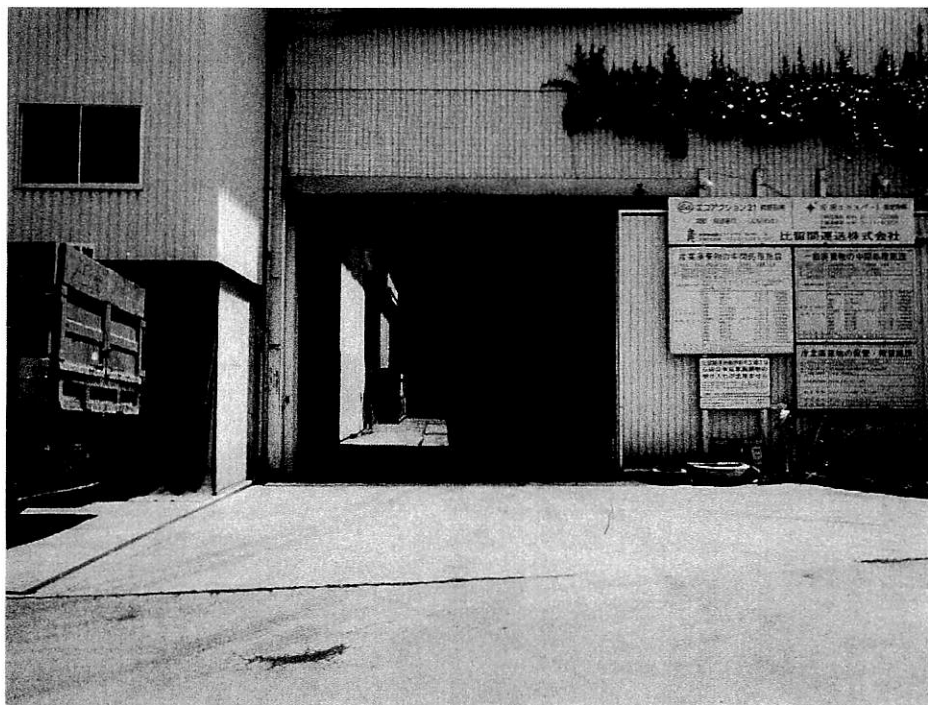
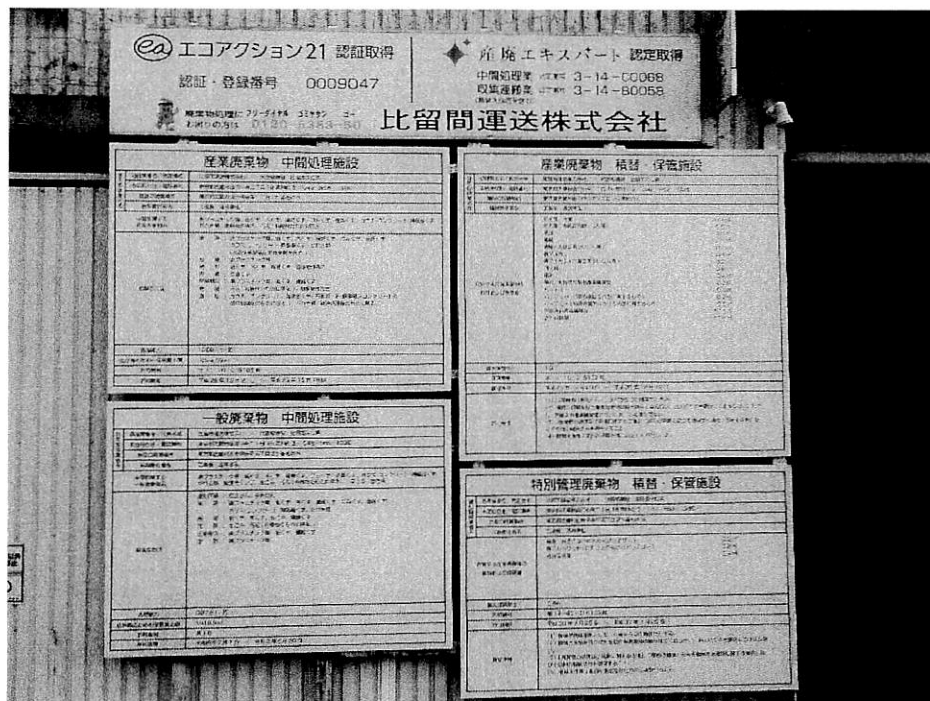


写真 F



3-3 施設内写真（排水処理設備等を含む）

不開示

3-3 施設内写真（排水処理設備等を含む。）

不開示

3-3 施設内写真（排水処理設備等を含む。）

不開示

3-3 施設内写真（排水処理設備等を含む。）

不開示

3-3 施設内写真（排水処理設備等を含む。）

不開示

3-3 施設内写真（排水処理設備等を含む。）

不開示

3-3 施設内写真（排水処理設備等を含む。）

不開示

3-3 施設内写真（排水処理設備等を含む。）

不開示

3.3 施設内写真（排水処理設備等を含む。）

不開示

3-3 施設内写真（排水処理設備等を含む。）

不開示

3-3 施設内写真（排水処理設備等を含む。）

不開示

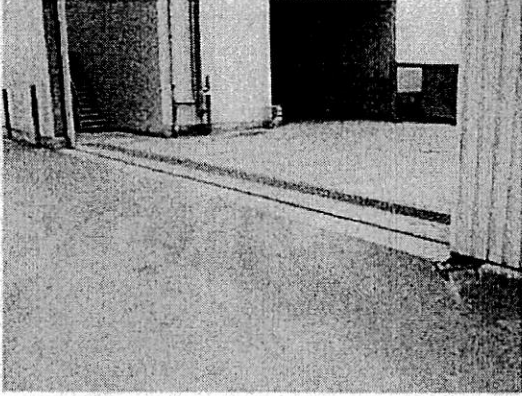
3-3 施設内写真（排水処理設備等を含む。）

不開示

3-3 施設内写真（排水処理設備等を含む。）

不開示

3-3 施設内写真（排水処理設備等を含む。）

<p data-bbox="482 226 588 260">0 ゲート</p> <div data-bbox="266 267 807 684"><p data-bbox="446 442 595 498">不開示</p></div>	<p data-bbox="1066 226 1168 260">1 ゲート</p> 
<p data-bbox="486 698 588 732">2 ゲート</p> 	<p data-bbox="1066 698 1168 732">3 ゲート</p> <div data-bbox="854 737 1403 1145"><p data-bbox="1042 918 1191 975">不開示</p></div>
<p data-bbox="486 1168 588 1202">5 ゲート</p> 	

3-3 排水処理設備等（写真）

不開示

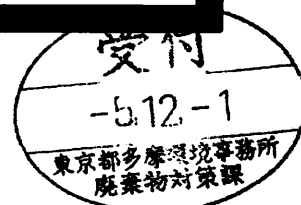
4 保管場所の詳細

4 保管場所の詳細

4-2 保管する産業廃棄物の一覧表（変更後）

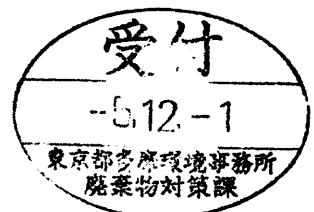
保管 番号	産業廃棄物 の 種 類	保 管 方 法 ※1	保 管 量 (a)※2	屋 内 外	一日当たり の平均的な 搬出量(b)	保管上限 (c)※2※3 (c=b×7) (a≤c)	搬 入 者 ※4	搬 出 者 ※4
----------	----------------	---------------	----------------	-------------	--------------------------	-------------------------------------	-------------------	-------------------

不開示



不開示

- ※1 容器使用の場合は、保管方法の欄に容器の種類及び個数を記載してください。
- ※2 保管量の有効数字は原則3桁（切り捨て）となりますが、産業廃棄物の種類及び保管量により変わる場合があります。
- ※3 保管量は、一日当たりの平均的な搬出量の7倍以下にしなければなりません。（廃棄物処理法施行令第6条第1項第1号ホ）単位はm³で記載してください。
- ※4 産業廃棄物の種類について、自者で搬入又は搬出する場合は「自」を、他者で搬入又は搬出する場合は「他」を○で囲んでください。搬入、搬出はどちらか一方は必ず自者のみで行ってください。

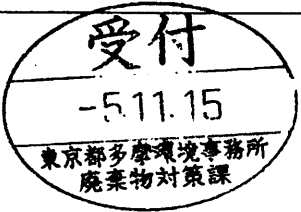


4-3,4-4 産業廃棄物の保管場所

産業廃棄物の種類		汚泥、廃プラスチック類、金属くず（消火器）	不開示
番号	不開示		不開示
図面			
不開示			
写真			
不開示			
〔都計算欄〕			
<div>受付 -511.15 東京都多摩環境事務所 廃棄物対策課</div>			

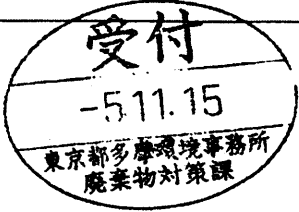
4-3,4-4 産業廃棄物の保管場所

産業廃棄物の種類	汚泥、金属くず（電池）		不開示
番号	不開示	汚泥、金属くず（電池）【水銀使用製品産業廃棄物】	不開示
図面			
不開示			
写真			
不開示			
〔都計算欄〕			



4-3,4-4 産業廃棄物の保管場所

産業廃棄物の種類		汚泥、廃プラスチック類、 金属くず（バッテリー）	不開示
番号	不開示		不開示
図面			
不開示			
写真			
不開示			
〔都計算欄〕			



4-3,4-4 産業廃棄物の保管場所

産業廃棄物の種類	廃油	不開示
番号		不開示

図面

不開示

写真

不開示

〔都計算欄〕

受付
-5.11.15
東京都多摩環境事務所
廃棄物対策課

4-3,4-4 産業廃棄物の保管場所

産業廃棄物の種類	廃酸		不開示
番号	不開示	廃酸【水銀含有ばいじん等】	不開示
図面			
不開示			
写真			
不開示			
〔都計算欄〕			

受付

-511.15

東京都多摩環境事務所
廃棄物対策課

4-3,4-4 産業廃棄物の保管場所

産業廃棄物の種類	廃アルカリ	不開示
番号	廃アルカリ【水銀含有ばいじん等】	不開示

図面

不開示

写真

不開示

〔都計算欄〕

受付
-511.15
東京都多摩環境事務所
産業物対策課

4-3,4-4 産業廃棄物の保管場所

産業廃棄物の種類	燃え殻【水銀含有ばいじん等】	不開示
番号	燃え殻、汚泥	不開示
図面		
不開示		
写真		
不開示		
〔都計算欄〕		
<div>受付 -5.11.15 東京都多摩環境事務所 廃棄物対策課</div>		

4-3,4-4 産業廃棄物の保管場所

産業廃棄物の種類	廃プラスチック類、 ガラス・コンクリート・陶磁器くず、がれき類 【石綿含有産業廃棄物】	不開示
番号	不開示	不開示

図面

不開示

写真

不開示

〔都計算欄〕

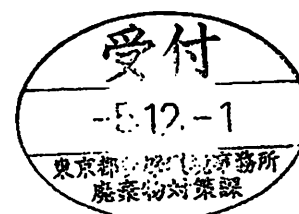
受付
-5.11.15
東京都多摩環境事務所
廃棄物対策課

5 作業手順書

5 作業手順書

保管番号	a, b, c	産業廃棄物の種類	消火器、電池、バッテリー		
手選別	有・ <input checked="" type="radio"/>	手解体	有・ <input checked="" type="radio"/>	有価物の抜き取り	有・ <input checked="" type="radio"/>
作業	<p>(1)搬入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドラム缶等の容器に収納された消火器、電池、バッテリーを自社および他社車両により搬入する。 <p>(2)保管場所への移動作業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運搬容器がドラム缶であれば重機と手作業でそのまま保管場所に保管し、ドラム缶に入る大きさの容器であればそのままドラム缶の中に保管する。 <p>(3)搬出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一定量になり次第、重機と手作業によりドラム缶ごと車両の荷台に積み込み、自社運搬で搬出する。 				

保管番号	d, e, f	産業廃棄物の種類	廃油、廃酸、廃アルカリ		
手選別	有・ <input checked="" type="radio"/>	手解体	有・ <input checked="" type="radio"/>	有価物の抜き取り	有・ <input checked="" type="radio"/>
作業	<p>(1)搬入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専用容器に収納された廃油を自社および他社車両により搬入する。 <p>(2)保管場所への移動作業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運搬容器がドラム缶であれば重機と手作業でそのまま保管場所に保管する。ポリ容器等の運搬容器であればクローズドラム缶に手作業で移すか、オープンドラム缶に容器ごと保管する。 <p>(3)搬出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一定量になり次第、重機と手作業により運搬容器ごと保管場所か車両の荷台に積み込み自社車両で搬出する。 				



保 管 番 号	g	産業廃棄物の 種 類	燃え殻、汚泥		
手選別	⑦・無	手解体	有・⑧	有価物の 抜き取り	有・⑧
作 業	<p>(1)搬入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンテナ等に積んだ燃え殻、汚泥を自社および他社車両により搬入する。 <p>(2)保管場所への移動作業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保管場所にコンテナを下す。シート掛けをして保管する。 <p>(3)搬出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一定量になり次第、脱着装置付コンテナ専用車でコンテナごと保管場所から車両に積み込み自社車両で搬出する。 				

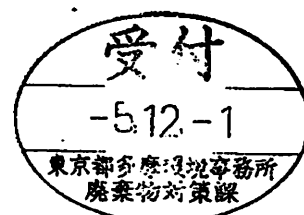
保 管 番 号	h	産業廃棄物の 種 類	廃プラスチック類、ガラス・コンクリート・陶磁器くず、がれき類（石綿含有産業廃棄物）		
手選別	⑦・無	手解体	有・⑧	有価物の 抜き取り	有・⑧
作 業	<p>(1)搬入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フレコンバック等に収納された石綿含有産業廃棄物を自社および他社車両により搬入する。 <p>(2)保管場所への移動作業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車両の荷台から保管場所に、専用容器ごとクレーン車や重機、手作業で移し、専用容器のまま保管する。 <p>(3)搬出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一定量になり次第、重機と手作業により専用容器ごと保管場所から車両の荷台に積み込み自社および他社車両で搬出する。 				



6 施設清掃に関する説明

6 施設清掃に関する説明

対象物	清掃頻度	清掃方法
保管場所	可能な場所は稼働日ごと または1回/月	作業終了後、重機またはブラシ等の清掃用具を使用して清掃する。必要に応じ、水を撒いて洗浄。また随時適用、害虫駆除剤や消臭剤を散布する。
保管容器	随時	必要に応じウエス等で拭き取る。定期的な買い替えをする。
選別場所	可能な場合稼働ごとに清掃 または1回/月	作業終了後、重機またはブラシ等の清掃用具を使用して清掃する。必要に応じ、水を撒いて洗浄。また随時適用、害虫駆除剤や消臭剤を散布する。
排水溝 汚水枡	1回/月	堆積した汚泥は、清掃用具を使用して清掃する。必要に応じ、害虫駆除剤や消臭剤を散布する。
オイルトラップ	1回/月	堆積した汚泥は、清掃用具を使用して清掃する。必要に応じ、害虫駆除剤や消臭剤を散布する。
車両	(自社車両) 稼働日ごと	高圧洗浄機等を使用して洗車する。
その他		



7 生活環境の保全上の措置等

7 生活環境の保全上の措置等

項 目	発生が想定 される場所	防止対策
不開示		



7 生活環境の保全対策に関する設備の場所を示した図面（粉じんの飛散）

不開示

7 生活環境の保全対策に関する設備の場所を示した図面（悪臭）

不開示

7 生活環境の保全対策に関する設備の場所を示した図面（騒音）

不開示

7 生活環境の保全対策に関する設備の場所を示した図面（振動）

不開示

7 生活環境の保全対策に関する設備の場所を示した図面（有害物質の漏洩）

不開示

7 生活環境の保全対策に関する設備の場所を示した図面（地下浸透）※施設全体が対象

不開示

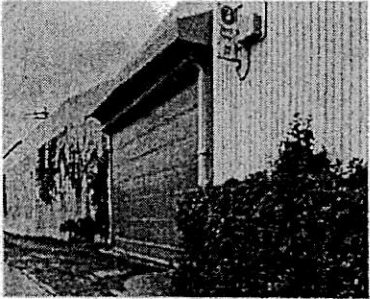
7 生活環境の保全対策に関する設備の場所を示した図面（害虫の発生）

不開示

7 生活環境の保全対策に関する設備の場所を示した図面（その他）

不開示

7 生活環境の保全上の措置等の写真

項目	粉じん
発生が想定される場所	荷卸し場所、重機、保管場所
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 2px solid black; padding: 50px; text-align: center; width: 40%;"> <p>不開示</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>塀、ゲート</p> </div> </div> <div style="border: 2px solid black; padding: 100px; text-align: center; margin-top: 20px; width: 100%;"> <p>不開示</p> </div>	

項目	悪臭、害虫
発生が想定される場所	保管場所、排水処理設備
<div style="border: 2px solid black; padding: 100px; text-align: center; width: 100%;"> <p>不開示</p> </div>	

7 生活環境の保全上の措置等の写真

不開示

8 積替え保管作業に使用する重機

8 積替え保管作業に使用する重機

8-1 重機一覧表

	重機の種類	台数
1	油圧パワーショベル	8
2	フォークリフト	3
3	タイヤショベル	2
4	ホイールローダ	1
5	スケーパー	1

②正工

工 ③ -

T

不開示

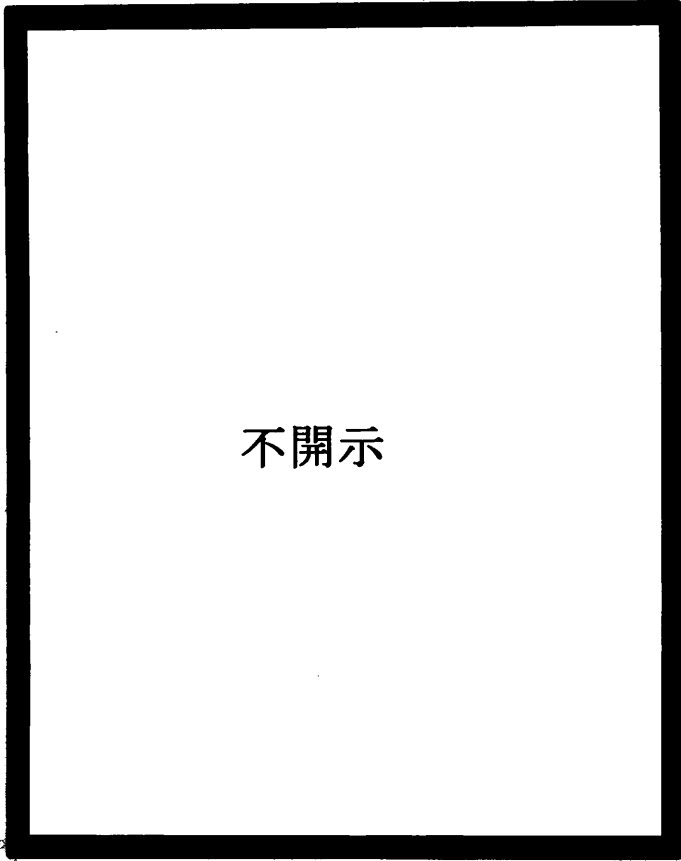
比留間運送株式会社

令和5年7月24日現在

不開示

写真2

写真3



不開示

経歴区分(納入)	
新	中古
0	5

納入御案内書



不開示

2

比留間運送株式会社

令和5年7月24日現在

不開示

不開示

写真2

写真3

不開示

経歴区分(納入)	
新 0 草 5 中古 5 草 5	

納入御案内書

不開示

不開示

比留間運送株式会社

令和5年7月24日現在

不開示

7-031

不開示

不開示

比留間運送株式会社

令和5年7月24日現在

不開示

サービスカード(控)

不開示

納入サービス チェックシート

不開示

(2)

比留間運送株式会社

令和5年7月24日現在

不開示

不開示

不開示

不開示

③

比留間運送株式会社

令和5年7月24日現在

不開示

不開示

納 品 書

不開示

④

比留間運送株式会社

令和5年7月24日現在

不開示

不開示

納 品 書

不開示

不開示

比留間運送株式会社

令和5年7月24日現在

不開示

納 品 書

不開示

①

不開示

比留間運送株式会社

令和5年7月24日現在

不開示

納 品 書

不開示

③

不開示

比留間運送株式会社

令和5年7月24日現在

不開示

不開示

5

不開示

比留間運送株式会社

令和5年7月24日現在

不開示

納品書

不開示

⑥

比留間運送株式会社

令和5年7月24日現在

不開示

不開示

不開示

不開示

比留間運送株式会社

令和5年7月24日現在

不開示

伊-050

ショベルローダー等

3年間保存

定期自主検査記録表（年次）

証明書
発行日 R4年12月17日

様式SR-SC-01-F

建設業に係る特定特殊自動車排出ガスの排出
の抑制を図るための規制に基づく検査費用

証明書
発行No K5889

印章
No 139819

不開示

不開示

比留間運送株式会社

令和5年7月24日現在

不開示

機械売買契約書

不開示

不開示



不開示

比留間運送株式会社

令和5年7月24日現在

不開示

伊-051

油圧ショベル(クローラ式)

3年間保存

特定自主検査記録表

証
明
書
発
行
日

RS 年 4 月 8 日

様式SR-EHC-01-E

建設業に係る特定特殊自動車排出ガスの排出
の抑制を図るための指針に基づく検査記録

証
明
書
発
行
No.

K6032

機
体
No.

0227257

不開示

9 使用権原を証明する書類等

9 使用権原を証明する書類等（土地、建物、公図）

①公図

②土地・建物全部事項証明書（登記簿謄本）

【土地・建物】武蔵村山市伊奈平三丁目28番1（㈲大宝） ✓

【土地】武蔵村山市伊奈平三丁目28番4（㈲大宝） ✓

【建物】武蔵村山市伊奈平三丁目28番4（自己所有） ✓

【土地】武蔵村山市伊奈平三丁目28番5（㈲大宝） ✓

【土地・建物】武蔵村山市伊奈平三丁目27番1（㈲リードコーポレーション）

【土地】武蔵村山市伊奈平三丁目25番3（自己所有） ✓

【土地】武蔵村山市伊奈平三丁目25番5（自己所有）

【土地・建物】武蔵村山市伊奈平三丁目24番（自己所有）

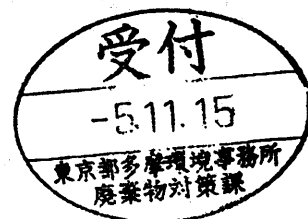
【土地】武蔵村山市伊奈平三丁目20番（自己所有）

③賃貸借契約書

【土地・建物】武蔵村山市伊奈平三丁目28番1、4、5（㈲大宝） ✓

※3-28-4の建物は自己所有 ✓

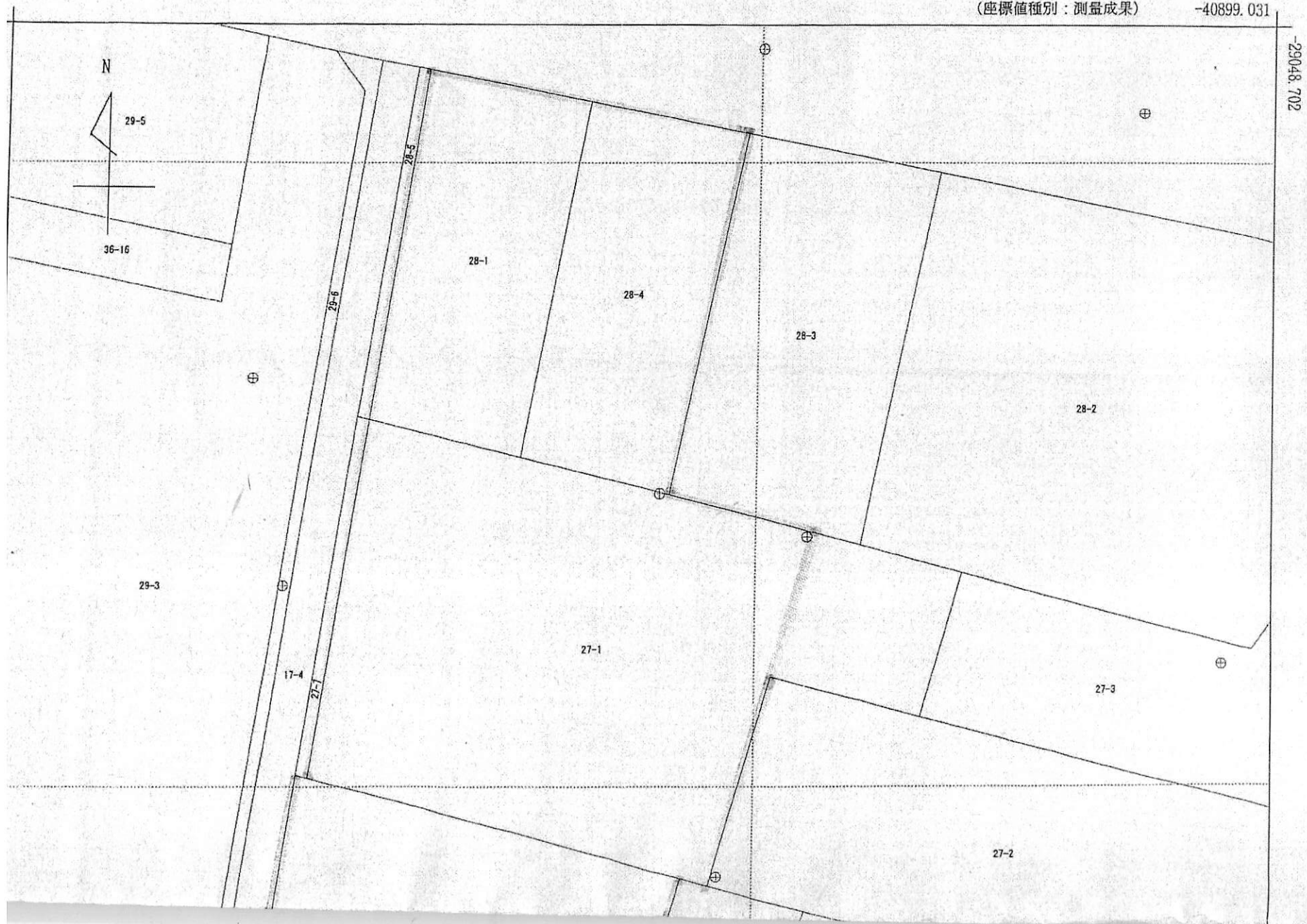
【土地・建物】武蔵村山市伊奈平三丁目27番1（㈲リードコーポレーション） ✓

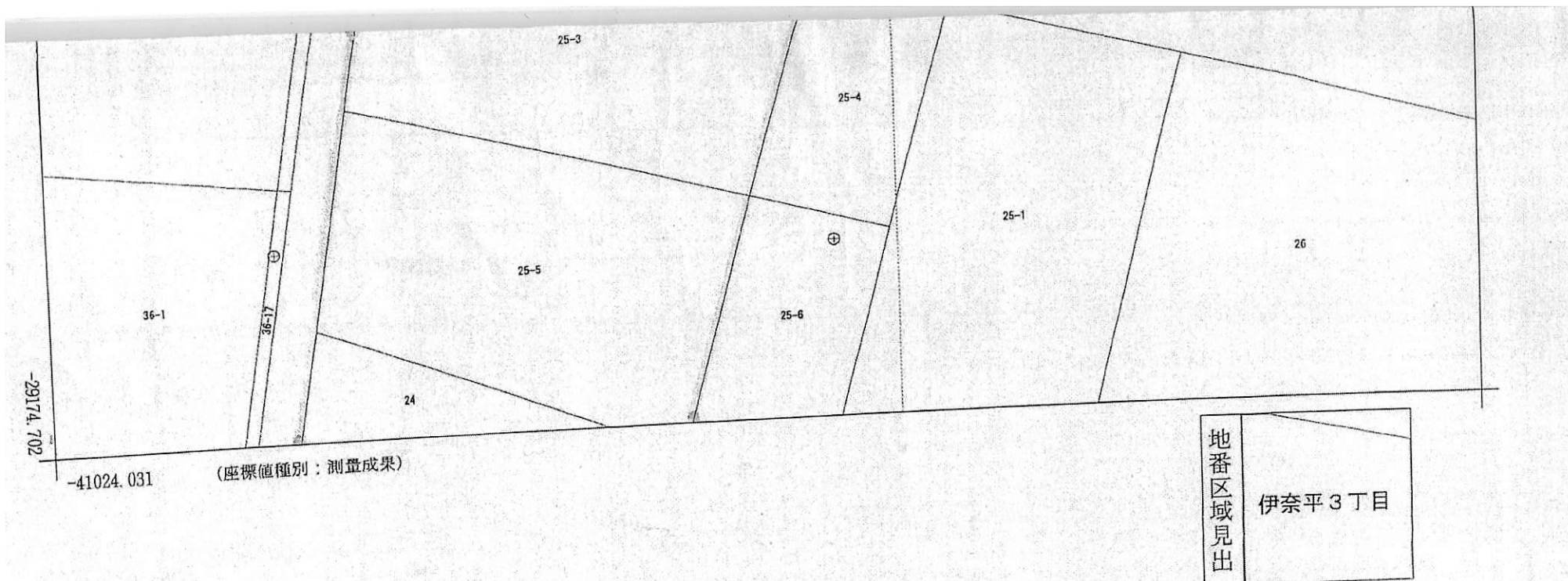


(座標値種別：測量成果)

-40899.031

-23048.702





請求部	所在	武蔵村山市伊奈平三丁目				地番	27番1	
出力尺	1/500	精度区分	甲一	座標系又は記号	IX	分類	地図(法第14条第1項)	
種類	地籍図							
作成年月日	令和3年12月14日				備付年月日(原図)	令和3年12月14日		
補記事項	地図の縮尺は1/250ですが、1/500に変更して出力しています							

これは地図に記録されている内容を証明した書面である。

令和5年7月26日
東京法務局立川出張所
登記官

請求番号：21-4
(1/1)

宮崎久昭



原本確認



1 23-3

(座標値種別：測量成果)

-40917.487

-29139.507



29-3

25-6

25-3

25-4

27-2

25-5

25-6

25-1

26

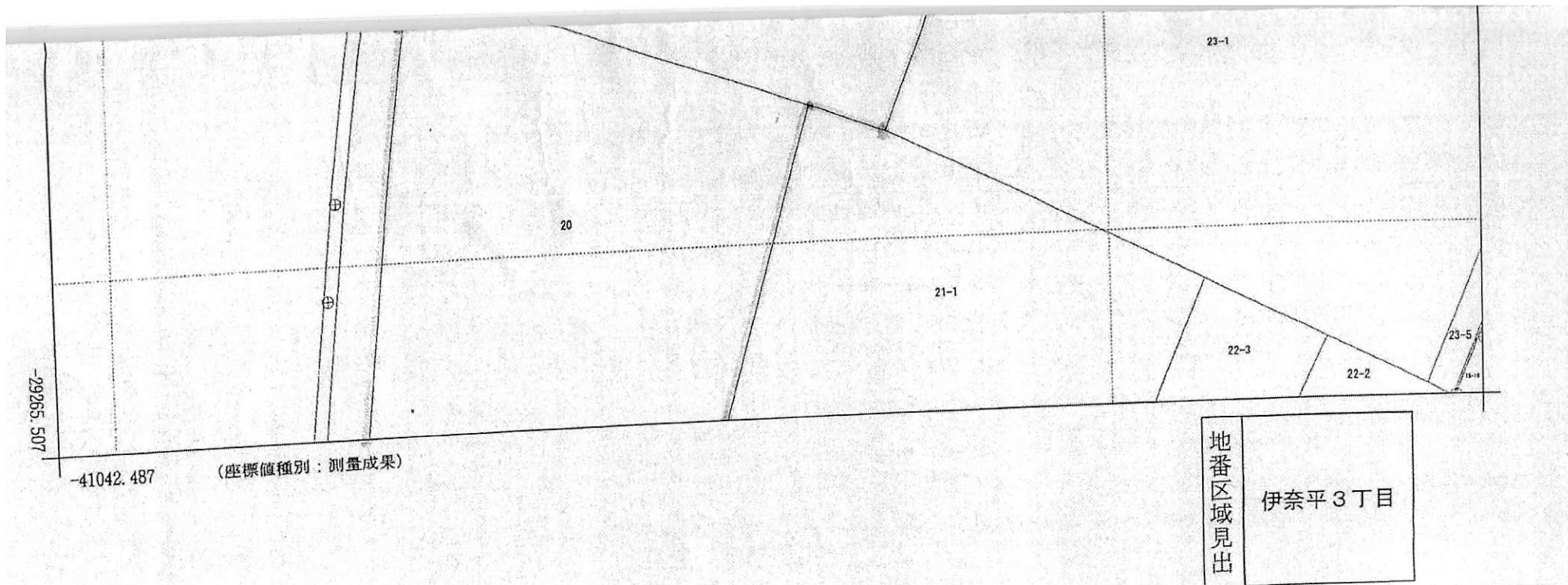
36-1

36-17

17-4

24

23-2



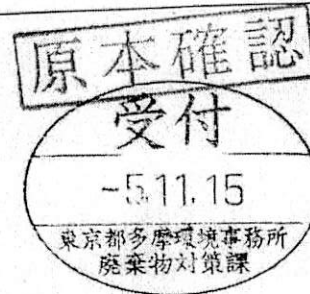
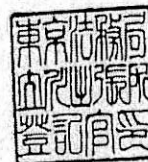
請求部	所在	武蔵村山市伊奈平三丁目				地番	24番	
出力縮尺	1/500	精度区分	甲一	座標系番号又は記号	IX	分類	地図(法第14条第1項)	
種類	地籍図							
作成年月日	令和3年12月14日				備付年月日(原図)	令和3年12月14日		補記事項
						地図の縮尺は1/250ですが、1/500に変更して出力しています		

これは地図に記録されている内容を証明した書面である。

令和5年7月26日
東京法務局立川出張所
登記官

請求番号: 21-2
(1/1)

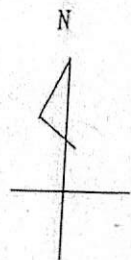
宮崎久昭



4 15-13

(座標値種別：測量成果)

-40933.140



25-1 26

-29188.503

23-2

24

23-1

36-1

36-17

17-4

20

21-1

22-3

22-2

22-5



地番区域見出し
伊奈平3丁目

請求部	所在	武蔵村山市伊奈平三丁目				地番	20番		
出力縮尺	1/500	精度区分	甲一	座標系又は番号は記号	IX	分類	地図(法第14条第1項)	種類	地籍図
作成年月日	令和3年12月14日			備付年月日(原図)	令和3年12月14日		補記事項	地図の縮尺は1/250ですが、1/500に変更して出力しています	

これは地図に記録されている内容を証明した書面である。

令和5年7月26日
東京法務局立川出張所
登記官

請求番号: 21-3
(1/1)

宮崎久昭

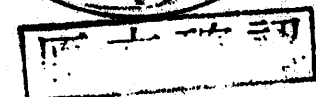


表 題 部 (土地の表示)		調製	平成17年8月25日	不動産番号	0128000260878
地図番号	Q23-2-2 Q23-2-4	筆界特定	[余白]		
所 在	武蔵村山市伊奈平三丁目				[余白]
① 地 番	② 地 目	③ 地 積 m ²	原因及びその日付〔登記の日付〕		
2548番	山林	3609	[余白]		
2548番1	[余白]	3291	①③2548番1、同番2に分筆 〔昭和47年11月15日〕		
[余白]	畑	[余白]	②昭和54年10月8日変更 〔昭和54年12月25日〕		
28番	[余白]	[余白]	①変更 〔昭和55年2月1日〕		
28番1	[余白]	1378	①③28番1、同番2に分筆 〔昭和59年5月18日〕		
[余白]	[余白]	645	③28番1、28番3に分筆 〔昭和59年9月20日〕		
[余白]	[余白]	[余白]	平成17年法務省令第18号附則第3条第2項 の規定により移記 平成17年8月25日		
[余白]	[余白]	1183	③錯誤 〔平成27年6月15日〕		
[余白]	[余白]	570	③28番1、28番4、28番5に分筆 〔平成27年10月14日〕		
[余白]	宅地	570.19	②③平成28年4月27日地目変更 〔平成30年1月10日〕		

権 利 部 (甲 区) (所 有 権 に 関 す る 事 項)			
順位番号	登 記 の 目 的	受付年月日・受付番号	権 利 者 そ の 他 の 事 項
1	所有権移転	昭和59年6月6日 第15622号	原因 昭和58年12月16日相続 所有者 立川市上砂町四丁目13番地1 荒井明久 順位2番の登記を移記
	[余白]	[余白]	平成17年法務省令第18号附則第3条第2項 の規定により移記 平成17年8月25日
2	所有権移転	平成27年4月13日 第18436号	原因 平成27年4月13日売買 所有者 東京都武蔵村山市中央二丁目18番地 の3 有 限 会 社 大 宝

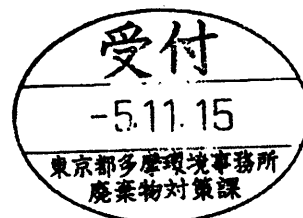
原 確 認

受付

-5.11.15

東京都多摩環境事務所
廃棄物対策課

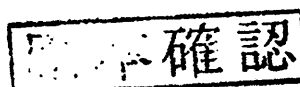
権 利 部 (乙 区) (所 有 権 以 外 の 権 利 に 関 する 事 項)			
順位番号	登 記 の 目 的	受付年月日・受付番号	権 利 者 そ の 他 の 事 項
1	抵当権設定	昭和59年8月28日 第24095号	原因 昭和58年12月16日相続による相続 税及び利子税昭和59年6月14日設定 債権額 金17億4,868万4,200円(内訳 相続税額金7億5,374万7,400円及び利子税の額金9億9,493万6,800円) 延滞税額 国税通則法所定の額 債務者 立川市上砂町四丁目13番地1 荒井明久 抵当権者 大蔵省 (取扱庁 立川税務署) 共同担保 目録第1681号 順位1番の登記を移記
2	1番抵当権抹消	平成17年1月25日 第1534号	原因 平成17年1月14日解約 順位2番の登記を移記
	金白	金白	平成17年法務省令第18号附則第3条第2項の規定により移記 平成17年8月25日



これは登記記録に登録されている事項の全部を証明した書面である。

令和5年7月26日
東京法務局立川出張所

登記官



宮崎久昭

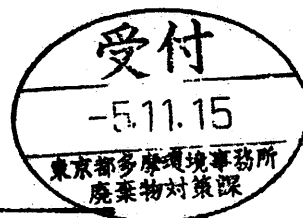


* 下線のあるものは抹消事項であることを示す。

整理番号 D55823 (6/10)

2/2

表題部 (主である建物の表示)	調製 [金白]	不動産番号	0128010091726
所在図番号	[金白]		
所在	武蔵村山市伊奈平3丁目 28番地1	[金白]	
家屋番号	28番1	[金白]	
①種類	②構造	③床面積 ㎡	原因及びその日付〔登記の日付〕
事務所	鉄骨造亜鉛メッキ鋼板ぶき 2階建	1階 50.78 2階 50.78	平成28年4月27日新築 〔平成30年1月10日〕
所有者	東京都武蔵村山市中央二丁目18番地の3 有限会社大宝		



これは登記記録に登録されている事項の全部を証明した書面である。ただし、登記記録の甲区及び乙区に登録されている事項はない。

令和5年7月26日
東京法務局立川出張所

登記官

宮崎久昭



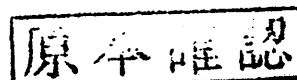
* 下線のあるものは抹消事項であることを示す。

整理番号 D55824 (1/2)

1/1

表 題 部 (土地の表示)		調製	金 白	不動産番号	0128010066460
地図番号	Q23-2-2 Q23-2-4	筆界特定	金 白		
所 在	武蔵村山市伊奈平三丁目			金 白	
① 地 番	② 地 目	③ 地 積	m ²	原因及びその日付〔登記の日付〕	
28番4	畑	570		28番1から分筆 〔平成27年10月14日〕	
金 白	宅地	570	82	②③平成29年11月29日地目変更 〔平成30年1月10日〕	
金 白	金 白	570	83	③錯誤 国土調査による成果 〔令和3年12月14日〕	

権 利 部 (甲 区) (所有権に関する事項)			
順位番号	登 記 の 目 的	受付年月日・受付番号	権 利 者 そ の 他 の 事 項
1	所有権移転	平成27年4月13日 第18436号	原因 平成27年4月13日売買 所有者 東京都武蔵村山市中央二丁目18番地の3 有 限 会 社 大 宝 順位2番の登記を転写 平成27年10月6日受付 第45753号



これは登記記録に記載されている事項の全部を証明した書面である。ただし、登記記録の乙区に記載されている事項はない。

令和5年7月26日
東京法務局立川出張所

登記官

宮 崎 久 昭

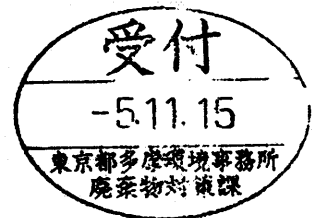


* 下線のあるものは抹消事項であることを示す。

整理番号 D55823 (7/10)

1/1

表題部	(主である建物の表示)	調製	金白	不動産番号	0128010091727
所在図番号	金白				
所在	武蔵村山市伊奈平3丁目 28番地4、28番地1			金白	
家屋番号	28番4			金白	
①種類	②構造	③床面積 m ²		原因及びその日付〔登記の日付〕	
工場	鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき 平家建	491.90		平成29年11月29日新築 〔平成30年1月10日〕	
所有者	東京都武蔵村山市中央二丁目18番地の3 比留間運送株式会社				



原本確認

これは登記記録に登録されている事項の全部を証明した書面である。ただし、登記記録の甲区及び乙区に登録されている事項はない。

令和5年7月26日
東京法務局立川出張所

登記官

宮崎久昭



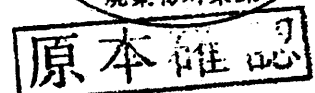
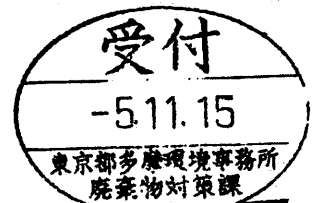
* 下線のあるものは消事項であることを示す。

整理番号 D55824 (2/2)

1/1

表題部	(土地の表示)	調製	[余白]	不動産番号	0128010066461
地図番号	Q23-2-2 Q23-2-4	筆界特定	[余白]		
所在	武蔵村山市伊奈平三丁目		[余白]		
①地番	②地目	③地積	m	原因及びその日付〔登記の日付〕	
28番5	畑	42		28番1から分譲 〔平成27年10月14日〕	
[余白]	公衆用道路	[余白]		②平成28年4月27日地目変更 〔平成30年1月10日〕	

権利部 (甲区) (所有権に関する事項)			
順位番号	登記の目的	受付年月日・受付番号	権利者その他の事項
1	所有権移転	平成27年4月13日 第18436号	原因 平成27年4月13日売買 所有者 東京都武蔵村山市中央二丁目18番地の3 有限会社大宝 順位2番の登記を転写 平成27年10月6日受付 第45753号



これは登記記録に記録されている事項の全部を証明した書面である。ただし、登記記録の乙区に記録されている事項はない。

令和5年7月26日
東京法務局立川出張所

登記官

宮崎 久 昭



* 下線のあるものは抹消事項であることを示す。

整理番号 D55823 (8/10)

1/1

表 題 部 (土地の表示)		調製	平成17年8月25日	不動産番号	0128000260870
地図番号	Q23-2-4 Q23-4-2 Q24-1-3	筆界特定	余白		
所 在	武蔵村山市伊奈平三丁目			余白	
① 地 番	②地 目	③ 地 積	m	原因及びその日付〔登記の日付〕	
2547番1	山林	5209		余白	
余白	余白	5144		③2547番1、同番4に分筆 〔昭和47年11月10日〕	
27番1	余白	余白		①変更 〔昭和55年2月1日〕	
余白	余白	1838		③27番1ないし27番3に分筆 〔昭和58年2月21日〕	
余白	余白	1795		③27番1、27番7に分筆 〔平成8年1月25日〕	
余白	余白	余白		平成17年法務省令第18号附則第3条第2項 の規定により移記 平成17年8月25日	
余白	宅地	1795.51		②③年月日不詳地目変更 国土調査による成果 〔令和3年12月14日〕	

権 利 部 (甲 区) (所有権に関する事項)			
順位番号	登 記 の 目 的	受付年月日・受付番号	権 利 者 そ の 他 の 事 項
1	所有権移転	昭和38年12月18日 第14848号	原因 昭和38年10月20日相続 所有者 武蔵村山市本町三丁目63番地の1 萩野忠三 順位1番の登記を移記
	余白	余白	平成17年法務省令第18号附則第3条第2項 の規定により移記 平成17年8月25日

権 利 部 (乙 区) (所有権以外の権利に関する事項)			
順位番号	登 記 の 目 的	受付年月日・受付番号	権 利 者 そ の 他 の 事 項
1	根抵当権設定	平成13年7月30日 第21985号	原因 平成13年7月30日設定 価額 金7,000万円 債権の範囲 信用金庫取引 手形債権 小切手 債権 債務者 武蔵村山市本町三丁目63番地の1 有限会社リードコーポレーション 根抵当権者 中野区中野二丁目29番10号 西武信用金庫 共同担保 目録第5126号 順位2番の登記を移記
	余白	余白	平成17年法務省令第18号附則第3条第2項

* 下線のあるものは消事項であることを示す。

整理番号 D55823 (5/10)

1/2

順位番号	登記の目的	受付年月日・受付番号	権利者その他の事項
			の規定により移記 平成17年8月25日



原本確認

これは登記記録に記録されている事項の全部を証明した書面である。

令和5年7月26日
東京法務局立川出張所

登記官

宮崎久昭



* 下線のあるものは持前事項であることを示す。

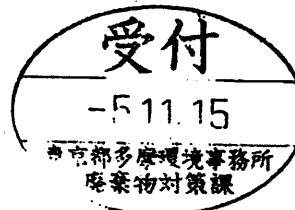
整理番号 D55823 (5/10)

2/2

表 題 部	(主である建物の表示)	調製	平成17年8月25日	不動産番号	0128000261320
所在図番号	[余白]				
所 在	武蔵村山市伊奈平3丁目 27番地1			[余白]	
家屋番号	27番1			[余白]	
① 種 類	② 構 造	③ 床 面 積 m ²		原因及びその日付〔登記の日付〕	
倉庫	鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺平家建	656.70		平成8年10月23日新築	
[余白]	[余白]	[余白]		平成17年法務省令第18号附則第3条第2項の規定により移記 平成17年8月25日	

権 利 部 (甲 区) (所 有 権 に 関 す る 事 項)			
順位番号	登 記 の 目 的	受付年月日・受付番号	権 利 者 そ の 他 の 事 項
1	共有者全員持分全部移転	平成13年7月30日 第21984号	原因 平成13年7月30日売買 所有者 武蔵村山市本町三丁目63番地の1 有限会社リードコーポレーション 順位2番の登記を移記
	[余白]	[余白]	平成17年法務省令第18号附則第3条第2項 の規定により移記 平成17年8月25日

権 利 部 (乙 区) (所 有 権 以 外 の 権 利 に 関 す る 事 項)			
順位番号	登 記 の 目 的	受付年月日・受付番号	権 利 者 そ の 他 の 事 項
1	根抵当権設定	平成13年7月30日 第21985号	原因 平成13年7月30日設定 極度額 金7,000万円 債権の範囲 信用金庫取引 手形債権 小切手 債権 債務者 武蔵村山市本町三丁目63番地の1 有限会社リードコーポレーション 根抵当権者 中野区中野二丁目29番10号 西武信用金庫 共同担保 目録第5126号 順位2番の登記を移記
	[余白]	[余白]	平成17年法務省令第18号附則第3条第2項 の規定により移記 平成17年8月25日



原本確認



原本確認

これは登記記録に登録されている事項の全部を証明した書面である。

令和5年7月26日
東京法務局立川出張所

登記官

宮崎久昭



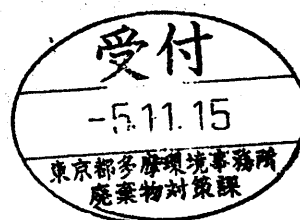
* 下線のあるものは抹消事項であることを示す。

整理番号 D55823 (10/10)

2/2

表題部 (土地の表示)		調製	平成17年8月25日	不動産番号	0128000260865
地図番号	Q23-2-4 Q23-4-2	筆界特定	[余白]		
所在	武蔵村山市伊奈平三丁目				[余白]
①地番	②地目	③地積	m	原因及びその日付〔登記の日付〕	
25番3	山林	802		25番1から分筆 〔平成6年4月14日〕	
[余白]	[余白]	[余白]		平成17年法務省令第18号附則第3条第2項の規定により移記 平成17年8月25日	
[余白]	宅地	802	01	②③年月日不詳地目変更 国土調査による成果 〔令和3年12月14日〕	

権利部 (甲区) (所有権に関する事項)			
順位番号	登記の目的	受付年月日・受付番号	権利者その他の事項
1	所有権移転	平成6年5月31日 第17757号	原因 平成6年5月30日売買 共有者 武蔵村山市中央二丁目18番地の3 持分2分の1 比留間久仁男 武蔵村山市中央二丁目18番地の3 2分の1 比留間澄枝 順位3番の登記を移記
	[余白]	[余白]	平成17年法務省令第18号附則第3条第2項の規定により移記 平成17年8月25日
2	共有者全員持分全部移転	平成22年5月19日 第12564号	原因 平成22年5月11日売買 所有者 東京都武蔵村山市中央二丁目18番地の3 比留間運送株式会社



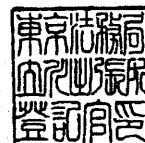
原本確認

これは登記記録に登録されている事項の全部を証明した書面である。ただし、登記記録の乙区に登録されている事項はない。

令和5年7月26日
東京法務局立川出張所

登記官

宮崎久昭



* 下線のあるものは抹消事項であることを示す。

整理番号 D55823 (3/10)

1/1

表 題 部 (土地の表示)	調製	平成17年8月25日	不動産番号	0128000260867
地図番号	Q23-4-2	筆界特定	[余白]	
所 在	武蔵村山市伊奈平3丁目			[余白]
① 地 番	② 地 目	③ 地 積 m ²	原因及びその日付〔登記の日付〕	
25番5	山林	762	25番1から分筆 〔平成6年4月14日〕	
[余白]	[余白]	[余白]	平成17年法務省令第18号附則第3条第2項 の規定により移記 平成17年8月25日	
[余白]	宅地	760.55	②年月日不詳地目変更 ③錯誤 国土調査による成果 〔令和3年12月14日〕	

権 利 部 (甲 区) (所 有 権 に 関 す る 事 項)			
順位番号	登 記 の 目 的	受付年月日・受付番号	権 利 者 そ の 他 の 事 項
1	所有権移転	平成6年5月31日 第17758号	原因 平成6年5月30日売買 所有者 武蔵村山市中央二丁目18番地の3 比 留 間 運 送 株 式 会 社 順位3番の登記を移記
	[余白]	[余白]	平成17年法務省令第18号附則第3条第2項 の規定により移記 平成17年8月25日



原本確認

これは登記記録に登録されている事項の全部を証明した書面である。ただし、登記記録の乙区に登録されている事項はない。

令和5年7月26日
東京法務局立川出張所

登記官

宮 崎 久 昭



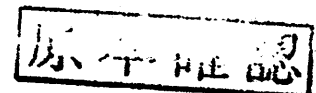
* 下線のあるものは法律事項であることを示す。

整理番号 D55823 (4/10)

1/1

表 題 部 (土地の表示)		調製	平成17年8月25日	不動産番号	0128000260863
地図番号	Q23-4-2 Q23-4-4 Q24-3-1 Q24-3-3	筆界特定	[余白]		
所 在	武蔵村山市伊奈平三丁目			[余白]	
① 地 番	② 地 目	③ 地 積	m ²	原因及びその日付(登記の日付)	
2546番4	山林	2505		[余白]	
24番	[余白]	[余白]		①変更 [昭和55年2月1日]	
[余白]	[余白]	[余白]		平成17年法務省令第18号附則第3条第2項の規定により移記 平成17年8月25日	
[余白]	宅地	2936.09		②年月日不詳地目変更 ③錯誤 国土調査による成果 [令和3年12月14日]	

権 利 部 (甲 区) (所 有 権 に 関 す る 事 項)			
順位番号	登 記 の 目 的	受付年月日・受付番号	権 利 者 そ の 他 の 事 項
1	所有権移転	昭和54年11月6日 第44778号	原因 昭和54年5月8日相続 共有者 武蔵村山市大字中藤4584番地 持分2分の1 乙 幡 忠 雄 武蔵村山市大字中藤4584番地 2分の1 乙 幡 矩 子 順位2番の登記を移記
付記1号	1番登記名義人表示変更	平成18年7月13日 第21258号	原因 昭和62年9月1日町名地番変更 共有者乙幡矩子の住所 東京都武蔵村山市本町 一丁目82番地の2
2	乙幡忠雄持分全部移転	平成12年12月27日 第35878号	原因 平成12年3月5日相続 共有者 武蔵村山市本町一丁目82番地の2 持分4分の1 乙 幡 恵 子 武蔵村山市本町一丁目82番地の2 4分の1 乙 幡 直 樹 順位3番の登記を移記
	[余白] 原 心	[余白]	平成17年法務省令第18号附則第3条第2項 の規定により移記 平成17年8月25日
3	共有者全員持分全部移転	平成18年7月13日 第21259号	原因 平成18年7月13日売買 所有者 東京都武蔵村山市中央二丁目18番地 の3 比 留 岡 運 送 株 式 会 社



これは登記記録に記録されている事項の全部を証明した書面である。ただし、登記記録の乙区に記録されている事項はない。

令和5年7月26日
東京法務局立川出張所

登記官

宮崎 久昭



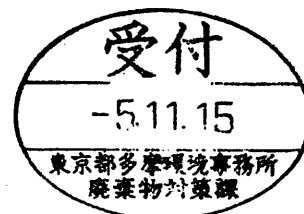
* 下線のあるものは抹消事項であることを示す。

整理番号 D55823 (2/10)

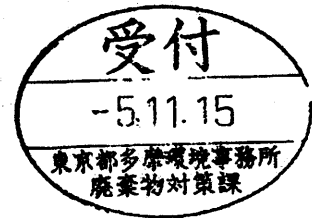
2/2

表 題 部 (主である建物の表示)		調製	平成17年8月25日	不動産番号	0128000261317
所在図番号	余白				
所 在	武蔵村山市伊奈平三丁目 24 番地			余白	
家屋番号	24 番			余白	
① 種 類	② 構 造	③ 床 面 積 m ²		原因及びその日付〔登記の日付〕	
作業所	鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺平家建	213.86		平成7年6月10日新築	
余白	余白	余白		平成17年法務省令第18号附則第3条第2項の規定により移記 平成17年8月25日	

権 利 部 (甲 区) (所有権に関する事項)			
順位番号	登 記 の 目 的	受付年月日・受付番号	権 利 者 そ の 他 の 事 項
1	所有権保存	平成8年6月14日 第20146号	共有者 武蔵村山市本町一丁目82番地の2 持分2分の1 乙 幡 忠 雄 武蔵村山市本町一丁目82番地の2 2分の1 乙 幡 矩 子 順位1番の登記を移記
2	乙幡忠雄持分全部移転	平成12年12月27日 第35878号	原因 平成12年3月5日相続 共有者 武蔵村山市本町一丁目82番地の2 持分4分の1 乙 幡 恵 子 武蔵村山市本町一丁目82番地の2 4分の1 乙 幡 直 樹 順位2番の登記を移記
	余白	余白	平成17年法務省令第18号附則第3条第2項 の規定により移記 平成17年8月25日
3	共有者全員持分全部移転	平成18年7月13日 第21260号	原因 平成18年7月13日売買 所有者 東京都武蔵村山市中央二丁目18番地 の3 比 留 問 運 送 株 式 会 社



原本確認



原本確認

これは登記記録に登録されている事項の全部を証明した書面である。ただし、登記記録の乙区に登録されている事項はない。

令和5年7月26日
東京法務局立川出張所

登記官

宮崎久昭



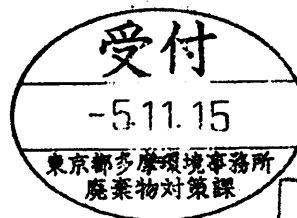
* 下線のあるものは消事項であることを示す。

整理番号 D55823 (9/10)

2/2

表 題 部 (土地の表示)		調製	平成17年8月25日	不動産番号	0128000260854
地図番号	Q23-4-4 Q33-2-2	筆界特定	[余白]		
所 在	武蔵村山市伊奈平3丁目				[余白]
① 地 番	② 地 目	③ 地 積 m ²	原因及びその日付〔登記の日付〕		
2546番5	畑	1358	[余白]		
20番	[余白]	[余白]	①変更 〔昭和55年2月1日〕		
[余白]	[余白]	1412	③錯誤 〔平成15年11月27日〕		
[余白]	雑種地	[余白]	②平成9年10月1日変更 〔平成15年11月27日〕		
[余白]	[余白]	[余白]	平成17年法務省令第18号附則第3条第2項 の規定により移記 平成17年8月25日		
[余白]	[余白]	1413	③錯誤 国土調査による成果 〔令和3年12月14日〕		

権 利 部 (甲 区) (所 有 権 に 関 す る 事 項)			
順位番号	登 記 の 目 的	受付年月日・受付番号	権 利 者 そ の 他 の 事 項
1	所有権移転	平成15年12月18日 第37593号	原因 平成15年12月18日売買 所有者 武蔵村山市中央二丁目18番地の3 有 限 会 社 大 宝 順位3番の登記を移記
	[余白]	[余白]	平成17年法務省令第18号附則第3条第2項 の規定により移記 平成17年8月25日
2	所有権移転	平成26年11月4日 第30979号	原因 平成26年10月29日売買 所有者 東京都武蔵村山市中央二丁目18番地 の3 比 留 間 迎 送 株 式 会 社

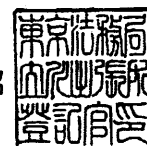


これは登記記録に記録されている事項の全部を証明した書面である。ただし、登記記録の乙区に記録されている事項はない。

令和5年7月26日
東京法務局立川出張所

登記官

宮 崎 久 昭



* 下線のあるものは抹消事項であることを示す。

整理番号 D55823 (1/10)

1/1

土地賃貸借契約書

平成 29 年 08 月 01 日

土地建物賃貸借契約書

賃貸人

住 所 東京都武蔵村山市中央二丁目 18 番地の 3

氏 名 有限会社 大宝

代表取締役 比留間 菜

対象外

⑨ (以下「甲」という。)

(法人にあっては名称及び代表者の氏名)

賃借人

住 所 東京都武蔵村山市中央二丁目 18 番地の 3

氏 名 比留間運送 株式会社

代表取締役 比留間久仁

対象外

⑩ (以下「乙」という。)

(法人にあっては名称及び代表者の氏名)

有 限 会 社 大 宝

比 留 間 運 送 株 式 会 社

不開示

不 開 示	不 開 示

建 物 (倉庫) 契 約 書

不開示

不開示

対象外

対象外

対象外

対象外

不開示

2023 年 7 月 6 日

甲（貸主）住所

有限会社リードコーポレーション

代表取締役 荻野光徳

〒206-0004 東京都武蔵村山市本町3-63

TEL・FAX 042-560-2104

氏名

対象外

適格請求書発行事業者登録番号

不開示

乙（借主）住所

東京都武蔵村山市中丸2丁目18番地013

比留間倉庫株式会社

代表取締役 比留間 宏

氏名

対象外

適格請求書発行事業者登録番号

不開示

仲介人

不開示

不開示

対象外

不開示

不開示

取引士

不開示

東京都 第

不開示

号

対象外

適格請求書発行事業者登録番号

不開示

10 他法令への対応

10 他法令への対応

10-1 関係法令に関する書類（環境確保条例）

・工場設置（変更）認可申請書（条例第81条・第82条、規則第30条）

管轄：武蔵村山市協働推進部 環境課 環境保全グループ 新野 様

日時：2023年8月21日（月）

産業廃棄物収集運搬業許可の更新について説明。変更点等はないため手続きは不要。

10-2 関係法令に関する書類（その他）

・消防法等に関する書類

管轄：北多摩西部消防署 武蔵村山出張所 坂本 様

日時：2023年8月22日（火）

産業廃棄物収集運搬業許可の更新について説明。変更点等はないため手続きは不要。

工場 設置
変更 認可申請書

令和3年 3 月 30 日

武蔵村山市長 殿

住所 東京都武蔵村山市中央二丁目18番地の3

氏名 比留間 宏明 対象外

氏名 代表者 比留間 宏明 対象外

(法人にあっては名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地)

都民の健康と安全を確保する環境に関する条例 第81条第1項 第82条第1項 の規定により認可を受けたいので、関係書類を添えて、次のとおり申請します。

既 認 可 番 号	認可番号・年月日	工場変更認可第733号 平成3年5月14日	
	変更事由	1 業種 2 作業 3 建物 4 施設	
工 場 の 名 称	比留間運送株式会社 伊奈平工場		
工 場 の 所 在 地	東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地5		
地 域 等	用 途 地 域	水 域	
	工業地域	多摩川水域	
業 種 ①	①廃棄物処理業		②中間処理
作 業 の 種 類 ②			
主 要 生 産 品 目			
資 本 金	1180万円	作 業 時 間	08時00分から 20時00分まで(12時間)
自動車の出入口が 接する道路の幅員	6m	100メートル以 内の学校・病院等の 所在地	該当無し
工 事 着 工 予 定	令和3年 5 月 1 日	工 事 完 成 予 定	令和3年5月14日
従 業 員 数	23人	常 時 雇 用 者 数	23人
公 害 防 止 担 当 部 課	担当部課 伊奈平工場 責任者氏名 工場長 対象外		
連 絡 先	所 属 総務部 氏 名 対象外 TEL 番号 042-565-1336 FAX 番号 042-561-2271 メールアドレス 対象外		
※ 受 付 欄	※手数料		7,600

- ※印の欄には記入しないこと。
- 「既認可番号等」の欄は、変更認可申請時のみ記入すること。
- △印の欄には、申請書に添付する各別紙に一連番号を付けた上、該当する別紙の番号を記入すること。
- 「用途地域」の欄には都市計画法第8条第1項第1号に規定する用途地域を、「水域」の欄には条例別表第7 4の部の付表の水域細区分の欄に掲げる水域を記入すること。
- 「業種①、作業の種類②」の欄の「①」には日本標準産業分類の中分類項目を記入すること。また、「②」には条例別表第1に掲げる工場の種類を記入すること。
- 「100メートル以内の学校・病院等」とは、工場の敷地の境界から100メートル以内の学校及び病院並びに50メートル以内の保育所、診療所（患者の収容施設を有するものに限る。）、図書館及び特別養護老人ホームをいう。
- 「公害防止担当部課」の欄の「責任者氏名」には、公害防止管理者を置いている工場にあっては、公害防止管理者の氏名を記入すること。

第7号様式 その2

敷地・建物の状況	敷地面積	1 変更後(設置) 8732.59 m ²		2 変更前		
	建物の配置等	「別紙1その1」のとおり				
	建物の棟別用途・構造・面積等	「別紙1その2」、「平面図、立面図および断面図」のとおり				
	周囲の状況	「施設周辺図」のとおり				
施設の状況	機械・設備等の施設	「別紙1その3」のとおり				
	構造・配置・使用方法	「主要機器及び附帯設備」のとおり				
動力用電力の合計 (kW)		その他の電力の合計 (kW)	総燃料油使用量 (ℓ/日)	総用水量 (m ³ /日)	取水方法	総排水量 (m ³ /日)
1 変更後 2120.61kw		10kw	400ℓ/日	20 m ³ /日	水道水・井戸水	1 m ³ /日
2 変更前 2097.71kw		10kw	400ℓ/日	20 m ³ /日	水道水・井戸水	1 m ³ /日
工場で取り扱う有害ガス又は有害物質		なし				
作業の工程		「廃棄物処理フロー図」のとおり				
		屋外の作業	一部あり			
公害防止措置の概要 (一時的作業に伴う措置を含む。)		「生活環境保全上の措置」のとおり				

- 備考 1 「建物の配置等」、「建物の棟別用途・構造・面積等」及び「機械・設備等の施設」の欄の別紙は、それぞれ、施行規則別記第7号様式の別紙1その1、その2及びその3を使用すること。
- 2 「周囲の状況」の欄の別紙は、近隣の建物の用途、構造及び配置並びに道路の状況等を明らかにした図面とすること。
- 3 「構造・配置・使用方法」の欄の別紙は、施行規則別記第7号様式の別紙2から別紙7までのうち該当する様式を使用すること。
- 4 「動力用電力の合計」から「総排水量」までの欄は、設置認可申請時には「1」欄のみ記入すること。
- 5 「動力用電力の合計」の欄には原動機の定格出力の合計を、「その他の電力の合計」の欄には電熱用電力、電解用電力等、直接当該工場の作業の用に供する電力で動力用電力以外のものの合計を記入すること。
- 6 「工場で取り扱う有害ガス又は有害物質」の欄には、条例別表第3 有害ガスに掲げる物質又は別表第4 有害物質に掲げる物質のうち工場で取り扱っているものを記入すること。

事業の用に供するすべての施設

施設設置場所：東京都武蔵村山市伊奈平三丁目 25 番地の 5 (伊奈平工場)

施設種類	処理工程	産廃	一廃	産業廃棄物 種類	単独 処理能力	混合 処理能力	設置 年月日	施設許可 番号	施設許可 年月日	備考
破碎(ク)	①, ③, ④	○	○	廃プラ類	6.3 t/日	—	H03.11.14	施設第 10031 号	H13.02.01	—
破碎(コ)	④, ⑤, ⑥ ⑤	○	○	廃プラ類 繊維くず	48.0 t/日 32.1 t/日	—	H03.11.14	施設第 10031 号	H18.07.20	—
破碎(シ)	⑩ ⑤	○	○	廃プラ類 繊維くず	44.7 t/日 32.3 t/日	—	R03.01.29	施設第 10031 号	R02.08.27	—
破碎(イ)	②	○	○	木くず	17.1 t/日	—	H10.06.30	施設第 10031 号	H13.02.01	—
破碎(ソ)	②	○	—	木くず	186.4 t/日	—	H28.08.04	施設第 10044 号	H28.07.29	—
破碎(セ)	⑤	○	—	ガラ陶 がれき類	480.0 t/日 480.0 t/日	480.0 t/日	H19.11.14	施設第 10031 号	H18.07.20	— —
破碎(ウ)	③, ⑥, ⑨	○	○	廃プラ類 紙くず 木くず 繊維くず 金属くず ガラ陶 がれき類 ゴムくず	45.6 t/日 52.8 t/日 125.4 t/日 39.6 t/日 81.6 t/日 198.0 t/日 198.0 t/日 25.4 t/日	53.5 t/日	H19.11.14	施設第 10031 号	H18.07.20	—
破碎(カ)	⑦	○	○	廃プラ類 金属く ず、ガラ陶の混合物 (蛍光灯ランプ) (水銀灯用器具産業 廃棄物)	— —	2.8 t/日	H23.12.1	—	—	—
熔融(ケ)	⑭	○	○	廃プラ類	2.4 t/日	—	H19.11.14	—	—	—
焼却(エ)	③, ④	○	○	紙くず 木くず 繊維くず 動物植物性残さ	— — — —	4.8 t/日	H03.11.14	施設第 50007 号	H09.12.01	—
圧縮(ア)	①	○	○	金属くず	4.3 t/日	—	H19.11.14	—	—	—
圧縮(ス)					10.2 t/日		H29.02.14			
圧縮・梱包 (キ)	③, ⑨	○	○	廃プラ類 紙くず	180.0 t/日 166.8 t/日	—	H15.08.19	—	—	—
圧縮・梱包 (サ)	⑩, ⑬, ⑮	○	○	廃プラ類 繊維くず	24.3 t/日 17.2 t/日	—	H21.09.14	—	—	—
発酵(オ)	⑦	○	○	汚泥 動物植物性残さ	— —	3.5 t/日	H19.11.14	—	—	—
造粒(ク)	⑮	○	—	ガラ陶 がれき類	— —	6.1 t/日	H30.08.31	—	—	—

備考

1 作業時間は、焼却炉が 8 時～17 時の 8 時間稼働する。それ以外の施設は 8 時～20 時の 12 時間稼働とする。



認 定 書

武環収第23号の2
令和3年5月31日

武蔵村山市長 山崎 泰大



次の工場は、都民の健康と安全を確保する環境に関する条例 ~~第8-1条第1項~~ 及び
第82条第1項

~~第8-1条第4項~~
~~第82条第2項~~ に規定する認可の内容及び条件に適合していることを同条例第84条

第2項の規定により認定します。

工 場 の 名 称	比留間運送株式会社 伊奈平工場
工場を設置する者の氏名	比留間運送株式会社 代表取締役 比留間 宏明
工 場 の 所 在 地	武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5
認 可 番 号 ・ 年 月 日	工場変更認可第917号 令和3年4月22日
検 査 年 月 日	令和3年5月21日



28北三(少) 第2号
平成28年12月21日

比留間運送株式会社
代表取締役
比留間 久仁男 殿

東京消防庁
北多摩西部消防署長 野崎 俊幸



検査結果通知書

平成28年12月5日付けで届出のあった指定可燃物貯蔵取扱所について
火災予防条例第58条第4項の規定のより検査した結果は、下記のとおりで
す。

記

指摘事項なし

対象外

A

第7号様式（第14条関係）

指定可燃物貯蔵取扱所 変更届出書

平成 28 年 月 日

東京消防庁 北多摩西部消防署長 殿

届出者

住 所 東京都中央二丁目 18 番地の 3
電 話 04
氏 名 比留間久仁男
代 表 比留間久仁男

対象外

対象外

貯蔵取扱書の所在地	東京都武蔵村山市伊奈平三丁目 25 番地の 5		
貯蔵取扱所の名称、 代 表 者 名	比留間運送株式会社 伊奈平工場 代表取締役 比留間久仁男		
類 品 名 (指 定 数 量)	木くず (10 m ³)		
最 大 数 量	木くず 107.88 m ³	指定数量の倍数又は条例 別表第 7 の数量の倍数	10.79
貯蔵取扱所の位置、 構 造 、 設 備 の 概 要	別紙のとおり		
危険物又は指定可燃物の 貯蔵・取扱い方法の概要	産業廃棄物の中間処理における屋内保管。最大保管高さ 3.0m 以下。		
消 防 用 設 備 等	消火器設置（詳細別紙のとおり）及び自動火災警報器設置。		
そ の 他			
※ 受 付 欄		※ 経 過 欄	
<div>28. 12. 5 第 28 北三(ウ) 号 北多摩西部消防署 三ツ木出張所</div>			

備考 1 届出者が法人の場合、その名称、代表者氏名及び主たる事務所の所在地を記入すること。

2 ※欄には、記入しないこと。



24北予(少)第24号
平成25年 3月22日

比留間運送株式会社
代表取締役
比留間 久仁男 殿

東京消防庁
北多摩西部消防署長 石川 義彦



検査結果通知書

平成25年 3月15日付けで届出のあった少量危険物貯蔵取扱所について
火災予防条例第58条第4項の規定により検査した結果は、下記のとおりです。

記

指摘事項なし

対象外

第7号様式 (第14条関係)

少量危険物貯蔵取扱所 設置届出書

平成25年 3 月 15 日

東京消防庁 北多摩西部消防署長 殿

届出者

住 所 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目18番地の3

電 話 042-5

氏 名 比留間

代表取

対象外

対象外

印

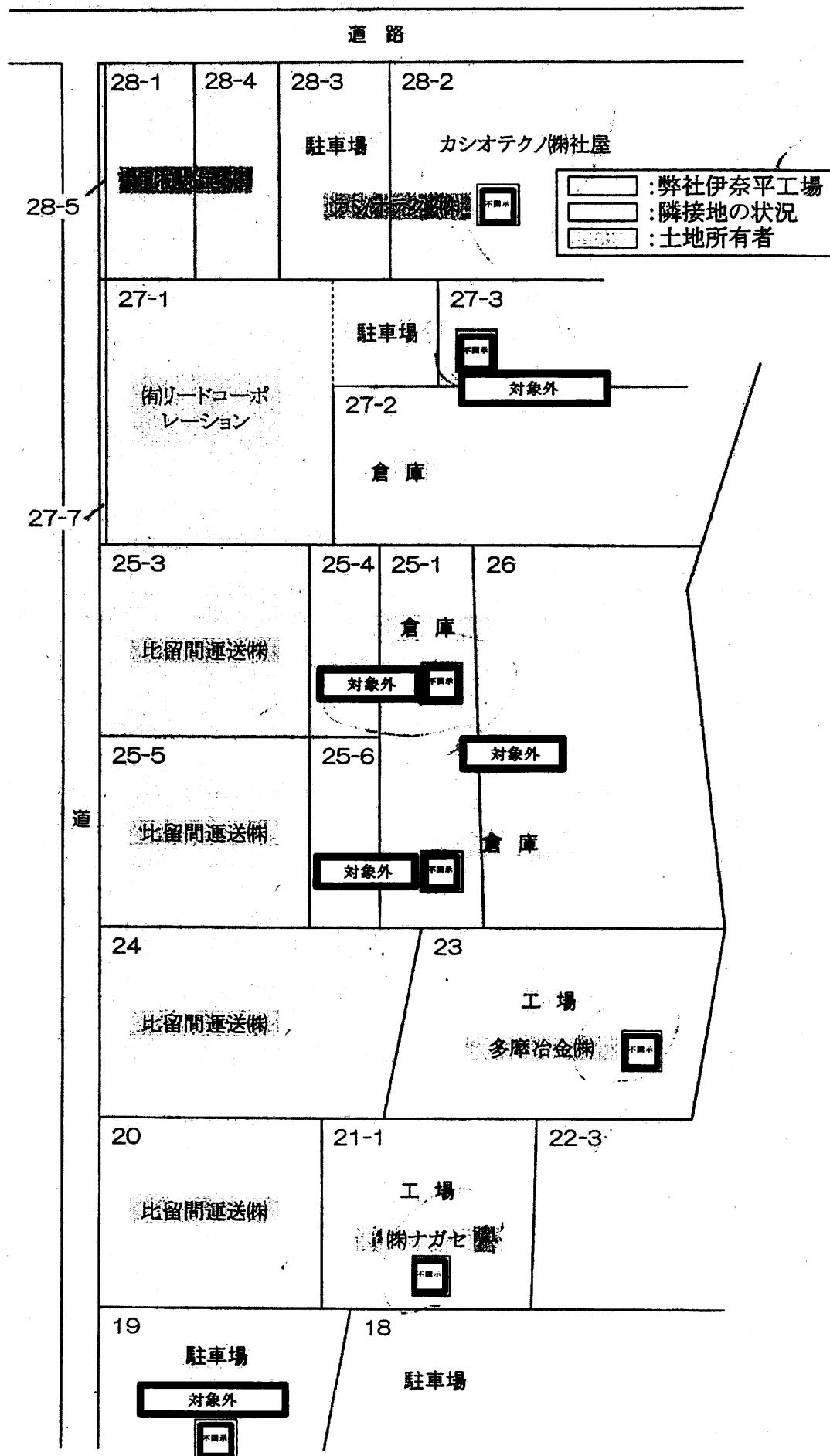
貯蔵取扱書の所在地	東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5		
貯蔵取扱所の名称、 代 表 者 名	比留間運送株式会社 伊奈平工場 代表取締役 比留間久仁男		
類 品 名 (指 定 数 量)	1号灯油 (第4類第2石油類・1000ℓ)		
最 大 数 量	468ℓ	指定数量の倍数又は条例 別表第7の数量の倍数	0.47
貯蔵取扱所の位置、 構 造、設 備 の 概 要	別紙のとおり		
危険物又は指定可燃物の 貯蔵・取扱い方法の概要	産業廃棄物焼却施設の補助燃料。鉄製タンクに屋外保管。		
消 防 用 設 備 等			
そ の 他			
※ 受 付 欄		※ 経 過 欄	
<div>25.3.15 第24北予(少)第24号 北多摩西部消防署 予防課</div>		<div>届 24.北予(少)第24号 出 を受理しました。 平成25年 3 月21日 東京消防庁 北多摩西部消防署長 石川 義彦</div>	

備考 1 届出者が法人の場合、その名称、代表者氏名及び主たる事務所の所在地を記入すること。

2 ※欄には、記入しないこと。

1 1 住民説明の状況

11 住民の説明状況
11-1 説明対象者を示す図面



産業廃棄物収集運搬業許可証

住所 東京都武蔵村山市中央二丁目 18 番地の 3
氏名 比留間運送株式会社
代表取締役 比留間 宏明

優良

第 14 条第 1 項
廃棄物の処理及び清掃に関する法律
第 14 条の 2 第 1 項
の許可を受けた者であることを証する。

東京都知事

小池百合子

許可の年月日 平成 28 年 12 月 20 日
許可の有効年月日 令和 5 年 12 月 19 日

許可証確認用
複写及び他の使用目的は無効

1 事業の範囲

- (1) 業の区分: 収集運搬 (積替え保管を含む。)
- (2) 取り扱う産業廃棄物の種類
燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、
動植物性残さ、動物系固形不要物、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及
び陶磁器くず、鉱さい、がれき類、動物のふん尿、動物の死体、ばいじん、政令 13 号廃棄
物 (コンクリート固化物に限る。)
(石綿含有産業廃棄物を含む。)(水銀使用製品産業廃棄物を含む。)(水銀含有ばいじん
等を含む。)(以上 20 種類)
- (3) 積替え保管できる産業廃棄物の種類 (限定内容は 2 頁、3 頁のとおり)
燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、
金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類
(石綿含有産業廃棄物を含む。)(水銀使用製品産業廃棄物を含む。)(水銀含有ばいじん
等を含む。)(以上 12 種類)

2 積替え保管施設 (施設詳細は 2 頁、3 頁のとおり)

- (1) 施設所在地: 東京都武蔵村山市伊奈平三丁目 25 番地の 5
(2) 施設所在地: 東京都あきる野市二宮字下塚場 375 番 1
(3) 施設所在地: 東京都西多摩郡瑞穂町大字富士山栗原新田字富士原 237 番 1 外 1 筆

3 許可の条件

- (1) 作業時間は原則として、2(1)の施設は 8 時から 20 時まで、2(2)の施設は 8 時から 19 時
まで、2(3)の施設は 8 時から 17 時までとすること。
(2) 積替え保管を行う産業廃棄物の搬出は全て自ら行うこと。ただし、石綿含有産業廃棄物につい
てはこの限りでない。
(3) 「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」、「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例」
及びその他の関係法令を遵守すること
(4) 積替え保管は本都の承認を得た方法により行うこと

4 許可の更新・変更の状況

平成 3 年 12 月 20 日 新規許可
平成 28 年 12 月 20 日 更新許可 第 5 回
平成 29 年 3 月 17 日 変更許可 種類の追加 (動物系固形廃棄物 他 4 種類)
平成 30 年 9 月 21 日 変更届 積替え保管面積の変更 (武蔵村山市、あきる野市)

5 積替え許可の有無 無

6 規則第 9 条の 2 第 6 項の規定による許可証の提出の有無 無

(1/3)



2 積替え保管施設

- (1) 施設所在地：東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5
 積替え保管面積：822.67㎡、最大保管高さ：1.5m

産業廃棄物の種類 (限定内容)	保 管 量
燃え殻、汚泥	コンテナ 6.8㎡×3個 20.4㎡
燃え殻（水銀含有ばいじん等）	コンテナ 6.8㎡×1個 6.8㎡
廃油	ドラム缶 0.2㎡×3個 0.6㎡
廃酸	ドラム缶 0.2㎡×2個 0.4㎡
廃酸（水銀含有ばいじん等）	ドラム缶 0.2㎡×1個 0.2㎡
廃アルカリ	ドラム缶 0.2㎡×2個 0.4㎡
廃アルカリ（水銀含有ばいじん等）	ドラム缶 0.2㎡×1個 0.2㎡
汚泥、廃プラスチック類、金属くずの混合物（消火器）	ドラム缶 0.2㎡×3個 0.6㎡
汚泥、金属くずの混合物（電池）	ドラム缶 0.2㎡×2個 0.4㎡
汚泥、金属くずの混合物（電池）（水銀使用製品産業廃棄物）	ドラム缶 0.2㎡×1個 0.2㎡
廃プラスチック類、金属くずの混合物（バッテリー）	ドラム缶 0.2㎡×1個 0.2㎡

- (2) 施設所在地：東京都あきる野市二宮下塚場375番1
 積替え保管面積：1,654㎡、最大保管高さ：3.0m

産業廃棄物の種類 (限定内容)	保 管 量
廃プラスチック類、紙くず、繊維くず（廃量）	直置き 2ヶ所 (28.8+28.8)㎡ 57.6㎡
廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類	直置き 3ヶ所 (59.6+28.8+55.6)㎡ 143.9㎡
廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類	直置き 3ヶ所 (28.8+81.7+230.5)㎡ 340.7㎡
廃プラスチック類	直置き 28.8㎡
木くず	コンテナ 27.0㎡×1個 27.0㎡
金属くず	コンテナ 27.0㎡×1個 27.0㎡
廃プラスチック類、紙くず、木くず	コンテナ 2ヶ所 (27.0×1個+10.2×2個)㎡ 47.4㎡
汚泥	コンテナ 27.0㎡×1個 27.0㎡
廃プラスチック類、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず（石膏ボード）	コンテナ 10.2㎡×2個 20.4㎡
廃プラスチック類、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類（石綿含有産業廃棄物）	コンテナ 10.2㎡×2個 20.4㎡

許可証確認用

積置及び他の使用目的は無効

産業廃棄物の種類 (限定内容)	保 管 量
廃プラスチック類、金属くずの混合物（バッテリーのうち特別管理産業廃棄物である廃酸を内部に有するもの。）	ドラム缶 0.2㎡×1個 0.2㎡
廃プラスチック類、金属くずの混合物（バッテリーのうち特別管理産業廃棄物である廃アルカリを内部に有するもの。）	ドラム缶 0.2㎡×1個 0.2㎡
廃プラスチック類、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類（石綿含有産業廃棄物）	コンテナ 10.2㎡×2個 20.4㎡
合計保管量	51.2㎡

産業廃棄物の種類 (限定内容)	保 管 量
廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くずの混合物（廃蛍光灯）（水銀使用製品産業廃棄物）	コンテナボックス 8.0㎡×1個 8.0㎡
汚泥、廃プラスチック類、金属くずの混合物（消火器）	ドラム缶 0.2㎡×3個 0.6㎡
汚泥、金属くずの混合物（電池）	ドラム缶 0.2㎡×2個 0.4㎡
汚泥、金属くずの混合物（電池）（水銀使用製品産業廃棄物）	ドラム缶 0.2㎡×1個 0.2㎡
廃プラスチック類、金属くずの混合物（バッテリー）	ドラム缶 0.2㎡×1個 0.2㎡
廃プラスチック類、金属くずの混合物（バッテリーのうち特別管理産業廃棄物である廃酸を内部に有するもの。）	ドラム缶 0.2㎡×1個 0.2㎡
廃プラスチック類、金属くずの混合物（バッテリーのうち特別管理産業廃棄物である廃アルカリを内部に有するもの。）	ドラム缶 0.2㎡×1個 0.2㎡
廃油	ドラム缶 0.2㎡×3個 0.6㎡
廃酸	ドラム缶 0.2㎡×2個 0.4㎡
廃酸（水銀含有ばいじん等）	ドラム缶 0.2㎡×1個 0.2㎡
廃アルカリ	ドラム缶 0.2㎡×2個 0.4㎡
廃アルカリ（水銀含有ばいじん等）	ドラム缶 0.2㎡×1個 0.2㎡
合計保管量	751.8㎡

2 積替え保管施設

許可証確認用

複写及び他の使用目的は無効

(3) 施設所在地: 東京都西多摩郡瑞穂町大字富士山栗原新田字富士原237番地
積替え保管面積: 2,891㎡ 最大保管高さ: 8.0m

産業廃棄物の種類 (限定内容)	保管量
廃プラスチック類、木くず、繊維くず、金属くず	直置き 300.5㎡
廃プラスチック類	コンテナ 3ヶ所 (35.4+23.7+27.0) 86.1㎡
	直置き 62.0㎡
廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類	直置き 2ヶ所 (116.5+62.0) ㎡ 178.5㎡
廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類	直置き 3ヶ所 (103.3+82.5+55.4) ㎡ 241.2㎡
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	直置き 3ヶ所 (62.0+59.4+48.0) ㎡ 169.4㎡
がれき類	直置き 2ヶ所 (59.4+37.8) ㎡ 97.2㎡
廃プラスチック類、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類 (石綿含有産業廃棄物)	フレコンバック 1.0㎡×72袋 72.0㎡
紙くず	コンテナ 10.2㎡×1個 10.2㎡
木くず	コンテナ 10.2㎡×1個 10.2㎡
汚泥(水銀含有ばいじん等)	コンテナ 27.0㎡×1個 27.0㎡

廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くずの混合物(水銀使用製品産業廃棄物を除く。)	ドラム缶 0.2㎡×1個	0.2㎡
廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くずの混合物(廃蛍光灯) (水銀使用製品産業廃棄物)	ドラム缶 0.2㎡×2個	0.4㎡
汚泥、廃プラスチック類、金属くずの混合物(消火器)	ドラム缶 0.2㎡×3個	0.6㎡
汚泥、金属くずの混合物(電池)	ドラム缶 0.2㎡×2個	0.4㎡
汚泥、金属くずの混合物(電池) (水銀使用製品産業廃棄物)	ドラム缶 0.2㎡×1個	0.2㎡
廃プラスチック類、金属くずの混合物(バッテリー)	ドラム缶 0.2㎡×1個	0.2㎡
廃プラスチック類、金属くずの混合物(バッテリーのうち特別管理産業廃棄物である廃酸を内部に有するもの。)	ドラム缶 0.2㎡×1個	0.2㎡
廃プラスチック類、金属くずの混合物(バッテリーのうち特別管理産業廃棄物である廃アルカリを内部に有するもの。)	ドラム缶 0.2㎡×1個	0.2㎡
廃油	ドラム缶 0.2㎡×3個	0.6㎡
廃酸	ドラム缶 0.2㎡×2個	0.4㎡
廃酸(水銀含有ばいじん等)	ドラム缶 0.2㎡×1個	0.2㎡
廃アルカリ	ドラム缶 0.2㎡×2個	0.4㎡
廃アルカリ(水銀含有ばいじん等)	ドラム缶 0.2㎡×1個	0.2㎡
ガラスくずコンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類	直置き	55.4㎡
合計保管量		1313.9㎡

(以下余白)

(3/3)

産廃エキスパート

この許可証には複製の不正防止処置を施してあります。



東京都

11-3 説明経過書

	説明対象者	説明日	説明方法	説明結果	特記事項
<input type="checkbox"/>	不開示	2023/8/28	説明資料を配布	更新について説明し、口頭で同意を得ました。	
<input type="checkbox"/>		2023/8/28	説明資料を配布	更新について説明し、口頭で同意を得ました。	
<input type="checkbox"/>		2023/8/28	説明資料を配布	更新について説明し、口頭で同意を得ました。	
<input type="checkbox"/>		2023/8/28	説明資料を配布	更新について説明し、口頭で同意を得ました。	
<input type="checkbox"/>		2023/8/28	説明資料を配布	更新について説明し、口頭で同意を得ました。	
<input type="checkbox"/>		2023/8/28	説明資料を配布	更新について説明し、口頭で同意を得ました。	
<input type="checkbox"/>		2023/8/28	説明資料を配布	更新について説明し、口頭で同意を得ました。	

※ 説明対象者から同意書等を頂けた場合は、その写しを添付してください。

一般廃棄物処理施設変更許可申請書

令和5年10月25日

東京都知事 殿



申請者

郵便番号 〒100-0000

住所 東京都武蔵村山市中央二丁目18番地の3

対象外

氏名 代

株式会社

住間 宏明

対象外

(法人にあっては代表者)

電話番号 042-565-1336

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第9条第1項の規定により、一般廃棄物処理施設の変更の許可を受けたいので、関係書類及び図面を添えて申請します。

一般廃棄物処理施設の設置の場所

東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5

一般廃棄物処理施設の種類の種類

破砕

[廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず、がれき類、廃蛍光灯ランプ]

圧縮梱包

[廃プラスチック類、紙くず、繊維くず]

圧縮

[空き缶]

(溶融

[廃プラスチック類(発泡スチロール)])

(発酵

[食品残さ(生ごみ)、汚泥(有機性のものに限る。)])

許可の年月日

令和2年8月27日

(当初 平成18年7月20日)

許可番号

一施第1003号

変更の内容

一般廃棄物処理施設において処理する一般廃棄物の種類

廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず、がれき類、廃蛍光灯ランプ、空き缶、食品残さ(生ごみ)、汚泥(有機性のものに限る。))

一般廃棄物処理施設の処理能力(一般廃棄物の最終処分場である場合にあっては、一般廃棄物の埋立処分の用に供される場所の面積及び埋立容量)

変更前

 $\text{m}^3/\text{日} = (\text{m}^3/\text{時間} \times \text{時間})$
397.1t/日(12時間)

変更後

 $\text{m}^3/\text{日} = (\text{m}^3/\text{時間} \times \text{時間})$
461.6t/日(12時間)埋立地の面積 m^2 埋立地の面積 m^2 埋立容量 m^3 埋立容量 m^3

△一般廃棄物処理施設の位置、構造等の設置に関する計画

別紙「処理能力計算書、仕様書、平面図」のとおり

△一般廃棄物処理施設の維持管理に関する計画

別紙2のとおり

変更の理由

事業拡大のため

着工予定年月日

令和6年2月1日

使用開始予定年月日

令和6年4月1日

※許可の年月日		年 月 日
※許可番号		
※事務処理欄		
添付書類及び図面	01. 当該変更が周辺地域の生活環境に及ぼす影響についての調査の結果を記載した書類 02. 変更後の一般廃棄物処理施設の構造を明らかにする設計計算書 03. 最終処分場にあつては、周囲の地形、地質及び地下水の状況を明らかにする書類及び図面 04. 当該一般廃棄物処理施設の維持管理に関する計画に変更がある場合には、変更後の維持管理に関する計画を記載した書類 05. 最終処分場以外の一般廃棄物処理施設にあつては、処理工程に変更がある場合には、変更後の処理工程図 06. 変更後の当該一般廃棄物の維持管理に関する技術的能力を説明する書類 07. 変更後の当該一般廃棄物処理施設の維持管理に要する資金の総額及びその資金の調達方法を記載した書類 08. 施行規則第3条第5項第7号から第15号までに掲げる書類	
備考		
01. ※欄は記入しないこと。 02. 一般廃棄物処理施設の種類については、ごみ処理施設、し尿処理施設又は最終処分場の別を記入すること。さらに、ごみ処理施設の場合は、焼却施設、破碎施設等の別を括弧書きすること。 03. Δ印の欄の記載については、できる限り図面、表等を利用することとし、かつ、次の図面等を含むこと。 (1) 一般廃棄物処理施設の構造及び設備に変更がある場合は、変更後の当該施設の構造を明らかにする平面図、立面図、断面図及び構造図 (2) 排ガス又は排水の処理方法に変更がある場合は、変更後の処理系統図 (3) 排ガス又は排水の量に変更がある場合は、変更後の数値 (4) 排ガスの性状に変更がある場合は、大気汚染防止法第6条第2項に規定するばい煙量若しくはばい煙濃度又はダイオキシン類濃度に係る変更後の数値 (5) 放流水の水質に変更がある場合は、し尿処理施設の場合は生物化学的酸素要求量、浮遊物質、大腸菌群数等の項目、最終処分場の場合は排水基準を定める総理府令第一条に規定する排水基準に掲げる項目に係る変更後の数値 04. Δ印の欄にその記載事項の全てを記載することができないときは、同欄に「別紙のとおり」と記載し、別紙を添付すること。 05. 変更のある部分については、変更前及び変更後の内容を対照させるものとする。		
※手数料欄		

申請者（個人である場合）

(ふりがな) 氏 名	生 年 月 日	本 籍 住 所
(法人である場合)		
(ふ り が な) 名 称	住 所	
ひるまうんそうかぶしがいいしゃ 比留間運送株式会社	東京都武蔵村山市中央二丁目18番地の3	

法定代理人（申請者が法第14条第5項第2号ハに規定する未成年者である場合）

(個人である場合)		
(ふりがな) 氏 名	生 年 月 日	本 籍 住 所
該当なし		
(法人である場合)		
(ふ り が な) 名 称	住 所	

役員（法定代理人が法人である場合）

(ふりがな) 氏 名	生 年 月 日 役職名・呼称	本 籍 住 所

役員（申請者が法人である場合）

(ふりがな) 氏 名	生 年 月 日 役職名・呼称	本 籍 住 所
ひるま 比留間 宏明 /	対象外 代表取締役	対象外 東京都武蔵村山市中央2丁目135番地の2
ひるま 比留間 菜月 /	対象外 代表取締役	対象外 東京都武蔵村山市中央2丁目135番地の2
ひるま 比留間 久仁男 /	対象外 取締役	対象外 東京都武蔵村山市中央2丁目18番地の3
まつもと 松本 栄二 /	対象外 取締役	対象外
おの 小野 吉雄 /	対象外 取締役	
あまみ 天沼 智弘 /	対象外 取締役	
すざき 鈴木 理之 /	対象外 取締役	
ひるま 比留間 澄枝 /	対象外 監査役	

(第4片)

発行済株式総数の100分の5以上の株式を有する株主又は出資の額の100分の5以上の額に相当する出資をしている者（申請者が法人である場合において、当該株主又は出資をしている者があるとき）

発行済株式の総数	23,600株		出資の額	1,180万円
(ふりがな) 氏名又は名称	生年月日	保有する株式の数 又は出資の額	本	籍
		割 合	住	所
不開示				

2
1
8
9

令第6条の10に規定する使用人（申請者に当該使用人がある場合）

(ふりがな) 氏 名	生 年 月 日	本 籍
	役職名・呼称	住 所
該当なし		

申請の概要

不開示



2環多第10号

一般廃棄物処理施設変更許可証

令和 2年 8月 27日

住所 東京都武蔵村山市中央二丁目18番地の3

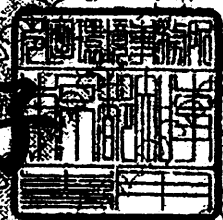
氏名 比留間通法株式会社

代表取締役 比留間 宏明

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第9条第1項の規定により、変更の許可を受けた一般廃棄物処理施設であることを証する。

東京都知事

小池百合子



許可の年月日	令和 2年 8月 27日 (当初 平成28年7月20日)	許可番号	一第第 1003 号
施設の種類及び 処理する 一般廃棄物の種類	破砕 [廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、 ゴムくず、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁 器くず、がれき類、廃蛍光灯等] 圧縮梱包 [廃プラスチック類、紙くず、繊維くず] 圧縮 [空き缶] 溶融 [廃プラスチック類(発泡スチロール)] 発酵 [食品残さ(生ごみ)、汚泥(有機性のものに限る。)] (詳細は裏面のとおり)		
設置場所	東京都武蔵村山市伊奈平三丁目25番地の5		
処理能力	破砕 172.4 t/日 (12時間稼働) 圧縮梱包 204.3 t/日 (12時間稼働) 圧縮 14.5 t/日 (12時間稼働) (溶融 2.2 t/日 (12時間稼働)) (発酵 3.5 t/日 (12時間稼働)) (詳細は裏面のとおり)		
許可の条件			
留意事項	1. 施設の設置にあたっては、各種関連法規を遵守すること。 2. 計画内容等に変更があった場合は当庁に速やかに連絡し、指示を受けること。 3. 施設の使用前検査申請書を提出し、職員の検査を受けること。		

(裏面あり)

この許可証には複製の不正防止処置を施してあります。



東京都

(裏面)

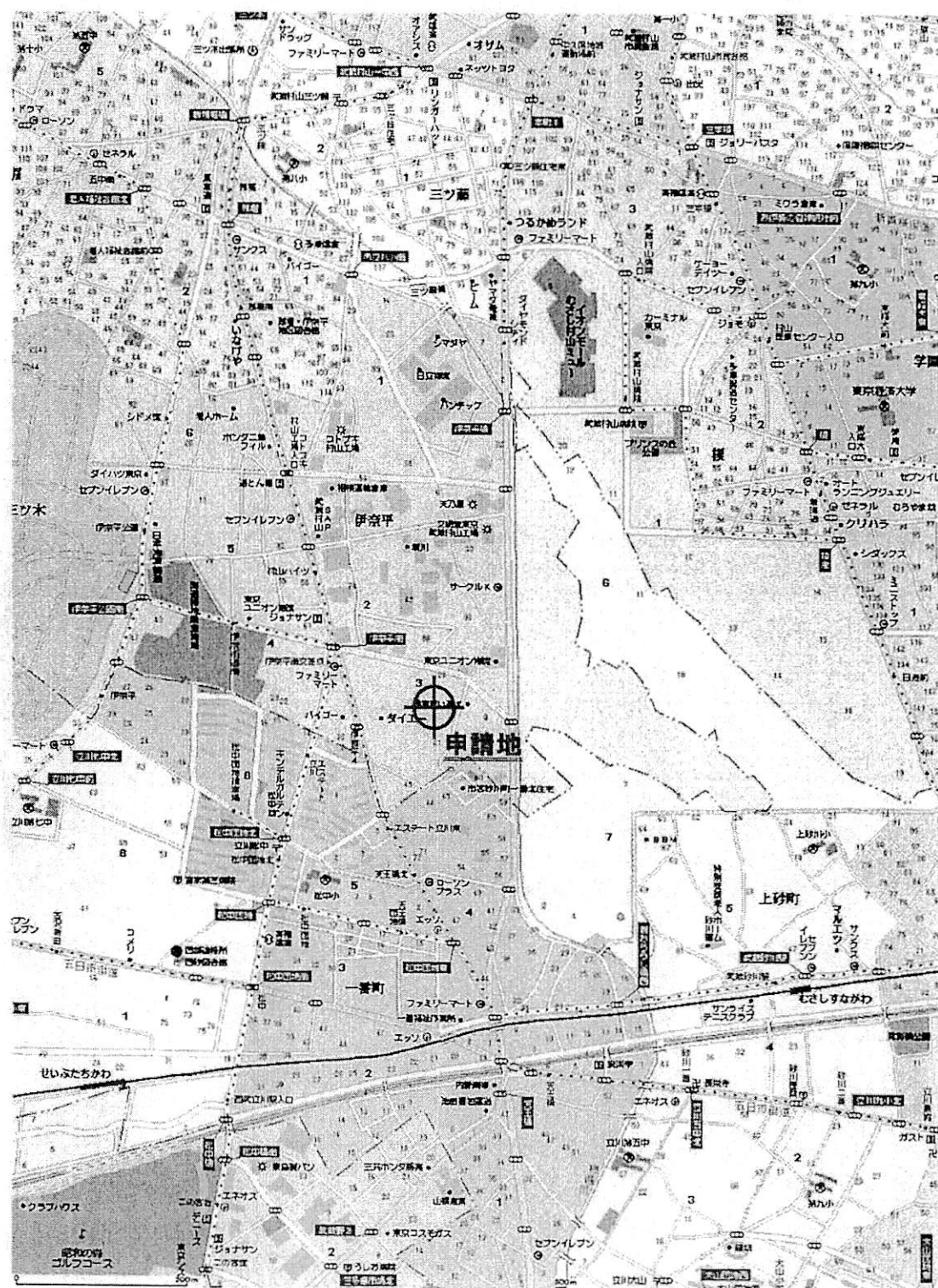
施設の種別、一般廃棄物の種類及び処理能力の詳細

施設の種別	一般廃棄物の種類	処理能力
破碎	廃プラスチック類	6.3 t/日
破碎	廃プラスチック類	48.0 t/日
破碎	繊維くず	82.1 t/日
破碎	廃プラスチック類	44.7 t/日
破碎	繊維くず	32.3 t/日
破碎	木くず	17.1 t/日
破碎	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず、がれき類の混合物	53.5 t/日
破碎	廃プラスチック類、金属くず、ガラス・コンクリート、陶磁器くずの混合物（廃蛍光灯、蛍光灯の破片、水銀使用製品が一般廃棄物になったものを含む。）	2.8 t/日
圧縮梱包	廃プラスチック類	180.0 t/日
圧縮梱包	紙くず	166.8 t/日
圧縮梱包	廃プラスチック類	24.3 t/日
圧縮梱包	繊維くず	17.2 t/日
圧縮	空き缶	4.8 t/日
圧縮	空き缶	10.2 t/日
熔融	廃プラスチック類（発泡スチロール）	2.4 t/日
発酵	食品残さ（生ごみ）、汚泥（有機性のものに限る。）	3.5 t/日

(以下余白)

施設の周辺図

施設の案内図等

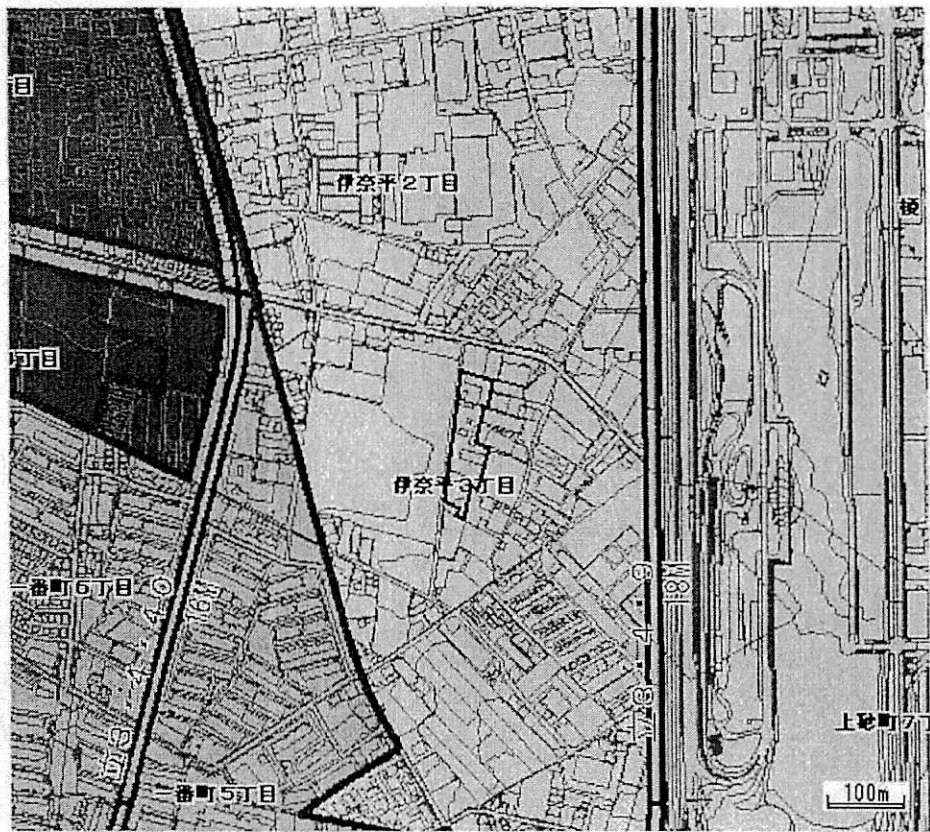





名 称 比留間運送株式会社 伊奈平工場

所在地 東京都武蔵村山市伊奈平3丁目25番地の5

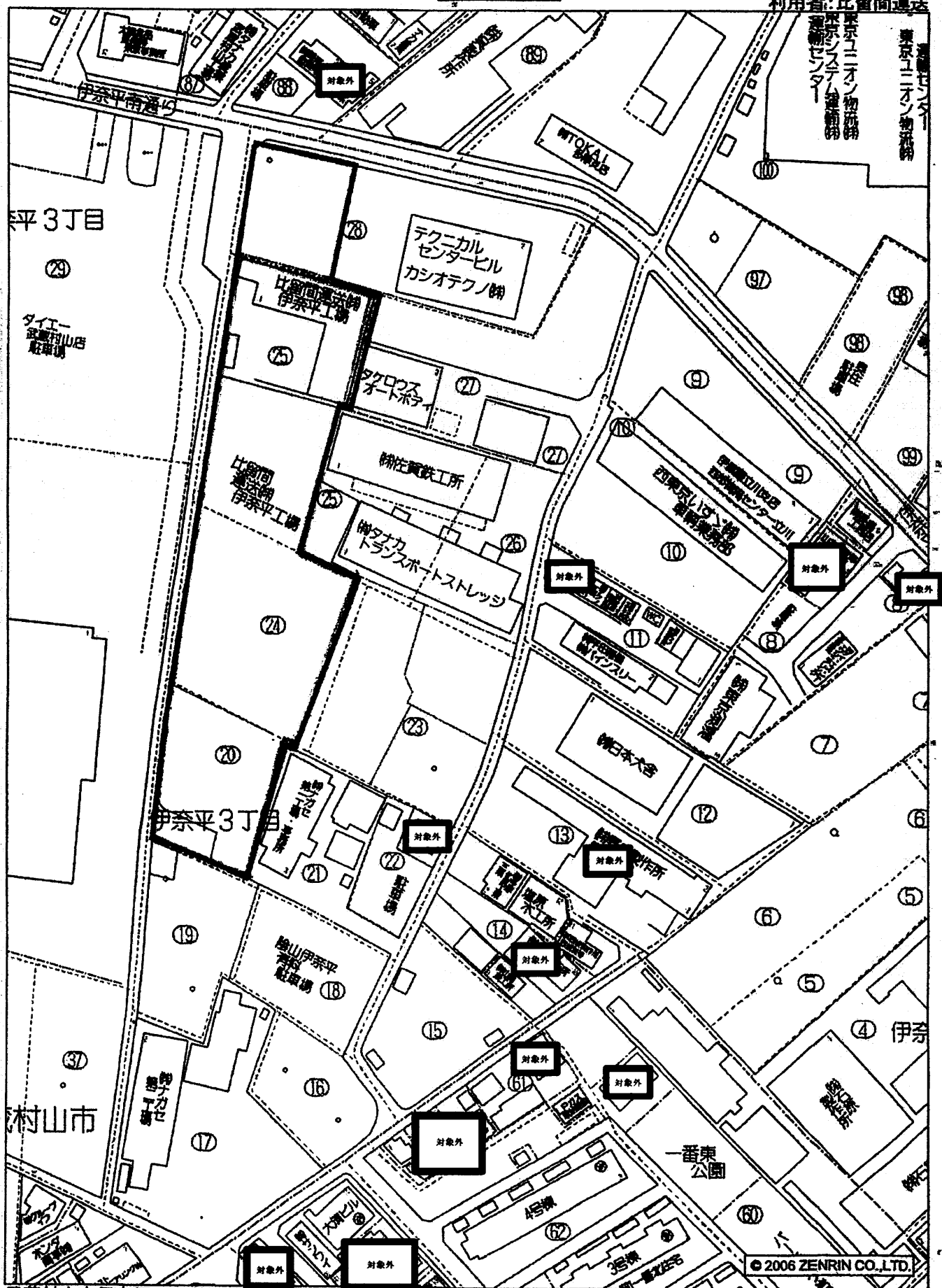
電 話 042-560-8806

施設の案内図等（用途地域）



表示	内容
	第1種低層住居専用地域
	第1種中高層住居専用地域
	工業地域





変更前

□○□○	保管場所
—	U字溝
□□□	グリストラップ
封材	気密施設
大文字 (A~)	産業廃棄物処理場保管場所
数字 (1~)	産業廃棄物処理場保管場所
小文字 (a~)	産業廃棄物処理場保管場所
大文字 (A~)	産業廃棄物処理場保管場所

変更後

開示

□○□○	保管場所
—	U字溝
グリッド	グリストラップ
かた	処理施設
大文字 (A~)	産業廃棄物処理前保管場所
数字 (1~)	産業廃棄物処理後保管場所
小文字 (a~)	産業廃棄物焼却保管場所
大文字 (A'~)	産業廃棄物処理前保管場所

处理能力一覽表

処理能力一覧表

施設種類	許可品目		処理能力	施設型式
(ア) 圧縮	産廃	金属くず	4.3t/日	不開示
	一廃	空き缶		
(イ) 破碎	産廃 一廃	木くず	17.1 t/日	
(ウ) 破碎	産廃 一廃	廃プラ類、紙くず、木くず、 繊維くず、金属くず、ガラ 陶、がれき類、ゴムくず	53.5t/日	
(エ) 焼却炉	産廃	紙くず、木くず、繊維くず、 動植物性残さ	4.8t/日	
	一廃	紙くず、木くず、繊維くず、 生ごみ		
(オ) 発酵	産廃	動植物性残さ、汚泥	3.5t/日	
	一廃	生ごみ、汚泥		
(カ) 破碎	産廃 一廃	金属くず（蛍光管） ガラ陶（蛍光管）、廃プラ類	2.8t/日	
(キ) 圧縮・梱包	産廃	廃プラ類	180.0t/日	
	一廃	紙くず	166.8t/日	
(ク) 破碎	産廃 一廃	廃プラ類	6.3t/日	
(ケ) 溶融	産廃 一廃	廃プラ類	2.4t/日	
(コ) 破碎	産廃	廃プラ類	48.0t/日	
	一廃	繊維くず	32.1t/日	
(サ) 圧縮・梱包	産廃	廃プラ類	24.3t/日	
	一廃	繊維くず	17.2t/日	
(シ) 破碎	産廃 一廃	廃プラ類、繊維くず	44.7t/日	
(ス) 圧縮	産廃	金属くず	10.2t/日	
	一廃	空き缶		
(セ) 破碎	産廃	ガラ陶、がれき類	480.0t/日	
	一廃			
(ソ) 破碎	産廃	木くず	186.4t/日	
	一廃			
(タ) 造粒	産廃	ガラ陶、がれき類	6.1 t/日	
	一廃			

※灰色のセルは産廃限定の処理施設

処理能力一覧表

施設種類	許可品目	処理能力	施設型式
不開示			

能力計算書

不開

不開示

不開示

不開示

時間処理能力計算書

不開示

不開示

不開示

不

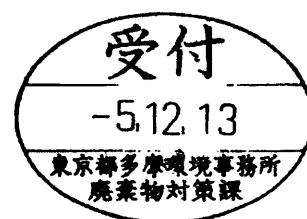
保管場所

6-2 保管する産業廃棄物の一覧表 (1/3)

不開示

6-2 保管する産業廃棄物の一覧表 (2/3)

不開示



6-2 保管する産業廃棄物の一覧表 (3/3)

不開示



6-3,4 保管場所等

廃棄物の種類	廃プラスチック類（発泡スチロール）（M）	
処分前後	不開示	不開示
図面	<div>不開示</div>	
写真	<div>不開示</div>	
[都計算欄]		

6-3,4 保管場所等

産業廃棄物の種類	廃プラスチック類（発泡スチロール）(M)	
処分前後	不開示	不開示
図面		
<div>不開示</div>		
写真		
[都計算欄]		

6-3,4 保管場所等

廃棄物の種類	廃プラスチック類 (L)	
処分前後	不開示	不開示
図面		
<div>不開示</div>		
写真		
<div>不開示</div>		
[都計算欄]		

変更後

6-3,4 保管場所等

産業廃棄物の種類	廃プラスチック類 (L)	
処分前後	不開示	不開示
図面		
<div>不開示</div>		
写真		
[都計算欄]		

6-3,4 保管場所等

産業廃棄物の種類	廃プラスチック類 (3)	
処分前後	不開示	不開示
図面		
不開示		
写真		
不開示		
[都計算欄]		

6-3,4 保管場所等

産業廃棄物の種類	廃プラスチック類 (3)✓	
処分前後	不開示	不開示
図面	<div>不開示</div>	
写真		
[都計算欄]		

6-3,4 保管場所等

廃棄物の種類	廃プラスチック類 (16)	
処分前後	不開示	不開示
図面		
不開示		
写真		
不開示		
[都計算欄]		

6-3,4 保管場所等

産業廃棄物の種類	廃プラスチック類 (H) ✓	
処分前後	不開示	不開示
図面		
不開示		
写真		
[都計算欄]		

6-3,4 保管場所等

廃棄物の種類	汚泥、動植物性残さ (24)	
処分前後	不開示	不開示
図面	<div style="border: 2px solid black; padding: 50px; text-align: center;"> <p>不開示</p> </div>	
写真	<div style="border: 2px solid black; padding: 50px; text-align: center;"> <p>不開示</p> </div>	
[都計算欄]		

6-3,4 保管場所等

廃棄物の種類	汚泥、動植物性残さ（24）	
処分前後	不開示	不開示
図面	<div>不開示</div>	
写真		
[都計算欄]		

6-3,4 保管場所等

廃棄物の種類	可燃物 (35) /	
処分前後	不開示	不開示
図面		
<div>不開示</div>		
写真		
<div>不開示</div>		
[都計算欄]		

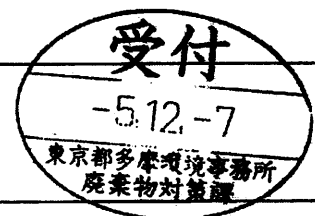
6-3,4 保管場所等

廃棄物の種類	廃プラスチック類 (16)	
処分前後	不開示	不開示 /
図面		
<div>不開示</div>		
写真		
[都計算欄]		

「技術上の基準」および
「維持管理の技術上の基
準」への適合状況

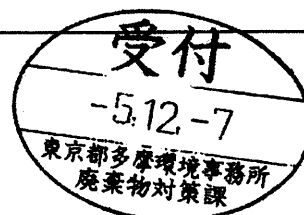
一般廃棄物処理施設の位置、構造等の設置に関する計画 (1/2)

廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則 第四条	当該施設の技術基準に関する計画
一 自重、積載荷重その他の荷重、地震力及び温度応力に対して構造耐力上安全であること。	全面コンクリート敷の敷地内に強固に設置する。また、振動レベルの大きい施設は防振架台に設置するので、構造耐力は安全を満たしている。
二 削除	—
三 ごみ、ごみの処理に伴い生ずる排ガス及び排水等による腐食を防止するために必要な措置が講じられていること。	処理施設は電力使用のため、処理に伴い生ずる排ガス及び排水はなく、薬剤等も使用しない。腐食ににくい材料の使用、塗布により腐食を防止する。
四 ごみの飛散及び悪臭の発散を防止するために必要な構造のものであり、又は必要な設備が設けられていること。	施設及び処理前、処理後の保管場所は、既存の処理施設内に設置するため、ごみの飛散、流出、悪臭発散の恐れはない。また施設は約5m～13.7mの塀または建物の壁で防止している。
五 著しい騒音及び振動を発生し、周囲の生活環境を損なわないものであること。	別紙「 不開示 」の増設に伴う生活環境影響調査書」参照。
六 ごみの保有水及びごみの処理に伴い生ずる汚水又は廃液が、漏れ出し、及び地下に浸透しない構造のものであること。	床面はコンクリート敷きである。ごみの処理に伴う排水はない。
七 焼却施設にあつては、次の要件を備えていること。	該当なし
八 ガス化改質方式の焼却施設及び製鋼の用に供する電気炉、銅の第一次製錬の用に供する転炉若しくは溶解炉又は亜鉛の第一次製錬の用に供する焙焼炉を用いた焼却炉を用いた焼却施設にあつては、次の要件を備えていること。	該当なし
九 ばいじん又は焼却灰の処理施設にあつては、第七号りの規定の例による。	該当なし



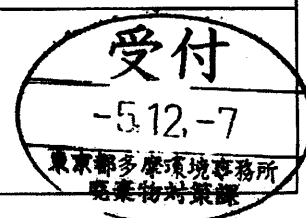
一般廃棄物処理施設の位置、構造等の設置に関する計画 (2/2)

<p>廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則 第四条</p>	<p>当該施設の技術基準に関する計画</p>
<p>十 高速堆肥化処理施設にあつては、発酵槽内の温度及び空気量を調節することができる装置が設けられていること。</p>	<p>該当なし</p>
<p>十一 イ 投入する廃棄物に破碎に適さないものが含まれていないことを連続的に監視するために必要な措置が講じられていること。</p>	<p>該当なし</p>
<p>十一 ロ 破碎によつて生ずる粉じんの周囲への飛散を防止するために必要な集じん器、散水装置その他の必要な装置が設けられていること。</p>	<p>該当なし</p>
<p>十一 ハ 爆発による被害を防止するために必要な防爆設備又は爆風逃がし口の設置その他必要な措置が講じられていること。</p>	<p>爆風が生じるような廃棄物が混入する可能性は極めて低いが、目視により、異物の混入の有無を確認する。異物を検知した場合、電源を落とし、異物を取り除く。微妙な油漏れは、備え付けの土嚢袋から中身を取り出して撤き、油の拡散を防止する。</p>
<p>十二 ごみ運搬用パイプライン施設にあつては、次の要件を備えていること。</p>	<p>該当なし</p> <p>（）を調製省略 （既設）を適用</p>
<p>十三 選別施設にあつては、次の要件を備えていること。</p>	<p>該当なし</p>
<p>十四 固形燃料化施設にあつては、次の要件を備えていること。</p>	<p>該当なし</p>
<p>十五 施設から排水を放流する場合は、その水質を生活環境保全上の支障が生じないものとするために必要な排水処理設備が設けられていること。</p>	<p>排水なし</p>



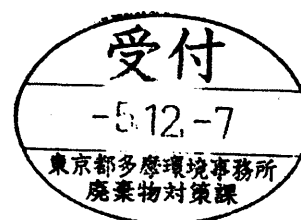
一般廃棄物処理施設の維持管理に関する計画 (1/2)

廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則 第四条の五	当該施設の維持管理に関する計画
一 施設へのごみの投入は、当該施設の処理能力を超えないように行うこと。	受け入れる廃棄物の量を常に監視し、施設の処理能力を超えないように運転する。
二 焼却施設にあつては、次のとおりとする。	該当なし
三 ガス化改質方式の焼却施設及び電気炉等を用いた焼却施設にあつては、次のとおりとする。	該当なし
四 ばいじん又は焼却灰の処理施設にあつては、第二号ヨ、ソ、ツ及びネの規定の例による。	該当なし
五 高速堆肥化処理施設にあつては、発酵槽の内部を発酵に適した状態に保つように温度及び空気量を調節すること。	該当なし
六 イ 投入する廃棄物に破碎に適さないものが含まれていないことを連続的に監視すること。	該当なし
六 ロ 破碎によつて生ずる粉じんの周囲への飛散を防止するために必要な措置を講ずること。	該当なし
七 ごみ運搬用パイプライン施設にあつては、次のとおりとする。	該当なし
八 選別施設にあつては、選別によつて生ずる粉じんの周囲への飛散を防止するために必要な措置を講ずること。	該当なし
九 固形燃料化施設にあつては、第二号ヨ及びフの規定の例によるほか、次のとおりとする。	該当なし



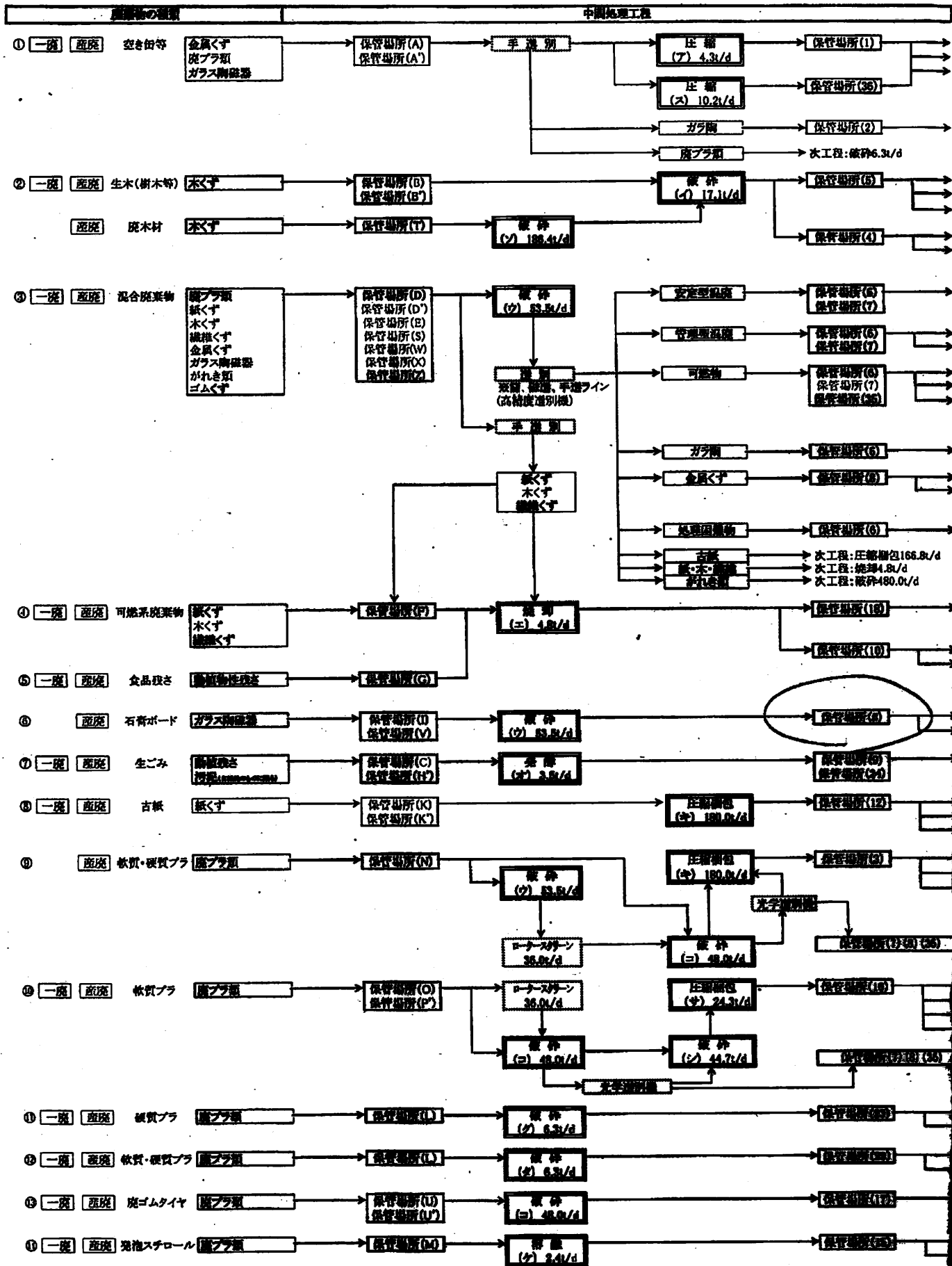
一般廃棄物処理施設の維持管理に関する計画 (2/2)

十	ごみの飛散及び悪臭の発散を防止するために必要な措置を講ずること。	施設は約 5m～13.7mの塀または建物の壁で囲っているため、飛散及び悪臭の発散はない。さらに悪臭に関しては、廃棄物の長期保管をせず、速やかに処理し搬出する。また、悪臭の発生が予測される場合は、消臭剤を使用する。
十一	蚊、はえ等の発生の防止に努め、構内の清潔を保持すること。	構内の清掃に努め、清潔に保つと共に、定期的に清掃を行い、害虫の発生を防止する。
十二	著しい騒音及び振動の発生により周囲の生活環境を損なわないように必要な措置を講ずること。	作業用機械は、低騒音・低振動の機器を採用し、発生源自体の騒音・振動レベルを低減する。また、設備機器の整備点検を行い、整備不良による騒音・振動の増加を防止する。
十三	施設から排水を放流する場合は、その水質を生活環境保全上の支障が生じないものとする。	ごみの処理に伴う排水はない。
十四	前各号のほか、施設の機能を維持するために必要な措置を講じ、定期的に機能検査並びにばい煙及び水質に関する検査を行うこと。	施設の機能を維持するために必要な措置を講じ、処理施設は従業員による日常点検及びメーカーによる定期点検を実施する。またばい煙、水質は該当しない。
十五	市町村は、その設置に係る施設の維持管理を自ら行うこと。	該当なし
十六	施設の維持管理に関する点検、検査その他の措置（法第二十一条の二第一項に規定する応急の措置を含む。）の記録を作成し、三年間保存すること。	作成の上、3年間保存する。



处理工程图

比留間運送機伊奈平工場 廃棄物処理工程図

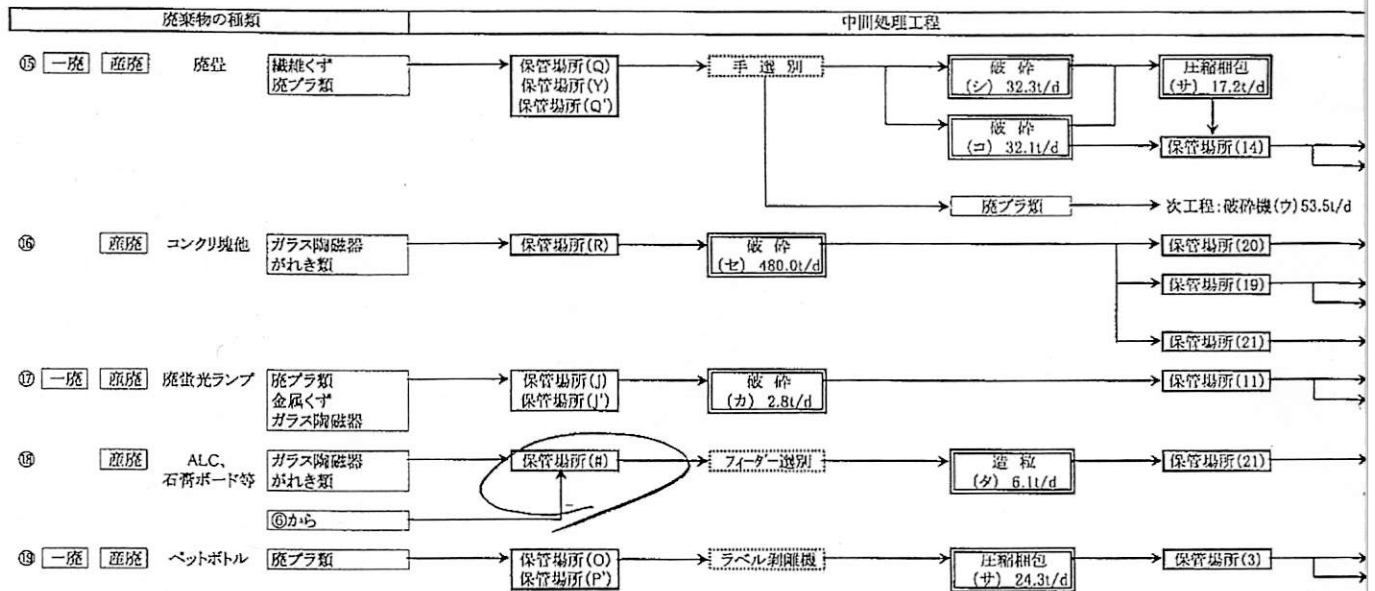


変更前

施設所在地：東京都武蔵村山市伊奈平3丁目25番地の5
 許可番号等：産業廃棄物処分業 東京都 第13-20-016103号 / 廃棄物再生事業者登録 東京都 第139号
 一般廃棄物処分業 武蔵村山市 第1号

区分	種類・名称	搬出先	搬出先住所	許可番号	用途等
再生	缶プレス				
再生	缶プレス				
再生	缶プレス				
再生	カレット				
再生	生木チップ				
再生	生木チップ				
再生	生木チップ				
再生	廃木チップ				
再生	廃木チップ				
埋立	安定型混廃				
埋立	管理型混廃				
埋立	管理型混廃				
再生	可燃物				
再生	可燃物				
再生	可燃物				
再生	ガラス陶磁器				
再生	鉄くず				
再生	鉄くず				
再生	処理困難物				
処分	燃え殻				
再生	燃え殻				
処分	ばいじん				
処分	ばいじん				
再生	ガラス陶磁器				
⑩へ					
再生	堆肥				
再生	シタスペーパー				
再生	シタスペーパー				
再生	古紙				
再生	廃プラ類				
再生	廃プラ類				
再生	廃プラ類				
→ 上記搬出先参照					
再生	廃プラ類				
再生	廃プラ類				
再生	廃プラ類				
再生	廃プラ類				
→ 上記搬出先参照					
再生	MIXプラ				
再生	塩化ビニル				
再生	MIXプラ				
再生	PETフレーク				
再生	廃ゴムタイヤ				
再生	GPAランプ				
再生	PSブロック				

4-1 産業廃棄物の流れ(フロー図)
比留間運送(株)伊奈平工場 廃棄物処理工程図



変更前

施設所在地 : 東京都武蔵村山市伊奈平3丁目25番地の5
許可番号等 : 産業廃棄物処分業 東京都 第13-20-016103号 / 廃棄物再生事業者登録 東京都 第139号
一般廃棄物処分業 武蔵村山市 第1号

区分	種類・名称	搬出先	搬出先住所	許可番号	用途等
再生	繊維くず	不開示			
再生	繊維チップ				
埋立	安定型泥炭				
再生	ガラス陶磁器				
再生	ガラス陶磁器				
再生	RC40-0				
再生	廃蛍光灯ノ破砕物				
再生	廃蛍光灯ノ破砕物				
再生	RC40-0				
再生	ペットボトルプレス				
再生	ペットボトルプレス				

4-1 産業廃棄物の流れ(フロー図)
比留間運送株式会社 伊奈平工場 廃棄物処理工程図

廃棄物の種類

中間処理工程

不開

変更後

施設所在地 : 東京都武蔵村山市伊奈平3丁目25番地の5
許可番号等 : 産業廃棄物処分業 東京都 第13-20-016103号 / 廃棄物再生事業者登録 東京都 第139号
一般廃棄物処分業 武蔵村山市 第1号

区分	種類・名称	搬出先	搬出先住所	許可番号	用途等
----	-------	-----	-------	------	-----

示

4-1 産業廃棄物の流れ(フロー図)
比留間運送(株)伊奈平工場 廃棄物処理工程図

廃棄物の種類	中間処理工程

不

変更後

施設所在地 : 東京都武蔵村山市伊奈平3丁目25番地の5
許可番号等 : 産業廃棄物処分業 東京都 第13-20-016103号 / 廃棄物再生事業者登録 東京都 第139号
一般廃棄物処分業 武蔵村山市 第1号

区分	種類・名称	搬出先	搬出先住所	許可番号	用途等
----	-------	-----	-------	------	-----

示

資金の調達方法

資金の調達方法

(1) 変更にあつる設置資金とその調達方法

資金用途内訳	(単位 万円)	調達方法	(単位 万円)
不開示		不開示	

(2) 変更後の維持管理資金とその調達方法

資金用途内訳	(単位 万円/年)	調達方法	(単位 万円/年)
不開示		不開示	
不開示			

処理責任者、技術管理者
の設置に係る書類

令和5年10月25日

実務に従事した経験を有する証明書

東京都知事 小池 百合子 様

東比 対象外
市中央二丁目 18 番地の 3
社 会社
留間 宏 対象外

下記の者は、廃棄物の処理に関する実務に従事した経験を有する者である旨、証明致します。

記

1.氏名 対象外

2.住所 対象外

3.生年月日 对象外

4.職名 取締役 兼 工場長

5. 廃棄物処理の実務に従事していた事業所

①令和2年1月まで従事していた事業所

名称 比留間運送株式会社 入間工場

所在地 埼玉県入間市狭山台三丁目7番地の1

比留間運送(搬入)間工場：8 条施設と 15 条施設の許可を保有

※15 条施設についてはみなし許可のため 14 条許可証を添付

①令和2年2月から本事業地で従事している

6. 廃棄物処理の実務に従事していた期間

約23年間（平成12年8月から）

以上

決算報告書

決算報告書

第 44 期

自 令和 2年 4月 1日

至 令和 3年 3月 31日

比留間運送（株）

令和 3年 3月 31日現在

(單位：円)

[illegible]

損益計算書

自 令和 2年 4月 1日
至 令和 3年 3月 31日

比留間運送（株）

（単位：円）

科 目	金 額
【売上高】 廃棄物収集運搬処理売上高 不開示 その他売上高 不開示	2,493,134,725 不開示 82,567,659 不開示
【売上原価】 不開示	不開示
売上総利益 【販売費及び一般管理費】 営業利益 【営業外収益】 不開示	2,609,569,079 2,092,734,637 516,834,442 182,283,105 334,551,337 不開示
【営業外費用】 不開示	不開示
経常利益 【特別利益】 不開示	3,110,792 1,303,379 336,358,750 不開示
【特別損失】 不開示	5,016,239 不開示
税引前当期純利益 法人税住民税事業税	200,333,186 141,041,803 112,492,251
当期純利益	28,549,552

販売費及び一般管理費

自 令和 2年 4月 1日
至 令和 3年 3月 31日

比留間運送（株）

（単位：円）

科 目		金 額	
販売費・一般管理費	不開示	不開示	
			182,283,105

製造原価報告書

自 令和 2年 4月 1日
至 令和 3年 3月 31日

比留間運送 (株)

(単位：円)

科 目	金 額	
不開示		不開示
	不開示	
		不開示
	不開示	
		不開示
	不開示	
		不開示
		不開示
		不開示
		不開示

株主資本等変動計算書

自 令和 2年 4月 1日
至 令和 3年 3月 31日

比留間運送 (株)

(単位：円)

株主資本			
資本金	当期首残高及び当期末残高		<u>11,800,000</u>
利益剰余金			
利益準備金	当期首残高及び当期末残高		<u>3,118,000</u>
その他利益剰余金			
別途積立金	当期首残高		2,100,000,000
	当期変動額	剰余金の内訳科目間の振替	200,000,000
	当期末残高		<u>2,300,000,000</u>
繰越利益剰余金	当期首残高		487,971,182
	当期変動額	剰余金の配当	△5,900,000
		剰余金の内訳科目間の振替	△200,000,000
		当期純利益	28,549,552
	当期末残高		<u>310,620,734</u>
利益剰余金合計	当期首残高		2,591,089,182
	当期変動額		22,649,552
	当期末残高		<u>2,613,738,734</u>
株主資本合計	当期首残高		2,602,889,182
	当期変動額		22,649,552
	当期末残高		<u>2,625,538,734</u>
純資産の部合計	当期首残高		2,602,889,182
	当期変動額		22,649,552
	当期末残高		<u>2,625,538,734</u>

注記表

自 令和 2年 4月 1日
至 令和 3年 3月 31日

比留間運送（株）

1. この計算書類は、「中小企業の会計に関する基本要領」によって作成しています。

2. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 資産の評価基準及び評価方法

①有価証券の評価基準及び評価方法

総平均法による原価法を採用しています。

②棚卸資産の評価基準及び評価方法

総平均法による原価法を採用しています。

(2) 固定資産の減価償却の方法

①有形固定資産

定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）は定額法）を採用しています。

②無形固定資産

定額法を採用しています。

(3) 引当金の計上基準

①貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権について法人税法の規定に基づく法定繰入率により計上しています。

(4) その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

①リース取引の処理方法

リース取引については、賃貸借取引に係る方法により、支払リース料を費用処理しています。

②消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっています。

3. 貸借対照表等に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額 3,170,260千円

4. 損益計算書に関する注記

5. 株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 当該事業年度の末日における発行済株式の数 23,600株

(2) 当該事業年度の末日における自己株式の数 0株

(3) 当該事業年度中に行った剰余金の配当に関する事項

令和2年5月25日の定時株主総会において、次の通り決議されました。

配当金の総額 5,900千円

配当の原資 利益剰余金

一株当たりの配当額 250円

基準日 令和2年3月31日

決算報告書

第 45 期

自 令和 3年 4月 1日

至 令和 4年 3月 31日

比留間運送 (株)

貸 借 対 照 表

令和 4年 3月 31日現在

比留間運送（株）

（単位：円）

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	2,305,217,150	【流動負債】	329,040,666
不開示	不開示	不開示	不開示
		【固定負債】	1,261,720,000
		不開示	不開示
【固定資産】	不開示		
（有形固定資産）	1,802,745,786		
不開示	不開示		
（無形固定資産）	687,688		
不開示	不開示		
（投資その他の資産）	206,336,701	負債の部合計	1,590,760,666
不開示	不開示	純 資 産 の 部	
		【株主資本】	2,724,226,659
		資 本 金	11,800,000
		利 益 剰 余 金	2,712,426,659
		不開示	不開示
		純資産の部合計	2,724,226,659
資産の部合計	4,314,987,325	負債純資産の部合計	4,314,987,325

損益計算書

自 令和 3年 4月 1日
至 令和 4年 3月 31日

比留間運送 (株)

(単位：円)

科 目	金 額
【売上高】 廃棄物収集運搬処理売上高 不 開 示 その他売上高 不 開 示	2,532,389,691 不 開 示 104,354,235 不 開 示
	2,663,793,283
【売上原価】 不 開 示	不 開 示
	1,961,296,488
売 上 総 利 益 【販売費及び一般管理費】 営 業 利 益 【営業外収益】 不 開 示	702,496,795 185,325,993 517,170,802 不 開 示
	20,665,353
【営業外費用】 不 開 示	不 開 示
	95,423
経 常 利 益 【特別利益】 不 開 示	537,740,732 不 開 示
	7,198,656
【特別損失】 不 開 示	不 開 示
	250,000,001
税引前当期純利益 法人税住民税事業税	294,939,387 190,351,462
当 期 純 利 益	104,587,925

販売費及び一般管理費

自 令和 3年 4月 1日
至 令和 4年 3月 31日

比留間運送（株）

（単位：円）

科 目	金 額
<div data-bbox="343 399 635 925" data-label="Text"> <p>不開示</p> </div>	<div data-bbox="874 399 1114 925" data-label="Text"> <p>不開示</p> </div>
販売費・一般管理費	185,325,993

製造原価報告書

自 令和 3年 4月 1日
至 令和 4年 3月 31日

比留間運送 (株)

(単位 : 円)

科 目	金 額	
不 開 示		不 開 示
	不 開 示	
		不 開 示
	不 開 示	
		不 開 示
	不 開 示	
		不 開 示
		不 開 示
		不 開 示
		不 開 示

株主資本等変動計算書

自 令和 3年 4月 1日
至 令和 4年 3月 31日

比留間運送（株）

(単位：円)

株主資本		
資本金	当期首残高及び当期末残高	<u>11,800,000</u>
利益剰余金		
利益準備金	当期首残高及び当期末残高	<u>3,118,000</u>
その他利益剰余金		
別途積立金	当期首残高	2,300,000,000
	当期変動額 剰余金の内訳科目間の振替	200,000,000
	当期末残高	<u>2,500,000,000</u>
繰越利益剰余金	当期首残高	310,620,734
	当期変動額 剰余金の配当	△5,900,000
	剰余金の内訳科目間の振替	△200,000,000
	当期純利益	104,587,925
	当期末残高	<u>209,308,659</u>
利益剰余金合計	当期首残高	2,613,738,734
	当期変動額	98,687,925
	当期末残高	<u>2,712,426,659</u>
株主資本合計	当期首残高	2,625,538,734
	当期変動額	98,687,925
	当期末残高	<u>2,724,226,659</u>
純資産の部合計	当期首残高	2,625,538,734
	当期変動額	98,687,925
	当期末残高	<u>2,724,226,659</u>

注記表

自 令和 3年 4月 1日
至 令和 4年 3月 31日

比留間運送（株）

1. この計算書類は、「中小企業の会計に関する基本要領」によって作成しています。
2. 重要な会計方針に係る事項に関する注記
 - (1) 資産の評価基準及び評価方法
 - ①有価証券の評価基準及び評価方法
総平均法による原価法を採用しています。
 - ②棚卸資産の評価基準及び評価方法
総平均法による原価法を採用しています。
 - (2) 固定資産の減価償却の方法
 - ①有形固定資産
定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）は定額法）を採用しています。
 - ②無形固定資産
定額法を採用しています。
 - (3) 引当金の計上基準
 - ①貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権について法人税法の規定に基づく法定繰入率により計上しています。
 - (4) その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項
 - ①リース取引の処理方法
リース取引については、賃貸借取引に係る方法により、支払リース料を費用処理しています。
 - ②消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は、税抜方式によっています。
3. 貸借対照表等に関する注記
 - (1) 有形固定資産の減価償却累計額 3,308,415千円
4. 損益計算書に関する注記
5. 株主資本等変動計算書に関する注記
 - (1) 当該事業年度の末日における発行済株式の数 23,600株
 - (2) 当該事業年度の末日における自己株式の数 0株
 - (3) 当該事業年度中に行った剰余金の配当に関する事項
令和4年5月20日の定時株主総会において、次の通り決議されました。

配当金の総額	5,900千円
配当の原資	利益剰余金
一株当たりの配当額	250円
基準日	令和4年3月31日

決算報告書

第 46 期

自 令和 4年 4月 1日

至 令和 5年 3月 31日

比留間運送（株）

貸 借 対 照 表

令和 5年 3月 31日現在

比留間運送（株）

（単位：円）

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	2,569,570,199	【流動負債】	262,466,781
不開示	不開示	不開示	不開示
【固定資産】 （有形固定資産）	不開示 1,820,288,627	【固定負債】	1,361,720,000
不開示	不開示	不開示	不開示
（無形固定資産）	687,688		
不開示	不開示		
（投資その他の資産）	209,732,773	負 債 の 部 合 計	1,624,186,781
不開示	不開示	純 資 産 の 部	
		【株主資本】	2,976,072,506
		資 本 金	11,800,000
		利 益 剰 余 金	2,964,272,506
		不開示	不開示
資 産 の 部 合 計	4,600,259,287	純 資 産 の 部 合 計	2,976,072,506
		負債純資産の部合計	4,600,259,287

損益計算書

自 令和 4年 4月 1日
至 令和 5年 3月 31日

比留間運送（株）

（単位：円）

科 目	金 額
【売上高】 廃棄物収集運搬処理売上高 不 開 示 その他売上高 不 開 示	2,595,387,770 不 開 示 100,740,599 不 開 示
	2,722,297,716
【売上原価】 不 開 示	不 開 示
	2,007,185,820
売上総利益 【販売費及び一般管理費】 営業利益	715,111,896 198,158,420
【営業外収益】 不 開 示	518,953,476
	8,202,610
【営業外費用】 不 開 示	不 開 示
	1,357,187
経常利益 【特別利益】 不 開 示	525,798,899
	8,404,987
【特別損失】 不 開 示	不 開 示
	100,000,000
税引前当期純利益 法人税住民税事業税	434,203,886 176,458,039
当期純利益	257,745,847

販売費及び一般管理費

自 令和 4年 4月 1日
至 令和 5年 3月 31日

比留間運送（株）

（単位：円）

科 目		金 額	
不 開 示		不 開 示	
販売費・一般管理費			196,158,420

製造原価報告書

自 令和 4年 4月 1日
至 令和 5年 3月 31日

比留問運送（株）

（単位：円）

科 目	金 額	
不開示		不開示
	不開示	
		不開示
	不開示	
		不開示
	不開示	
		不開示
		不開示
		不開示
		不開示

株主資本等変動計算書

自 令和 4年 4月 1日
至 令和 5年 3月 31日

比留間運送（株）

（単位：円）

株主資本			
資本金	当期首残高及び当期末残高		<u>11,800,000</u>
利益剰余金			
利益準備金	当期首残高及び当期末残高		<u>3,118,000</u>
その他利益剰余金			
別途積立金	当期首残高及び当期末残高		<u>2,500,000,000</u>
繰越利益剰余金	当期首残高		209,308,659
	当期変動額	剰余金の配当	△5,900,000
		当期純利益	257,745,847
	当期末残高		<u>461,154,506</u>
利益剰余金合計	当期首残高		2,712,426,659
	当期変動額		251,845,847
	当期末残高		<u>2,964,272,506</u>
株主資本合計	当期首残高		2,724,226,659
	当期変動額		251,845,847
	当期末残高		<u>2,976,072,506</u>
純資産の部合計	当期首残高		2,724,226,659
	当期変動額		251,845,847
	当期末残高		<u>2,976,072,506</u>

注記表

自 令和 4年 4月 1日
至 令和 5年 3月 31日

比留間運送（株）

1. この計算書類は、「中小企業の会計に関する基本要領」によって作成しています。

2. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 資産の評価基準及び評価方法

①有価証券の評価基準及び評価方法

総平均法による原価法を採用しています。

②棚卸資産の評価基準及び評価方法

総平均法による原価法を採用しています。

(2) 固定資産の減価償却の方法

①有形固定資産

定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）は定額法）を採用しています。

②無形固定資産

定額法を採用しています。

(3) 引当金の計上基準

①貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権について法人税法の規定に基づく法定繰入率により計上しています。

(4) その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

①リース取引の処理方法

リース取引については、賃貸借取引に係る方法により、支払リース料を費用処理しています。

②消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっています。

3. 貸借対照表等に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額 3,460,833千円

4. 損益計算書に関する注記

5. 株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 当該事業年度の末日における発行済株式の数 23,600株

(2) 当該事業年度の末日における自己株式の数 0株

(3) 当該事業年度中に行った剰余金の配当に関する事項

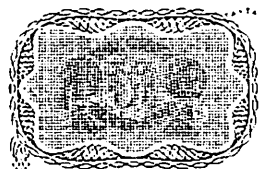
令和5年5月20日の定時株主総会において、次の通り決議されました。

配当金の総額 5,900千円

配当の原資 利益剰余金

一株当たりの配当額 250円

基準日 令和5年3月31日



納税証明書

(その1 納税額等証明用)

納税

住所(納税地) 東京都武蔵村山市中央2丁目18番地の3

氏名(名称) 比留間運送 株式会社

代表者氏名 代表取締役 比留間 宏明

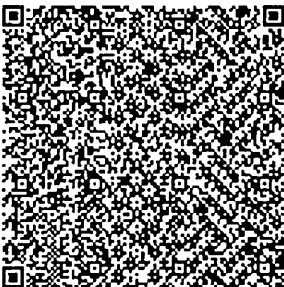
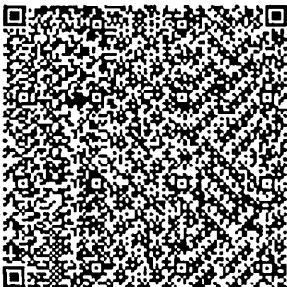
税目	法人税	納付すべき税額		納付済額	未納税額	法定納期限等
		申告額	更正・決定後の額			
年度及び区分						
(自)令和2年4月1日 (至)令和3年3月31日 本税		不開示				*****
(自)令和3年4月1日 (至)令和4年3月31日 本税						*****
(自)令和4年4月1日 (至)令和5年3月31日 本税						*****
		以	下	余	白	
(備考)		② 証明書発行日現在の納付すべき税額等は上記のとおりですが、今後、修正申告又は税務署若しくは国税局(国税事務所)の調査による更正等により異動を生じる場合があります。				

徴管(証明) 第 006022 号

上記のとおり、相違ないことを証明します。

令和 5年 8月31日 立川税務署長

財務事務官 山田 晃央



定款

定 款

比留間運送株式会社

(令和2年6月11日改訂)

第1章 総 則

(商号)

第1条 当社は、比留間運送株式会社 と称する。

(目的)

第2条 当社は、次の事業を営むことを目的とする。

1. 一般区域貨物自動車運送事業
2. 産業廃棄物処理事業
3. 一般廃棄物処理事業
4. 産業廃棄物・一般廃棄物の再生処理業
5. 道路清掃事業
6. 倉庫保管事業
7. 梱包包装事業
8. 建物の解体事業
9. 一般廃棄物処理施設・産業廃棄物処理施設・資源リサイクル施設の企画、開発、設計、販売
10. 資源リサイクル製品の企画、開発、販売
11. 古物売買並びにその受託販売
12. 一般廃棄物・産業廃棄物の処理に係るコンサルタント業務
13. 上記各号に附帯関連する一切の事業

(本店の所在地)

第3条 当社は、本店を東京都武蔵村山市に置く。

(公告の方法)

第4条 当社の公告方法は、官報に掲載してする。

(機関)

第5条 当社は、取締役会及び監査役を置く。

第2章 株 式

(発行可能株式総数)

第6条 当社の発行可能株式総数は、4万株とする。

(株券の発行)

第7条 当社は株券を発行しないものとする。

(株式の譲渡制限)

第 8 条 当会社の株式は、取締役会の承認がなければ譲渡又は取得することができない。取締役会が承認をしない場合、代表取締役は指定買い取り人を定めることができる。

(相続人等に対する株式の売渡し請求)

第 9 条 当会社は、相続その他の一般承継により当会社の株式を取得した者に対し、当該株式を当会社に売り渡すことを請求することができる。

(株主名簿記載事項の記載等の請求)

第 10 条 当会社の株式取得者が株主名簿記載事項を株主名簿に記載又は記録するには、当会社所定の書式による請求書に、その取得した株式の株主として株主名簿に記載され、若しくは記録された者又はその相続人その他一般承継人及び株式取得者が署名又は記名押印し、共同して請求しなければならない。法務省令の定める事由による場合は、株式取得者が単独で請求することができ、その場合には、その事由を証する書面を提出しなければならない。

(質権の登録及び信託財産の表示)

第 11 条 当会社の株式につき質権の登録又は信託財産の表示を請求するには、当会社所定の書式による請求書に当事者が署名又は記名押印し、共同して請求しなければならない。その登録又は表示の抹消についても同様とする。

(基準日)

第 12 条 当会社は、毎事業年度末日の最終の株主名簿に記載又は記録された議決権を有する株主（以下「基準日株主」という。）をもって、その事業年度に関する定時株主総会において権利を行使することができる株主とする。

2 前項のほか、株主又は登録株式質権者として権利を行使することができる者を確定するため必要があるときは、取締役はあらかじめ公告して臨時に基準日を定めることができる。

第 3 章 株 主 総 会

(招集)

第 13 条 定時株主総会は、毎事業年度の末日の翌日から 3 か月以内にこれを招集し、臨時株主総会は必要あるときに随時これを招集する。

2 株主総会を招集するには、会日より1週間前までに、議決権を有する各株主に対して招集通知を発するものとする。ただし、総株主の同意があるときはこの限りではない。

3 前項の招集通知は、書面であることを要しない。

(議長)

第14条 株主総会の議長は、社長がこれに当たる。社長に事故があるときは、他の取締役が議長になり、取締役全員に事故があるときは、総会において出席株主のうちから議長を選出する。

(決議の方法)

第15条 株主総会の決議は、法令又は定款に別段の定めがある場合を除き、出席した議決権を行使することができる株主の議決権の過半数をもって行う。

2 会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の過半数を有する株主が出席し、出席した当該株主の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行う。

(議事録)

第16条 株主総会議事録については、法務省令で定めるところによりその経過の要領及びその結果等を記載又は記録し、議長及び出席した取締役がこれに記名押印又は電子署名を行う。

第4章 取締役、取締役会、代表取締役及び監査役

(取締役の員数)

第17条 当社は、取締役3名以上7名以内とする。

(取締役の選任)

第18条 当社の取締役の選任は、株主総会において議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、出席した当該株主の議決権の過半数をもって行う。

2 取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする。

(取締役の解任方法)

第19条 取締役の解任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の過半数を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上の多数をもって行う。

(取締役の任期)

第 20 条 取締役の任期は、選任後 10 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとする。

2 補欠で選任された取締役の任期は、その選任時に在任する取締役の任期の満了すべきときまでとする。

(代表取締役及び役付取締役)

第 21 条 当会社に、社長 1 名を、必要に応じて会長及び副社長及び専務取締役及び常務取締役若干名を置き、取締役会の決議により、取締役の中から選任する。

2 社長は、当会社を代表する。

3 社長の他、取締役会決議により、当会社を代表する取締役を定めることができる。

(業務執行)

第 22 条 社長は、当会社の業務を統轄し、副社長または専務取締役または常務取締役は、社長を補佐してその業務を分掌する。

2 社長に事故があるときは、あらかじめ取締役会の定める順序に従い、他の取締役が社長の職務を代行する。

(取締役会の招集通知)

第 23 条 取締役会は、社長が招集し、会日の 3 日前までに各取締役に対して招集の通知を発するものとし、緊急の場合にはこれを短縮することができる。

2 取締役全員の同意があるときは、招集の通知をしないで取締役会を開催することができる。

(取締役会の決議)

第 24 条 取締役会の決議は、議決に加わることができる取締役会の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

(取締役会の決議の省略)

第 25 条 取締役が取締役会の決議の目的である事項について提案した場合において、当該提案につき議決に加わることができる取締役の全員が書面により同意の意思表示をしたときは、当該提案を可決する旨の取締役会の決議があったものとみなす。

(監査役の員数)

第 26 条 当会社の監査役は、2 名以内とする。

(監査役の選任及び解任の方法)

第 27 条 当会社の監査役の選任は、株主総会において議決権を行使することができる株主の議決権の 3 分の 1 以上を有する株主が出席し、出席した当該株主の議決権の過半数をもって行う。

2 監査役の解任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の過半数を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上の多数をもって行う。

(監査役の任期)

第28条 監査役の任期は、選任後10年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとする。

(報酬等)

第29条 取締役及び監査役の報酬、賞与その他の職務執行の対価として当会社から受ける財産上の利益は、株主総会の決議によって定める。

第5章 計 算

(事業年度)

第30条 当会社の事業年度は、毎年4月1日から翌年3月末日までとする。

(剰余金の配当)

第31条 剰余金の配当は、毎事業年度末日現在の最終の株主名簿に記載又は記録された株主及び登録株式質権者に対して行う。

2 剰余金の配当がその支払開始の日から満3年を経過しても受領されないときは、当会社は、その支払義務を免れるものとする。

第6章 附 則

(定款に定めのない事項)

第32条 本定款に定めのない事項は、すべて会社法その他の法令の定めるところによる。

この定款は、令和5年10月25日現在、原本と相違ありません。

比留間運送株式会社

代表取締役 比留間 宏明 対象外

履歷事項全部證明書

履歴事項全部証明書

東京都武蔵村山市中央二丁目18番地の3
比留間運送株式会社

会社法人等番号	0128-01-003068	
商号	比留間運送株式会社	
本店	東京都武蔵村山市大字中藤3544番地の3	
	東京都武蔵村山市中央二丁目18番地の3	昭和60年11月1日町名 地番変更
公告をする方法	官報に掲載してする	
会社成立の年月日	昭和53年5月20日	
目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一般区域貨物自動車運送事業 2. 産業廃棄物処理事業 3. 一般廃棄物処理事業 4. 産業廃棄物・一般廃棄物の再生処理事業 5. 道路清掃事業 6. 倉庫保管事業 7. 梱包包装事業 8. 建物の解体事業 9. 一般廃棄物処理施設・産業廃棄物処理施設・資源リサイクル施設の企画、開発、設計、販売 10. 資源リサイクル製品の企画、開発、販売 11. 古物売買並びにその受託販売 12. 一般廃棄物・産業廃棄物の処理に係るコンサルタント業務 13. 上記各号に附帯関連する一切の事業 <p>平成21年 3月16日変更 平成21年 4月 6日登記</p>	
発行可能株式総数	4万株	
発行済株式の総数 並びに種類及び数	発行済株式の総数 2万3600株	
資本金の額	金1180万円	
株式の譲渡制限に 関する規定	<p>当会社の株式は、取締役会の承認がなければ譲渡又は取得することができない。 取締役会が承認をしない場合、代表取締役は指定買い取り人を定めることができる。</p> <p>平成19年 5月29日変更 平成19年 6月20日登記</p>	

東京都武蔵村山市中央二丁目18番地の3
比留間運送株式会社

役員に関する事項	取締役	比留間久仁男	3	平成27年 5月27日重任
				平成27年 6月15日登記
	取締役	酒井孝弘		平成27年 5月27日重任
				平成27年 6月15日登記
				令和 2年 1月15日辞任
				令和 2年 3月 5日登記
	取締役	比留間宏明	1	平成27年 5月27日重任
				平成27年 6月15日登記
	取締役	松本栄二	4	平成27年 5月27日重任
				平成27年 6月15日登記
	取締役	比留間菜月	2	平成27年 5月27日重任
				平成27年 6月15日登記
	取締役	小野吉雄	5	平成27年 5月27日重任
				平成27年 6月15日登記
	取締役	天沼智弘	6	令和 2年 6月11日就任
				令和 2年 6月11日登記
	取締役	鈴木理之	7	令和 2年 6月11日就任
				令和 2年 6月11日登記
東京都武蔵村山市中央二丁目18番地の3 代表取締役	比留間久仁男			平成27年 5月27日重任
				平成27年 6月15日登記
				令和 5年 6月27日辞任
				令和 5年 7月21日登記
東京都武蔵村山市中央二丁目135番地の2 代表取締役	比留間宏明	1		令和 2年 6月11日就任
				令和 2年 6月11日登記
東京都武蔵村山市中央二丁目135番地の2 代表取締役	比留間菜月	2		令和 3年 9月 2日就任
				令和 3年 9月17日登記

東京都武蔵村山市中央二丁目18番地の3
比留間運送株式会社

	監査役 比留間 澄枝 8	平成27年 5月27日重任 平成27年 6月15日登記
取締役会設置会社 に関する事項	取締役会設置会社	平成17年法律第87号第1 36条の規定により平成18 年 5月 1日登記
監査役設置会社 に関する事項	監査役設置会社	平成17年法律第87号第1 36条の規定により平成18 年 5月 1日登記
登記記録に関する 事項	平成元年法務省令第15号附則第3項の規定により	平成16年 8月 9日移記



これは登記簿に記録されている閉鎖されていない事項の全部であることを証明
した書面である。

(東京法務局立川出張所管轄)

令和 5年 8月31日

東京法務局立川出張所
登記官

宮 崎 久 昭



整理番号 7371095

* 下線のあるものは抹消事項であることを示す。

3/3

欠格事項に該当しない旨
の申出書

誓約書

申請者は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第14条第5項第2号イからへに該当しない者であることを誓約します。

令和5年10月25日

東京都知事 小池 百合子 様

申請者

住所 東京市中央二丁目18番地の3

比 对象外 社

氏名 代 留間 宏 対象外
(法人) 及び代表者の

对象外

住民票

対象外

対象外

対象外

対象外

対象外

对象外

登記されていないことの
証明書

登記されていないことの証明書

①氏名	比留間 宏明
②生年月日	対象外
③住所	東京都 武蔵村山市 中央2丁目135番地の2
④本籍 <input type="checkbox"/> 国籍	対象外

上記の者について、後見登記等ファイルに成年被後見人、被保佐人とする記録がないことを証明する。

令和5年8月31日

東京法務局 登記官

榮 雅 枝



[証明書番号] 2023-0100A-71353

登記されていないことの証明書

①氏名	比留間 菜月
②生年月日	対象外
③住所	東京都 武蔵村山市 中央2丁目135番地の2
④本籍 <input type="checkbox"/> 国籍	対象外

上記の者について、後見登記等ファイルに成年被後見人、被保佐人とする記録がないことを証明する。

令和5年8月31日

東京法務局 登記官

榮 雅 枝



[証明書番号] 2023-0100A-71345

登記されていないことの証明書

①氏 名	比留間 久仁男	
②生年月日	対象外	
③住 所	都道府県名	市区郡町村名
	東京都	武蔵村山市
	丁目 大字 地番	
	中央 2丁目 18番地の3	
④本 籍	都道府県名	市区郡町村名
<input type="checkbox"/> 国籍	対象外	

上記の者について、後見登記等ファイルに成年被後見人、被保佐人とする記録がないことを証明する。

令和5年8月31日

東京法務局 登記官

榮 雅 枝



【証明書番号】 2023-0100A-71346

登記されていないことの証明書

①氏名	松本 栄二
②生年月日	対象外
③住所	
④本籍 国籍	

上記の者について、後見登記等ファイルに成年被後見人、被保佐人とする記録がないことを証明する。

令和5年8月31日

東京法務局 登記官

榮 雅 枝



[証明書番号] 2023-0100A-71347

登記されていないことの証明書

①氏名	小野 吉雄
②生年月日	対象外
③住所	
④本籍	
<input type="checkbox"/> 外国籍	

上記の者について、後見登記等ファイルに成年被後見人、被保佐人とする記録がないことを証明する。

令和5年8月31日

東京法務局 登記官

榮 雅 枝



[証明書番号] 2023-0100A-71349

登記されていないことの証明書

①氏名	天沼 智弘
②生年月日	対象外
③住所	
④本籍	
<input type="checkbox"/> 国籍	

上記の者について、後見登記等ファイルに成年被後見人、被保佐人とする記録がないことを証明する。

令和5年8月31日

東京法務局 登記官

榮 雅 枝



[証明書番号] 2023-0100A-71351

登記されていないことの証明書

①氏 名	鈴木 理之
②生年月日	対象外
③住 所	
④本 籍	
<input type="checkbox"/> 国籍	

上記の者について、後見登記等ファイルに成年被後見人、被保佐人とする記録がないことを証明する。

令和5年8月31日

東京法務局 登記官

榮 雅 枝



[証明書番号] 2023-0100A-71352

登記されていないことの証明書

①氏 名	比留間 澄枝	
②生年月日	対象外	
③住 所	都道府県名	市区郡町村名
	東京都	武蔵村山市
	丁目 大字 地番 中央 2丁目 18番地の3	
④本 籍	都道府県名	
<input type="checkbox"/> 国籍	市区郡町村名	
	対象外	

上記の者について、後見登記等ファイルに成年被後見人、被保佐人とする記録がないことを証明する。

令和5年8月31日

東京法務局 登記官

榮 雅 枝



[証明書番号] 2023-0100A-71348

生活環境影響調查

不開示

の増設に伴う
生活環境影響調査書

令和5年10月

比留間運送株式会社

目 次

第1章 事業計画の概要	1
1. 事業者の名称及び所在地	1
2. 対象事業の名称	1
3. 対象事業の概要	1
4. 対象事業の位置及び区域	1
5. 計画の内容	4
6. 環境保全計画	10
第2章 生活環境影響調査項目の選定	11
1. 生活環境影響要因と生活環境影響調査項目の整理	11
2. 生活環境影響調査項目として選定した項目及びその理由	11
3. 生活環境影響調査項目として選定しない項目及びその理由	12
第3章 地域概況	13
1. 自然的条件	13
2. 社会的条件	17
第4章 環境影響調査	21
1. 大気質	21
(1) 調査対象地域	21
(2) 現況把握	21
(3) 予 測	27
(4) 影響の分析	28
2. 騒 音	29
(1) 調査対象地域	29
(2) 現況把握	29
(3) 予 測	34
(4) 影響の分析	40
3. 振 動	41
(1) 調査対象地域	41
(2) 現況把握	41
(3) 予 測	44
(4) 影響の分析	48

第5章 総合的な評価	49
1. 現況把握、予測、影響の分析の結果の整理	49
(1)大気質（粉じん）	49
(2)騒 音	49
(3)振 動	50
2. 施設の設置に関する計画に反映した事項及びその内容	50
(1)大気質（粉じん）	50
(2)騒 音	50
(3)振 動	50
3. 維持管理に関する計画に反映した事項及びその内容	50
(1)大気質（粉じん）	50
(2)騒 音	50
(3)振 動	50

本書で使用している地形図等は、国土地理院発行の5万分の1電子地形図及び一般財団法人日本地図センター発行の1万分の1白地図、ゼンリン住宅地図を使用しています。

第 1 章 事業計画の概要

第1章 事業計画の概要

1. 事業者の名称及び所在地

事業者の名称:比留間運送株式会社

代表者氏名:代表取締役 比留間 宏明

所在地:東京都武蔵村山市中央二丁目 18 番地の 3

2. 対象事業の名称

対象事業の名称: 不開示

所在地:東京都武蔵村山市伊奈平三丁目 25 番地の 5 他 7 筆

3. 対象事業の概要

不開示

4. 対象事業の位置及び区域

不開示

不開示

不開示

5. 計画の内容

(1)処理施設

不開示

表 1-1 処理施設の変更概要

不開示

(2)稼働時間及び稼働日数

不開示

图1-3 轴测视图

不開示

不開示

(3)廃棄物の運搬計画

不開示

不開示

6. 環境保全計画

(1) 粉じん防止計画

不開示

(2) 騒音・振動防止計画

不開示

第2章 生活環境影響調査項目の選定

第2章 生活環境影響調査項目の選定

1. 生活環境影響要因と生活環境影響調査項目の整理

不開示

表 2-1 生活環境影響要因と生活環境影響調査項目

不開示

2. 生活環境影響調査項目として選定した項目及びその理由

(1) 大気質(施設の稼働)

不開示

(2) 騒音(施設の稼働)

不開示

(3) 振動(施設の稼働)

不開示

3. 生活環境影響調査項目として選定しない項目及びその理由

(1) 大気質、騒音・振動(廃棄物運搬車両の走行)

不開示

(2) 悪臭(施設からの悪臭の漏洩)

不開示

(3) 水質(施設排水の排出)

不開示

第3章 地域概況

第3章 地域概況

不開示

1. 自然的条件

(1) 気象

不開示

表 3-1 気象の概要(立川市泉町測定局:2022 年)

不開示

図 3-1 年間風配図(立川市泉町測定局:2022 年)

(2)地形、地質

不開示

不開示

不開示

2. 社会的条件

(1)土地利用

不開示

(2)人家等の分布状況

不開示

表 3-2 事業地周辺の人口、世帯数(令和 4 年 12 月 1 日)

不開示

不開示

不開示

不開示

第 4 章 環境影響調査

第4章 環境影響調査

1. 大気質

不開示

(1) 調査対象地域

不開示

(2) 現況把握

① 現況把握の基本的考え方

不開示

② 現況把握項目

ア 大気質の状況

不開示

イ. 自然的条件及び社会的条件

不開示

③ 現況把握方法

ア. 調査地点

不開示

イ. 調査時期

不開示

ウ. 調査方法

不開示

④ 現況把握結果

ア. 大気質の状況

不開示

表 4.1-1 浮遊粒子状物質測定結果(令和 3 年度)

不開示

表 4.1-2 浮遊粒子状物質の年平均値の経年変化(平成 29～令和 3 年度)

不開示

表 4.1-1 浮遊粒子状物質の年平均値の経年変化(平成 29～令和 3 年度)

不開示

不開示

イ. 自然的条件及び社会的条件

(ア) 気象の状況

不開示

(イ) 地形の状況

不開示

(ウ) 土地利用の状況

不開示

(エ) 人家等の分布状況

不開示

(オ) 主要な大気汚染の発生源の状況

不開示

(カ) 関係法令の状況

不開示

表 4.1-3 一般粉じん発生施設の種類と構造等の基準(大気汚染防止法)

不開示

表 4.1-4 粉じんを発生する施設の構造基準等(環境確保条例)

不開示

表 4.1-5 浮遊粒子状物質に係る環境基準(環境基本法)

不開示

(3) 予 測

① 予測の基本的考え方

不 開 示

② 予測対象時期

不 開 示

③ 予測項目

不 開 示

④ 予測方法

ア. 予測範囲

不 開 示

イ. 予測手法

不 開 示

ウ. 予測条件

不 開 示

⑤ 予測結果の整理

不 開 示

不 開 示

(4) 影響の分析

① 分析の基本的考え方

不開示

② 分析の方法

ア. 影響の回避または低減に係る分析

不開示

イ. 生活環境保全上の目標との整合性に係る分析

(ア) 生活環境保全上の目標

不開示

(イ) 生活環境保全上の目標との整合性

不開示

2. 騒音

不開示

(1)調査対象地域

不開示

(2)現況把握

① 現況把握の基本的考え方

不開示

② 現況把握項目

ア. 騒音の状況

不開示

イ. 自然的条件及び社会的条件

不開示

③ 現況把握方法

ア. 調査地点

不開示

イ. 調査時期

不開示

ウ. 調査方法

不開示

不開示

④ 現況把握結果

ア. 施設騒音の状況

不開示

表 4.2-1 施設騒音測定結果

不開示

イ. 自然的条件及び社会的条件

(ア)地形の状況

不開示

(イ)土地利用の状況

不開示

(ウ)人家等の分布状況

不開示

(エ)主要な騒音の発生源の状況

不開示

(オ)関係法令の状況

不開示

表 4.2-2 「騒音規制法」の特定工場等に係る規制基準

不開示

表 4.2-3 「環境確保条例」の工場・指定作業場に係る騒音の規制基準

不開示

(3)予 測

① 予測の基本的考え方

不開示

② 予測対象時期

不開示

③ 予測項目

不開示

④ 予測方法

ア. 予測地点

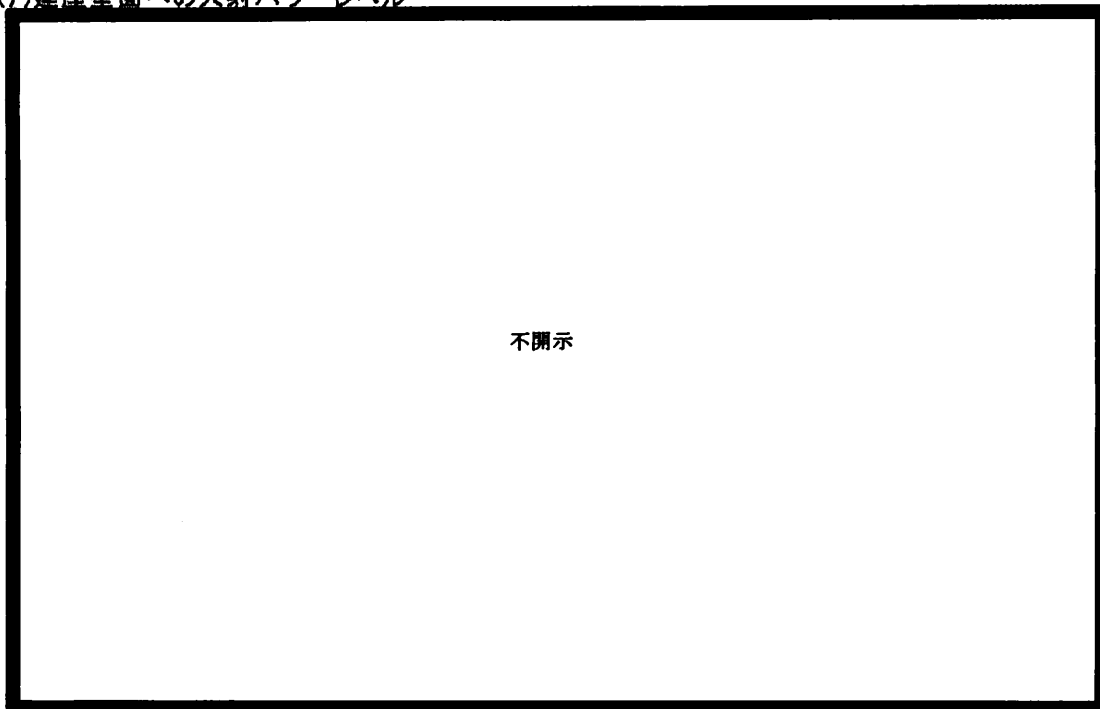
不開示

イ. 予測手法

不開示

ウ. 予測式

(7) 建屋壁面への入射パワーレベル



(イ) 外壁面のパワーレベル



(ウ) 伝搬計算



不開示

(エ) 予測地点における施設騒音レベルと暗騒音との重合

不開示

エ. 予測条件

(ア)設備機器の騒音レベル

不開示

表 4.2-4 騒音の発生源及び騒音レベル(増設設備)

不開示

(イ)内壁面の平均吸音率

不開示

表 4.2-5 内壁材の吸音率

不開示

(ウ)外壁面の総合透過損失

不開示

表 4.2-6 外壁材の透過損失

不開示

(I)超過減衰

不開示

(オ)暗騒音について

不開示

⑤ 予測結果

不開示

表 4.2-7 施設騒音の予測結果(敷地境界)

不開示

不開示

(4)影響の分析

① 分析の基本的考え方

不開示

② 分析の方法

ア. 影響の回避又は低減

不開示

イ. 生活環境の保全上の目標との整合性に係る分析

(7)生活環境の保全上の目標

不開示

(1)生活環境の保全上の目標との整合性

不開示

表 4.2-8 施設騒音(敷地境界)に係る生活環境保全上の目標との整合性

不開示

3. 振 動

不開示

(1) 調査対象地域

不開示

(2) 現況把握

① 現況把握の基本的な考え方

不開示

② 現況把握項目

ア. 振動の状況

不開示

イ. 自然的条件及び社会的条件

不開示

③ 現況把握方法

ア. 調査地点

不開示

イ. 調査時期

不開示

ウ. 調査方法

不開示

④ 現況把握結果

ア. 施設振動の状況

不開示

表 4.3-1 施設振動測定結果

不開示

イ. 自然的条件及び社会的条件

(ア)地盤性状の状況

不開示

(イ)土地利用の状況

不開示

(ウ)人家等の分布状況

不開示

(エ)主要な振動の発生源の状況

不開示

(オ)関係法令の状況

不開示

表 4.3-2 「振動規制法」の特定工場等に係る規制基準

不開示

表 4.3-3 「環境確保条例」の工場・指定作業場に係る振動の規制基準

不開示

(3) 予 測

① 予測の基本的考え方

不開示

② 予測対象時期

不開示

③ 予測項目

不開示

④ 予測方法

ア. 予測地点

不開示

イ. 予測手法

不開示

ウ. 予測式

(ア) 伝搬計算(距離減衰)

不表示

(イ) 予測地点における振動レベルと暗振動との重合

不表示

エ. 予測条件

(ア)設備機器の振動レベル

不表示

表 4.3-4 振動の発生源及び振動レベル(増設設備)

不表示

(イ)幾何減衰定数

不開示

(ウ)地盤の内部減衰定数

不開示

(エ)暗振動について

不開示

⑤ 予測結果

不開示

表 4.3-5 施設振動の予測結果(敷地境界)

不開示

不開示

(4) 影響の分析

① 分析の基本的考え方

不開示

② 分析の方法

ア. 影響の回避又は低減

不開示

イ. 生活環境の保全上の目標との整合性に係る分析

(7) 生活環境の保全上の目標

不開示

(1) 生活環境保全上の目標との整合性

不開示

表 4.3-6 施設振動(敷地境界)に係る生活環境保全上の目標との整合性

不開示

第5章 総合的な評価

第5章 総合的な評価

1. 現況把握、予測、影響の分析の結果の整理

(1) 大気質(粉じん)

① 現況

不開示

② 予測、影響の分析

不開示

(2) 騒音

① 現況

不開示

② 予測、影響の分析

不開示

(3) 振 動

① 現 況

不 開 示

② 予 測、影 響 の 分 析

不 開 示

2. 施設の設置に関する計画に反映した事項及びその内容

(1) 大気質(粉じん)

不 開 示

(2) 騒 音

不 開 示

(3) 振 動

不 開 示

3. 維持管理に関する計画に反映した事項及びその内容

(1) 大気質(粉じん)

不 開 示

(2) 騒 音

不 開 示

(3) 振 動

不 開 示